
IV 教育課程表

幼児教育・保育科

《科目ナンバリング(体系的な教育課程の編成)について》

・科目ナンバリング

ナンバリング、あるいはコース・ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みです。大学内における授業科目の分類という意味を持っています。学問の分類や対象とするレベル(学年等)等を示すことで、学生が適切な授業科目を選択する際の参考となります。授業位置づけがわかるように各科目に番号を振ることで、学士課程の科目全体を体系化でき、学生が授業を選びやすくすることを狙いとしています。

・科目ナンバリング制度の学内基準

<u>PE</u>	<u>D</u>	<u>M</u>	<u>1</u>	<u>005</u>
学科／科	学修段階	位置づけ	配当学年	整理番号

本学のナンバリングは、まず、頭文字として、学科／科別にアルファベット2文字で分類しています。二つ目に、カリキュラムチャートにて分類された学修段階を英語表記(A～Z)で分類。次に、位置づけとして基礎科目(L)と専門科目(M)を表記しています。そして、配当学年を表示し、最後に科目順に整理番号を表記しています。

幼児教育・保育科・・・・・・・・PE Preschool Education

学修段階・・・・・・カリキュラムチャートにて分類された学修段階を英語表記(A～Z)で分類。

位置づけ・・・・・・教養教育科目:L
専門教育科目:M

配当学年・・・・・・1年生:1
2年生:2
3年生:3
4年生:4
大学院:5
自由科目等:0

整理番号・・・・・・・・・・001番～999番

幼児教育・保育科

卒業要件

卒業までの2年間に下記の単位数を修得すること。

- ◆ 基礎・保健体育科目 → 10単位以上
- ◆ 外国語科目 → 2単位
- ◆ 専門的科目 → 48単位以上
- ◆ 合 計 → 64単位以上

免許・資格関係科目

- ※ 教育課程表（授業科目開講一覧表）の「免許・資格等」の欄を参照すること。
- ※ 免許・資格取得希望者は、下記の科目も忘れずに履修・修得しなければならない。
詳細は、「2. 免許・資格等について」のページを参照すること。

- 幼 免…幼稚園教諭2種免許状取得に必要な科目
「◎」は免許取得希望者について必修科目
「○」は免許取得希望者について選択科目
- 保育士…保育士資格取得に必要な科目
「◎」は資格取得希望者について必修科目
「○」は資格取得希望者について選択科目で、「○」の中から6単位以上選択し修得すること。
- ピアヘルパー…ピアヘルパー資格取得に必要な科目
「○」は資格取得希望者について選択必修科目
選択必修科目(4科目7単位)の中から3科目6単位を履修・修得するとともに、本学で実施されるピアヘルパー認定試験に合格しなければならない。
(ピアヘルパー認定試験の詳細は、掲示にて告知する。)
- ネイチャーゲームリーダー…ネイチャーゲームリーダー資格取得に必要な科目
「子どもと生活」(集中講義)を履修・修得すること。
- 准学校心理士…准学校心理士資格取得に必要な科目
「◎」は資格取得希望者について必修科目
- 認定絵本士…認定絵本士資格取得に必要な科目
「◎」は資格取得希望者について必修科目

● 社会福祉主事任用資格・・・社会福祉主事任用資格取得に必要な科目

「○」は資格取得希望者について選択必修科目

選択必修科目 5 科目の中から 3 科目以上を選択し、修得すること。

2024年度以降入学生 幼児教育・保育科 教育課程表 (授業科目開講一覧表)

※ 開講時期は、変更となる場合があるので、毎年シラバス等で確認すること。

区分		コード	科目 ナンバリング	授 業 科 目	単位数		免許・資格等							開講時期（●印）				開必 講講 クラ ス定 修科 数 目
							幼 免	保 育 士	ヘル パー	ネ イ チ ャー	心 理 士 校	絵 本 士	社 会 福 祉 主 事	1 年次		2 年次		
					春	秋								春	秋			
基礎 教養科目	基礎 教養プログラム	1011	PEFL2006	文 学	2												1	
		1021	PEFL2007	歴 史 学	2										●		1	
		1051	PEFL1002	倫 理 学	2							○						
		1122	PEFL1003	憲 法	2	◎							●				2	
		1211	PEFL1004	生 物 学	2													
		1252	PEFL1005	数 学 基 礎	2									●			2	
		1246	PEFL2008	総 合 講 座	2										●		1	
		1042	PEFL1001	表 現 学	1									●			2	
	文化 教養プログラム	1271	PEFL1006	茶 道 I	1									●			1	
		1272	PEFL1007	茶 道 II	1									●			1	
		1281	PEFL1008	硬 筆 書 道	1									●			2	
		1282	PEFL1009	フラワーアレンジメント	1									●			1	
	地域 未来創造 プログラム	1283	PEFL1010	ボランティア演習	1									●			1	
		1284	PEFL2015	手 話 入 門	1											●	1	
		1285	PEFL2017	防 災 安 全 講 座	1											●	1	
		1286	PEFL2018	データサイエンス入門	2											●	1	
体育健	2632	PECL1001	体 育 講 義	1	◎	◎							●			2		
	2652	PEDL1001	体 育 実 技	1	◎	◎							●			2		
外国 語	2010	PEFL1008	英 語 （異文化理解とコミュニケーション）	2		◎	◎						●			2		
	2012	PEFL2016	ポ ル ト ガ ル 語	2												●	1	
専門的 科目	3101	PEAM2008	保 育 者 論	2	◎	◎									●		2	
	311A	PEBM1004	社 会 福 祉	2		◎					○		●				2	
	3102	PEBM2005	子 ども 家 庭 福 祉	2		◎					○					●	2	
	3142	PEAM1001	保 育 原 理	2		◎					○		●				2	
	3103	PEBM1001	社 会 的 養 護 I	2		◎							●				2	
	3104	PEBM1002	社 会 的 養 護 II	1		◎								●			2	
	3181	PEAM2010	教 育 原 理	2	◎	◎					○			●			2	
	3212	PECM1003	子 ども の 心 理 学	2	◎	◎	○		◎				●				2	
	3105	PECM2005	子ども家庭支援の心理学	2		◎										●	2	
	3106	PECM2006	子どもの理解と援助	1		◎	○									●	2	
	3107	PECM1002	子どもの保健Ⅰ	2		◎							●				2	
	3108	PECM2007	子どもの健康と安全	1		◎										●	2	
	3216	PECM2008	子どもの食と栄養	2		◎										●	2	
	3109	PEBM2006	子ども家庭支援論	2		◎										●	2	
	3110	PEAM2009	カリキュラム論	2	◎	◎										●	2	
	3281	PEBM2007	障害児心理学	2		○	○									●	2	
	3112	PEBM1003	幼児理解と教育相談	2	◎	○	○		◎				●				2	
	3402	PEDM1002	子どもと生活	1	○			◎					↔		↔		1	
	3412	PEAM1002	保育内容総論	1	◎	◎							●				2	
	3422	PEAM1003	保育内容・健康	1	◎	◎								●			2	
	3432	PEAM1004	保育内容・人間関係	1	◎	◎								●			2	
	3442	PEAM1005	保育内容・環境	1	◎	◎				◎			●				2	
	3452	PEAM1006	保育内容・言葉	1	◎	◎				◎				●			2	
	3463	PEAM1007	保育内容・表現	1	◎	◎							●				2	
	3471	PEAM2011	保育方法論	2	◎	○										●	2	
	3490	PECM1004	乳児保育Ⅰ	2		◎								●			2	
3492	PECM2009	乳児保育Ⅱ	1		◎					◎					●	2		
3493	PEBM2006	特別支援教育・保育Ⅰ	1	◎	◎				◎	◎					●	2		
3494	PEBM2008	特別支援教育・保育Ⅱ	1		◎				◎						●	2		

区分	コード	科目 ナンバリング	授 業 科 目	単位数		免許・資格等							開講時期(●印)				必修 開講 クラス 数 目	
				必修	選択	幼 免	保 育 士	ヘル パー	ネ イ チ ャ ー	准 学 校 心 理 士	絵 本 士	認定 社会福祉 士 任用資格 主事	1 年 次		2 年 次			
													春	秋	春	秋		
専門的科目	3495	PEBM2009	子 育 て 支 援		1		◎										●	2
	3511	PEDM2011	児 童 文 化		2		○										●	1
	3521	PEDM2012	児 童 文 学		2	○	○											1
	3532	PEDM1003	情 報 教 育 入 門		2	◎								●				2
	3544	PEDM1004	教育工学演習Ⅰ (情報教育とコンピュータ)		2	◎					◎				●			2
	3545	PEDM2013	教育工学演習Ⅱ (子どもとコンピュータ)		2	○	○										●	1
	3622	PEDM1005	音 楽 I	1		◎								●				2
	3623	PEDM1006	音 楽 II	1		◎									●			2
	3624	PEDM2014	音 楽 III		1	○	○											2
	3625	PEDM2016	音 楽 IV		1	○	○											
	3632	PEDM1007	基 礎 造 形	1		◎								●				2
	3633	PEDM1008	幼 児 と 健 康 I	1		◎									●			2
	3634	PEDM2015	幼 児 と 健 康 II	1		◎										●		2
	3635	PEDM2016	幼 児 と 表 現 I		1	◎	◎									●		2
	3636	PEDM2017	幼 児 と 表 現 II		1	◎	◎									●		2
	3637	PEDM2018	幼 児 と 言 葉		1	◎	◎				◎					●		2
	3638	PEDM1009	幼 児 と 環 境		1	◎	◎								●			2
	3651	PEDM1010	言 葉 と 表 現	2		◎					◎			●				2
	3711	PEEM1001	実 習 指 導		2	◎									●			2
	3721	PEEM1002	教 育 実 習		4	◎								←→				
	3723	PEEM1003	保育実習Ⅰ(保育所)		2		◎							←→				
	3724	PEEM1004	保育実習Ⅰ(施設)		2		◎							←→				
	3725	PEEM1005	保育実習指導Ⅰ(保育所)		1		◎								●			2
	3726	PEEM1006	保育実習指導Ⅰ(施設)		1		◎				◎				●			2
	3741	PEEM2007	保 育 実 習 II		2		◎								←→			
	3742	PEEM2008	保 育 実 習 指 導 II		1		◎				◎					●		2
	3760	PEEM2009	保育・教職実践演習(幼稚園)		2	◎	◎									●		2
	3765	PEDM2019	総 合 表 現		2		○										●	1
	3766	PEDM1011	子 ど も と 絵 本		2						◎			←→				1
	3767	PEBM2011	医 療 的 ケ ア I		2													
	3768	PEBM2012	医 療 的 ケ ア II		2													
	3769	PEBM2013	医 療 的 ケ ア III		1													
	3808	PEFM1011	保育者のライフデザイン		1						◎			●				4
	3809	PEFM1012	保育者のキャリアデザインⅠ		1										●			4
	3812	PEFM2013	保育者のキャリアデザインⅡ		2												●	5
自由科目	3908	PEFM0009	キャリアベーシック・言語Ⅰ		履								●				1	
	3909	PEFM0010	キャリアベーシック・言語Ⅱ		履									●			1	

Ⅵ 授業科目の紹介

幼児教育・保育科

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	10210		
科目	1021 歴史学			授業種別	週間授業		
担当教員	伊藤 圭一			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	歴史に苦手意識がある人に対しても、一般教養の試験に必要なという人、また、教養を深めたいという人にとっても、理解しやすい講義となっている。日本の歴史を振り返る取り組みを通じて「歴史は繰り返すこと」を学ぶ。そのことを通じて、その繰り返しは人生の中にも現る。歴史を学ぶことで人生の「なぜ?」をなくすことを目標とする。加えて歴史的な知識がコミュニケーションの道具として役立てられるようにする事も目標とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		△	○	△			
到達目標	1. 歴史について興味を持つことができる。 2. 歴史上の出来事について「なぜ」という疑問を持つことができる。 3. 歴史上の出来事から学んだことを自分の生き方に活かすことができる。 4. 将来社会人になった時に歴史から学んだ知識を活用することができる。						
テキスト(教科書)	『読むだけですっきりわかる日本史』 後藤武士(宝島社文庫) ISBN:978-4-7966-6399-1						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	なし						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと(第2回～15回/0.75時間程度) 2. 課題を取り組む(第2回～15回/1.3時間程度) 3. 毎授業に実施する「小テスト」の対策のための復習をする(第2回～15回/0.5時間程度) 4. 第16回定期試験「毎回の小テスト」を参考に15回分の講義を振り返る(第1回～15回/2時間程度)						
成績評価	課題やテストで、講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。注意の対象となる受講態度は減点の対象となることがある。必ず課題を提出すること。						
評価項目		割合	評価基準				
課題提出		30%	課題をテーマに沿って出来ているかを評価する				
小テスト		30%	講義内容の理解度を点数化して評価する				
定期テスト		40%	講義内容15回分を振り返り理解が出来ているか点数化する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス -自分の好きな時代とその理由- (グループワーク) 第2回 (講義) 旧石器から古墳時代 (グループワーク) 第3回 (講義) 江戸時代と明治維新 (グループワーク) 第4回 (講義) なるほど 飛鳥時代から天武王朝時代 (グループワーク) 第5回 (講義) おおによし 奈良時代 (グループワーク) 第6回 (講義) 千年の都 平安時代 (グループワーク) 第7回 (講義) 武士の生き方 鎌倉時代 (グループワーク) 第8回 (講義) 南北朝 室町時代 (グループワーク) 第9回 (講義) 幸せを求めて 戦国時代 (グループワーク) 第10回 (講義) 平和をもとめて 江戸時代 (グループワーク) 第11回 (講義) 農業中心の国づくり 江戸時代 (グループワーク) 第12回 (講義) 近代の夜明け 明治時代 (グループワーク) 第13回 (講義) 挫折と頂点 大正、昭和時代 (グループワーク) 第14回 (講義) 歴史を振り返る (グループワーク) 第15回 (講義) 日本のこれから (グループワーク) ※進捗状況により内容を変更する場合があります。 ※ディスカッションを毎回行い理解を深めます。 ※授業内で実施した小テストはなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※Googleclassroomを使用して資料提供しGoogleフォームで課題を提供します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。						
ナンバリング	PEFL2013						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	11220		
科目	1122 憲法			授業種別	週間授業		
担当教員	青嶋 敏			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	日本国憲法は個人の尊重（尊厳）を実現するための人権保障の体系であり、それゆえ日本国憲法は自由の基礎法、制限規範性、最高法規性という三つの特質をもっている。そこで、この授業では、まず立憲主義と国民主権の原理について学修したのち、基本的人権に関する規定内容、統治機構に関する規定内容および憲法保障に関する規定内容について学修する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○		○			
到達目標	この授業では、「憲法」が幼稚園教諭免許取得のための必修科目であることや公務員試験の受験を目指す受講者の存在を考慮し、日本国憲法の基本的仕組みについて通説・判例を中心として講義する。その到達目標は以下の通りである。 1.近代憲法と立憲主義との関係を説明することができる。 2.基本的人権に関する規定の概要を説明することができる。 3.統治機構と憲法保障に関する規定の概要を説明することができる。 4.人権保障が目的であり、統治機構と憲法保障はこの目的実現のための手段であることを説明することができる。						
テキスト（教科書）	伊藤真著『伊藤真の憲法入門 講義再現版 第7版』（日本評論社）ISBN：978-4-535-52698-3						
参考書および参考文献	上記の教科書の記述内容に基づく講義メモや参考資料をあらかじめ随時配付する。						
受講条件	（幼）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1.事前学修として、教科書の指定箇所およびあらかじめ随時配布するプリント（講義メモ、参考資料）を熟読しておくこと（第1回～第15回／各1時間）。 2.事後学修として、教科書、配布プリント（講義メモ、参考資料）、授業中の説明および各自のノートに基づき、講義内容を整理し復習しておくこと（第1回～第15回／各1時間）。 3.ウェブ上で出題する提出課題を作成すること（第1回～第15回／各1時間）。						
成績評価	1.授業の到達目標をどの程度達成できているかを、ウェブ上で出題する提出課題（第1回～第15回）および学期末に行う筆記試験で総合評価する。 2.劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。						
評価項目			割合	評価基準			
ウェブ上で出題する提出課題			60%	毎回の授業内容を的確に理解できているかを評価する。			
学期末に行う筆記試験			40%	講義内容全体の理解度と到達目標の達成度を評価する。			
授業の実施方法と授業計画	【授業の実施方法】 1.下記の【授業計画】に示したテーマについて、教科書・講義メモ・参考資料に基づき、パワーポイントのスライドを利用して講義する。 2.毎回「質問書」を講義開始時に配付し、講義終了後に回収する。受講者全員で共有すべき質問については、次回の講義の際に紹介し回答する。 3.講義室内での着席については、学籍番号順の座席指定制とローテーション制を採用する。 4.上記の「質問書」によって出欠の確認を行う。						
	【授業計画】 第1回（講義）憲法とは何か 第2回（講義）憲法の特質 第3回（講義）立憲主義と現代国家 第4回（講義）国民主権の原理 第5回（講義）基本的人権の原理1（人権宣言の歴史、人権の概念） 第6回（講義）基本的人権の原理2（人権の内容、人権の主体） 第7回（講義）基本的人権の限界 第8回（講義）包括的基本権と法の下での平等 第9回（講義）精神的自由権 第10回（講義）経済的自由権と人身の自由 第11回（講義）受益権、参政権、社会権 第12回（講義）権力分立と統治機構1（国会、内閣） 第13回（講義）権力分立と統治機構2（裁判所、地方自治） 第14回（講義）憲法保障（違憲審査制） 第15回（講義）平和主義の原理 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 *提出課題については、提出期限後に解答を配付し所要のコメントを行なう。						
ナンバリング	PEFL1003						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	12520		
科目	1252 数学基礎			授業種別	週間授業		
担当教員	中島 剛			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	単位の換算や割合に関する計算のように、日常生活の中でもよく使われる計算は意外と多く、実務においても、これらは頻繁に用いられるものである。本講義では、改めて計算とその有用性を確認し、実務の面で必要とされる計算知識と技術を学び、個々の計算能力を高めていく。また、一般常識としての基礎的な数学の知識を再確認し、応用問題に対応できる能力の向上を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	△	△					
到達目標	1. 四則演算ができる。 2. 数学的問題に対する解法パターンを身につける。 3. 身近な課題に対し数学的なアプローチができる。						
テキスト（教科書）	1時間目のガイダンス時に問題冊子を配布する。また、各時間ごとに主に計算問題のプリントを配布する。						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	受講条件なし						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 授業で使用する問題冊子は、第1回の授業の始めに配布する。予習復習のため、各時間の復習と次回の授業の予習を1時間おこなうこと。（2時間程度） 2. 毎時間、主に計算演習のプリントを配布し、演習する。その小テストを次回の授業ははじめに行うため毎時間0.5時間の復習を行うこと。（第1～15回/1時間程度） 3. 授業で生じた疑問や問題習熟のために追加課題を配布する。この課題を次回の授業までに調べて提出すること。（第1～15回/1時間程度） このほかに、宿題やそれ以外の練習問題など、適宜配布する。						
成績評価	評価は定期試験（筆記試験）と授業内で実施する小テスト及びプリント提出状況を総合しておこなう。定期試験について詳細はガイダンス時に説明する。授業内小テストは、ほぼ毎回実施し、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。評価配分についても、詳細はガイダンス時に説明する。						
評価項目	割合		評価基準				
定期試験	50%		期末試験は筆記試験でその解答状況で評価する。				
小テスト	30%		各授業終了後小テストを行い、その解答状況で評価する。				
課題提出	20%		問題冊子その他のプリント類、課題などの提出状況で評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	【講義・演習】ガイダンス 到達度確認テスト 基礎的な四則演算					
	第2回	【講義・演習】公約数 倍数					
	第3回	【講義・演習】整数と分数 文字と式 式の値					
	第4回	【講義・演習】比例 反比例					
	第5回	【講義・演習】1次方程式 2次方程式					
	第6回	【講義・演習】無理数・指数の計算					
	第7回	【講義・演習】数列・n進法					
	第8回	【講義・演習】文章題1（濃度）					
	第9回	【講義・演習】文章題2（速度）					
	第10回	【講義・演習】文章題3（売買他）					
	第11回	【講義・演習】文章題4（仕事・年齢他）					
	第12回	【講義・演習】文章題5（植木算）					
	第13回	【講義・演習】文章題6（論理）					
	第14回	【講義・演習】文章題7（場合の数・順列・組み合わせ）					
	第15回	【講義・演習】文章題8（確率）					
	※第8回～15回、文章題の応用として、グループワークで調べ、解答について発表する問題も提示する。 ※第8回～15回の文章題の授業においても必要な計算問題について説明し、演習を行う。 ※ただし受講学生の進捗状況に応じて内容は変更することもある。 ※小テスト、課題の返却時にコメントすることでフィードバックする。						
ナンバリング	PEFL1005						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	12521		
科目	1252 数学基礎			授業種別	週間授業		
担当教員	中島 剛			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	単位の換算や割合に関する計算のように、日常生活の中でもよく使われる計算は意外と多く、実務においても、これらは頻繁に用いられるものである。本講義では、改めて計算とその有用性を確認し、実務の面で必要とされる計算知識と技術を学び、個々の計算能力を高めていく。また、一般常識としての基礎的な数学の知識を再確認し、応用問題に対応できる能力の向上を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	△	△					
到達目標	1. 四則演算ができる。 2. 数学的問題に対する解法パターンを身につける。 3. 身近な課題に対し数学的なアプローチができる。						
テキスト(教科書)	1時間目のガイダンス時に問題冊子を配布する。また、各時間ごとに主に計算問題のプリントを配布する。						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	受講条件なし						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業で使用する問題冊子は、第1回の授業の始めに配布する。予習復習のため、各時間の復習と次回の授業の予習を1時間おこなうこと。(2時間程度) 2. 毎時間、主に計算演習のプリントを配布し、演習する。その小テストを次回の授業ははじめに行うため毎時間30分の復習を行うこと。(第1～15回/1時間程度) 3. 授業で生じた疑問や問題習熟のために追加課題を配布する。この課題を次回の授業までに調べて提出すること。(第1～15回/1時間程度) このほかに、宿題やそれ以外の練習問題など、適宜配布する。						
成績評価	評価は定期試験(筆記試験)と授業内で実施する小テスト及びプリント提出状況を総合しておこなう。定期試験について詳細はガイダンス時に説明する。授業内小テストは、ほぼ毎回実施し、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。評価配分についても、詳細はガイダンス時に説明する。						
評価項目	割合		評価基準				
定期試験	50%		期末試験は筆記試験でその解答状況で評価する。				
小テスト	30%		各授業終了後小テストを行い、その解答状況で評価する。				
課題提出	20%		問題冊子その他のプリント類、課題などの提出状況で評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)ガイダンス 到達度確認テスト 基礎的な四則演算 第2回(講義・演習)公約数 倍数 第3回(講義・演習)整数と分数 文字と式 式の値 第4回(講義・演習)比例 反比例 第5回(講義・演習)1次方程式 2次方程式 第6回(講義・演習)無理数・指数の計算 第7回(講義・演習)数列・n進法 第8回(講義・演習)文章題1(濃度) 第9回(講義・演習)文章題2(速度) 第10回(講義・演習)文章題3(売買他) 第11回(講義・演習)文章題4(仕事・年齢他) 第12回(講義・演習)文章題5(植木算) 第13回(講義・演習)文章題6(論理) 第14回(講義・演習)文章題7(場合の数・順列・組み合わせ) 第15回(講義・演習)文章題8(確率) ※第8回～15回、文章題の応用として、グループワークで調べ、解答について発表する問題も提示する。 ※第8回～15回の文章題の授業においても必要な計算問題について説明し、演習を行う。 ※ただし受講学生の進捗状況に応じて内容は変更することもある。 ※小テスト、課題の返却時にコメントすることでフィードバックする。						
ナンバリング	PEFL1005						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	12460		
科目	1246 総合講座			授業種別	週間授業		
担当教員	伊藤 圭一			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	「人として、社会人として」社会に巣立つにふさわしい社会人基礎力を修得し、社会情勢を見る眼を養うことを主眼とする。授業では、一般常識として必要な知識を学ぶと同時に、ニュースを的確に把握できるようにする。更に、一般常識から発展して、公務員試験につながる知識を得ることも目標とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		○	●	○			
到達目標	1. 世の中で起きている出来事から必要な情報を正しく理解し、活用できる。 2. 社会人として必要な知識を身に付け、活用できる。 3. 一般常識を十分に理解し活用することができる。 4. 身につけた知識を社会人として活かすことができる。						
テキスト(教科書)	2025年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編(3・4級対応) 毎日新聞出版 ISBNは3月発売のため未定です。 市役所上・中級 教養・専門試験 過去問500 2026年度実務教育出版 3月下旬発行のためISDNは未定です。						
参考書および参考文献							
受講条件	履修条件はありません						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと(第2～15回/0.5時間程度) 2. 課題に取り組む(第2回～15回/1.5時間程度) ※Googleclassroomを利用する 3. 前回の講義のポイントを復習する(第2回～15回/0.5時間程度) 4. 第16回定期試験「毎回の復習テスト」のために、15回分の講義を振り返る(第1回～15回/合計25時間程度：一回分を1時間40分程度を目安に)						
成績評価	課題やテストを通じて講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。なお注意の対象となる受講態度は減点となることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
課題提出		40%	課題の提出状況と課題に対する解答によって評価する				
小テスト		20%	講義の理解度を点数化して評価する				
定期テスト		40%	15回の講義内容の理解度を点数化して評価する (基本問題80%応用問題20%)				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス (ディスカッション) 第2回 (講義) 時事の解説①(憲法と政治) (ディスカッション) 社会人基礎力①(憲法を知る・推理する力を身につける) 第3回 (講義) 時事の解説②(選挙と国会を知る・推理する技術を身につける) 社会人基礎力②(経済の仕組みを知る・推理する力を応用する) 第4回 (講義) 時事の解説③(近隣の国々) (ディスカッション) 社会人基礎力③(国際問題について理解する・図形に対する推理力を身につける) 第5回 (講義) 時事の解説④(地方自治) (ディスカッション) 社会人基礎力④(地方自治の仕組みについて理解する・数から推理する基礎を学ぶ) 第6回 (講義) 時事の解説⑤(日本経済) (ディスカッション) 社会人基礎力⑤(世界の思想について知る・数から推理する力を身につける) 第7回 (講義) 時事の解説⑥(産業と貿易) (ディスカッション) 社会人基礎力⑥(日本の歴史について理解する・数から推理する技術を身につける) 第8回 (講義) 時事の解説⑦(エネルギー問題) (ディスカッション) 社会人基礎力⑦(世界の気候について理解する・資料を見て分析する基礎を身につける) 第9回 (講義) 時事の解説⑧(少子高齢化) (ディスカッション) 社会人基礎力⑧(世界の産業について理解する・資料を見て分析する力を高める) 第10回 (講義) 時事の解説⑨(社会保障の現状) (ディスカッション) 社会人基礎力⑨(社会保障制度の基礎について理解する・資料の種類別の特徴を知る) 第11回 (講義) 時事の解説⑩(社会保障の未来) (ディスカッション) 社会人基礎力⑩(社会保障制度の問題点について理解する・資料について理解を深める) 第12回 (講義) 時事の解説⑪(働く環境) (ディスカッション) 社会人基礎力⑪(文学芸術についての基礎を学ぶ・立体図形について学ぶ) 第13回 (講義) 時事の解説⑫(震災からの復興) (ディスカッション) 社会人基礎力⑫(地学など自然科学についての基礎を学ぶ・軌跡について学ぶ) 第14回 (講義) 時事の解説⑬(差別のない社会) (ディスカッション) 社会人基礎力⑬(現代社会についての問題点について学ぶ・展開図について学ぶ) 第15回 (講義) これまでの知識のまとめ(ディスカッション) ※前回の講義の内容理解度チェックについては「クリッカー」を使い回答をしていただく。 ※なお、履修している学生の習熟度により、シラバスの内容が変更となる場合がある。 ※授業内で実施した小テストなどは採点後返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※Googleclassroomを使用して資料を提供しやGoogleフォームで課題を提供する。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがある。						
ナンバリング	PEFL2014						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	10420			
科目	1042 表現学			授業種別	週間授業			
担当教員	朝元 尊			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	子どもの表現や活動意欲を引き出すためには、保育者自身の表現力や子どもとの関わり方が大切である。この授業では、日本の伝統楽器である和太鼓について、その歴史や扱い方を始め、保育現場で活用できる知識と表現技能を学ぶ。また、日本人としてのリズム、間合いを意識した遊びや表現方法の理解を深め、リズムで表現し、リズムで他者と繋がることの保育的な意義を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	△				
到達目標	保育に関する専門的な知識や技能の1つとして和太鼓を通したあそびや表現方法を習得する。また、音を通して他者とのコミュニケーションをとり、協働して表現できることを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 日本の伝統文化、表現方法を理解し、協働しながら実践することができる。 2. 日本の伝統文化と保育の繋がりを理解し、説明できる。 3. 保育者としての自覚を持ち、自らの課題に保育の表現技術として実践できる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜資料を配布する。							
受講条件	なし							
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業までに、前授業の復習・確認を行うこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～14回/1時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習の内容について、事前に調べて授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)							
成績評価	授業の到達目標をどの程度達成できているかを評価する。また、責任感を待って意欲的に取り組む姿勢や協働する力なども評価の対象とするので、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。							
評価項目			割合	評価基準				
授業・課題への取り組み			50%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する				
小テスト			20%	授業内容の理解度を確認する				
発表			30%	授業内容を応用・実践しているかを確認する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス・太鼓の準備・設営についての説明 第2回 (実技) 太鼓の起源(世界の歴史から)・太鼓の扱い方 第3回 (実技) 太鼓の歴史(日本・文化から)・打ち方の基礎①(所作・基礎打ち) 第4回 (実技) 太鼓の特徴と種類について・打ち方の基礎②(音の強弱) 第5回 (実技) ばちの素材と使い方・作り方について・打ち方の基礎③(音を繋げる) 第6回 (実技) 日本各地の演奏スタイルと技術・伝統芸能に触れる 第7回 (実技) 幼児と太鼓(保育や行事での実践事例)・コール&レスポンス(即興演奏) 第8回 (実技) 高齢者及び障がい者と太鼓(福祉施設の実践事例)・音の創作(グループワーク) 第9回 (実技) 太鼓と表現①(低音、中音、高音のアンサンブル) 第10回 (実技) 太鼓と表現②(言葉と太鼓・言葉のリズムの創作) 第11回 (実技) 太鼓と表現③(数字と太鼓・数字のリズムの創作) 第12回 (実技) 太鼓と表現④(自身の特徴を把握する) 第13回 (実技) 太鼓と表現⑤(自身の表現力・集団の表現力を高める) 第14回 (実技) 小発表会(リハーサル)と振り返り 第15回 (実技) 発表会(全クラス合同)・まとめ ※ ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※各回の最初に前回の内容に関する実技を行い、自己課題に対する反復練習及び解説を行う。							
ナンバリング	PEFL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	10421			
科目	1042 表現学			授業種別	週間授業			
担当教員	朝元 尊			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	子どもの表現や活動意欲を引き出すためには、保育者自身の表現力や子どもとの関わり方が大切である。この授業では、日本の伝統楽器である和太鼓について、その歴史や扱い方を始め、保育現場で活用できる知識と表現技能を学ぶ。また、日本人としてのリズム、間合いを意識した遊びや表現方法の理解を深め、リズムで表現し、リズムで他者と繋がることの保育的な意義を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	△				
到達目標	保育に関する専門的な知識や技能の1つとして和太鼓を通じたあそびや表現方法を習得する。また、音を通して他者とのコミュニケーションをとり、協働して表現できることを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 日本の伝統文化、表現方法を理解し、協働しながら実践することができる。 2. 日本の伝統文化と保育の繋がりを理解し、説明できる。 3. 保育者としての自覚を持ち、自らの課題に保育の表現技術として実践できる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜資料を配布する。							
受講条件	なし							
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業までに、前授業の復習・確認を行うこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～14回/1時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習の内容について、事前に調べて授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)							
成績評価	授業の到達目標をどの程度達成できているかを評価する。また、責任感を待って意欲的に取り組む姿勢や協働する力なども評価の対象とするので、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。							
評価項目			割合	評価基準				
授業・課題への取り組み			50%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する				
小テスト			20%	授業内容の理解度を確認する				
発表			30%	授業内容を応用・実践しているかを確認する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) ガイダンス・太鼓の準備・設営についての説明 第2回 (実技) 太鼓の起源(世界の歴史から)・太鼓の扱い方 第3回 (実技) 太鼓の歴史(日本・文化から)・打ち方の基礎①(所作・基礎打ち) 第4回 (実技) 太鼓の特徴と種類について・打ち方の基礎②(音の強弱) 第5回 (実技) ばちの素材と使い方・作り方について・打ち方の基礎③(音を繋げる) 第6回 (実技) 日本各地の演奏スタイルと技術・伝統芸能に触れる 第7回 (実技) 幼児と太鼓(保育や行事での実践事例)・コール&レスポンス(即興演奏) 第8回 (実技) 高齢者及び障がい者と太鼓(福祉施設の実践事例)・音の創作(グループワーク) 第9回 (実技) 太鼓と表現①(低音、中音、高音のアンサンブル) 第10回 (実技) 太鼓と表現②(言葉と太鼓・言葉のリズムの創作) 第11回 (実技) 太鼓と表現③(数字と太鼓・数字のリズムの創作) 第12回 (実技) 太鼓と表現④(自身の特徴を把握する) 第13回 (実技) 太鼓と表現⑤(自身の表現力・集団の表現力を高める) 第14回 (実技) 小発表会(リハーサル)と振り返り 第15回 (実技) 発表会(全クラス合同)・まとめ ※ ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※各回の最初に前回の内容に関する実技を行い、自己課題に対する反復練習及び解説を行う。							
ナンバリング	PEFL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	12710		
科目	1271 茶道Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	伊藤 敦子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	本授業では、茶道（本学は茶道南坊流）点前を学ぶことにより、学習過程で礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことを目的とする。茶道学習のはじめの段階として、まず点前を学び、次の段階では主人と客が相互にもてなすことを実践する。茶道具・掛物・季節の花などと接することで、日本の伝統文化についての基礎知識を獲得する。 ※この科目は茶道南坊流教授職資格を有する教員が講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		△	○	○			
到達目標	1. 茶道を通して、礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことができる。 2. 茶道の基本を習得できる。 3. 茶道を通して、日本の伝統文化の基礎知識を獲得できる。						
テキスト（教科書）	テキスト：教科書なし。その都度プリントを配布する。						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	受講条件なし						
事前・事後学修（内容・時間）	授業で学んだ内容について、毎回1.5時間程度の復習と次回授業前の1.5時間程度の予習で、確実に実施できるようにすること（第2回～第15回）。						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを、実技テスト50％・確認小テスト50％で評価する。なお、劣悪な受講態度は、減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合		評価基準				
実技テスト	50％		授業内容の理解度を確認する。				
項目別実技確認	50％		授業の取り組み具合、項目ごとの理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	※毎時間、点前の作法を繰り返し練習する。 ※毎時間、季節の室礼（しつらい）を提示し、配布プリントで日本文化・行事を解説する。 ※実技確認小テストを実施する。小テスト実施後、改善点を各自に伝え、全体に対しても解説する。 第1回（講義・実習）茶道（南坊流）について説明・お辞儀・挨拶・歩き方の学習 プリント配布（毎時） 第2回（講義・実習）座り方・襖（障子）の開閉・床の間の拝見 帛紗さばき実習 第3回（講義・実習）点前の基礎学習① 部分指導（茶器・茶杓・茶巾の扱い方） 第4回（講義・実習）点前の基礎学習② 部分指導（茶先通し・茶碗のふき方） （実技）実技確認小テスト① 帛紗さばきの確認 第5回（講義・実習）盆点薄茶点前① 盆点前前半① 客に茶を出すまでの実習 第6回（講義・実習）盆点薄茶点前② 盆点前前半② 菓子の取り方・茶の飲み方の実習 （実技）実技確認小テスト② 茶器・茶杓のあらため方確認 第7回（講義・実習）盆点薄茶点前③ 盆点前前半③ 前半の総復習 第8回（講義・実習）盆点薄茶点前④ 盆点前通し① 「盆点前」資料配布 （実技）実技確認小テスト③ 茶先とうじの方法確認 第9回（講義・実習）盆点薄茶点前⑤ 盆点前通し② 点前の細部・注意事項の確認 第10回（講義・実習）盆点薄茶点前⑥ 盆点前通し③ 主客の心得を理解する （実技）実技確認小テスト④ 茶碗の片付け方確認 第11回（講義・実習）（風炉）風炉小板薄茶点前① 点前前半① 柄杓扱いの説明と実習 第12回（講義・実習）風炉小板薄茶点前② 点前前半③ 水指の扱い方実習 （実技）実技確認小テスト⑤ 柄杓の扱い方 第13回（講義・実習）風炉小板薄茶点前③ 点前通し① 点前全体の流れを把握 第14回（講義・実習）風炉小板薄茶点前④ 点前の細部・注意事項を確認 第15回（講義・実習）実技テスト練習 盆点前後半の復習 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。 状況によりオンラインを使用する場合がある。						
ナンバリング	PEFL1006						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	12720		
科目	1272 茶道Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	伊藤 敦子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	本授業では、茶道（本学は茶道南坊流）点前を学ぶことにより、学習過程で礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を確実にすることを目的とする。「茶道Ⅰ」で学んだ点前の学習をさらに深め、より深い日本の伝統文化の知識を獲得する。グループ毎に簡単な茶会を企画し、相互にもてなす茶会実習をおこなう。茶道Ⅱを受講した者は「茶道南坊流 初伝」資格を取得することができる（希望者・別途費用が必要）。 ※この科目は茶道南坊流教授職資格を有する教員が講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		△	○	○			
到達目標	1. 茶道Ⅰの講義を通して学んだ礼儀・作法を、確実に実践することができる。 2. 茶道点前の基本を、さらに深めて学び、習得できる。 3. 茶道を通して学んだ日本の伝統文化の基礎知識を、生活やもてなしに応用できる。						
テキスト（教科書）	テキスト：教科書なし。その都度プリントを配布する。						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	「茶道Ⅰ」を履修済みであること。						
事前・事後学修（内容・時間）	授業で学んだ内容について、毎回1.5時間程度の復習と次回授業前の1.5時間程度の予習で、確実に実施できるようにすること（第2回～第15回）。						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを、実技テスト40％・確認小テスト40％・レポート20％で評価する。なお、劣悪な受講態度は、減点の対象とする場合がある。							
評価項目		割合	評価基準				
実技テスト		40％	授業内容の理解度を確認する。				
レポート		20％	配布資料に、風炉小板薄茶点前の手順と注意点を記入する。				
項目別実技確認		40％	授業の取り組み具合、項目ごとの理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	※毎時間、点前の作法を繰り返し練習する。 ※毎時間、季節の室礼（しつらい）を提示し、配布プリントで日本文化・行事を解説する。 ※グループ毎に茶会を立案・企画し、他グループをもてなす茶会を実施する。 ※レポート課題を提出する。レポートは詳しく添削して返却するとともに講義内で解説する。 ※実技確認小テストを実施する。小テスト実施後、改善点を各自に伝え、全体に対しても解説する。						
	第1回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前①	「茶道Ⅰ」の復習① プリント配布（毎時）				
	第2回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前②	「茶道Ⅰ」の復習② レポート資料配布				
	第3回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前③	点前前半① 柄杓の扱い方実技実習				
	第4回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前④	点前前半② 実技復習				
		実技確認小テスト①	柄杓の扱い方 確認				
	第5回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前⑤	点前通し① 水次の扱い方実習				
	第6回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前⑥	点前通し② 水次の扱い方確認				
		実技確認小テスト②	水次の扱い方 確認				
	第7回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前⑦	点前通し③ 点前全体の流れを確認				
	第8回（講義・実習）	風炉小板薄茶点前⑧	点前通し④ 総復習とグループ茶会の説明				
	第9回（講義・実習）	色紙箱薄茶点前①	色紙箱の扱い方実習				
		（演習）	グループ茶会企画①（グループワーク）				
	第10回（講義・実習）	色紙箱薄茶点前②	道具の出し方実習				
		（演習）	グループ茶会企画②（グループワーク）				
	第11回（講義・実習）	色紙箱薄茶点前③	点前通し①				
	（演習）	グループ茶会企画③（グループワーク）					
第12回（実技）	確認小テスト③	色紙箱点前確認					
	（演習）	グループ茶会企画④（グループワーク）					
第13回（演習）	グループ茶会①	グループ毎に茶会を実施	他のグループをもてなす				
第14回（演習）	グループ茶会②	グループ毎に茶会を実施	他のグループをもてなす				
第15回（講義・実習）	実技テスト練習	風炉小板点前	後半				
※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。 状況により、オンラインを使用する場合がある。							
ナンバリング	PEFL1007						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	12810		
科目	1281 硬筆書道			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 陽子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	「文字は人を表す」という。文字には、性格・人柄や知性・気持ちが表れるという意味である。「正しく丁寧な文字」「読みやすく整った文字」からは、誠意が伝わり、信頼感も生まれる。この講座では、文字の練習を効率的に行うことにより、手書き文字の質を高め、日々の生活や幼児教育・保育の現場で活かすことを目的に授業を行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○			△			
到達目標	1. 正しいペンの持ち方、姿勢を身につける。 2. ひらがな、カタカナ、数字、アルファベットを正しく整えて書くことができる。 3. 漢字の楷書の基本を習得する。 4. 日誌、レポート、履歴書などの実践に活用する。						
テキスト(教科書)	『 短時間できれいになる 大人の美文レッスン帳 』 中山佳子著 (大泉書店) ISBN 978-4-278-03240-6						
参考書および参考文献	『 NHKまる得マガジンMOOK クセ字が直る美文レッスン帳 』 青山浩之著 (NHK出版) ISBN 978-4-14-199210-3 『 NHKまる得マガジンMOOK 美文字クリニック練習帳 』 青山浩之著 (NHK出版) ISBN 978-4-14-199253-0						
受講条件	なし						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 前回の授業内容の確認テストを実施するので、復習し練習を行う。(第2回～14回/1時間程度) 2. テキスト、実用的な書式の課題に取り組み提出する。(第1回～15回/1時間程度)						
成績評価							
授業でテキストの指定範囲の練習を行うこと。 毎回の確認テストならびに提出課題により、習熟度を評価する。テキストの取り組みについても評価を行う。							
評価項目	割合		評価基準				
確認テスト	50%		授業内で説明、練習したことが習得できているかを評価する。				
課題プリント	40%		学んだことを生かして、課題に丁寧にとりくめているかを評価する。				
テキスト	10%		テキストの実技課題を丁寧にこない、主体的に取り組んでいるかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義・実技)	ガイダンス 自己診断シートの作成。ひらがな単体練習①				
	第2回	(講義・実技)	確認テスト①	ひらがな単体練習②	課題プリント①提出		
	第3回	(講義・実技)	確認テスト②	ひらがな単体練習③	課題プリント②提出		
	第4回	(講義・実技)	確認テスト③	ひらがな単体練習④	課題プリント③提出		
	第5回	(講義・演習)	確認テスト④	ひらがな総復習	課題プリント④提出		
	第6回	(講義・実技)	確認テスト⑤	カタカナ単体練習①	課題プリント⑤提出		
	第7回	(講義・実技)	確認テスト⑥	カタカナ単体練習②	課題プリント⑥提出		
	第8回	(講義・実技)	確認テスト⑦	カタカナ総復習	課題プリント⑦提出		
	第9回	(講義・実技)	確認テスト⑧	漢字の基本点画の練習①	課題プリント⑧提出		
	第10回	(講義・実技)	確認テスト⑨	漢字の基本点画の練習②	課題プリント⑨提出		
	第11回	(講義・実技)	確認テスト⑩	漢字部首ごとの練習①	課題プリント⑩提出		
	第12回	(講義・実技)	確認テスト⑪	漢字部首ごとの練習②	課題プリント⑪提出		
	第13回	(講義・演習)	確認テスト⑫	漢字部首ごとの練習③	アルファベット、数字の練習		
	第14回	(講義・演習)	確認テスト⑬	自己診断シートにて上達を確認	《テキスト提出》		
	第15回	(講義・演習)	定番挨拶文、かな交じり文、履歴書等の練習				
※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※確認テスト、課題プリント、テキストは評価を行うと同時に、必要に応じて添削を行い、返却の際にコメントをすることで、フィードバックを行う。							
ナンバリング	PEFL1008						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	12820			
科目	1282 フラワーアレンジメント			授業種別	週間授業			
担当教員	高橋 希			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	現代の住空間、保育環境を意識しながら、四季を楽しむ自然の草花を愛でる伝統文化を理解する。また、花や道具を扱う基礎的な技術を実践的に学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	●				
到達目標	1.植物に関する基本的な知識について説明でき、道具を適切に扱うことができる。 2.命あるものを慈しむ心や美しさを感じる感性、豊かな想像力を身につけ表現できる。 3.自然、植物と親しむことの育的意義を理解し、実践できる。							
テキスト(教科書)	特になし。必要な場合は、適宜プリント等を配布する							
参考書および参考文献	『花育ハンドブック』実践マニュアル&リポート 農耕と園芸編集部(誠文堂新光社) ISBN: 978-4-416-71451-5 『水揚げ&花のケア』増補改訂版: 切り花の鮮度保持マニュアル 薄木健友(誠文堂新光社) ISBN: 978-4-416-71804-9							
受講条件	受講条件はありません							
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内容の復習(第1回~15回/1時間程度) 2. 実技の事前準備をする(第3回・第6回・第9回・第12回・第15回前の2時間程度)							
成績評価								
課題レポートは各講義の終了時に提出するもので、その出来具合や提出状況等により評価する。 小テストは筆記にて授業理解度を測る。 実技は授業時間内に作品を制作し、作品レポートと共に提出し評価・アドバイスを受けた後、各自持ち帰る。								
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート		40%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。					
小テスト		20%	筆記試験にて授業の理解度を確認する。					
実技		40%	課題への取り組み方と作品の成果を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義)	ガイダンス	基礎知識1	(花の名前、分類)			
	第2回	(講義)	季節の花1	(ガーベラ・桜)				
	第3回	(実技)	アレンジメント	(道具の扱い方、花の挿し方)				
	第4回	(講義)	基礎知識2	(花の水揚げ、管理方法)				
	第5回	(講義)	季節の花2	(カーネーション、菖蒲)				
	第6回	(実技)	ブーケ	(花の色合せ、保水・ラッピングの仕方)				
	第7回	(講義)	基礎知識3	(花の安全教育)				
	第8回	(講義)	季節の花3	(バラ、紫陽花)	※小テスト予定			
	第9回	(実技)	アレンジメント	(花器と花の組合せ)				
	第10回	(講義)	基礎知識4	(日本の行事と花の関係)				
	第11回	(講義)	季節の花4	(ユリ・菊)				
	第12回	(実技)	コサージュ	(ワイヤリングテクニック)				
	第13回	(講義)	花育1	(対象、活動方法)				
	第14回	(講義)	花育2	(企画・計画・運営)				
	第15回	(実技)	花育3	(自由制作)				
	※実技は制作過程において机間巡視を行い、完成時にコメントすることによってフィードバックする。 ※生鮮の植物を取り扱うため、天候・気象条件等により授業内容が前後する場合がある。 ※受講生の習熟度によっては授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEFL1009							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期		授業コード	12830				
科目	1283 ボランティア演習		授業種別	週間授業				
担当教員	葛谷 潔昭		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・医療・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれに関連したNPO（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞き、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通じて、総合的に受講者のボランティア論・ボランティア観の基礎を作り出すことを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎				
到達目標	1.わが国のボランティア活動の現状を説明できる 2.自ら意欲的にボランティア活動に参加することができる 3.人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現力を高め、実践できる 4.対人援助専門職としての「社会人基礎力」を身に着け、実践することができる 5.組織の管理者として重要な要素、マネジメント能力、アントレプレナーシップ、ベンチャースピリットを理解し、説明することができる							
テキスト（教科書）	『これだけは身につけておきたいボランティアの実践スキル』久米 隼 日本橋出版 ISBN：978-4434343865 上記の他に適宜資料を配布する。							
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。							
受講条件	なし							
事前・事後学修（内容・時間）	1. テキストおよび配布資料を事前・事後に予復習する（合計15時間程度） 2. 講義によっては、事前課題・事後課題（個人ワーク、外部講師感想文、活動計画など）を行う（合計10時間程度） 3. ボランティア先について、調べ、連絡する（合計4時間程度） 4. ボランティア活動を行う（合計3時間以上） 5. ボランティア活動についてまとめる（合計6時間程度）							
成績評価								
授業内課題の取り組み度、および授業後課題提出状況、学外での課題（学外における実習（ボランティア活動）の書類提出、レポート課題含む）で評価。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
演習・課題・レポート	50%		①演習、ワークの内容 ②授業内容の理解度（感想文等） ③課題が適切な内容・記述、分量になっているか（設題に対する内容等）					
学外実践活動（課題）	50%		①課題のボランティア活動の実習期間を終了したか。 ②課題に対する適切な内容と記述、分量になっているか。 ③提出すべき書類が正しく期限内に出されているか。					
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）人間としての社会生活とボランティア活動（ボランティアをする側とされる側、当事者性とは） 第2回（講義）ボランティア活動の範囲、機能、理念、組織、社会的意義 第3回（講義）ボランティア実践活動の意義と計画・実際について 第4回（演習・実技）分野別ボランティア活動（手話、防災、学習支援：学内講師）、明るい社会づくり作文の案内（外部講師） 第5回（講義・演習）分野別ボランティア活動（地域福祉・ボランティアコーディネート）（外部講師） 第6回（講義・演習）分野別ボランティア活動（医療的ケア・介護分野）（外部講師） 第7回（講義・演習）分野別ボランティア活動（災害・自然保護・環境・まちづくり）（外部講師） 第8回（講義・演習）分野別ボランティア活動（子育て分野）（外部講師） 第9回（講義・演習）分野別ボランティア活動（フードバンク、子ども食堂）（外部講師） 第10回（講義・演習・実技）分野別ボランティア活動（レクリエーション、ホスピタルクラウン）（外部講師） 第11回（実習）ボランティア実践活動 第12回（実習）ボランティア実践活動 第13回（講義・演習）国際協力とボランティア活動（外部講師：国際中継） 第14回（講義）近年の日本におけるボランティア活動・NPO活動、地域活動の変遷と課題 第15回（演習）今後のボランティア活動とNPOの活動、地域の活動のあり方、ボランティア実践活動報告会 課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。							
ナンバリング	PEFL1010							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	12840		
科目	1284 手話入門			授業種別	週間授業		
担当教員	平松 靖一郎			単位数	1		
その他担当者	佐藤 亜子						
授業概要	この授業では、一般社団法人全日本ろうあ連盟が発行「はじめて出会う手話」(2018年発行)を使用し、ろう者が普段使っている自然な手話を学びます。単語にこだわらず、会話の中から学べるよう授業を進めていきます。授業を通して、手話の基礎的な技能を習得し、自己表現や対話ができるようになることを目指す。そのため、授業ではまず、聴覚障害者についての理解を深め、聴覚障害者の日常生活における課題や対応方法、コミュニケーション方法を学ぶ。また、日本における手話の歴史や特徴を理解したうえで、手話習得に必要な観察力や表す力等の基礎表現能力を習得する。さらに、簡単な手話表現の基礎技術を習得し、習得した手語彙と表現技術を使って会話ができるようになるために、習熟度を高める。						
	実務経験を持つ担当教員について 平松 靖一郎：手話通訳士、愛知県登録手話通訳者、豊橋市登録手話通訳者、豊川市登録手話通訳者、防災士						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	△	△	◎	◎			
到達目標	人間・社会に対する理解を深め、幅広い教養を身につける。 ①相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介程度の会話ができる。 ②耳の仕組みや聴覚障害の原因を理解するとともに、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解し、実践できる。 ③聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解し、説明できる。						
テキスト(教科書)	「はじめて出会う手話」 発行：一般社団法人全日本ろうあ連盟2018年発行 ISBN：978-4-904639-18-4 C0037 定価：1,800円(税別)						
参考書および参考文献	手話専任員養成テキスト「手話を学ぶろう手話でそう」 発行：社会福祉法人全国手話研修センター ISBN：978-4-902158-56-4 C0037 価格：3,000円(税別) 全日本ろうあ連盟HP URL http://www.jfd.or.jp/ 手話言語研究所HP URL https://www.newsigs.jp/alph その他必要に応じて講義の中で適宜紹介します。						
受講条件	履修条件なし 但し、受講者数が40名を超える場合は、抽選になることもある。						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に指定箇所の教科書を目を通しておくこと。(第1～15回/0.5時間程度) 毎授業後に授業で学んだ範囲の付録DVDで手話の実技練習をしておくこと。(第1～15回/1時間程度) 2. 授業内で講義した内容について適宜調べおくこと。(第2～12回/1時間程度) 第16回定期試験に向けて、授業内で配布した資料の復習を行うこと。(第13～15回/3時間)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されているかを、定期試験と課題によって総合的に評価する。 定期試験は、「日常会話を行うのに必要な手話語彙及び手話表現技術が身についているか」、「聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解できているか」という観点を中心に評価する。 なお、劣悪な学習態度は、減点の対象とする場合がある。劣悪な学習態度とは、コミュニケーションをとろうとしない態度や手話表現実技の間に、手話表現を積極的に行わない態度をさす。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		80%	筆記試験では、講義の際に配布したワークシートや資料(手話の特性、聴覚障害者福祉に関する様々な課題)についてどの程度理解しているかを評価する。また、実技試験では、講義で学修した手話表現について、どの程度表現することが出来て、手話による日常会話レベルのコミュニケーションが出来るかを評価する。				
課題レポート		20%	聴覚障害者福祉の向上の観点について、どの程度気づくことが出来るかを確認します。また、その気づきに対して、自分自身がどのようにしたらよいのかについてまとめている。こうした点について、採点評価します。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(シーン1) あいさつ	実技：「あいさつ」に関する手話 講義：ろう文化 / ろう者と呼かけるときの方法					
	第2回(シーン2) 自己紹介	実技：「自己紹介」に関する手話 講義：名前の由来					
	第3回(シーン3) 家族	実技：「家族」に関する手話 講義：聴覚障害者とは					
	第4回(シーン4) 趣味	実技：「趣味」に関する手話 講義：デフリンピックについて					
	第5回(シーン5) 料理・買い物	実技：「料理・買い物」に関する手話 講義：日常生活の不便 / 補装具など					
	第6回(シーン6) 病院	実技：病院に関する手話 講義：[119]救急車を呼ぶとき / 「電話リレーサービス」「遠隔手話通訳」					
	第7回(シーン7) 交通	実技：「交通」に関する手話 講義：「手話マーク」「車線マーク」について					
	第8回(シーン8) 学校	実技：「学校」に関する手話 講義：「手話言語」 / ろう学校の歴史 / 聞こえない人の子育て					
	第9回(シーン9) 仕事	実技：「仕事」に関する手話 講義：合理的配慮					
	第10回(シーン10) 天気・自然	実技：「天気・自然」に関する手話 講義：災害が起きたら(聴覚障害者の災害対策)					
	第11回(シーン11) 1日のこと・1か月のこと	実技：「1日のこと」や「1か月のこと」に関する手話					
	第12回(シーン12) 1年のこと	実技：「1年のこと」に関する手話					
	第13回(シーン13) イベントのこと	実技：「イベントのこと」に関する手話					
	第14回(シーン14) 旅行	実技：「旅行」に関する手話					
	第15回(まとめ) 日常会話	実技：シーン1～14までのまとめ 今までに学んだことを活かして発表したり、ろう者と会話したりしましょう。					
	第16回 定期試験	授業の第1回から第15回までのまとめとして、筆記試験と実技試験を実施する。					
※試験や課題については、授業時間内で総評を提示するとともに必要に応じて質問や疑問に回答し、フィードバックを行う。 ※学習効果を高めるため、適宜、ビデオ教材を使用する。 ※授業の進捗状況及び受講生の理解度によっては、講義計画の変更又は追加補講を実施することがある。その場合は、その都度案内する。							
ナンバリング	PEFL2015						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	12850		
科目	1285 防災安全講座			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	昨今の豪雨災害の激甚化・頻発化は、大学周辺のエリアでも大きな被害をもたらしている。また南海トラフ地震の発生も懸念されている現在、緊急時に自分自身や家族の命を守り、就職先である園・施設・病院・行政機関・企業で役立つ知識・技術を身につけることは、地域防災の貢献につながる。授業では、防災の知識を身につけると同時に、実際の災害時にすべきこと、できることを実践的に学ぶ。また、日常生活を送る中で、防災や減災について考える契機とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎	◎			
到達目標	1.災害等の緊急事態を想定することができ、社会人としての対応を理解し、説明できる 2.自分の命を守り、周りの人々、地域に貢献できる方法を理解し、実践できる 3.他者との協働を通して、自助・共助の重要性を理解し、説明できる						
テキスト(教科書)	使用しない。						
参考書および参考文献	適宜、指示または配布する。						
受講条件	なし。						
事前・事後学修(内容・時間)	1.災害、安全に関する新聞記事を読む(第2回～8回/1時間程度) 2.授業内で提示された防災関連動画を視聴する(第1回～8回/1時間程度) 3.国・県の関連機関の統計に目を通しておく(第2回～8回/1時間程度) 4.被災時の行動計画を立て、自身の防災対策についてまとめる(第1回～8回/1時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やレポート、確認テスト、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業への参加度、課題への取り組み方		30%	内容を理解して、積極的に取り組むことができたか。実践課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。				
リアクションペーパー		30%	講義内容を適切に理解した内容であり、正しい日本語表現で丁寧に記述されているか。				
確認テスト		20%	指定された内容の理解度、努力の確認。				
課題レポート		20%	講義内容を適切に理解した内容であり、具体的にわかりやすく記述されているか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 防災講話(被災の教訓)(関係機関との連携) 第2回 (講義・演習) 災害への備え(ハザードマップを利用したワーク) 第3回 (講義・演習) 防災の知恵(様々な災害に対する防災カードゲーム) 第4回 (講義・演習) 身近なモノを利用した防災グッズの作成 第5回 (講義) 防災講話(地域防災の「自助」「共助」「公助」)(関係機関との連携) 第6回 (講義・演習) クロスロード(神戸市職員が経験した困難な状況判断のカードゲーム) 第7回 (講義・演習) HUG(静岡県が開発した避難所運営の図上訓練)(関係機関との連携) 第8回 (演習) 炊き出し訓練						
	※確認テスト・リアクションペーパーについては、返却時に、必要に応じてコメントを記載することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEFL2017						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	12860		
科目	1286 データサイエンス入門			授業種別	週間授業		
担当教員	今井 正文			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを使う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。 授業では、Classroomを活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどはClassroomおよび双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。 ※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○					
到達目標	・データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理/データサイエンス/AI」が、今後の社会における「読み/書き/そろばん」であることを理解できる ・データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる ・今のAIで出来ること、出来ないことを理解できる ・AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AIが日常生活や社会/組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる						
テキスト（教科書）	『教養としてのデータサイエンス』北川源四郎/竹村彰通・編 内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志/樋口知之/丸山宏・著、講談社サイエンティフィック、ISBN:978-4065238097 https://www.kspub.co.jp/book/detail/5238097.html						
参考書および参考文献	講義の中で適宜紹介する。						
受講条件	特になし。						
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回3時間程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。（0.5時間程度） ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。（1時間程度） ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。（1.5時間程度）						
成績評価							
小テストおよび課題提出（60％：各章の講義内容の理解度を確認する） 定期試験（40％） 定期試験内訳：講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題							
評価項目		割合	評価基準				
小テストおよび課題提出		60％	各回の講義内容についての理解度を確認する。				
定期試験		40％	試験にて講義内容についての理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1章〔導入〕社会におけるデータ・AI利活用 第01回（講義・演習）ガイダンス、1.1 社会でおきている変化 第02回（講義・演習）1.2 社会で活用されているデータ 第03回（講義・演習）1.3 データとAIの活用領域 第04回（講義・演習）1.4 データ・AI利活用のための技術 第05回（講義・演習）1.4 データ・AI利活用のための技術その2 第06回（講義・演習）1.5 データ・AI活用の現場 第07回（講義・演習）1.6 データ・AI活用の最新動向 第2章〔基礎〕データリテラシー 第08回（講義・演習）2.1 データを読む 第09回（講義・演習）2.1 データを読むその2（Excel実習） 第10回（講義・演習）2.2 データを説明する 第11回（講義・演習）2.3 データを扱う（SSDSEデータ実習） 第12回（講義・演習）2.3 データを扱うその2（SSDSEデータ実習） 第3章〔心得〕データ・AI利活用における留意事項 第13回（講義・演習）3.1 データ・AIを扱う上での留意事項 第14回（講義・演習）3.2 データを守る上での留意事項 第15回（講義）まとめ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題（テストやレポート等）については、Classroomおよび双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。						
ナンバリング	PEFL2018						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	26320		
科目	2632 体育講義			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	人間の身体構造、生理的機能や現代的課題を踏まえ、「健康」についての理解を深める。また授業を通して、自分自身の健康維持・増進、ライフプランについても考える契機とする。さらに、身近な危険や緊急時の対処法を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	△	△	○			
到達目標	1. 人間の身体の仕組みを理解し、説明できる。 2. 自分自身と子どもの健康管理・維持増進の重要性を理解し、説明できる。 3. 緊急時や災害時の対応を身につける。						
テキスト(教科書)	使用しない。						
参考書および参考文献	適宜、指示または配布する。						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. プリントの復習・確認をする。(第1回～15回／1時間程度) 2. 小テスト範囲を復習する。(第3回～12回／1時間程度) 4. 定期試験範囲を復習する。(第14回～15回／2.5時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されたかを提出物、小テスト、定期試験により、総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
課題の提出状況、達成度		30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。				
小テスト		20%	指定された範囲の理解度、努力の確認。				
定期試験		50%	筆記試験で科目全体の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンスー健康とはー 第2回(講義) 喫煙 第3回(講義・演習) 飲酒(アルコールバッチテスト) 第4回(講義) 身近な感染症と予防 第5回(講義・演習) 体格・体格指数(BMI、体脂肪測定) 第6回(講義・演習) ライフサイクルと心身の健康を考える(豊橋市保健所との連携) 第7回(講義・演習) 性と生命について考える(看護学科との連携) 第8回(講義) 身体の仕組み(骨) 第9回(講義) 身体の仕組み(筋肉) 第10回(講義) 肢体不自由 第11回(講義) 生活習慣病 第12回(講義) 免疫とアレルギー 第13回(講義・演習) けがの予防と応急処置(グループワーク) 第14回(講義・演習) 救急救命、応急手当(消防庁WEB検定) 第15回(講義・演習) 事故、災害への対応 ※プリント、小テストについては、次回の授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PECL1001						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	26321		
科目	2632 体育講義			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	人間の身体構造、生理的機能や現代的課題を踏まえ、「健康」についての理解を深める。また授業を通して、自分自身の健康維持・増進、ライフプランについても考える契機とする。さらに、身近な危険や緊急時の対処法を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	△	△	○			
到達目標	1. 人間の身体の仕組みを理解し、説明できる。 2. 自分自身と子どもの健康管理・維持増進の重要性を理解し、説明できる。 3. 緊急時や災害時の対応を身につける。						
テキスト(教科書)	使用しない。						
参考書および参考文献	適宜、指示または配布する。						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. プリントの復習・確認をする。(第1回～15回／1時間程度) 2. 小テスト範囲を復習する。(第3回～12回／1時間程度) 4. 定期試験範囲を復習する。(第14回～15回／2.5時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されたかを提出物、小テスト、定期試験により、総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
課題の提出状況、達成度		30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。				
小テスト		20%	指定された範囲の理解度、努力の確認。				
定期試験		50%	筆記試験で科目全体の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンスー健康とはー 第2回(講義) 喫煙 第3回(講義・演習) 飲酒(アルコールバッチテスト) 第4回(講義) 身近な感染症と予防 第5回(講義・演習) 体格・体格指数(BMI、体脂肪測定) 第6回(講義・演習) ライフサイクルと心身の健康を考える(豊橋市保健所との連携) 第7回(講義・演習) 性と生命について考える(看護学科との連携) 第8回(講義) 身体の仕組み(骨) 第9回(講義) 身体の仕組み(筋肉) 第10回(講義) 肢体不自由 第11回(講義) 生活習慣病 第12回(講義) 免疫とアレルギー 第13回(講義・演習) けがの予防と応急処置(グループワーク) 第14回(講義・演習) 救急救命、応急手当(消防庁WEB検定) 第15回(講義・演習) 事故、災害への対応						
	※プリント、小テストについては、次回の授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。						
	※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PECL1001						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	26520		
科目	2652 体育実技			授業種別	週間授業		
担当教員	白柳 佳子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	日常生活において必要な運動量を確保するとともに、豊かな身体表現力を身につけるための基礎的な技術を習得する。また、グループ活動を通して、他者と一緒に身体を動かすことによる楽しさを体験し、その必要性への理解を深める。さらに、授業を通して子どもの表現に対する理解も深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 身体を動かすことの楽しさを理解し、実践できる。 2. 身体的活動を通して、仲間と協働できる。 3. 子どもの表現を理解し、説明できる。						
テキスト(教科書)	『からだからはじまる保育のアート』西洋子 本山益子 岡本雅子著 (市村出版) ISBN: 978-4-902109-48-1						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業終了時に連絡する次週の授業内容に応じてテキストの該当箇所を読む(第1～15回/1時間程度) 2. 実技課題(個人・グループ)の復習をする(第1～15回/1時間程度)						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成されたか、実技試験、発表、課題により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象となることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
実技試験		40%	体の特性を理解し、自分の体で表現する努力ができているか。				
作品発表とそれに向けての取り組み		30%	役割を理解し、能動的に活動できたか。完成度の高い作品作りと高めるための努力ができたか。				
振り返りシート等課題の提出状況		20%	客観的に自己評価、他者評価ができ、自ら課題解決に取り組むことができたか。				
課題レポート		10%	適切な内容・記述ができているか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス(基礎運動について) 第2回(講義) 身体活動と表現 ダンスの歴史 第3回(実技・演習) 基礎運動とリトミック、ポーズの工夫(個～グループ) 第4回(実技・演習) ダンス① 基本ステップと動き方の工夫(上半身の動きの工夫) 第5回(実技・演習) ダンス② 上半身の動きの発表(個人とグループ) 第6回(実技・演習) ダンス③ 基本ステップと動き方の工夫(腰～足) 第7回(実技・演習) ダンス④ 下半身(腰～足)の動きの発表(個人とグループ) 第8回(実技・演習) ダンス⑤ 結合ステップと移動の動き(個～グループ) 創作と練習 第9回(実技・演習) ダンス⑥ 結合ステップ発表と模倣～即興への発展運動と工夫 第10回(実技・演習) ダンス⑦ 声や言葉を使った動き方の工夫(グループ活動) 第11回(実技・演習) ダンス⑧ 体全体を使った動き方の工夫(グループ活動) 第12回(実技・演習) ダンス⑨ 音楽と空間の使い方(グループ活動) 第13回(実技・演習) ダンス⑩ 課題曲による作品創り 第14回(実技・演習) ダンス⑪ 課題曲による作品創り 第15回(実技・演習) 作品発表と鑑賞、自己評価 ※授業まとめ時、活動中、創作過程や発表時に、コメントすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により内容を変更することもある。						
ナンバリング	PEDL1001						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	26521		
科目	2652 体育実技			授業種別	週間授業		
担当教員	白柳 佳子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	日常生活において必要な運動量を確保するとともに、豊かな身体表現力を身につけるための基礎的な技術を習得する。また、グループ活動を通して、他者と一緒に身体を動かすことによる楽しさを体験し、その必要性への理解を深める。さらに、授業を通して子どもの表現に対する理解も深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 身体を動かすことの楽しさを理解し、実践できる。 2. 身体的活動を通して、仲間と協働できる。 3. 子どもの表現を理解し、説明できる。						
テキスト(教科書)	『からだからはじまる保育のアート』西洋子 本山益子 岡本雅子著 (市村出版) ISBN: 978-4-902109-48-1						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業終了時に連絡する次週の授業内容に応じてテキストの該当箇所を読む(第1～15回/1時間程度) 2. 実技課題(個人・グループ)の復習をする(第1～15回/1時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されたか、実技試験、発表、課題により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象となることがある。							
評価項目	割合		評価基準				
実技試験	40%		体の特性を理解し、自分の体で表現する努力ができているか。				
作品発表とそれに向けての取り組み	30%		役割を理解し、能動的に活動できたか。完成度の高い作品作りと高めるための努力ができたか。				
振り返りシート等課題の提出状況	20%		客観的に自己評価、他者評価ができ、自ら課題解決に取り組むことができたか。				
課題レポート	10%		適切な内容・記述ができていくか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス(基礎運動について) 第2回(講義) 身体活動と表現 ダンスの歴史 第3回(実技・演習) 基礎運動とリトミック、ポーズの工夫(個～グループ) 第4回(実技・演習) ダンス① 基本ステップと動き方の工夫(上半身の動きの工夫) 第5回(実技・演習) ダンス② 上半身の動きの発表(個人とグループ) 第6回(実技・演習) ダンス③ 基本ステップと動き方の工夫(腰～足) 第7回(実技・演習) ダンス④ 下半身(腰～足)の動きの発表(個人とグループ) 第8回(実技・演習) ダンス⑤ 結合ステップと移動の動き(個人～グループ) 創作と練習 第9回(実技・演習) ダンス⑥ 結合ステップ発表と模倣～即興への発展運動の工夫 第10回(実技・演習) ダンス⑦ 声や言葉を使った動き方の工夫(グループ活動) 第11回(実技・演習) ダンス⑧ 体全体を使った動き方の工夫(グループ活動) 第12回(実技・演習) ダンス⑨ 音楽と空間の使い方(グループ活動) 第13回(実技・演習) ダンス⑩ 課題曲による作品創り 第14回(実技・演習) ダンス⑪ 課題曲による作品創り 第15回(実技・演習) 作品発表と鑑賞、自己評価 ※授業まとめ時、活動中、創作過程や発表時に、コメントすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により内容を変更することもある。						
ナンバリング	PEDL1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	20100		
科目	2010 英語			授業種別	週間授業		
担当教員	船井 純平			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	幼児教育の現場で必要と思われるコミュニケーションの道具としての英語の習得を目的として、日常生活や幼児教育に関わる英単語や表現を学ぶ。また、言語は意志を伝えるための道具であると同時に、様々な文化を理解する手がかりともなる。この授業では、英語の歌や動画の視聴を通して日本文化とは異なる文化の一面についての理解も深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			
到達目標	英語は小学校で学ぶようになり、その導入として幼稚園・保育園・認定子ども園で学ぶ機会も増えている。その際、積極的に英語の環境に関われるように、保育の現場で用いられる英語に慣れることが目標である。また、学科の学位授与方針「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他とともに大切に、他者を思いやり受容できる」の土台を形成するものとして、以下の内容を授業の到達目標とする。 1. 日常生活や幼児教育に関わる平易な英文を理解できる。 2. 日常生活や幼児教育に関わる英単語や英語の表現を使用できる。 3. 調べて覚えた英語の手遊びを教えることができる。						
テキスト（教科書）	教科書は使用せず、プリントを配布する。						
参考書および参考文献	適宜、指示する。						
受講条件	（卒・幼・保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回の授業で指示される英単語・表現、歌に関する作業（第2回～14回/1時間程度） 2. 前回分の英単語・表現等の確認をすること（第2回～14回/1時間程度） 3. 試験のために、授業での配布プリントの復習を行うこと（第2回～14回/2時間程度）						
成績評価	原則として毎回出席すること。課題の作成が20%、英語の手遊び歌の発表が20%、定期試験の点数を60%として、総合的に評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。						
評価項目		割合	評価基準				
課題の作成		20%	制作物から理解度・達成度を評価する。				
定期試験		60%	筆記試験により理解度を評価する。				
英語の手遊び歌の発表		20%	調べた英語の手遊び歌を教えることができるかどうか。歌や動きのテンポが適当で真似しやすいか、声の大きさが適当で聞き取りやすいか、歌詞の発音は適切かによって判定する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	ガイダンス					
	第2回	（講義、演習）単語・表現 “園の人々・家族・おもちゃ” 英語童謡 “Itzy Bitzy Spider” リスニング					
	第3回	（講義、演習）単語・表現 “健康、会話文” situation comedy “Full House” リスニング					
	第4回	（講義、演習）単語・表現 “植物、会話文” 英語童謡 “Baby shark” リスニング					
	第5回	（講義、演習）単語・表現 “喧嘩、食事” 歌 “What do you mean?”, “Call me maybe” リスニング					
	第6回	（講義、演習） 手遊び歌について調べる（グループワーク）					
	第7回	（講義、演習） 手遊び歌の発表準備（グループワーク）					
	第8回	（実技）手遊び歌発表					
	第9回	（講義、演習）単語・表現 “衣類、持ち物” 歌 “Ponyo on the Cliff by the Sea” リスニング					
	第10回	（講義、演習）単語表現 “会話文” 映画リスニング					
	第11回	（講義、演習、実技）単語・表現 “生き物” 歌 “My neighbor Totoro” リスニング					
	第12回	（講義、演習） 製作物のための英語表現を学ぶ “食べ物、動物、年間行事”					
	第13回	（演習、実技） 製作（グループワーク）					
	第14回	（演習、実技） 製作（グループワーク）					
	第15回	期末まとめ（単語・表現・歌・映画）					
		※発表についてはその都度コメントをする ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある					
ナンバリング	PEFL1011						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	20101		
科目	2010 英語			授業種別	週間授業		
担当教員	船井 純平			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	幼児教育の現場で必要と思われるコミュニケーションの道具としての英語の習得を目的として、日常生活や幼児教育に関わる英単語や表現を学ぶ。また、言語は意志を伝えるための道具であると同時に、様々な文化を理解する手がかりともなる。この授業では、英語の歌や動画の視聴を通して日本文化とは異なる文化の一面についての理解も深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			
到達目標	英語は小学校で学ぶようになり、その導入として幼稚園・保育園・認定子ども園で学ぶ機会も増えている。その際、積極的に英語の環境に関われるように、保育の現場で用いられる英語に慣れることが目標である。また、学科の学位授与方針「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他とともに大切にし、他者を思いやり受容できる」の土台を形成するものとして、以下の内容を授業の到達目標とする。 1. 日常生活や幼児教育に関わる平易な英文を理解できる。 2. 日常生活や幼児教育に関わる英単語や英語の表現を使用できる。 3. 調べて覚えた英語の手遊びを教えることができる。						
テキスト（教科書）	教科書は使用せず、プリントを配布する。						
参考書および参考文献	適宜、指示する。						
受講条件	（卒・幼・保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎回の授業で指示される英単語・表現、歌に関する作業（第2回～14回/1時間程度） 2. 前回分の英単語・表現等の確認をすること（第2回～14回/1時間程度） 3. 試験のために、授業での配布プリントの復習を行うこと（第2回～14回/2時間程度）						
成績評価							
原則として毎回出席すること。課題の作成が20%、英語の手遊び歌の発表が20%、定期試験の点数を60%として、総合的に評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。							
評価項目		割合	評価基準				
課題の作成		20%	制作物から理解度・達成度を評価する。				
定期試験		60%	筆記試験により理解度を評価する。				
英語の手遊び歌の発表		20%	調べた英語の手遊び歌を教えることができるかどうか。歌や動きのテンポが適当で真似しやすいか、声の大きさが適当で聞き取りやすいか、歌詞の発音は適切かによって判定する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	ガイダンス					
	第2回	（講義、演習）単語・表現 “園の人々・家族・おもちゃ” 英語童謡 “Itzy Bitzy Spider” リスニング					
	第3回	（講義、演習）単語・表現 “健康、会話文” situation comedy “Full House” リスニング					
	第4回	（講義、演習）単語・表現 “植物、会話文” 英語童謡 “Baby shark” リスニング					
	第5回	（講義、演習）単語・表現 “喧嘩、食事” 歌 “What do you mean?”, “Call me maybe” リスニング					
	第6回	（講義、演習） 手遊び歌について調べる （グループワーク）					
	第7回	（講義、演習） 手遊び歌の発表準備 （グループワーク）					
	第8回	（実技）手遊び歌発表					
	第9回	（講義、演習）単語・表現 “衣類、持ち物” 歌 “Ponyo on the Cliff by the Sea” リスニング					
	第10回	（講義、演習）単語表現 “会話文” 映画リスニング					
	第11回	（講義、演習、実技）単語・表現 “生き物” 歌 “My neighbor Totoro” リスニング					
	第12回	（講義、演習） 製作物のための英語表現を学ぶ “食べ物、動物、年間行事”					
	第13回	（演習、実技） 製作（グループワーク）					
	第14回	（演習、実技） 製作（グループワーク）					
	第15回	期末まとめ（単語・表現・歌・映画）					
	※発表についてはその都度コメントをする ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある						
ナンバリング	PEFL1011						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	20120		
科目	2012 ポルトガル語			授業種別	週間授業		
担当教員	田口 マユリ			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	ポルトガル語の初歩的なレベルを習得することを目標とする。具体的には、日常生活や仕事、旅行先で必要な会話を学ぶことで、ポルトガル語に関する基礎知識や文法、聞き取る力の修得を目指す。 日本には、そして大学近郊には、多くのブラジル人が生活している。今後、友人を増やしたい、将来仕事に役立てたい、ブラジルやポルトガル語に興味があるという人にとって、有益な授業内容である。受講生のベース、レベルの合わせて進度を調整するので、安心して授業に臨んでもらいたい。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			
到達目標	1. ポルトガル語の基本的な発音と基礎的な文法事項を学び、基本的な挨拶表現と自己表現ができる 2. 特定の状況におけるポルトガル語が理解できる						
テキスト（教科書）	なし（授業内でプリントを配布する）						
参考書および参考文献	適宜、指示または配布する						
受講条件	この講義は基礎知識の修得が目的のため、第1回目の講義にてレベルを図る小テストを実施する。 その結果により、一定のレベル以上の語学力を有する学生は、履修が許可されない場合がある。						
事前・事後学修（内容・時間）	以下の事前・事後学習は、毎回行うこと。 1. 毎回の授業の復習を行う。（1時間程度） 2. 配布されたプリントなどの予習を行う。（1時間程度） 3. 毎回行う確認テストに向けて、前回の授業内容の確認を行う。（1時間程度） 4. ポルトガル語での自己紹介や挨拶、簡単な会話ができるように、ポルトガル文化に関する書物等に目を通す。（1時間程度）						
成績評価							
期末筆記試験、授業課題への取り組み方、課題の達成度を総合的に評価する。							
評価項目	割合		評価基準				
期末試験	80%		筆記試験にて講義内容についての理解度を評価する。				
授業課題への取り組み方・達成度	20%		課された練習問題に適切に解答できるかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義） ガイダンス、ブラジルはどんな国？ 第2回（講義） ポルトガル語の文字と発音 第3回（講義） 人称代名詞・冠詞 第4回（講義） ser動詞の活用と用法 第5回（講義・演習） 指示詞、所有詞 第6回（講義） 復習 ・ 会話練習 第7回（講義） 数詞および複数形の作り方 第8回（講義・演習） 週・月・曜日 第9回（講義・演習） 時間の表現 ・ 色 第10回（講義・演習） 形容詞 第11回（講義） estar動詞・poder動詞 第12回（講義・演習） 自己紹介テスト・復習 第13回（講義） ブラジルを知ろう！・会話をしましょう 第14回（演習） まとめ ・ 復習 第15回（演習） 振り返り・復習 第16回 試験 ＊質問や疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 ＊期末筆記試験を行います。 ＊受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEFL2016						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	31010		
科目	3101 保育者論			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	この授業では、保育者をその実践及び制度的、政策的、歴史的視点から捉えることにより、専門職としての保育者の社会における位置付けを総合的に理解することを目指す。さらに、それらの知識を踏まえ、各学生が、保育者という職業人としての意識と自らの保育者像を形成していくことを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎					
到達目標	1. 保育者の役割を制度的・実践的側面から捉え、保育職の社会における意義や位置付けを確認することを通して、保育者としての責務を説明できる。 2. 専門職としての保育者に求められる特質を理解し、自らの資質向上のための課題を文章化できる。 3. チームとしての保育者同士の協働並びに保護者や地域、各種機関との連携の重要性を認識し、保育・子育てにおける幅広い協力関係の構築に取り組む。 4. 保育を取り巻く政策や世論に関心を持ち、子どもを中心に据えた保育・子育て環境の充実に向けて主体的に行動する。						
テキスト(教科書)	『保育者論』渡辺桜編(みらい) ISBN978-4-86015-435-6 『幼稚園教育要領』文部科学省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
参考書および参考文献	授業中に適宜資料を配布する。						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業で配布された資料・課題とノートを整理し、読み返す。(第1～15回 2時間程度) 2. 授業内容に該当するテキストの箇所を事前・事後に熟読する。(第1～15回 2時間程度) 3. 保育・保育者に関連する政策動向や社会の出来事などについて新聞や他のメディアを通じて情報を収集する。(第1～15回 1.3時間程度) 4. 定期試験のための復習を行う。(第14～15回/2.6時間程度)						
成績評価							
授業への参加度と授業中の課題(30%)、筆記試験(70%)をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義・演習) 保育者になるということ(ディスカッション)					
	第2回	(講義) 保育者の役割① 子どもに対する役割					
	第3回	(講義) 保育者の役割② 保護者への支援					
	第4回	(講義) 保育者の役割③ 地域における役割					
	第5回	(講義) 保育者になるための学び					
	第6回	(講義) 保育者の専門性① 法的位置付け					
	第7回	(講義・演習) 保育者の専門性② 専門職としての特質(ディスカッション)					
	第8回	(講義) 保育者の資質					
	第9回	(講義・演習) 保育者の倫理(ディスカッション)					
	第10回	(講義) 保育者としての育ち					
	第11回	(講義) 保育者の権利と研修					
	第12回	(講義・演習) チームとしての保育者の協働(ディスカッション)					
	第13回	(講義・演習) チームによる園の管理・運営					
	第14回	(講義) 保育者の歴史と思想					
	第15回	(講義・演習) 保育者を取り巻く課題(ディスカッション)					
	※授業内で実施した課題やレポートについては、内容に応じて、授業内で正解を確認し、あるいは提出後コメントを付けて学生に返却し、その後の学習に活用できるようにする。 さらに、内容によっては、課題・レポート内容の発表を通じて、学生同士が学習成果を共有し、学びを深められるようにする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEAM2008						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	311A0		
科目	311A 社会福祉			授業種別	週間授業		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	社会福祉の意義と目的、利用者ニーズ、社会福祉制度と、その中の保育の位置づけについて学ぶ。特に、社会の課題と社会福祉制度の現状と課題について理解し、相談援助やソーシャルワークを含め、保育の専門職として職務に必要な社会福祉の知識と姿勢を修得する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	△	○			
到達目標	1. 社会福祉の意義と目的、社会福祉制度と社会福祉の歩みについて説明できる。 2. 専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる。 3. 専門職として必要な社会福祉の基本的な知識の活用ができる。						
テキスト(教科書)	『図解で学ぶ保育 社会福祉<第3版>』 明文書林 直島正樹・原田句哉(編著) ISBN: 978-4-89347-392-9 『保育士をめざす人の福祉施設実習[第2版] (新・保育士養成カリキュラム)』愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会 みらい ISBN: 978-4-86015-308-3 上記の他に1年次の「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」等のテキストなどを使用する場合がある。 資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.各回の授業計画に沿って、テキスト等の該当部分を熟読しておくこと。(合計8時間程度) 2.授業で紹介・配布された資料等について再度確認しておくこと。(合計8時間程度) 3.定期試験に向けて試験範囲の復習をしておくこと。(合計6時間程度) 4.社会福祉制度とサービスについての時事的な話題に関心を払い、ニュース、新聞報道内容に注意を向けメモを取るようにしておくこと。(合計6時間程度) 5.授業後の感想文・レポート作成(合計6時間程度)						
成績評価	授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		55%	筆記試験にて理解度を確認する。				
演習、課題、レポート		45%	演習内容、課題提出状況、授業内容の理解度、課題に対する適切な内容や記述、分量となっているかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)社会福祉の理念と概念…基本的人権、社会福祉と保育と養護 (講義)現代社会と社会福祉(1)…少子高齢化・家庭や地域社会の変容 第2回(講義)現代社会と社会福祉(2)…障害者差別・虐待、高齢者虐待、児童虐待、ライフスタイルの変化、貧困と格差問題 第3回(講義)社会福祉の基盤と体系…法律の体系と援助(相談援助・ソーシャルワーク・介護等)の体系 第4回(講義)子どもの貧困等の影響と背景…引きこもり、不登校、いじめ、ヤングケアラー等 (講義)子ども・家庭の福祉(1)…子ども・子育て支援に関する法律 第5回(講義)子ども・家庭の福祉(2)…地域子育て支援や各種手当制度、児童福祉施設・事業と援助の実態、家庭と保護者の支援(外部講師) 第6回(講義・演習)障害児・者の福祉(1)…「しょうがい」の概念と捉え方、障害の具体例と障害児者福祉の法体系(グループ討議) 第7回(講義・演習)障害児・者の福祉(2)…障害福祉・保健医療サービス・年金、障害者の権利擁護、障害児者の援助の実態(グループ討議) 第8回(講義)高齢者の福祉(1)…高齢者の理解(概念と病理と保健)、介護保険法および老人福祉法、その他の制度 第9回(講義)高齢者の福祉(2)…高齢者保健医療福祉サービスと年金、高齢者の介護と権利擁護の実態 第10回(講義・演習)低所得者福祉…生活保護制度、生活困窮者自立支援法と援助の実態(グループ討議) 第11回(講義)地域福祉…地域福祉の実態と街づくり、相談援助体制、地域包括ケア、ソーシャルインクルージョン等の具現化、コミュニティソーシャルワーク、アウトリーチ、ダイバーシティ等 第12回(講義)司法福祉等…更生保護制度、累犯障害者支援、社会復帰支援、若者支援等 第13回(講義・演習)地域社会と社会福祉「子育て支援と若者支援」(外部講師) 第14回(講義)その他の社会保障と社会福祉…年金保険と医療保険、雇用保険、労災保険等 利用者保護に関する仕組み…第三者評価、苦情解決等 第15回(講義・演習)社会福祉の担い手とその条件(現場に求められる人材像)(グループ討議・フィードバック含む) 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEBM1004						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31020		
科目	3102 子ども家庭福祉			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 順子			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	子どもと家庭の理解を基礎に、子ども家庭福祉の理念、歴史的展開や最近の動向、子ども家庭福祉の法体系や実施体制等の理解を深める。また、事例を考察することにより、現実的な子ども家庭福祉に対する考えを深め、卒業後の専門職に向けてのモチベーション、基本的価値観の獲得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○			
到達目標	下記を理解し、説明することができる。 1. 子ども家庭福祉と保育・幼児教育との関連性 2. 児童の権利並びに児童家庭福祉の理念について 3. 子ども家庭福祉の歴史的変遷と現行の児童家庭福祉制度並びに実施体系について 4. 子ども家庭福祉の今日的課題と問題の防止と子ども・家庭へのサポートシステム 5. 子どもの権利とは何か、子どもの権利を保障するための保育者・幼児教育者の社会的使命						
テキスト(教科書)	『ブラクティス 保育・福祉のはじまり 子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4-623-09818-7 『保育士をめざす人の福祉施設実習[第2版] (新・保育士養成カリキュラム)』愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会 みらい ISBN: 978-4-86015-308-3 上記の他に、1年次の「社会福祉」、「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」等のテキストなどを使用する場合がある。 資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、子どもの発達支援、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計15時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。(合計15時間程度) 3. 課題レポートの作成(図書館等での自己学習を含む)(合計15時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成(合計6時間程度) 5. 定期試験に向けて、授業内容を確認する(合計9時間程度)						
成績評価	授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		55%	筆記試験にて理解度を確認する。				
演習、課題、レポート		45%	演習内容、課題提出状況、授業内容の理解度、課題に対する適切な内容や記述、分量となっているかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) 現代社会における児童家庭福祉をめぐる問題 児童家庭福祉の理念と概念 第2回(講義) 児童家庭福祉の歴史的変遷 第3回(講義・演習) 子どもの捉え方と発達、その支援 第4回(講義) 子どもの権利とその擁護 第5回(講義) 児童家庭福祉の法体系・実施体系 第6回(講義) 児童家庭福祉の実施体制 第7回(講義) 少子化対策と子育て家庭への支援 第8回(講義) 母子保健と子どもの健全育成 第9回(講義・演習) 子育てと子育ての違いと保育・幼児教育 第10回(講義・演習) 子どもと暴力、その防止(児童虐待、児童相談、ドメスティック・バイオレンス)(外部講師) 第11回(講義) 保護が必要な子どもの支援(社会的養護・社会的養育の概要、ダイバーシティ社会の実現と外国ルーツの子ども家庭支援) 第12回(講義・演習) 障がいのある子どもと支援 第13回(講義) 子どもの非行、薬物依存、自殺、反社会的行動、暴力の防止と支援 第14回(講義) 子どもの貧困とヤングケアラーそれらの支援、防止 第15回(講義・演習) 諸外国の動向、子どもと家庭の福祉のまとめ、フィードバック 課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEBM2005						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31420		
科目	3142 保育原理			授業種別	週間授業		
担当教員	大矢 龍弥			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	保育・幼児教育に関する基本的な知識、そしてこれからの新しい保育動向を視野におさめつつ学習する。具体的には、保育の意義・歴史・子ども理解・保育内容や方法・環境や遊具など保育実践に必要な理論的な部分を修得し、子どもたちにふさわしい保育者としてのあり方を考えられるようにしていく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○			
到達目標	1. 保育の意義・歴史を理解し、説明できる。 2. わが国の保育制度を説明できる。 3. 多様化する保育ニーズを説明できる。 4. 「子ども」を理解し、適切な保育観を持つ。						
テキスト(教科書)	『保育原理』岡田耕一編 萌文書林 ISBN:978-4-89347-423-0 『保育所保育指針 平成29年告示』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81423-9						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領 平成29年告示』(文部科学省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81422-2 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』 (内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81424-6						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内容の復習を行うこと(第2回～14回:1時間相当) 2. 講義前の予習(教科書の該当箇所を読む)をすること(第2回～14回:1時間相当) 3. 厚生労働省関係・文部科学省関係、内閣府関係の新聞記事(保育について)は必ず読むように努めること(第2回～第14回:0.5時間相当) 4. 第16回定期試験 小テストの復習を行い、試験範囲の総合的復習を行うこと(第14回～15回/2時間)						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで、評価する。 なお、授業態度が不良な場合には、減点の対象とすることがある。							
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート(3回)	30%		課題の内容を適切に述べているかで評価				
定期試験	70%		講義内容に関する理解度で評価				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)	ガイダンス 幼児保育・教育の基本(保育を学ぶ人たちへ)					
	第2回(講義)	保育の基本(子どもの最善の利益とは何か)					
	第3回(講義)	保育における「子ども」理解					
	第4回(講義)	保育の制度と現状1(保育所、幼稚園、こども園について)					
	第5回(講義)	保育の制度と現状2(わが国の保育政策動向)					
	第6回(講義)	保育の制度と現状3(諸外国の保育制度について)					
	第7回(講義)	保育の歴史1(西欧における保育施設の誕生と歴史)					
	第8回(講義)	保育の歴史2(日本における保育施設誕生と発展)					
	第9回(講義)	保育の意義・理念1(養護と教育の一体性等)					
	第10回(講義)	保育の意義・理念2(保育の社会的意義等)					
	保育者の専門性について						
	保育の方法について(個と集団、保育形態と保育方法等について)						
	多様な子どもの保育への対応(安全、事故、危機管理等を含む)						
	多様化する保育ニーズを考える						
	まとめ(保育の現状と課題について、未来の保育者へ託すこと)						
	※小テスト等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある						
ナンバリング	PEAM1001						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	31030		
科目	3103 社会的養護Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	子ども家庭福祉について「社会的養護・養育」という機能に着目して理解することを目的とする。特に、社会的養護・養育の体系、それを提供するサービスの概略、援助者の倫理等について教授する。また、現場の児童福祉施設における保育者の役割について具体的に学び、専門職としての知識の修得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○		○			
到達目標	1. 現代社会における社会的養護・養育の意義と歴史的変遷を理解し説明できる。 2. 社会的養護・養育と児童福祉の関連性についての知識を身につける。 3. 社会的養護・養育の制度や実施体系を理解し説明できる。 4. 社会的養護・養育における子どもの人権擁護を理解し、自立支援に役立てることができる。 5. 社会的養護・養育の現状と課題を理解し、対応できる力を身につける。 6. 上記の学びを踏まえ、施設実習に向けての心構えや留意点を習得する。						
テキスト(教科書)	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ<第2版>』原田旬哉・杉山宗尚編著 明文書林 ISBN:978-4-89347-411-7 『保育士をめざす人の福祉施設実習[第2版] (新・保育士養成カリキュラム)』愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会 みらい ISBN:978-4-86015-308-3 広報誌・実習支援誌『朋』 愛知県児童福祉施設長会 上記の他に資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、社会的養護・養育、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計15時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。(合計15時間程度) 3. 課題レポートの作成(図書館等での自己学習を含む)(合計15時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成(合計6時間程度) 5. 定期試験に向けて、授業内容を確認する(合計9時間程度)						
成績評価							
授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。							
評価項目	割合		評価基準				
演習、課題、レポート	45%		演習内容、課題の提出状況、授業内容の理解度、課題に対する適切な内容や記述、分量となっているかを評価する。				
定期試験	55%		筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 第1回(講義)社会的養護の基礎と概念(社会と人間の理解) 第2回(講義)社会的養護の理念と歴史的変遷 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護 第3回(講義)児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 第4回(講義)児童の権利擁護・倫理と社会的養護 3. 社会的養護の制度と実施体系 第5回(講義)社会的養護の制度と法体系 第6回(講義)社会的養護の仕組みと実施体系 第7回(講義)家庭養護と家庭的養護(里親制度について)(外部講師) 第8回(講義・演習)児童虐待とトラウマの理解 4. 施設養護の体系 第9回(講義)施設養護の基本原理 第10回(講義・演習)施設養護の実態―入所児支援、日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援、アフターケア等 第11回(講義・演習)施設養護とソーシャルワーク 5. 社会的養護の現状と課題 第12回(講義)施設等の運営管理 第13回(講義)社会的養育ビジョンの方向性について 第14回(講義)被措置児童等の虐待防止 第15回(講義・演習)児童福祉施設における実習の心構え(外部講師)						
	課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEBM1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31040		
科目	3104 社会的養護Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	社会的養護Ⅰの内容を踏まえ、実践に求められる『生活』の理解、子どもへの関わり方を学ぶ。養護の対象の子どもを理解し、子どもの成長発達を保障し、その困難を共に乗り越え、支えるための援助をするために必要な知識や技能を修得し、子ども観や養護観を養う。さらに演習などを通して、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営のための技術、態度を身につける。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 社会的養護の基礎的な内容について理解し、具体的に説明できる。 2. 施設養護、家庭的養護、家庭養護の実践について理解し、具体的に説明できる。 3. 個別指導計画、自立支援計画等の計画、実践、評価について理解し、作成することができる。 4. 社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について学習し、具体的に説明できる。 5. 上記を踏まえ、施設実習に向けて、具体的な心構え、援助の留意点を習得する。						
テキスト(教科書)	『みらいX子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ<第2版>』喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編著 みらい ISBN: 978-4-86015-467-7 広報誌・実習支援誌『朋』 愛知県児童福祉施設長会 上記の他に、1年次の「社会福祉」、「社会的養護Ⅰ」等のテキストなどを使用する場合がある。 資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、社会的養護・養育、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計8時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。特に、各回講義に係る「社会的養護Ⅰ」の内容を予習し、理解しておくこと。(合計8時間程度) 3. 課題レポートの作成。(図書館等での自己学習、視聴覚教材による事例演習を含む)(合計8時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成。(合計4時間程度) 5. 定期試験に向けて、授業内容を確認する。(合計4時間程度)						
成績評価							
授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。							
評価項目	割合	評価基準					
演習、課題、レポート	45%	演習内容、課題の提出状況、授業内容の理解度、課題に対する適切な内容や記述、分量となっているかを評価する。					
定期試験	55%	筆記試験で理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) オリエンテーション、社会的養護施設について					
	第2回	(講義) 社会的養護の基本理念					
	第3回	(講義) 施設養護と家庭養護					
	第4回	(講義) 施設養護の現状と課題					
	第5回	(講義・演習) 被虐待児への支援など援助の実際(外部講師)					
	第6回	(講義) 児童養護施設等で多く見られる愛着障害と発達障害と情緒障害の関係					
	第7回	(講義) 重い障害がある子どもへの社会的養護					
	第8回	(講義) 施設における人権擁護					
	第9回	(講義) 社会的養護の専門職・専門職としての倫理・チームワーク					
	第10回	(講義) 施設養護におけるケースワーク・グループワーク					
	第11回	(講義・演習) 施設養護における治療的支援					
	第12回	(講義・演習) 施設退所支援と自立支援					
	第13回	(講義) 被措置児童等の世代間連鎖の防止					
	第14回	(講義・演習) 自立支援計画等記録の作成					
	第15回	(講義) 社会的養護と地域の子育て支援					
		課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。					
ナンバリング	PEBM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31041		
科目	3104 社会的養護Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	社会的養護Ⅰの内容を踏まえ、実践に求められる『生活』の理解、子どもへの関わり方を学ぶ。養護の対象の子どもを理解し、子どもの成長発達を保障し、その困難を共に乗り越え、支えるための援助をするために必要な知識や技能を修得し、子ども観や養護観を養う。さらに演習などを通して、コミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術と、ネットワーク運営のための技術、態度を身につける。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 社会的養護の基礎的な内容について理解し、具体的に説明できる。 2. 施設養護、家庭的養護、家庭養護の実践について理解し、具体的に説明できる。 3. 個別指導計画、自立支援計画等の計画、実践、評価について理解し、作成することができる。 4. 社会的養護における子どもの虐待防止と家庭支援について学習し、具体的に説明できる。 5. 上記を踏まえ、施設実習に向けて、具体的な心構え、援助の留意点を習得する。						
テキスト(教科書)	『みらいX子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ<第2版>』喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編著 みらい ISBN: 978-4-86015-467-7 広報誌・実習支援誌『朋』 愛知県児童福祉施設長会 上記の他に、1年次の「社会福祉」、「社会的養護Ⅰ」等のテキストなどを使用する場合がある。 資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回、社会的養護・養育、子ども家庭福祉関連の報道や新聞等の記事に注意を払い読むようにする。(合計8時間程度) 2. 各回の授業計画に沿って予習・復習をする。特に、各回講義に係る「社会的養護Ⅰ」の内容を予習し、理解しておくこと。(合計8時間程度) 3. 課題レポートの作成。(図書館等での自己学習、視聴覚教材による事例演習を含む)(合計8時間程度) 4. 授業のまとめレポートの作成。(合計4時間程度) 5. 定期試験に向けて、授業内容を確認する。(合計4時間程度)						
成績評価							
授業内で適宜レポート、感想文等の提出を求める。筆記試験を実施し、評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。							
評価項目	割合	評価基準					
演習、課題、レポート	45%	演習内容、課題の提出状況、授業内容の理解度、課題に対する適切な内容や記述、分量となっているかを評価する。					
定期試験	55%	筆記試験で理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) オリエンテーション、社会的養護施設について					
	第2回	(講義) 社会的養護の基本理念					
	第3回	(講義) 施設養護と家庭養護					
	第4回	(講義) 施設養護の現状と課題					
	第5回	(講義・演習) 被虐待児への支援など援助の実際(外部講師)					
	第6回	(講義) 児童養護施設等で多く見られる愛着障害と発達障害と情緒障害の関係					
	第7回	(講義) 重い障害がある子どもへの社会的養護					
	第8回	(講義) 施設における人権擁護					
	第9回	(講義) 社会的養護の専門職・専門職としての倫理・チームワーク					
	第10回	(講義) 施設養護におけるケースワーク・グループワーク					
	第11回	(講義・演習) 施設養護における治療的支援					
	第12回	(講義・演習) 施設退所支援と自立支援					
	第13回	(講義) 被措置児童等の世代間連鎖の防止					
	第14回	(講義・演習) 自立支援計画等記録の作成					
	第15回	(講義) 社会的養護と地域の子育て支援					
		課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。					
ナンバリング	PEBM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		31810		
科目	3181 教育原理			授業種別		週間授業		
担当教員	大矢 龍弥			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	「教育」とは一体何であるのか。受講生はこれまで、家庭・学校・社会と様々な場面で教育を受けた経験があるはずである。その経験を活かし、その関連性や、歴史的背景、近代教育制度の成立、そして代表的な幼児教育思想家の教育思想を概観する。その中で、1年生の保育所・幼稚園実習での経験を礎にしながら、本講義では受動的な形ではなく、積極的に「教育」について考える力、発表する力を養う。地域との連携、幼稚園等の安全管理、指導を含めた、今日の幼児教育が抱える課題等についても言及する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○				
到達目標	1. 代表的な幼児教育思想を概観できる。 2. その思想の理解を踏まえたうえで、健全な幼児教育観を涵養する力をつける。 3. 現代の幼児教育の課題を見つめる視点を持つことができる。(地域連携、安全管理・指導を含む)							
テキスト(教科書)	『教育原理』児童育成協会監修(中央法規) ISBN: 978-4-8058-5782-3 『幼稚園教育要領 平成29年告示』(文部科学省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81422-2 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』 (内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81424-6 『保育所保育指針 平成29年告示』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81423-9							
参考書および参考文献	適宜指示する。							
受講条件	(幼・保) 必修							
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容 1. 講義後には重要キーワードを復習しておくこと(第2～14回/1時間程度) 2. 講義前には必ず講義予定分の(教科書の)箇所を読んでおくこと(第2回～14回/0.75時間程度) 3. 毎回行う小テストに関して必ず復習をしておくこと(第2回～14回/0.75時間程度) 4. 第16回定期試験 小テストの復習を行い、試験範囲の総合的復習を行うこと(第14回～15回/2時間)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、受講態度が不良の場合には減点ことがある。								
評価項目	割合	評価基準						
小テスト	5%	教育原理でよく出題される問題を解き、その正答率で評価する。						
課題レポート	10%	DVDで観た教育学者に関するレポートを作成する。記述の適切さで評価する。						
発表(プレゼンテーション)	15%	教科書担当力所の発表を行い、適切な発表内容であるかで評価する。						
定期テスト	70%	筆記試験で、授業の理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 教育とは何か(教育の本質について) 第2回(講義) あなたが「先生」とよばれるとき(教育の成り立たせる要素は何か) 第3回(講義) 教育(保育)を実践する者になるには?(幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の理解) 第4回(講義) 子どもへの理解1(生活と発達) 第5回(講義) 子どもへの理解2(環境としての家庭、子どもの権利等) 第6回(講義) 教育の意義と目的1(教育とは何か) 第7回(講義) 教育の意義と目的2(教育の目的と変遷) 第8回(講義) 教育の歴史1(子ども観の変遷)、DVD「フレーベルの教育」 第9回(講義) 教育の歴史2(教育思想の展開)、DVD「モンテッソーリ教育」 第10回(講義) 教育の歴史3(我が国での幼児教育の展開)、DVD「シュタイナー教育」 第11回(講義) 教育の制度(教育制度の仕組み、各国の就学前教育)、DVD「オランダの幼児教育」 第12回(講義) 教育が抱える現代的課題(生涯学習社会の抱える問題等) 第13回(講義) 幼児教育の課題と未来1(少子化問題等) 第14回(講義) 幼児教育の課題と未来2(地域連携、保育の安全管理、指導を含む) 第15回(講義) まとめに代えて～教育原理的知見から、現代の幼児教育を考える ※小テスト等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある							
ナンバリング	PEAM2010							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		31811		
科目	3181 教育原理			授業種別		週間授業		
担当教員	大矢 龍弥			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	「教育」とは一体何であるのか。受講生はこれまで、家庭・学校・社会と様々な場面で教育を受けた経験があるはずである。その経験を活かし、その関連性や、歴史的背景、近代教育制度の成立、そして代表的な幼児教育思想家の教育思想を概観する。その中で、1年生の保育所・幼稚園実習での経験を礎にしながら、本講義では受動的な形ではなく、積極的に「教育」について考える力、発表する力を養う。地域との連携、幼稚園等の安全管理、指導を含めた、今日の幼児教育が抱える課題等についても言及する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○				
到達目標	1. 代表的な幼児教育思想を概観できる。 2. その思想の理解を踏まえたうえで、健全な幼児教育観を涵養する力をつける。 3. 現代の幼児教育の課題を見つける視点を持つことができる。(地域連携、安全管理・指導を含む)							
テキスト(教科書)	『教育原理』児童育成協会監修(中央法規) ISBN: 978-4-8058-5782-3 『幼稚園教育要領 平成29年告示』(文部科学省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81422-2 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81424-6 『保育所保育指針 平成29年告示』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81423-9							
参考書および参考文献	適宜指示する。							
受講条件	(幼・保) 必修							
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容 1. 講義後には重要キーワードを復習しておくこと(第2～14回/1時間程度) 2. 講義前には必ず講義予定分の(教科書の)箇所を読んでおくこと(第2回～14回/0.75時間程度) 3. 毎回行う小テストに関して必ず復習をしておくこと(第2回～14回/0.75時間程度) 4. 第16回定期試験 小テストの復習を行い、試験範囲の総合的復習を行うこと(第14回～15回/2時間)							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、受講態度が不良の場合には減点ことがある。							
評価項目		割合	評価基準					
小テスト		5%	教育原理でよく出題される問題を解き、その正答率で評価する。					
課題レポート		10%	DVDで観た教育学者に関するレポートを作成する。記述の適切さで評価する。					
発表(プレゼンテーション)		15%	教科書担当力所の発表を行い、適切な発表内容であるかで評価する。					
定期テスト		70%	筆記試験で、授業の理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 教育とは何か(教育の本質について) 第2回(講義) あなたが「先生」とよばれるとき(教育の成り立たせる要素は何か) 第3回(講義) 教育(保育)を実践する者になるには?(幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の理解) 第4回(講義) 子どもへの理解1(生活と発達) 第5回(講義) 子どもへの理解2(環境としての家庭、子どもの権利等) 第6回(講義) 教育の意義と目的1(教育とは何か) 第7回(講義) 教育の意義と目的2(教育の目的と変遷) 第8回(講義) 教育の歴史1(子ども観の変遷)、DVD「フレーベルの教育」 第9回(講義) 教育の歴史2(教育思想の展開)、DVD「モンテッソーリ教育」 第10回(講義) 教育の歴史3(我が国での幼児教育の展開)、DVD「シュタイナー教育」 第11回(講義) 教育の制度(教育制度の仕組み、各国の就学前教育)、DVD「オランダの幼児教育」 第12回(講義) 教育が抱える現代的課題(生涯学習社会の抱える問題等) 第13回(講義) 幼児教育の課題と未来1(少子化問題等) 第14回(講義) 幼児教育の課題と未来2(地域連携、保育の安全管理、指導を含む) 第15回(講義) まとめに代えて～教育原理的知見から、現代の幼児教育を考える ※小テスト等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを適宜行う ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある							
ナンバリング	PEAM2010							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	32120		
科目	3212 子どもの心理学			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 知佳子			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	保育実践に必要な心理学の知識を習得する。基本的な子どもの発達過程を学ぶとともに、子どもの発達に必要な社会的・物理的環境、初期経験の重要性、生涯発達などについて学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎			○			
到達目標	1. 子どもの認知・感情・社会性の発達の概略を理解している。 2. 子どもの発達とその支援を生涯発達の視点から考えられる。 3. 上記の基礎的な理解を具体的な保育実践と関連づけることができる。						
テキスト(教科書)	『保育の心理学 第3版』相良順子他著(ナカニシヤ出版) ISBN: 9784779512827						
参考書および参考文献	随時、紹介する。						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(第1~15回/2時間) 2. 授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(第1~15回/2時間) 3. 学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。(第15回)						
成績評価							
授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。							
評価項目		割合	評価基準				
ミニレポートあるいは小テスト		30%	講義内容の理解度あるいは課題への取り組みを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験によって、最終的な講義内容の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) なぜ発達を学ぶのか					
	第2回	(講義) 発達にかかわる要因					
	第3回	(講義) 運動の発達					
	第4回	(講義) 知覚の発達					
	第5回	(講義・演習) 認知の発達(Think-Pair-Share)					
	第6回	(講義・演習) 感情の発達(Think-Pair-Share)					
	第7回	(講義) ことばの発達					
	第8回	(講義) 人とかかわりと発達: 愛着と基本的信頼感の獲得(Think-Pair-Share)					
	第9回	(講義・演習) 友達関係と遊びの発達(Think-Pair-Share)					
	第10回	(講義・演習) 記憶の発達(Think-Pair-Share)					
	第11回	(講義・演習) 学びのしくみ(Think-Pair-Share)					
	第12回	(講義・演習) やる気と環境(Think-Pair-Share)					
	第13回	(講義) 発達段階と発達課題					
	第14回	(講義) 乳幼児期以降の発達					
	第15回	(講義・演習) 発達援助と評価(Think-Pair-Share)					
	※ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 ※各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroomの機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PECM1003						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31050		
科目	3105 子ども家庭支援の心理学			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 知佳子			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	子育て家庭への支援に関して総合的な力を養うために、生涯発達に関する心理学の基礎知識をふまえて、家族・家庭の意義・機能について理解し、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題について視野に入れつつ、配慮・対応を要する子どもの精神保健とその課題について学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 生涯発達と初期経験の重要性について説明できる。 2. 子どもの精神保健に関わる問題について列挙できる。 3. 家庭の意義と機能や子育て家庭を取り巻く社会状況について説明できる。						
テキスト(教科書)	『スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学』杉崎雅子著(萌文書林) ISBN: 9784893473684						
参考書および参考文献	随時、紹介する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(第1~15回/2時間) 2. 授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(第1~15回/2時間) 3. 学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。(第15回)						
成績評価							
授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。							
評価項目		割合	評価基準				
ミニレポートあるいは小テスト		30%	講義内容の理解度あるいは課題への取り組みを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験によって、最終的な講義内容の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) ガイダンス：子育て家庭支援とは					
	第2回	(講義) 乳幼児期の発達					
	第3回	(講義) 児童期の発達					
	第4回	(講義) 青年期・成人期・高齢期の発達					
	第5回	(講義) 家族・家庭の意義と機能					
	第6回	(講義) 親子関係・家族関係の理解					
	第7回	(講義・演習) 子育てを取り巻く社会的状況(Think-Pair-Share)					
	第8回	(講義・演習) ライフコースと仕事・子育て(Think-Pair-Share)					
	第9回	(講義・演習) 多様な家族の現状(Think-Pair-Share)					
	第10回	(講義) 配慮を要する家庭①：保護者の疾患や障害					
	第11回	(講義) 配慮を要する家庭②：虐待					
	第12回	(講義) 子どものストレス					
	第13回	(講義・演習) 睡眠、食事、排泄に関わる症状(Think-Pair-Share)					
	第14回	(講義) 子どもに見られるその他の症状					
	第15回	(講義) 発達障害					
		※ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。 ※各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroomの機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。					
ナンバリング	PECM2005						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31060		
科目	3106 子どもの理解と援助			授業種別	週間授業		
担当教員	齋藤 善郎			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもの発達についての理解を深め、保育実践の中でどのように生かしていくかを学ぶ。また、保育場面の具体的な事例をもとに、そこでの子どもの育ちの姿や子どもの心理について学び、保育での対応の仕方について考える。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1. 子どもの発達について理解し、説明できる。 2. 実際の保育場面で出会うであろう子どもの姿を理解し、説明できる。 3. 子どもの心理を踏まえて対応する力が育ち、保育で実践できる。 4. 最近の保育観を理解し、保育で役立つ知識を得、実践できる。 5. 最近の子どもの心身の発達の実情を知り、その原因に対応する力を養い保育で実践できる。						
テキスト(教科書)	テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。						
参考書および参考文献	「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館 ISBN 978-4-577-81448-2 「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ISBN 978-4-577-81449-9						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	・ 次回の授業内容を伝えるので、幼児の発達の姿を「保育実習」「教育実習」の経験から、具体的なイメージをもち、授業に出席できるように予習すること。(第2回～15回/1時間程度) ・ 毎回小テストを実施し、次回の授業時に返却する。返却されたテストを用いて、復習をすること。(第1回～14回/1時間程度)						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とすることがあります。 ①小テスト 70% ②課題レポート 30%							
評価項目	割合		評価基準				
小テスト	70%		講義内容の理解度を確認する				
課題レポート	30%		課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義)発達の概要と保育の方法					
	第2回	(講義)最近の保育観					
	第3回	(講義)子どもの発達と心の育ち					
	第4回	(講義)子どもの発達(身体活動の発達、情緒の発達)					
	第5回	(講義)子どもの発達(思考の発達)					
	第6回	(講義)子どもの発達(人間関係の発達)					
	第7回	(講義)子どもの発達(社会性の発達)					
	第8回	(講義)子どもの発達(言葉の発達)					
	第9回	(講義)子どもの行動と心理(3才児の姿と保育)					
	第10回	(講義)子どもの行動と心理(内発的動機づけとモチベーション)					
	第11回	(講義)子どもを見る目と教育評価					
	第12回	(講義)発達の連続性と個人差					
	第13回	(講義)保育カンファレンス(子どもの心理を考える)					
	第14回	(講義)保育カンファレンス(子どもの言葉から考える)					
	第15回	(講義)最近の子どもの気になる姿とその原因					
※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※授業ごとに配布するプリントに授業で学んだことを記載すること。毎回、小テストを実施し、採点をして次回授業で返却する。授業の理解が十分でなかった内容については再度授業で取り上げ理解を深める。返却された小テストと記載したプリントを用いて復習することを求める。							
ナンバリング	PECM2006						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	31070			
科目	3107 子どもの保健Ⅰ			授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 佐和子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	子どもの生命の保持、健康の増進を図ることの意味を認識させ、教育実践・保育実践における保健活動の重要性についての認識を深められる内容とする。また、総論的な視点から、子どもの発育・発達について解説し、疾病の予防および適切な対応について学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○		○				
到達目標	1. 一人ひとりの子どもの成長発達をふまえ「健康」「保健」の意義について学び、説明することができる。 2. 子どもの標準的な発育・発達について理解したうえで、具体的な尺度を用いて説明することができる。 3. 疾病の予防について理解し、疾病の適切な対処方法がわかる。							
テキスト（教科書）	『子どもの保健』鈴木美枝子編著（創成社）ISBN 978-4-7944-8108-5							
参考書および参考文献	適宜授業内で紹介する。							
受講条件	（保）必修							
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎授業前に講義テーマに該当する教科書の内容を読んでおくこと（第1～15回/0.5時間程度） 2. 授業後、小テストの振り返り、講義内容を再確認すること（第1～15回/0.5時間程度） 3. 演習レポートを作成すること（2時間程度） 4. 定期試験に向けて小テストを確認し、試験範囲の復習を行うこと（第15回/3時間）							
成績評価								
授業の到達目標がどの程度達成できているかで総合評価する。 なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目			割合	評価基準				
小テスト			10%	小テストにて講義内容の理解度を確認する。				
演習レポート			30%	課題に対する適切な内容・記述になっているか、指定した形式で作成されているかを評価する。				
定期試験			60%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）ガイダンス 保育における保健の意義と目的							
	第2回（講義）子どもの健康概念と指標							
	第3回（講義）発育発達の基本原則							
	第4回（講義）身体発育と運動機能の発達							
	第5回（講義）精神機能の発達と生理機能の発達							
	第6回（講義）子どもの発育発達と健康診断							
	第7回（講義・演習）子どもの健康状態の把握 プレゼン準備（グループワーク）							
	第8回（講義）体調のよくない子どもへの対応（発熱、下痢、便秘、嘔吐）							
	第9回（講義）子どものかかりやすい感染症							
	第10回（講義）感染症の予防と対応							
	第11回（講義）その他の子どもの病気							
	第12回（講義）アレルギー性疾患の特徴と対応							
	第13回（演習）子どもの保健のまとめ（プレゼンテーション①）							
	第14回（演習）子どもの保健のまとめ（プレゼンテーション②）							
	第15回（講義）保育における保健、まとめ							
※ただし、受講学生の習熟度により受講計画を変更することもある。 ※演習内容に関する課題レポートは確認後速やかに返却し、講義内で学びや気づきを共有する。 ※小テストは採点后速やかに返却し、講義内で解説を行う。								
ナンバリング	PECM1002							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31080		
科目	3108 子どもの健康と安全			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 佐和子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	「子どもの保健」で習得した知識を演習等でより具体的に学び、保育者として実践的な技術を身につける。健康状態・異常の早期発見・疾病の予防・看護・応急処置・安全管理について学ぶ。演習では、グループで各自が実践し、観察者、チェック者など役割分担し準備や片付けを行う。演習内容は、養護技術と応急処置に重点を置く。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○			
到達目標	1. 子どもの成長発達に見合った養護技術を身につけ、発達援助が模擬的にできる。 2. 子どもの疾病及び、予防、事故への適切な対応ができる。						
テキスト(教科書)	『子どもの健康と安全』鈴木美枝子〔編著〕創成社ISBN978-4-7944-8103-0						
参考書および参考文献	『子どもの保健』 テキストでは不足と思われる内容については授業で資料として配布する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に講義テーマに該当する教科書の内容を読んでおくこと(第1～15回/0.5時間程度) 2. 授業後、小テストの振り返り、講義内容を再確認すること(第1～15回/0.5時間程度) 3. 演習レポートを作成すること(2時間程度) 4. 定期試験に向けて小テストを確認し、試験範囲の復習を行うこと(3時間)						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで総合評価する。 なお、劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。						
評価項目			割合	評価基準			
小テスト			10%	小テストにて講義内容の理解度を確認する。			
演習レポート			30%	課題に対する適切な内容・記述になっているか、指定した形式で作成されているかを評価する。			
定期試験			60%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。			
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) オリエンテーション					
	第2回	(講義) 子どもの健康観察と健康管理(健康状態を把握するポイント)					
	第3回	(演習) 子どもの健康観察と健康管理(バイタルサイン測定・健康診断)(実技)					
	第4回	(講義・演習) 子どもの発育・発達の観察と評価(体重・身長・頭囲・胸囲など)(実技)					
	第5回	(講義) 子どもの発育・発達の観察と評価(発育の評価)					
	第6回	(講義・グループワーク) 子どもに多いけがと対応・プレゼン準備					
	第7回	(講義) 子どもの体調不良などへの対応(冷電法・嘔吐時の対応など)					
	第8回	(講義・演習) 保育における応急処置(誤飲・止血法・熱傷・心肺蘇生法など)(実技)					
	第9回	(講義) 子どもの生活習慣への援助と教育(抱っこ・おんぶ・おむつ交換)					
	第10回	(講義・演習) 子どもの養護と教育(調乳・授乳・離乳食)(実技)					
	第11回	(講義・演習) 子どもの養護と教育(手洗い・うがい・歯磨き・爪切りなど)(実技)					
	第12回	(講義・演習) 子どもの養護と教育(沐浴・衣服)(実技)					
	第13回	(講義・プレゼンテーション①) 感染症、保育環境と安全対策					
	第14回	(講義・プレゼンテーション②) 感染症、保育環境と安全対策					
	第15回	(講義) 地域との連携・子どもたちのためにできること・まとめ					
	※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※演習内容に関する課題レポートは確認後速やかに返却し、講義内で学びや気づきを共有する。 ※小テストは採点後速やかに返却し、講義内で解説を行う。						
ナンバリング	PECM2007						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期			授業コード	32160		
科目	3216 子どもの食と栄養			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	武田 康代			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	保育の現場で活かせる、子どもの発育・発達と食生活についての関連を知り、基本的知識（栄養、栄養素バランス）を修得する。健康な生活の基本としての食生活の意義や、食育のための環境について明らかにする。調乳実習、離乳食実習、食物アレルギー代替食実習を通して、『子どもの食と栄養』を支援する保育者の役割について知り、説明できるようになることを目的とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な内容を説明できる。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。 3. 養護および教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について工夫することができる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状課題について説明できる。 5. 特別な配慮を要する子ども（食物アレルギーに対応した食事を含む）の食と栄養について工夫することができる。						
テキスト（教科書）	『子どもの食と栄養』（羊土社）大田小百合・塚ちはる 編著 ISBN：978-4-7581-1380-9						
参考書および参考文献	『発育期の子どもの食生活と栄養』菅原 園 他（学建書院） ISBN：978-4-7624-2877-7 『子どもの食と栄養』峯木 眞智子 他編著（株）みらい ISBN：9784860153489 『子どもの食と栄養』児玉浩子 他 中山書店 ISBN：978-4-521-73963-2 『食物アレルギーの基礎と対応』宇理須厚雄（株）みらい ISBN：978-4860152406 授業においては、より理解を深めることに役立つ動画や画像等のインターネットコンテンツを紹介する。授業時間外においても積極的に自主学習に取り組むこと。						
受講条件	（保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	初回ガイダンスに、「食育演習ノート」秋学期ガイダンスに「調理演習ノート」を配付する。 1.各自「食」に対する問題意識を持ち、予めテキストを熟読して内容を把握し、食育演習ノートの設問に記入すること。（第2～30回/0.5時間程度） 2.毎授業後に授業で得た学びについて、各章の演習課題を作成すること。（第2～30回/0.5時間程度） 3.子どもたちの食生活や食の安全性について常に関心をもち整理・復習すること。（第2～30回/0.5時間程度） 4.テキストの各章にある「食の支援を保育現場から」を読み感想を記入すること。 （第2～30回/のうち12章分0.2時間程度） 5.「弁当の日」、「20分で朝ごはん」家庭での調理体験を実施する。当日、自宅で調理しワークシートを制作し、PDCAサイクルに基づきレポートにまとめる（3時間×2） 6.小テストの復習を行い、定期試験範囲の復習を行うこと（第29～30/3時間×2）						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。調理実習は、レシピに沿って他者とコミュニケーションをとることができ、協働できること。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は、減点の対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
食育演習ノート		20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。テキストの各章にある「演習課題」の目的、進め方(方法)を熟読し、食育演習ノートの指定ページに記入する。提出は、15回目と28回目の講義後とする。考察ワークシートを採点し返却する。				
調理実習ノート		20%	調理実習を通して修得した内容について、適切に記述しているかを評価する。調理実習ノートの指定ページに、調理上の注意点・試食の感想を記入。				
小テスト 食育媒体（食育だより・お菓子のやくもくカード）		20%	演習内容の理解度を確認する。各章終了後に、小テストを配布し講義時間内に、模範解答を提示する。				
定期試験		40%	筆記試験にて理解度を確認する。（基礎問題小テストと同様の問題60%、記述式応用問題40%）				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回(講義) ガイダンス 子ども健康と食生活の意義 第 2 回(講義) 子どもの発育・発達と食育の重要性 第 3 回(講義) 栄養に関する基本的知識 栄養とは何か 第 4 回(講義) 栄養に関する基本的知識 栄養素の消化・吸収 第 5 回(講義) 栄養に関する基本的知識 栄養素の種類とはたらき 第 6 回(講義) 栄養に関する制度 第 7 回(講義) 妊娠期と授乳期の食生活 第 8 回(講義) 食物アレルギーのある子どもへの対応 第 9 回(講義) 子どもの発育・発達と食生活 授乳・離乳の意義 第10 回(演習) 調理実習室の使い方 調理の基本 食育プログラム クッキング保育 第11 回(演習) 調理実習 安全な調乳 冷凍母乳への理解 第12 回(演習) 食育プログラム 市販のお菓子と栄養成分 第13 回(演習) 調理実習 食育の基本と内容 離乳食の作り方 第14 回(講義) 咀嚼機能の目安について DVD視聴 食育演習ノートのまとめ 第15 回(講義) 春学期のまとめと小テスト 第16 回(講義) 幼児期の発育・発達と食生活 味覚のしつけは乳幼児期から 第17 回(講義) 学童期・思春期の発育・発達と食生活 第18 回(講義) 食育の基本と内容 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第19 回(演習) 調理実習 学童期の食生活（学校給食再現） 第20 回(演習) 調理実習 食育プログラム 五感でクッキング 味嗅・窒息予防 第21 回(演習) 食育の基本と内容 食育だよりの作成 第22 回(演習) 調理実習 食物アレルギーのある子どもへの対応 第23 回(演習) 調理実習 緊急時対応食 カレーライス パッククッキング 第24 回(演習) 環境整備 衛生管理 不足しがちな栄養素を補える間食 第25 回(講義) 5歳児のお弁当作り 献立立案（計画・PLAN）自宅で調理 第26 回(講義) 子どもの発育・発達と食生活 生涯発達と食生活 第27 回(講義) 食育の内容及計画および評価 グループワーク 第28 回(講義) 食育計画案制作 食育プログラム プレゼンテーション 第29 回(講義) 食育の基本と内容 展開方法 PDCAサイクルの理解 第30 回(講義) 子どもの食と栄養まとめ ※小テスト、課題については、授業内で返却し解説を行う。 ※ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもある。						
ナンバリング	PECM2008						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期		授業コード		31090		
科目	3109 子ども家庭支援論		授業種別		週間授業		
担当教員	中島 美奈子		単位数		2		
その他担当者							
授業概要	現代の社会では、様々な環境におかれた子育て家庭へのきめ細やかな支援が大変重要となっている。本授業では、保護者や子どもに対する支援のあり方について理解を深めるとともに、様々な制度に基づき子育て支援を実践している保育現場の取り組みの現状、専門機関との連携について学ぶ。また、保育者として実際に様々な相談の内容や支援方法について触れ、家庭支援に必要な知識と実践技術を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する保育教諭の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎		△	○			
到達目標	1. 家庭の意義及び子育て家庭を取り巻く社会的状況についての基礎的なことを修得する 2. 家庭支援に係る専門機関について把握し、連携のための保育者としての姿勢を身につける 3. 家庭支援の多様性と支援の実践について理解を深め、地域家庭親子ひろばにて実際に交流を図る						
テキスト(教科書)	『子育て支援－15のストーリーで学ぶワークブック』二宮祐子 著 (株) 萌文書林 ISBN: 978-4-89347-284-7						
参考書および参考文献	『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN: 978-4-577-81424-6						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと (第2～11回/0.5時間程度) 2. 授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること (第2～11回/1時間程度) 3. 授業内に指示する内容に沿って作品制作をして授業に活かすこと (第12回/3時間程度) 4. 定期試験に向けて試験範囲の復習を行うこと (第14～15回/2時間)						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
課題レポート		50%	課題に対して適切な内容・記述となっているかを評価する				
課題作品		25%	課題に対して適切な作品となっているかを評価する				
小テスト		5%	講義内容の理解度を確認する				
定期試験		20%	筆記試験にて理解度を確認する				
授業の実施方法と授業計画	第 1回 (講義)現代の子育て家庭の状況と子育て支援が求められる社会的背景 第 2回 (講義) 子育て支援の制度的基盤 第 3回 (講義) 子育て支援において保育所・認定こども園などが果たす役割 第 4回 (講義) 子育て支援の基本的価値・倫理 (子どもの最善の利益の尊重・秘密保持等) 第 5回 (講義) 保育者に求められる基本的姿勢 (受容的関わり・自己決定の尊重等) 第 6回 (講義) 保育所・認定こども園などにおける子育て支援の基本的技術 第 7回 (講義) 保育所・認定こども園などにおける子育て支援の実践①日常生活・文書 第 8回 (講義) 保育所・認定こども園などにおける子育て支援の実践②環境・行事など 第 9回 (講義) 育てにくさや障害を持つ子どもの子育てを支援する保育者の姿勢 第10回 (講義) 特別なニーズを持つ家族と支援のあり方 第11回 (講義) 地域の子育て家庭への支援の視点と保育者の役割 第12回 (演習) 保育所における子育て支援活動の見学①(フィールドワーク) 親子ひろばの実践に向けての保育者の姿勢及び事例 第13回 (演習) 保育所における子育て支援活動の見学②(フィールドワーク) 親子ひろばの見学及び参加実践 第14回 (講義) 園内・園外との連携と子育て支援に関する社会資源 第15回 (講義) 保育者の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 ※課題レポート及びテスト等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを行い、必要に応じて個別にコメントを記入したレポート用紙を返却することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEBM2006						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	31100		
科目	3110 カリキュラム論			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	この授業では、保育の計画とカリキュラム・マネジメントの意義について理解し、その内容と手法を理論的、実践的に捉えることを目標とする。具体的な内容としては、カリキュラムの基礎理論を幼稚園教育要領及び保育所保育指針との関連において理解した上で、教育課程・全体的な計画の編成及び指導計画の作成並びに実践後の評価について学ぶ。さらに、多様な種類のカリキュラムについても理解を深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎					
到達目標	1. 保育の計画とカリキュラム・マネジメントの意義について理解し、計画、実践、評価、改善の循環サイクルを自ら実践することができる。 2. 保育の計画の体系を把握し、各種の計画間の関係を理解した上で、実際の保育の計画を立案することができる。 3. 教育課程・全体的な計画の意味と編成の手順を実践を通して理解し、その編成における保育者間の協働及び保護者、地域、小学校との連携に主体的に取り組む。 4. 様々な種類のカリキュラムの存在に関心を持ち、国内外の多様な保育実践から学ぶことができる。						
テキスト（教科書）	『就学前教育の計画を学ぶ』松村和子、近藤幹生、梶島香代著（ななみ書房）ISBN978-4-903355-74-0 『幼稚園教育要領』文部科学省（フレーベル館）ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』厚生労働省（フレーベル館）ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館）ISBN978-4-577-81424-6						
参考書および参考文献	授業中に適宜資料を配布する。						
受講条件	（幼・保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 授業で配布された資料・課題とノートを整理し、読み返す。（第1～15回／2時間程度） 2. 授業内容に該当するテキストの箇所を事前・事後に熟読する。（第1～15回／2時間程度） 3. 実践や文献などを通して、様々なカリキュラムについて自ら学ぶ。（第1～15回／1.3時間程度） 4. 定期試験のための復習を行う。（第14～15回／2.6時間程度）						
成績評価							
授業への参加度と授業中の課題（30%）、筆記試験（70%）をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	(講義) 保育における計画の意義と役割 (講義) カリキュラムの基礎理論 (講義・演習) 幼稚園における教育課程とカリキュラム・マネジメント（ディスカッション） (講義・演習) 保育所における全体的な計画 (講義・演習) 指導計画の種類と体系 (講義・演習) 長期・短期の指導計画 (演習) 全体的な計画作成の実際 (講義) 保育の記録と省察 (講義・演習) 保育の評価 (講義・演習) 自己評価の実際（ディスカッション） (講義) 保育内容の変遷と計画 (講義) 様々なカリキュラム (講義) 保護者・地域との連携 (講義・演習) 小学校との連携（ディスカッション） (演習) アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム（プレゼンテーション）					
		※授業内で実施した課題やレポートについては、内容に応じて、授業内で正解を確認し、あるいは提出後コメントを付けて学生に返却し、その後の学習に活用できるようにする。 さらに、内容によっては、課題・レポート内容の発表を通じて、学生同士が学習成果を共有し、学びを深められるようにする。					
		※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。					
ナンバリング	PEAM2009						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	32810		
科目	3281 障害児心理学			授業種別	週間授業		
担当教員	熊谷 享子			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	共生社会について考えを深めるために、自身の障害観や偏見や差別への気づき、必要な合理的配慮について学ぶ。脳の発達や発達の客観的な測定手法について理解する。また、各障害の心理について、特性の理解とともに疑似体験を通してより深く学ぶ。また、精神疾患の基礎的な知識を身に付ける。 classroomのアプリを使用して、授業内の課題提出やスライドの掲示を行うことがあるので、スマートフォン等を持参すること。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎			
到達目標	1. 自分自身の障害者観に気づき、差別が生じる背景について説明できる。 2. 共生社会を構築するための自分の役割について考えを述べることができる。 3. 各障害児の特性を理解し、支援の手立てを工夫することができる。						
テキスト（教科書）	授業内で資料を配布する。						
参考書および参考文献							
受講条件	特別支援教育・保育Ⅰを履修済みであることが望ましい。						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎授業後に復習をし、疑問点などについて調べる（第2～15回/2時間程度） 2. 最終課題への取り組み（第14～15回/2時間程度）						
成績評価							
授業内で行った課題への取組状況や内容（60％）、授業終了時の総括レポート（40％）の割合で総合的に評価する。							
評価項目		割合	評価基準				
授業内の課題		60％	各回毎に学んだ内容を授業を踏まえて書かれているか確認する。				
最終課題		40％	授業内容を踏まえて適切な内容で書かれているか評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義）	ガイドンス・障害理解について				
	第2回	（演習）	共生社会の実現とは（1）障害観について（ディスカッション）				
	第3回	（演習）	共生社会の実現とは（2）過去の事件と障害者差別（ディスカッション）				
	第4回	（演習）	共生社会の実現とは（3）戦争と障害者（グループワーク）				
	第5回	（講義）	発達と障害（1）発達検査・知能検査の理解（グループワーク）				
	第6回	（講義）	発達と障害（2）脳の構造と発達				
	第7回	（演習）	視覚障害の疑似体験に基づく理解と支援（グループワーク）				
	第8回	（演習）	聴覚障害の疑似体験に基づく理解と支援（グループワーク）				
	第9回	（演習）	読み書き障害の疑似体験に基づく理解と支援（グループワーク）				
	第10回	（演習）	知的障害の理解と支援（1）（0歳児の事例）（グループワーク）				
	第11回	（演習）	知的障害の理解と支援（2）（ダウン症の事例）（グループワーク）				
	第12回	（演習）	医療的ケア児の理解と支援（グループワーク）				
	第13回	（講義）	精神障害の理解と支援（1）統合失調症について				
	第14回	（講義）	精神障害の理解と支援（2）パーソナリティ障害について				
	第15回	（演習）	まとめ（ディスカッション）				
	※提出課題は添削して返却するか、授業内でフィードバックを行う ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEBM2007						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	31120		
科目	3112 幼児理解と教育相談			授業種別	週間授業		
担当教員	齋藤 善郎			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	幼児の生活や遊びの実態に即して、発達過程で生じるつまづきの要因を把握するための原理や対応方法を学ぶ。また、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識や方法を身につける。さらに、子育て環境の多様化や少子化の流れの中、不安感や負担感を持つ保護者への対応について、事例を通して理解を深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○				
到達目標	1. 幼児理解の知識を身につけ、考え方や態度を理解できる。 2. 教育相談に関わる心理学的理論・概念を理解できる。 3. 子育て環境の背景を知り、保護者の心情に寄り添った援助方法を理解できる。 4. カウンセリング的援助の仕方を理解できる。						
テキスト(教科書)	毎回、プリントを配布する。						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 ISBN 978-4-577-81447-5 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ISBN 978-4-577-81449-9						
受講条件	(幼) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	次回の授業内容を伝え、次回までに調べたり考えてほしい事柄についてアナウンスするので、あらかじめその事柄を学んで授業に臨むこと。(第1回～15回/2時間程度) 毎回小テストを実施し、次回の授業時に返却する。返却されたテストを用いて、復習をすること。(第1回～15回/2時間程度)						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。 ①小テスト70% ②課題レポート30%						
評価項目		割合	評価基準				
小テスト		70%	講義内容の理解度を確認する				
課題レポート		30%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 子どもの発達の姿(乳児期を中心に) 第2回 (講義) 子どもの発達の姿(幼児期を中心に) 第3回 (講義) 幼児期に育てたい発達課題 第4回 (講義) 保育者の役割 第5回 (講義) カウンセリング・マインド 第6回 (講義) 心に刷り込まれる乳幼児期の体験 第7回 (講義) 気になる行動への対応と理解 第8回 (講義) 教育相談と保護者理解 第9回 (講義) 子育て環境の変化と子育て 第10回 (講義) 育児不安と子育て 第11回 (講義) 親の養育態度と子ども 第12回 (講義) 教育相談の理論と方法(傾聴) 第13回 (講義) 教育相談の理論と方法(共感的理解) 第14回 (講義) 保護者対応の方法と子育て支援 第15回 (講義) 園内体制の整備と専門機関との連携 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。 ※授業ごとに配布するプリントに授業で学んだことを記載すること。毎回、小テストを実施し、採点をして次回授業で返却する。授業の理解が十分でなかった内容については再度授業で取り上げ理解を深める。返却された小テストと記載したプリントを用いて復習することを求める。						
ナンバリング	PEBM1003						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期		授業コード		34020		
科目	3402 子どもと生活		授業種別		集中講義		
担当教員	岡本 雅子		単位数		1		
その他担当者							
授業概要	ネイチャーゲームの実践を通して、まず自分自身の「自然への気づき」を育む。そして、自然や環境への理解を深め、子どもたちの自然体験、社会体験を豊かにすることのできる知識と技術の習得を目標とする。また、ネイチャーゲームリーダー資格の取得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1.五感を使って身近な自然に親しみ、協働や共有ができる。 2.子どもを取り巻く環境を理解し、説明できる。 3.安全で豊かな自然体験の為に必要な指導・援助を理解し、実践できる。						
テキスト(教科書)	講座説明会(日時決定次第掲示)の際に指示する。						
参考書および参考文献	『体験と学びを深めるネイチャーゲーム』日置光久・神長美津子監修、(公社)シェアリングネイチャー協会 ISBN978-906937-04-2						
受講条件	集中講義。別途費用が必要(詳細は講座説明会にて説明する)						
事前・事後学修(内容・時間)	事前： 1.「幼稚園教育要領」の領域「環境」を熟読する。(2時間程度) 2.自然環境に関する情報を、本、資料から収集する。(10時間程度) 3.指導計画を立て、準備をする。(2時間程度) 事後： 1.実践したアクティビティについて、自分で実践できるようにまとめる。(6時間程度) 2.その他のアクティビティについて、テキスト(理論編)を読んで理解する。(10時間程度)						
成績評価	検定に合格し、ネイチャーゲームリーダー資格を取得した学生に対して単位を認定する。授業への取り組み方、模擬指導、提出課題を総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業や課題への取り組み方		40%	内容を理解して能動的に取り組み、協働できたか。				
模擬指導		20%	内容の理解、教材、指導案の準備ができ、保育者の視点で実践できたか。				
検定試験		20%	リーダーとしての合格基準を満たしているか。理解度の確認。				
課題、チェックシート等の提出状況		20%	適切な内容で、丁寧に記述できているか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)シェアリングネイチャーの理念 第2回(講義)自然の理解①(理論) 第3回(演習)自然の理解②(アクティビティ)(グループワーク) 第4回(講義・演習)対象となる参加者を知る 第5回(講義)人と自然、社会、文化のかかわり①(理論) 第6回(演習)人と自然、社会、文化のかかわり②(アクティビティ)(グループワーク) 第7回(講義)自然体験活動の基礎技術①(理論) 第8回(演習)自然体験活動の基礎技術②(アクティビティ)(グループワーク) 第9回(講義)自然体験活動の指導法①(理論) 第10回(演習)自然体験活動の指導法②(模擬指導) 第11回(講義・演習)フローラーニングとプログラムの作り方 第12回(講義・演習) 検定(指導実践を含む)と振り返り(公社シェアリングネイチャー協会講師) 第13回(講義)安全対策について①(理論) 第14回(演習)安全対策について②(アクティビティ)(グループワーク) 第15回(演習)アクティビティの模擬指導(グループワーク) ※一つひとつのプログラムの終了後に、全体の振り返りを行い、コメントすることでフィードバックする。 ※天候や受講生の習熟度によって、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEDM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	34120		
科目	3412 保育内容総論			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	この授業は、保育内容を総合的に捉え、その理論的裏付けと実践との関連を明らかにすることを目指す。具体的には、幼稚園と保育所における保育内容とその指導法を学び、それらを実際の保育の計画に組み込み、保育を実践するプロセスを体験的に理解することを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○					
到達目標	1. 保育の目標と内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき学び、育みたい資質・能力、領域間相互の関係及び養護と教育の関係を理解し、保育内容の全体構造について説明できる。 2. 子ども理解と保育内容の関係が分かり、子どもの発達過程や個々の特性を踏まえた保育内容を計画できる。 3. 教育・保育における環境づくりの重要性を理解し、環境を活用し、環境に配慮した保育を構想できる。 4. 社会の動向や保育ニーズの変化に伴い、変容し多様化する保育内容について関心を持ち、新しい情報を取り入れる。						
テキスト(教科書)	『保育内容総論』塩美佐枝編(同文書院) ISBN978-4-8103-1469-4 『幼稚園教育要領』文部科学省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定子ども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81447-5 『保育所保育指針解説』厚生労働省編(フレーベル館) ISBN978-4-577-81448-2						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業で配布された資料とノートを整理し、読み返す。(第1～13回／1時間程度) 2. 授業内容に該当するテキストの箇所を事前・事後に熟読する。(第1～13回／1時間程度) 3. 定期試験のための復習を行う。(第14～15回／2時間程度)						
成績評価	授業への参加度と授業中の課題(30%)、筆記試験(70%)をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回	(講義) オリエンテーション、保育内容の5領域					
	第 2 回	(講義) 幼稚園制度と保育所制度① 法的根拠					
	第 3 回	(講義) 幼稚園制度と保育所制度② 設備の基準					
	第 4 回	(講義) 幼稚園教育要領における保育内容① 幼稚園教育の基本、見方・考え方					
	第 5 回	(講義) 幼稚園教育要領における保育内容② 幼稚園教育の目標、ねらいと内容					
	第 6 回	(講義・演習) 保育所保育指針における保育内容① 保育所の特性(ディスカッション)					
	第 7 回	(講義) 保育所保育指針における保育内容② 保育所保育の目標、ねらいと内容					
	第 8 回	(講義) 環境を通して行う教育・保育① 保育の環境					
	第 9 回	(講義・演習) 環境を通して行う教育・保育② ねらい・内容と環境(ディスカッション)					
	第10回	(講義) 幼稚園における計画の構造と内容					
	第11回	(講義) 保育所における計画の構造と内容					
	第12回	(講義) 保育の観察と記録					
	第13回	(講義) 保育の計画と評価					
	第14回	(講義・演習) 保育の実践から学ぶ(ビデオ視聴による事例検討)(ディスカッション)					
	第15回	(講義) 幼保小連携					
	※授業内で実施した課題については、コメントを付けて返却することでフィードバックを行い、その後の学習に活用できるようにする。						
	※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEAM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	34121		
科目	3412 保育内容総論			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	この授業は、保育内容を総合的に捉え、その理論的裏付けと実践との関連を明らかにすることを目標とする。具体的には、幼稚園と保育所における保育内容とその指導法を学び、それらを実際の保育の計画に組み込み、保育を実践するプロセスを体験的に理解することを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○					
到達目標	1. 保育の目標と内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき学び、育みたい資質・能力、領域間相互の関係及び養護と教育の関係を理解し、保育内容の全体構造について説明できる。 2. 子ども理解と保育内容の関係が分かり、子どもの発達過程や個々の特性を踏まえた保育内容を計画できる。 3. 教育・保育における環境づくりの重要性を理解し、環境を活用し、環境に配慮した保育を構想できる。 4. 社会の動向や保育ニーズの変化に伴い、変容し多様化する保育内容について関心を持ち、新しい情報を取り入れる。						
テキスト(教科書)	『保育内容総論』塩美佐枝編(同文書院) ISBN978-4-8103-1469-4 『幼稚園教育要領』文部科学省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81447-5 『保育所保育指針解説』厚生労働省編(フレーベル館) ISBN978-4-577-81448-2						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業で配布された資料とノートを整理し、読み返す。(第1～13回／1時間程度) 2. 授業内容に該当するテキストの箇所を事前・事後に熟読する。(第1～13回／1時間程度) 3. 定期試験のための復習を行う。(第14～15回／2時間程度)						
成績評価							
授業への参加度と授業中の課題(30%)、筆記試験(70%)をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第 1回	(講義) オリエンテーション、保育内容の5領域					
	第 2回	(講義) 幼稚園制度と保育所制度① 法的根拠					
	第 3回	(講義) 幼稚園制度と保育所制度② 設備の基準					
	第 4回	(講義) 幼稚園教育要領における保育内容① 幼稚園教育の基本、見方・考え方					
	第 5回	(講義) 幼稚園教育要領における保育内容② 幼稚園教育の目標、ねらいと内容					
	第 6回	(講義・演習) 保育所保育指針における保育内容① 保育所の特性(ディスカッション)					
	第 7回	(講義) 保育所保育指針における保育内容② 保育所保育の目標、ねらいと内容					
	第 8回	(講義) 環境を通して行う教育・保育① 保育の環境					
	第 9回	(講義・演習) 環境を通して行う教育・保育② ねらい・内容と環境(ディスカッション)					
	第10回	(講義) 幼稚園における計画の構造と内容					
	第11回	(講義) 保育所における計画の構造と内容					
	第12回	(講義) 保育の観察と記録					
	第13回	(講義) 保育の計画と評価					
	第14回	(講義・演習) 保育の実践から学ぶ(ビデオ視聴による事例検討)(ディスカッション)					
	第15回	(講義) 幼保小連携					
		※授業内で実施した課題については、コメントを付けて返却することでフィードバックを行い、その後の学習に活用できるようにする。					
	※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEAM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34220		
科目	3422 保育内容・健康			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもの健やかな育ちを支える保育者の役割を理解した上で、子どもの発育・発達、学びの過程を学ぶ。また、領域「健康」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが経験して身に付けるべき内容への理解を深める。さらに、映像資料や事例・演習課題を通して、保育者の視点に立って指導・援助を考える。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	△			
到達目標	1.子どもの健康・発育発達を踏まえ、年齢や心情に応じた関わりを説明できる。 2.領域「健康」のねらい及び内容、指導上の留意点を説明できる。 3.子どもを取り巻く環境の変化や課題を踏まえた保育方法や保育者の役割を理解し、説明できる。						
テキスト(教科書)	『子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」』編者：池田裕恵(杏林書院) ISBN978-4-7644-1189-0						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN:978-4577814222 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN:978-4577814246 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN:978-4577814239						
受講条件	(幼・保)必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.授業計画に沿って、事前にテキストを読む。(第2回～15回/0.5時間程度) 2.プリントの復習・確認をする。(第2回～15回/0.5時間程度) 3.小テスト範囲を復習する。(第3回～第8回/1時間程度) 4.定期試験範囲を復習する。(第11回～15回/2時間程度)						
成績評価	授業の到達目標が、どの程度達成されたかを、提出物・小テスト・定期試験で総合的に評価をする。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
課題の提出状況、達成度		30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。				
小テスト		20%	指定した範囲の理解度、努力の確認。				
定期試験		50%	筆記試験で科目全体の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)「健康」の定義と現代の子どもの姿 第2回(講義・演習)領域「健康」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 第3回(講義)情緒の発達と人とのかわり 第4回(講義)身体諸機能の発達 第5回(講義・演習)運動機能の発達 第6回(講義・演習)運動発達課題 第7回(講義・演習)あそびとは、幼児が感じる楽しさとは 第8回(講義・演習)あそびの環境とあそびの意義 第9回(講義・演習)健康な生活リズムと基本的生活習慣(睡眠)(グループワークと発表) 第10回(講義・演習)基本的生活習慣(食事)と食育(グループワークと発表) 第11回(講義・演習)基本的生活習慣と子どもに説明する工夫(排泄・衣服の着脱・清潔)(グループワークと発表) 第12回(講義)健康診断と感染症の予防 第13回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防?(危険予知トレーニング) 第14回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防②(チャイルドビジョン体験) 第15回(講義・演習)災害対策と避難訓練(グループワーク) ※プリント・小テストについては、次回の授業内で質問への回答、返却をする。 また必要に応じてコメントすることで、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEAM1003						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34221		
科目	3422 保育内容・健康			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもの健やかな育ちを支える保育者の役割を理解した上で、子どもの発育・発達、学びの過程を学ぶ。また、領域「健康」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが経験して身に付けるべき内容への理解を深める。さらに、映像資料や事例・演習課題を通して、保育者の視点に立って指導・援助を考える。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	△			
到達目標	1.子どもの健康・発育発達を踏まえ、年齢や心情に応じた関わりを説明できる。 2.領域「健康」のねらい及び内容、指導上の留意点を説明できる。 3.子どもを取り巻く環境の変化や課題を踏まえた保育方法や保育者の役割を理解し、説明できる。						
テキスト(教科書)	『子どもの元気を取り戻す 保育内容「健康」』編者：池田裕恵(杏林書院) ISBN978-4-7644-1189-0						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN:978-4577814222 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN:978-4577814246 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN:978-4577814239						
受講条件	(幼・保)必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.授業計画に沿って、事前にテキストを読む。(第2回～15回/0.5時間程度) 2.プリントの復習・確認をする。(第2回～15回/0.5時間程度) 3.小テスト範囲を復習する。(第3回～第8回/1時間程度) 4.定期試験範囲を復習する。(第11回～15回/2時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標が、どの程度達成されたかを、提出物・小テスト・定期試験で総合的に評価をする。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目			割合	評価基準			
課題の提出状況、達成度			30%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述されているか。			
小テスト			20%	指定した範囲の理解度、努力の確認。			
定期試験			50%	筆記試験で科目全体の理解度を確認する。			
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)「健康」の定義と現代の子どもの姿 第2回(講義・演習)領域「健康」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 第3回(講義)情緒の発達と人とのかわり 第4回(講義)身体諸機能の発達 第5回(講義・演習)運動機能の発達 第6回(講義・演習)運動発達課題 第7回(講義・演習)あそびとは、幼児が感じる楽しさとは 第8回(講義・演習)あそびの環境とあそびの意義 第9回(講義・演習)健康な生活リズムと基本的生活習慣(睡眠)(グループワークと発表) 第10回(講義・演習)基本的生活習慣(食事)と食育(グループワークと発表) 第11回(講義・演習)基本的生活習慣と子どもに説明する工夫(排泄・衣服の着脱・清潔)(グループワークと発表) 第12回(講義)健康診断と感染症の予防 第13回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防?(危険予知トレーニング) 第14回(講義・演習)子どものケガ・事故の原因と予防②(チャイルドビジョン体験) 第15回(講義・演習)災害対策と避難訓練(グループワーク)						
	※プリント・小テストについては、次回の授業内で質問への回答、返却をする。 また必要に応じてコメントすることで、フィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEAM1003						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34320		
科目	3432 保育内容・人間関係			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	この授業では、領域「人間関係」とは何を目的とし、どのような内容を扱うべきかを考えていく。子どもが初めての集団生活を経験する保育所・幼稚園において、子どもの自主性と社会性の発達とは、子どもの生活の展開そのものであり、また人格形成の根幹を成すものである。これらの発達を援助することの重要性をまず確認し、それを日々の保育として具体的に展開していく方法を実践的に学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	1. 領域「人間関係」のねらい及び内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき理解し、現代的な課題を踏まえながら子どもの中に育てるべきことから文章化することができる。 2. 子どもが自分自身を捉え、人との関わりを築いていくプロセスにおいて、基礎的な理論を踏まえ、子どもの発達過程や個々の特性に応じた指導方法を考案できる。その際に、情報機器やその他の教材の効果的な活用について理解し実践できる。 3. 集団生活の中で、子どもが自己を発揮しながら協同性を身に付けていくために相応しい具体的な活動や遊びなどを計画、実践し、さらに改善していくことができる。						
テキスト(教科書)	『保育内容 人間関係』濱名浩編(みらい) ISBN978-4-86015-445-5 『幼稚園教育要領』文部科学省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
参考書および参考文献	授業中に適宜資料を配布する。						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業で配布された資料・課題とノートを整理し、読み返す。(第1～13回/1時間程度) 2. 授業内容に該当するテキストの箇所を事前・事後に熟読する。(第1～13回/1時間程度) 3. 保育実践のために必要な準備を行う。(第14～15回/0.5時間程度) 4. 定期試験のための復習を行う。(第14～15回/1.5時間程度)						
成績評価	授業への参加度と授業中の課題(40%)、筆記試験(60%)をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		40%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
定期試験		60%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 5領域における「人間関係」 第2回 (講義・演習) 子どもを取り巻く環境と人間関係 第3回 (講義・演習) 子どもの人間関係をめぐる現代的課題 第4回 (講義・演習) 領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い 第5回 (講義・演習) 育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に見る「人間関係」 第6回 (講義・演習) 保育所保育指針における「人間関係」 第7回 (講義・演習) 子どもの発達と人間関係 第8回 (講義・演習) 遊びの発達と人間関係 第9回 (講義・演習) 子どもの人間関係を育む教材の研究(グループワーク) 第10回 (講義・演習) 乳児期における人とのかかわり 第11回 (講義・演習) 幼児期における人とのかかわり(自我の発達) 第12回 (講義・演習) 幼児期における人とのかかわり(協同する経験を構想する) 第13回 (講義・演習) 集団づくりの手法(情報機器の活用を取り入れた長期的計画の作成)(ディスカッション) 第14回 (講義・演習) 保育を構想する(指導案の作成と協議)(グループワーク) 第15回 (実技) 実践から学ぶ(模擬保育と振り返り)(プレゼンテーション、ディスカッション) ※授業内で実施した課題やレポートについては、内容に応じて、授業内で正解を確認し、あるいは提出後コメントを付けて学生に返却し、その後の学習に活用できるようにする。 さらに、内容によっては、課題・レポート内容の発表を通じて、学生同士が学習成果を共有し、学びを深められるようにする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEAM1004						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34321		
科目	3432 保育内容・人間関係			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	この授業では、領域「人間関係」とは何を目的とし、どのような内容を扱うべきかを考えていく。子どもが初めての集団生活を経験する保育所・幼稚園において、子どもの自主性と社会性の発達とは、子どもの生活の展開そのものであり、また人格形成の根幹を成すものである。これらの発達を援助することの重要性をまず確認し、それを日々の保育として具体的に展開していく方法を実践的に学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	1. 領域「人間関係」のねらい及び内容を幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき理解し、現代的な課題を踏まえながら子どもの中に育てるべきことがらを文章化することができる。 2. 子どもが自分自身を捉え、人との関わりを築いていくプロセスにおいて、基礎的な理論を踏まえ、子どもの発達過程や個々の特性に応じた指導方法を考案できる。その際に、情報機器やその他の教材の効果的な活用について理解し実践できる。 3. 集団生活の中で、子どもが自己を発揮しながら協同性を身に付けていくために相応しい具体的な活動や遊びなどを計画、実践し、さらに改善していくことができる。						
テキスト(教科書)	『保育内容 人間関係』濱名浩編(みらい) ISBN978-4-86015-445-5 『幼稚園教育要領』文部科学省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
参考書および参考文献	授業中に適宜資料を配布する。						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業で配布された資料・課題とノートを整理し、読み返す。(第1～13回/1時間程度) 2. 授業内容に該当するテキストの箇所を事前・事後に熟読する。(第1～13回/1時間程度) 3. 保育実践のために必要な準備を行う。(第14～15回/0.5時間程度) 4. 定期試験のための復習を行う。(第14～15回/1.5時間程度)						
成績評価	授業への参加度と授業中の課題(40%)、筆記試験(60%)をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		40%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
定期試験		60%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 5領域における「人間関係」 第2回 (講義・演習) 子どもを取り巻く環境と人間関係 第3回 (講義・演習) 子どもの人間関係をめぐる現代的課題 第4回 (講義・演習) 領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い 第5回 (講義・演習) 育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に見る「人間関係」 第6回 (講義・演習) 保育所保育指針における「人間関係」 第7回 (講義・演習) 子どもの発達と人間関係 第8回 (講義・演習) 遊びの発達と人間関係 第9回 (講義・演習) 子どもの人間関係を育む教材の研究(グループワーク) 第10回 (講義・演習) 乳児期における人とのかかわり 第11回 (講義・演習) 幼児期における人とのかかわり(自我の発達) 第12回 (講義・演習) 幼児期における人とのかかわり(協同する経験を構想する) 第13回 (講義・演習) 集団づくりの手法(情報機器の活用を取り入れた長期的計画の作成)(ディスカッション) 第14回 (講義・演習) 保育を構想する(指導案の作成と協議)(グループワーク) 第15回 (実技) 実践から学ぶ(模擬保育と振り返り)(プレゼンテーション、ディスカッション) ※授業内で実施した課題やレポートについては、内容に応じて、授業内で正解を確認し、あるいは提出後コメントを付けて学生に返却し、その後の学習に活用できるようにする。 さらに、内容によっては、課題・レポート内容の発表を通じて、学生同士が学習成果を共有し、学びを深められるようにする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEAM1004						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	34420		
科目	3442 保育内容・環境			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	領域「環境」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが保育者や周囲の様々な環境とどのように関わり、どのような育ちが見られるのか、教科書やプリントなどを基にそれぞれが考察しながら理解を深める。また、子どもの発達に即した環境構成や指導・援助を具体的に考えると同時に、演習を通して保育者がどのようにあるべきか、保育者としての視点や態度の習得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		△			
到達目標	1. 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。 2. 子どもの育ちと「環境」との関わり的重要性を理解し、保育者の視点で自ら関わり、身近なあらゆる環境を保育構想のヒントにすることができる。 3. 子どもの発達や体験に即した保育環境や保育を構想する力と、保育を改善する視点を身に付ける。						
テキスト(教科書)	小櫃智子編著『実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法』(株)わかば社 ISBN978-4-907270-33-9 『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト 作成ワーキンググループ・編集絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行 出版社 中央法規 ISBN:978-4805882252						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針(最新版)』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に、指定箇所までテキストを読んでおくこと。(第2回～15回/0.1時間程度) 2. 授業内容について、事前に関連事項を調べて授業に参加すること。(第2回～15回/0.25時間程度) 3. 課題について、期日までに作成し関連事項を調べること。(第1回～15回/0.7時間程度)						
成績評価							
提出物(全て提出することが前提)の内容を80%、最終課題(レポート)を20%の割合で、総合的に評価する。							
評価項目		割合	評価基準				
提出物		80%	毎回の提出物の期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。				
最終課題		20%	期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) 1-①	子どもと環境について学ぼう				
	第2回	(講義) 1-②	保育内容・領域「環境」について学ぼう				
	第3回	(講義) 1-③	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう				
	第4回	(講義) 1-④	保育の過程について学ぼう				
	第5回	(演習) 1-⑤	音と匂いを探す				
	第6回	(講義) 1-⑥	環境を活かした遊びを考える				
	第7回	(講義) 1-⑦	指導案を作ってみよう				
	第8回	(演習)	【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本) 絵本をきっかけとした活動について(認定講座用課題有)				
	第9回	(演習)	【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術② 絵本をきっかけとした活動の実践(認定講座用課題有)				
	第10回	(講義) 2-①	ものとかかわりの実践について学ぼう				
	第11回	(講義) 2-②	自然とかかわりの実践について学ぼう				
	第12回	(講義) 2-③	数量・図形とかかわりの実践について学ぼう				
	第13回	(演習)	カプラであそぼう(グループワーク)				
	第14回	(演習)	遊びをつくろう				
	第15回	(講義)	最終課題 指導案をつくろう				
	※提出物返却時にコメントし、間違いの多い箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することがある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。						
ナンバリング	PEAM1005						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	34421		
科目	3442 保育内容・環境			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	領域「環境」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが保育者や周囲の様々な環境とどのように関わり、どのような育ちが見られるのか、教科書やプリントなどを基にそれぞれが考察しながら理解を深める。また、子どもの発達に即した環境構成や指導・援助を具体的に考えると同時に、演習を通して保育者がどのようにあるべきか、保育者としての視点や態度の習得を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		△			
到達目標	1. 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。 2. 子どもの育ちと「環境」との関わりの重要性を理解し、保育者の視点で自ら関わり、身近なあらゆる環境を保育構想のヒントにすることができる。 3. 子どもの発達や体験に即した保育環境や保育を構想する力と、保育を改善する視点を身に付ける。						
テキスト(教科書)	小櫃智子編著『実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法』(株)わかば社 ISBN978-4-907270-33-9 『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト 作成ワーキンググループ・編集絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行 出版社 中央法規 ISBN:978-4805882252						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針(最新版)』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に、指定箇所までテキストを読んでおくこと。(第2回～15回/5分程度) 2. 授業内容について、事前に関連事項を調べて授業に参加すること。(第2回～15回/15分程度) 3. 課題について、期日までに作成し関連事項を調べること。(第1回～15回/40分程度)						
成績評価							
提出物(全て提出することが前提)の内容を80%、最終課題(レポート)を20%の割合で、総合的に評価する。							
評価項目		割合	評価基準				
提出物		80%	毎回の提出物の期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。				
最終課題		20%	期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) 1-①	子どもと環境について学ぼう				
	第2回	(講義) 1-②	保育内容・領域「環境」について学ぼう				
	第3回	(講義) 1-③	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう				
	第4回	(講義) 1-④	保育の過程について学ぼう				
	第5回	(演習) 1-⑤	音と匂いを探す				
	第6回	(講義) 1-⑥	環境を活かした遊びを考える				
	第7回	(講義) 1-⑦	指導案を作ってみよう				
	第8回	(演習)	【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本) 絵本をきっかけとした活動について(認定講座用課題有)				
	第9回	(演習)	【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術② 絵本をきっかけとした活動の実践(認定講座用課題有)				
	第10回	(講義) 2-①	ものとかかわりの実践について学ぼう				
	第11回	(講義) 2-②	自然とかかわりの実践について学ぼう				
	第12回	(講義) 2-③	数量・図形とかかわりの実践について学ぼう				
	第13回	(演習)	カプラであそぼう(グループワーク)				
	第14回	(演習)	遊びをつくろう				
	第15回	(講義)	最終課題 指導案をつくろう				
	※提出物返却時にコメントし、間違いの多い箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することがある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。						
ナンバリング	PEAM1005						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34520		
科目	3452 保育内容・言葉			授業種別	週間授業		
担当教員	青嶋 由美子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもが豊かな言葉の世界を構築するための保育者の役割を理解した上で、子どもの言葉の発達過程と言語を育てるための援助方法を学ぶ。領域「言葉」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが友達や保育者と関わりながら身に付けるべき言葉への理解を深める。更に実践として絵本を中心に教材（児童文化財）研究とその使用・指導案の作成・模擬保育指導・視聴覚教材を用いての事例検討・発表と振り返り等を通して、保育者として必要な援助・技能を考え、具体的な言葉の指導方法について協議する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	●	△			
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知り、その発達過程に応じた絵本を中心とする児童文化財に関する基礎的な知識を持つこと、子どもの年齢や発達に応じた言葉のやり取りの基本を身に付けることは、保育者になるために欠かせないステップである。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1.子どもの言葉の発達段階に応じ、子どもの言葉を引き出していく関わりができる。 2.領域「言葉」のねらい・内容・指導上の留意点を理解し、評価できる。 3.子どもの言葉の発達に関わる環境の変化や課題を踏まえた保育方法（情報機器の活用を含む）、保育者の役割を知る。 4.絵本を中心に児童文化財の役割を理解し、保育の中にかける。						
テキスト（教科書）	『保育・教育ネオシリーズ』[20] 『保育内容・言葉 第三版』木田光洋 編著 内藤由佳子・大迫秀樹・田口鉄久・白澤甲由・片山順子・齋藤二三子・岸美穂・中山美知子 著（同文館） ISBN978-4-8103-1471-7 『幼稚園教育要領（最新版）』『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（最新版）』『保育所保育指針（最新版）』『認定給本土産成講座テキスト』 絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行（中央法規）ISBN-978-4805882252 その他適宜プリントを配布する						
参考書および参考文献	関田 芳樹・松井 吉昭 著『年中行事読本：日本の四季を愉しむ歳時ごよみ』創元社 ISBN978-4-422-23034-4 横山洋子・中島千恵子著『保育に生かせる！年中行事・園行事 ことばかけの本』学研教育出版 ISBN 978-4-054-05915-3 その他、年中行事や四季について記された本						
受講条件	〔幼・保〕必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 担当日時を決め2分間スピーチを行うため、十分な時間をかけて準備する。 ・スピーチの準備（1.5時間程度） 2. 模擬授業担当時の指導案作成のための準備（4時間程度） 3. 発表担当時の児童文化財の準備（1.5時間程度） 4. 模擬指導及び発表の担当時の振り返り（0.8時間程度） 5. 他の担当実施回の振り返り（0.3時間程度8回分） 6. 授業学習内容のまとめ（第1～15回、8時間程度×15回） 7. 必要に応じてClassroom上に確認テストの問題をアップするので、解答を準備すること （1回につき0.5時間程度×7回） 8. 定期試験のために、授業での配布プリント・確認テスト・テキストの復習を行うこと（4時間程度）						
成績評価	模擬指導や発表担当者の実践をどのように受け止めて評価出来たかを10%、模擬指導や発表担当の際の出来具合と振り返りの内容を40%、定期試験で測る理解度を50%として総合評価とする。						
評価項目		割合	評価基準				
模擬指導及び発表担当の受け止め		10%	指導案の作成状況、実施具合、発表内容等により達成度を評価する。評価にあたっては、授業時にループバックを提示する。				
発表担当②（模擬指導担当・2分間スピーチ）		40%	スピーチについて、題材の選択状況、発表の際の発声・聞き手への配慮・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。評価については、授業時にループバックを提示する。				
定期試験		50%	筆記試験により理解度を評価する。				
授業の実施方法及び授業計画	第1回	（講義）「言葉」とは何か・現代の子どもの言葉の育ち					
	第2回	（講義、演習）領域「言葉」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「言葉による伝え合い」の姿（映像資料視聴と協議）（グループワークとディスカッション）					
	第3回	（講義、演習）【認定給本土産成講座該当科目】絵本各論①（絵本の歴史、絵本質について）（認定給本適用時間あり）					
	第4回	（講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（乳児・低年齢幼児対象）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第5回	（講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（3・4・5歳児）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第6回	（講義）【認定給本土産成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本）					
	第7回	（講義、演習、実技）教材（言葉の「やりとり」を踏まえた遊び「ごっこ遊び」等）研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第8回	（講義、演習、実技）教材（言葉の「楽しさ」や「美しさ」に気付く遊び（しりとり・オノマトペ・回文・詩等） 研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第9回	（講義、演習）言葉の調子に気付くために必要な知識（映像資料「子どもの発達と支援ことばの発達」を視聴しての事例検討）（ディスカッション）					
	第10回	（講義、演習、実技）教材（紙芝居、エプロン・シアター等のシアターもの）研究と指導案の作成（グループワークとプレゼンテーション）					
	第11回	（講義、演習、実技）紙芝居・ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターを用いての模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第12回	（講義、演習、実技）想定される場面での言葉掛け（映像資料「ことばを育てる 語りかけ育児」の視聴と協議）（ディスカッションとプレゼンテーション）					
	第13回	（講義、演習、実技）遊びや生活の中での文字（文字指導や文字への興味を育てる遊び）の模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第14回	（講義、演習、実技）言語発達の遅れの現状と現場での配慮・対応（グループ研究と発表）（グループワークとプレゼンテーション）					
	第15回	（講義、演習、実技）多文化理解のための外国語表現（挨拶・オノマトペ等）（模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第16回	定期試験					
※スピーチと模擬指導については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにループバック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEAM1006						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34521		
科目	3452 保育内容・言葉			授業種別	週間授業		
担当教員	青嶋 由美子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもが豊かな言葉の世界を構築するための保育者の役割を理解した上で、子どもの言葉の発達過程と言語を育てるための援助方法を学ぶ。領域「言葉」の位置づけや意味を踏まえ、子どもが友達や保育者と関わりながら身に付けるべき言葉への理解を深める。更に実践として絵本を中心に教材（児童文化財）研究とその使用・指導案の作成・模擬保育指導・視聴覚教材を用いての事例検討・発表と振り返り等を通し、保育者として必要な援助・技能を考え、具体的な言葉の指導方法について協議する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	●	○	●	△			
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知り、その発達過程に応じた絵本を中心とする児童文化財に関する基礎的な知識を持つこと、子どもの年齢や発達に応じた言葉のやり取りの基本を身に付けることは、保育者になるために欠かせないステップである。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 子どもの言葉の発達段階に応じ、子どもの言葉を引き出していく関わりができる。 2. 領域「言葉」のねらい・内容・指導上の留意点を理解し、評価できる。 3. 子どもの言葉の発達に関わる環境の変化や課題を踏まえた保育方法（情報機器の活用を含む）、保育者の役割を知る。 4. 絵本を中心に児童文化財の役割を理解し、保育の中にかける。						
テキスト（教科書）	『保育・教育ネオシリーズ』[20] 保育内容・言葉 第三版 木田光洋 編著 内藤由佳子・大迫秀樹・田口鉄久・白澤甲由・片山順子・齋藤二三子・岸美穂・中山美知子 著（同文館） ISBN978-4-8103-1471-7 『幼稚園教育要領（最新版）』『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（最新版）』『保育所保育指針（最新版）』『認定給本土産成講座テキスト』 絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行（中央法規）ISBN-978-4805882252 その他適宜プリントを配布する						
参考書および参考文献	関田 芳朗・松井 吉昭 著『年中行事読本：日本の四季を愉しむ歳時ごよみ』創元社 ISBN978-4-422-23034-4 横山洋子・中島千恵子著『保育に生かせる！年中行事・園行事 ことばかけの本』学研教育出版社 ISBN 978-4-054-05915-3 その他、年中行事や四季について記された本						
受講条件	〔幼・保〕必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 担当日時を決め2分間スピーチを行うため、十分な時間をかけて準備する。 ・スピーチの準備（1.5時間程度） 2. 模擬授業担当当時の指導案作成のための準備（4時間程度） 3. 発表担当当時の児童文化財の準備（1.5時間程度） 4. 模擬指導及び発表の担当時の振り返り（0.8時間程度） 5. 他の担当実施回の振り返り（0.3時間程度8回分） 6. 授業学習内容のまとめ（第1～15回、8時間程度×15回） 7. 必要に応じてClassroom上に確認テストの問題をアップするので、解答を準備すること （1回につき0.5時間程度×7回） 8. 定期試験のために、授業での配布プリント・確認テスト・テキストの復習を行うこと（4時間程度）						
成績評価	模擬指導や発表担当者の実践をどのように受け止めて評価出来たかを10%、模擬指導や発表担当の際の出来具合と振り返りの内容を40%、定期試験で測る理解度を50%として総合評価とする。						
評価項目		割合	評価基準				
模擬指導及び発表担当の受け止め		10%	指導案の作成状況、実施具合、発表内容等により達成度を評価する。評価にあたっては、授業時にループバックを提示する。				
発表担当②（模擬指導担当・2分間スピーチ）		40%	スピーチについて、題材の選択状況、発表の際の発声・聞き手への配慮・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。評価については、授業時にループバックを提示する。				
定期試験		50%	筆記試験により理解度を評価する。				
授業の実施方法及び授業計画	第1回	（講義）「言葉」とは何か・現代の子どもの言葉の育ち					
	第2回	（講義、演習）領域「言葉」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「言葉による伝え合い」の姿（映像資料視聴と協議）（グループワークとディスカッション）					
	第3回	（講義、演習）【認定給本土産成講座該当科目】絵本各論①（絵本の歴史、絵本質について）【認定給本土産成講座該当科目】					
	第4回	（講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（乳児・低年齢幼児対象）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第5回	（講義、演習、実技）絵本を用いての模擬保育指導（3・4・5歳児）と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第6回	（講義）【認定給本土産成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本）					
	第7回	（講義、演習、実技）教材（言葉の「やりとり」を踏まえた遊び「ごっこ遊び」等）研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第8回	（講義、演習、実技）教材（言葉の「楽しさ」や「美しさ」に気付く遊び（しりとり・オノマトペ・回文・詩等） 研究と模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第9回	（講義、演習）言葉の調子に気付くために必要な知識（映像資料「子どもの発達と支援ことばの発達」を視聴しての事例検討）（ディスカッション）					
	第10回	（講義、演習、実技）教材（紙芝居、エプロン・シアター等のシアターもの）研究と指導案の作成（グループワークとプレゼンテーション）					
	第11回	（講義、演習、実技）紙芝居・ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターを用いての模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第12回	（講義、演習、実技）想定される場面での言葉掛け（映像資料「ことばを育てる 語りかけ育児」の視聴と協議）（ディスカッションとプレゼンテーション）					
	第13回	（講義、演習、実技）遊びや生活の中での文字（文字指導や文字への興味を育てる遊び）の模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第14回	（講義、演習、実技）言語発達の遅れの現状と現場での配慮・対応（グループ研究と発表）（グループワークとプレゼンテーション）					
	第15回	（講義、演習、実技）多文化理解のための外国語表現（挨拶・オノマトペ等）（模擬保育指導と振り返り（グループワークとプレゼンテーション）					
	第16回	定期試験					
※スピーチと模擬指導については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにループバック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEAM1006						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34630		
科目	3463 保育内容・表現			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもなりの表現をひきだし、豊かな感性や表現力を育てるためには、保育者自身の受容力・表現力が不可欠である。授業では指導実践、発表等を経験し、自らの表現力を養うとともに、子どもの表現の特徴に対する理解を深める。さらに、領域「表現」の位置づけや意味を踏まえ、子どもの表現をどのように捉え、どのように指導・援助すべきか、実践映像や事例検討を通して、具体的な子どもの姿や保育場面に応じた指導方法を協議する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△			
到達目標	1.子どもの表現を受容し、表現で応答できる。 2.領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、説明できる。 3.子どもの表現をひきだす指導・援助を理解し、実践できる。						
テキスト(教科書)	『からだからはじまる保育のアート』西 洋子・本山益子・岡本雅子編著(市村出版) ISBN: 978-4-902109481						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(フレーベル館) ISBN:978-4577814222 『幼児連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館) ISBN:978-4577814246 『保育所保育指針』(フレーベル館) ISBN:978-4577814239 『こどものうた100』小林美実監修(チャイルド本社) ISBN:978-8054-8186-8						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第1回～14回/0.5時間程度) 2.実技課題の復習をする。(第1回～13回/0.5時間程度) 3.実技課題の動画を作成する。(第2回～7回/1時間程度) 4.小テスト範囲の復習をする。(第8回～第14回/0.5時間程度) 5.模擬指導の準備、練習をする。(第6回～第12回/1時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、提出課題、小テストから総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
実技試験と振り返りシート		30%	ポイントを理解し、努力できたか。実際に、自分の身体で課題を達成できたか。適切に自己評価・他者評価ができたか。				
課題提出		30%	レポート課題は期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記載されているか。実技課題(動画)は期日を守り、ポイントを理解したことが実際の動きで表現できているか。				
模擬指導と振り返りシート		30%	ポイントを理解し、能動的に活動できたか。わかりやすく適切な内容で実践できたか。適切に自己評価・他者評価ができたか。				
小テスト(筆記)		10%	領域「表現」に対する理解度の確認。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技) 領域「表現」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、手遊び? 第2回(講義・演習・実技) 他者と関わる遊び、手遊び?(グループワーク) 第3回(講義・演習・実技) リズム遊び、手遊び③(グループワーク) 第4回(講義・演習・実技) 歌のある遊び、手遊び実技試験?(グループワークと発表) 第5回(講義・演習・実技) モノと関わる遊び、手遊び④(グループワーク) 第6回(講義・実技) 模擬指導ガイダンス、手遊び⑤(グループワーク) 第7回(講義・演習・実技) 実践計画(選曲)、手遊び⑥(グループワーク) 第8回(講義・演習・実技) 実践計画(内容) 手遊び実技試験②(グループワークと発表) 第9回(演習・実技) 模擬指導(グループ1)と振り返り 第10回(演習・実技) 模擬指導(グループ2)と振り返り 第11回(演習・実技) 模擬指導(グループ3)と振り返り 第12回(演習・実技) 模擬指導(グループ4)と振り返り 第13回(講義・実技) まねっこ遊び?(身体の動き)、リズム課題実技試験 第14回(講義・実技) まねっこ遊び?(モノを介して)、領域「表現」小テスト 第15回(講義・演習) 様々な子どもの表現と子どもの身体表現 ※レポート課題については、必要に応じてClassroomでコメントすることでフィードバックを行う。また、模擬指導については、都度コメントすることでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEAM1007						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34631		
科目	3463 保育内容・表現			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもなりの表現をひきだし、豊かな感性や表現力を育てるためには、保育者自身の受容力・表現力が不可欠である。授業では指導実践、発表等を経験し、自らの表現力を養うとともに、子どもの表現の特徴に対する理解を深める。さらに、領域「表現」の位置づけや意味を踏まえ、子どもの表現をどのように捉え、どのように指導・援助すべきか、実践映像や事例検討を通して、具体的な子どもの姿や保育場面に応じた指導方法を協議する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△			
到達目標	1.子どもの表現を受容し、表現で応答できる。 2.領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、説明できる。 3.子どもの表現をひきだす指導・援助を理解し、実践できる。						
テキスト(教科書)	『からだからはじまる保育のアート』西 洋子・本山益子・岡本雅子編著(市村出版) ISBN: 978-4-902109481						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(フレーベル館) ISBN:978-4577814222 『幼児連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館) ISBN:978-4577814246 『保育所保育指針』(フレーベル館) ISBN:978-4577814239 『こどものうた100』小林美実監修(チャイルド本社) ISBN:978-8054-8186-8						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第1回～14回/0.5時間程度) 2.実技課題の復習をする。(第1回～13回/0.5時間程度) 3.実技課題の動画を作成する。(第2回～7回/1時間程度) 4.小テスト範囲の復習をする。(第8回～第14回/0.5時間程度) 5.模擬指導の準備、練習をする。(第6回～第12回/1時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、提出課題、小テストから総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
実技試験と振り返りシート		30%	ポイントを理解し、努力できたか。実際に、自分の身体で課題を達成できたか。適切に自己評価・他者評価ができたか。				
課題提出		30%	レポート課題は期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記載されているか。実技課題(動画)は期日を守り、ポイントを理解したことが実際の動きで表現できているか。				
模擬指導と振り返りシート		30%	ポイントを理解し、能動的に活動できたか。わかりやすく適切な内容で実践できたか。適切に自己評価・他者評価ができたか。				
小テスト(筆記)		10%	領域「表現」に対する理解度の確認。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技) 領域「表現」と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、手遊び? 第2回(講義・演習・実技) 他者と関わる遊び、手遊び?(グループワーク) 第3回(講義・演習・実技) リズム遊び、手遊び③(グループワーク) 第4回(講義・演習・実技) 歌のある遊び、手遊び実技試験?(グループワークと発表) 第5回(講義・演習・実技) モノと関わる遊び、手遊び④(グループワーク) 第6回(講義・実技) 模擬指導ガイダンス、手遊び⑤(グループワーク) 第7回(講義・演習・実技) 実践計画(選曲)、手遊び⑥(グループワーク) 第8回(講義・演習・実技) 実践計画(内容) 手遊び実技試験②(グループワークと発表) 第9回(演習・実技) 模擬指導(グループ1)と振り返り 第10回(演習・実技) 模擬指導(グループ2)と振り返り 第11回(演習・実技) 模擬指導(グループ3)と振り返り 第12回(演習・実技) 模擬指導(グループ4)と振り返り 第13回(講義・実技) まねっこ遊び?(身体の動き)、リズム課題実技試験 第14回(講義・実技) まねっこ遊び?(モノを介して)、領域「表現」小テスト 第15回(講義・演習) 様々な子どもの表現と子どもの身体表現 ※レポート課題については、必要に応じてClassroomでコメントすることでフィードバックを行う。また、模擬指導については、都度コメントすることでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEAM1007						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34710			
科目	3471 保育方法論			授業種別	週間授業			
担当教員	山内 博子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	本授業では、保育を行う上での基本的事項、指導上の留意点を踏まえ、様々な保育方法があることを学ぶ。また、実際に教材研究や事例検討、指導案の作成を通して、保育者の仕事に対する理解、子どもの育ちを援助する保育の原点への理解を深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	△	△				
到達目標	1.保育職の意義を理解し、保育者としての使命感を高める。 2.子どもの育ちを援助するための、多様な保育方法への理解を深める。 3.保育に対する考えを深め、自分らしい保育をするための素地を培う。							
テキスト(教科書)	『乳幼児教育・保育シリーズ』『保育方法論』神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎編著(光正館) ISBN:978-4-332-70182-8							
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN:978-4577814222 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 (内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館) ISBN:978-4577814246 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN:978-4577814239							
受講条件	(幼) 必修							
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に指定箇所までテキストを読んでおくこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること(第2回～15回/0.5時間程度) 3. 授業後に指示する課題について、期日までに作成すること(第2回～12回/1時間程度) 4. 定期試験に向けて、試験範囲の復習を行うこと(第13回～15回/2時間程度)							
成績評価								
授業や課題への取り組み方、課題(指導案、事例研究、ノートの作成)の達成度、筆記試験で、総合的に評価する。 なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。								
評価項目		割合	評価基準					
授業や課題への取り組み方		30%	学習への取組を評価する。					
課題(指導案、事例研究、ノートの作成)		40%	課題に対して適切な内容・記述であるかを確認する。					
小テスト		30%	講義内容の理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義)	保育の基本と保育方法					
	第2回	(講義)	子ども理解とその方法					
	第3回	(講義)	環境の構成と保育の展開①(環境としての保育者 事例から)					
	第4回	(講義)	環境の構成と保育の展開②(遊びが充実する環境の構成 事例から)					
	第5回	(講義)	遊びの指導					
	第6回	(講義)	生活の指導					
	第7回	(演習)	発達に応じた指導①(0歳児、1歳児の事例から)(グループワーク)					
	第8回	(演習)	発達に応じた指導②(2歳児、3歳児の事例から)(グループワーク)					
	第9回	(演習)	発達に応じた指導③(4歳児、5歳児の事例から)(グループワーク)					
	第10回	(講義)	指導計画の作成の考え方					
	第11回	(演習)	指導計画の作成と保育の事例検討(ねらい・内容)					
	第12回	(演習)	指導計画の作成と保育の事例検討(環境構成・保育者の援助)					
	第13回	(演習)	指導計画の作成と保育の事例検討(子ども理解と評価)					
	第14回	(演習)	保育教材の研究(グループワーク)					
	第15回	(講義)	まとめ(保育者に求められる専門性と家庭・地域・小学校との連携)					
	※プリント・課題については、授業内で返却、質問への回答をします。また、必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行います。							
	※但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEAM2011							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34900		
科目	3490 乳児保育Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	森下 みどり			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	乳児は内面に育とうとする力を持って生まれるが、その成長には周囲の大人の創造的で応答的な関わりが必要である。この授業では、乳児期が人間形成の基礎を育む重要な時期であることを確認し、一人ひとりの健やかな育ちを保证するために、乳児期の発達や保育者の役割及び、乳児保育の意義、目的と役割を学ぶ。また、映像資料や事例を通して、乳児保育の内容や職員間の協働への理解を深める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	△	○			
到達目標	1. 乳児保育の意義、目的と歴史的変遷及び役割等を説明できる。 2. 乳児保育及び子育てで家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題を理解し、説明できる。 3. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を理解し、課題解決に向けた工夫ができる。 4. 3歳未満児の発育・発達について学び、自ら周りの環境に関わろうとする子どもへの応答的な関わりを理解し、実践できる。 5. 3歳未満児の生活と遊びにおける保育者の役割を理解し、保育計画を立案できる。 6. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や他の関係機関との連携を理解し、説明できる。						
テキスト(教科書)	『乳児の生活と保育』 松本園子編著 ななみ書房 ISBN978-4-903355-25-2						
参考書および参考文献	『保育所保育指針』 厚生労働省 (フレーベル館) ISBN:978-4577814239 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府、文部科学省、厚生労働省 (フレーベル館) ISBN:978-4577814246						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に、指定箇所まで教科書を読んでおくこと。(第2回～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に、授業で得た学びについてレポートを作成すること。 (第1回～14回/1時間程度) 3. 赤ちゃん、子育てに関する話題や出来事について、新聞や雑誌等から情報収集すること。 (第2回～15回/0.5時間程度) 4. 定期試験に向けて、小テスト及び試験範囲の復習を行うこと。 (第14回～15回/2時間程度)						
成績評価							
定期試験及び小テスト、授業や課題への取り組み方、課題の達成度を総合的に評価する。課題レポートは記述内容や提出状況により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		40%	筆記試験にて理解度を確認する。				
小テスト		20%	講義内容の理解度を確認する。				
授業や課題への取り組み方		20%	内容を理解して、グループワークや意見交換、課題に対して積極的に取り組むことが出来たかを確認する。				
課題レポート		20%	授業内で提示する課題に対して、適切な内容で記述されているかを確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 乳児保育の意義・目的と役割 (乳児保育の歴史・役割と機能) 第2回(講義) 乳児保育の意義・目的と役割 (乳児保育における養護及び教育) 第3回(講義) 乳児保育の意義・目的と役割 (子どもと保護者を取り巻く状況及び乳児保育の現状) 第4回(講義・演習) 乳児保育の実際 (保育所における乳児保育、及び保育者の役割) (ディレィプログラム作成) 第5回(講義) 乳児保育の実際 (乳児院・家庭的保育における乳児保育) 第6回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (環境を通して行う保育) 第7回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (6か月未満) 第8回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (6か月～1歳未満) 第9回(講義・演習) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (6か月～1歳未満) (グループディスカッション) 第10回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (1歳～1歳6未満) 第11回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (1歳7か月～2歳未満) 第12回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育 (2歳) 第13回(講義) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮 第14回(講義) 乳児保育における計画・記録・評価 (作成の視点) 第15回(講義・演習) 乳児保育における連携・協働 (グループディスカッション) ※小テスト・プリント・課題については、授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。 ※ただし受講生の習熟度により授業計画を変更することもある						
ナンバリング	PECM1004						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	34920		
科目	3492 乳児保育Ⅱ (H28入学生～)			授業種別	週間授業		
担当教員	森下 みどり			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	『乳児保育Ⅰ』で学習したことを基礎として、乳児の生活や遊びの内容、環境構成、指導方法、保育の計画・記録・評価、そして個々の発達に合わせた受容的で応答的な関わりや養護の視点を踏まえた援助の仕方を学ぶ。また、保育ニーズの多様化に伴い、子どもの多様な人間関係と様々な生活を経験する場として、保育所が重要な役割を担っていることに対する理解を深める。さらに、家庭や地域、関係機関との連携、子育て支援、乳児を取り巻く環境の変化などの諸問題への対応、及び乳児保育における保育者が担う役割について、具体的な事例を通して検討する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○			
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達の特徴を理解し、基本的な援助や関わり方を具体的に説明でる。 2. 乳児の特性を踏まえて、乳児保育の計画を作成できる。 3. 乳児保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等の知識を修得し、説明できる。 4. 養護及び教育の一体性を踏まえ、個々の発達を促す生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、適切な対応ができる。 5. 乳児保育における配慮（健康・安全、情緒の安定、集団、環境）の実践について理解し、具体的に説明できる。 6. 乳児保育における保護者への支援や関係機関との連携について学び、保育者としての役割を自覚し、具体的に説明できる。						
テキスト(教科書)	『乳児の生活と保育』 松本園子編著 ななみ書房 ISBN：978-4-903355-25-2 C3037						
参考書および参考文献	『保育所保育指針』 厚生労働省（フレーベル館） ISBN:978-4577814239 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館） ISBN:978-4577814246 『認定給本士養成講座テキスト』 給本専門士委員会課程認定部会認定給本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編（中央法規出版） ISBN:978-4805882252						
受講条件	『乳児保育Ⅰ』（1年次秋学期履修）を履修済みであること。（保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 「乳児保育Ⅰ」で学習した内容の復習。（第1回～2回/1時間程度） 2. 毎授業前に、指定箇所まで教科書を読んでおくこと。（第2回～15回/0.5時間程度） 3. 毎授業後に、授業で得た学びについてレポートを作成すること。 （第1回～14回/0.5時間程度） 4. 地域における子育て支援等に積極的に外向き、自主実習をすること。 （第5回～15回/1時間程度） 5. 定期試験に向けて、小テスト及び試験範囲の復習を行うこと。 （第14回～15回/2時間程度）						
成績評価							
定期試験及び小テスト、授業や課題への取り組み方、課題の達成度を総合的に評価する。課題レポートは記述内容・提出状況により評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目	割合		評価基準				
定期試験	40%		筆記試験にて理解度を確認する。				
小テスト	20%		講義内容の理解度を確認する。				
授業や課題への取り組み方	20%		内容を理解して、グループワークや意見交換、課題に対して、積極的に取り組むことが出来たかを確認する。				
課題レポート	20%		授業内で提示する課題に対して、適切な内容で記述されているかを確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習）ガイダンス 乳児保育の重要性（養護と教育の一体性） （グループディスカッション） 第2回（講義）乳児保育における計画の実践（保育所保育指針のポイント） 第3回（講義・演習）乳児保育における計画の実践（記録と自己評価） 第4回（講義）身体機能の発達と保育（運動機能の発達） 第5回（講義）身体機能の発達と保育（手の発達と保育） 第6回（講義）身体機能の発達と保育（遊びと保育） 第7回（講義・演習）基本的生活習慣の獲得と保育（食事） 第8回（講義・演習）基本的生活習慣の獲得と保育（排泄・睡眠） 第9回（講義）基本的生活習慣の獲得と保育（着脱・清潔） 第10回（講義・演習）基本的生活習慣の獲得と保育（健康・安全のための生活） （グループディスカッション・発表） 第11回（講義・演習）【認定給本士養成講座該当科目】 給本と出会う②（保育・教育の場での出会い） 第12回（講義・演習）対人関係の発達と保育（ことばの発達・人とかかわる） （グループディスカッション・発表） 第13回（講義・演習）対人関係の発達と保育（人的・物的環境と遊び）（遊びの体験） 第14回（講義）乳児の養育環境と乳児保育の課題（家庭・地域・その他の機関との連携・児童虐待問題） 第15回（講義・演習）多様化する保育ニーズと今日の課題（子育て支援・保護者対応） （グループディスカッション） ※小テスト・プリント・課題については、授業内で質問への回答、返却をする。必要に応じて、コメントを記載して返却することでフィードバックを行う。 ※ただし受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PECM2009						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	34930		
科目	3493 特別支援教育・保育Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	熊谷 享子			単位数	1		
その他担当者	葛谷 潔昭						
授業概要	インクルーシブ教育・保育について、歴史的背景や理念、制度、実践についての理解を促す。発達障害や軽度知的障害を含めた障害全般について、発達や生活上の困難について理解するとともに、障害はないが母国語が日本語ではない家庭の子どもや保護者に対する支援、貧困の問題による子どもや保護者への影響と支援など、特別な支援を必要とする子どもたちへの理解と支援方法について学ぶ。個別の支援計画や個別指導計画についての作成意義と方法について学び、自立活動の内容について理解する。特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携の重要性について学ぶ。 講義以外に映像資料を用いて、障害の特徴について理解を深める。また、障害に関わるテーマを設定し、ディスカッションを進める中で、自分の中の障害児者像への気づきを促す。保育所等で障害児を含む保育を進める中で支援が必要な場面について、具体的な事例に基づき支援の方法を考える。 授業内の課題提出やスライドの掲示等を行うためにclassroomを使用することがあるので、スマートフォン等の端末を持参すること。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		◎			
到達目標	1.障害の概念についてし、ICF(国際機能生活分類)の視点を理解し、障害に関する自分の考えに気づき、多面的な視点から障害を捉えることができるようになる。具体的な事例をICFに当てはめることができる。 2.インクルーシブ教育・保育のとらえ方および実践について学び、特別支援教育の制度について説明できる。 3.各障害に関する行動上、生活上の困難への理解と支援の方法について具体的に示すことができる。 4.特別支援学校幼稚部教育要領について理解し、自立活動の意義について述べるができる。 5.母国語や貧困など様々な問題を抱えた子どもや保護者への理解と、支援の必要性を説明できる。 6.個別的教育支援計画と個別指導計画の関係を知り、作成の意義と方法を説明できる。 7.特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携の重要性を述べることができる。						
テキスト(教科書)	『気になる子のインクルーシブ教育・保育』（野内友規・綿引清勝編著、中央法規）ISBN:978-4-8058-8716-5 『認定給本土養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定給本土養成講座テキスト作成ワーキンググループ・編 絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行（中央法規） ISBN:978-4805882252						
参考書および参考文献	参考書、参考文献については授業内で示していく。 授業内容について担当者がまとめた資料を毎時間配布する。						
受講条件	(幼・保)必修						
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前にテキスト内の指定された箇所について予習をすること（第2～15回／1時間程度） 授業内に配布された資料について見直し、疑問点を明らかにすること（第1～15回／1時間程度） 第16回 定期試験 テキスト、配布資料、授業内で行った課題について復習すること（第12～15回/2時間程度）						
成績評価							
課題提出状況や課題達成状況・試験など総合的に評価する。なお、居眠りや本授業内容と関係ないことを行うなど、授業への取り組み状況によって減点対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		70%	筆記試験で理解度を確認する。				
課題		30%	提出課題の内容によって評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義)	障害の概念について				
	第2回	(講義)	インクルーシブ教育・保育の理解				
	第3回	(講義)	特別支援教育に関する制度				
	第4回	(講義・演習)	知的障害児の理解と支援(ディスカッション)				
	第5回	(講義)	発達障害の理解と支援				
	第6回	(講義)	発達障害の疑似体験(担当:葛谷先生)				
	第7回	(講義)	視覚・聴覚障害の理解と支援				
	第8回	(講義)	肢体不自由児の理解と支援(担当:富田秀仁)				
	第9回	(講義)	てんかんの理解と対応方法について				
	第10回	(講義・演習)	重症心身障害児の理解と支援(ディスカッション)				
	第11回	(講義)	【認定給本土養成講座該当科目】絵本を紹介する技術③ 支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割(講座用課題有)				
	第12回	(講義・演習)	特別支援学校幼稚部教育要領の内容と自立活動の理解(グループワーク)				
	第13回	(講義・演習)	様々な特別ニーズをもつ子ども及び保護者への支援の必要性について(グループワーク)				
	第14回	(講義)	個別的教育支援計画および個別指導計画作成の意義と方法				
	第15回	(講義・演習)	特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携(グループワーク)				
※提出課題については返却し、添削により、あるいは授業内で内容のフィードバックを行う。 ※但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEBM2008						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	34931		
科目	3493 特別支援教育・保育Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	熊谷 享子			単位数	1		
その他担当者	葛谷 潔昭						
授業概要	インクルーシブ教育・保育について、歴史的背景や理念、制度、実践についての理解を促す。発達障害や軽度知的障害を含めた障害全般について、発達や生活上の困難について理解するとともに、障害はないが母国語が日本語ではない家庭の子どもや保護者に対する支援、貧困の問題による子どもや保護者への影響と支援など、特別な支援を必要とする子どもたちへの理解と支援方法について学ぶ。個別の支援計画や個別指導計画についての作成意義と方法について学び、自立活動の内容について理解する。特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携の重要性について学ぶ。 講義以外に映像資料を用いて、障害の特徴について理解を深める。また、障害に関わるテーマを設定し、ディスカッションを進める中で、自分の中の障害児者像への気づきを促す。保育所等で障害児を含む保育を進める中で支援が必要な場面について、具体的な事例に基づき支援の方法を考える。 授業内の課題提出やスライドの掲示等を行うためにclassroomを使用することがあるので、スマートフォン等の端末を持参すること。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		◎			
到達目標	1.障害の概念についてし、ICF(国際機能生活分類)の視点を理解し、障害に関する自分の考えに気づき、多面的な視点から障害を捉えることができるようになる。具体的な事例をICFに当てはめることができる。 2.インクルーシブ教育・保育のとらえ方および実践について学び、特別支援教育の制度について説明できる。 3.各障害に関する行動上、生活上の困難への理解と支援の方法について具体的に示すことができる。 4.特別支援学校幼稚部教育要領について理解し、自立活動の意義について述べることができる。 5.母国語や貧困など様々な問題を抱えた子どもや保護者への理解と、支援の必要性を説明できる。 6.個別的教育支援計画と個別指導計画の関係を知り、作成の意義と方法を説明できる。 7.特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携の重要性を述べることができる。						
テキスト(教科書)	『気になる子のインクルーシブ教育・保育』（野内友規・綿引清勝編著、中央法規）ISBN:978-4-8058-8716-5 『認定給本土養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定給本土養成講座テキスト作成ワーキンググループ・編 絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行（中央法規） ISBN:978-4805882252						
参考書および参考文献	参考書、参考文献については授業内で示していく。 授業内容について担当者がまとめた資料を毎時間配布する。						
受講条件	(幼・保)必修						
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前にテキスト内の指定された箇所について予習をすること(第2～15回/1時間程度) 授業内に配布された資料について見直し、疑問点を明らかにすること(第1～15回/1時間程度) 第16回 定期試験 テキスト、配布資料、授業内で行った課題について復習すること(第12～15回/2時間程度)						
成績評価							
課題提出状況や課題達成状況・試験など総合的に評価する。なお、居眠りや本授業内容と関係ないことを行うなど、授業への取り組み状況によって減点対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		70%	筆記試験で理解度を確認する。				
課題		30%	提出課題の内容によって評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義)	障害の概念について				
	第2回	(講義)	インクルーシブ教育・保育の理解				
	第3回	(講義)	特別支援教育に関する制度				
	第4回	(講義・演習)	知的障害児の理解と支援(ディスカッション)				
	第5回	(講義)	発達障害の理解と支援				
	第6回	(講義)	発達障害の疑似体験(担当:葛谷先生)				
	第7回	(講義)	視覚・聴覚障害の理解と支援				
	第8回	(講義)	肢体不自由児の理解と支援(担当:富田秀仁)				
	第9回	(講義)	てんかんの理解と対応方法について				
	第10回	(講義・演習)	重症心身障害児の理解と支援(ディスカッション)				
	第11回	(講義)	【認定給本土養成講座該当科目】絵本を紹介する技術③ 支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割(講座用課題有)				
	第12回	(講義・演習)	特別支援学校幼稚部教育要領の内容と自立活動の理解(グループワーク)				
	第13回	(講義・演習)	様々な特別ニーズをもつ子ども及び保護者への支援の必要性について(グループワーク)				
	第14回	(講義)	個別的教育支援計画および個別指導計画作成の意義と方法				
	第15回	(講義・演習)	特別支援教育コーディネーターの役割と関係機関との連携(グループワーク)				
※提出課題については返却し、添削により、あるいは授業内で内容のフィードバックを行う。 ※但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEBM2008						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34940		
科目	3494 特別支援教育・保育Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	池田 信子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	特別支援教育・保育Ⅰで理解した内容を基に、療育で用いられている技法についてワークを行ったり、視聴覚教材を利用したりしながら理解を深める。保育所等での個別の支援や配慮、子ども同士の関わり合いについて、グループで事例検討しながら学ぶ。家族支援や就学に向けた援助について学ぶ。障害児保育に関わる歴史的変遷について押さえ、インクルーシブ保育の意義や共生社会の構築への理解を深める。 授業内の課題提出やスライドの掲示等について、classroomを使用する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎			
到達目標	1.様々な障害やその他の特別な支援を必要とする乳幼児に対する専門的な療育の方法を知り、集団生活の場での集団への支援と個々にあった支援方法を工夫することができる 2.障害児保育の歴史的変遷について理解し、インクルーシブ保育の概念について説明できる 3.小学校との連携について、その意義と方法について説明できる。 4.個別指導計画の作成方法について知り、立案できる。						
テキスト(教科書)	『気になる子のインクルーシブ教育・保育』（野内友規・綿引清勝編著、中央法規）ISBN:978-805887165（特別支援教育・保育Ⅰで購入済み）						
参考書および参考文献	参考書、参考文献については授業内で示していく。 授業内容について担当者がまとめた資料を毎時間配布する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	事前に配布される資料を読み、理解しておくこと(第2回、第8回/1時間) 授業内に配布された資料について見直し、疑問点を明らかにすること(第1～15回/1.5時間程度) 第16回定期試験 テキスト、配布資料、授業内で行った課題について復習すること(第13～15回/2時間程度)						
成績評価							
課題提出・試験など総合的に評価する。なお、居眠りや本授業内容と関係ないことを行うなど、授業への取り組み状況によって減点対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		70%	筆記試験で理解度を確認する。				
課題		30%	提出課題の内容によって評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)ガイダンス 集団への働きかけと個別の配慮について 第2回(講義)障害児支援の方法と理論(1)(応用行動分析の理論) 第3回(講義)障害児支援の方法と理論(2)(応用行動分析の事例検討) 第4回(講義)障害児支援の方法と理論(3)(TEACCH・ボーディング早期教育プログラムについて) 第5回(講義)障害児支援の方法と理論(4)(感覚統合療法・スヌーズレンについて) 第6回(講義)障害児支援の方法と理論(5)(太田ステージについて stage1) 第7回(講義)障害児支援の方法と理論(6)(太田ステージについて stage2～3) 第8回(演習) 保育所等での子ども同士のかかわり合いと育ち合い(1)(発達障害児の事例から)(グループワーク・プレゼンテーション) 第9回(講義)肢体不自由児の療育の実践(担当:富田秀仁) 第10回(演習) 保育所等での子ども同士のかかわり合いと育ち合い(2)(肢体不自由児の事例から)(グループワーク) 第11回(演習)実習で見られた障害児の行動特徴と支援のまとめ(グループワーク) 第12回(講義・演習) 個別指導計画の作成方法について(グループワーク) 第13回(演習) 個別指導計画の作成(グループワーク) 第14回(講義) 専門機関との連携について(地域の専門機関を知る) 第15回(講義・演習) 障害児保育の歴史的変遷と現在の課題(ディスカッション) ※提出課題については返却し、個別の添削あるいは授業内で全体に対して内容のフィードバックを行う。 ※但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEBM2009						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34941		
科目	3494 特別支援教育・保育Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	池田 信子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	特別支援教育・保育Ⅰで理解した内容を基に、療育で用いられている技法についてワークを行ったり、視聴覚教材を利用したりしながら理解を深める。保育所等での個別の支援や配慮、子ども同士の関わり合いについて、グループで事例検討しながら学ぶ。家族支援や就学に向けた援助について学ぶ。障害児保育に関わる歴史的変遷について押さえ、インクルーシブ保育の意義や共生社会の構築への理解を深める。 授業内の課題提出やスライドの掲示等について、classroomを使用する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎			
到達目標	1.様々な障害やその他の特別な支援を必要とする乳幼児に対する専門的な療育の方法を知り、集団生活の場での集団への支援と個々にあった支援方法を工夫することができる 2.障害児保育の歴史的変遷について理解し、インクルーシブ保育の概念について説明できる 3.小学校との連携について、その意義と方法について説明できる。 4.個別指導計画の作成方法について知り、立案できる。						
テキスト(教科書)	『気になる子のインクルーシブ教育・保育』（野内友規・綿引清勝編著、中央法規）ISBN:978-805887165（特別支援教育・保育Ⅰで購入済み）						
参考書および参考文献	参考書、参考文献については授業内で示していく。 授業内容について担当者がまとめた資料を毎時間配布する。						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	事前に配布される資料を読み、理解しておくこと(第2回、第8回/1時間) 授業内に配布された資料について見直し、疑問点を明らかにすること(第1～15回/1.5時間程度) 第16回定期試験 テキスト、配布資料、授業内で行った課題について復習すること(第13～15回/2時間程度)						
成績評価							
課題提出・試験など総合的に評価する。なお、居眠りや本授業内容と関係ないことを行うなど、授業への取り組み状況によって減点対象となることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		70%	筆記試験で理解度を確認する。				
課題		30%	提出課題の内容によって評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)ガイダンス 集団への働きかけと個別の配慮について 第2回(講義)障害児支援の方法と理論(1)(応用行動分析の理論) 第3回(講義)障害児支援の方法と理論(2)(応用行動分析の事例検討) 第4回(講義)障害児支援の方法と理論(3)(TEACCH・ボーディング早期教育プログラムについて) 第5回(講義)障害児支援の方法と理論(4)(感覚統合療法・スヌーズレンについて) 第6回(講義)障害児支援の方法と理論(5)(太田ステージについて stage1) 第7回(講義)障害児支援の方法と理論(6)(太田ステージについて stage2～3) 第8回(演習) 保育所等での子ども同士のかかわり合いと育ち合い(1)(発達障害児の事例から)(グループワーク・プレゼンテーション) 第9回(講義)肢体不自由児の療育の実践(担当:富田秀仁) 第10回(演習) 保育所等での子ども同士のかかわり合いと育ち合い(2)(肢体不自由児の事例から)(グループワーク) 第11回(演習)実習で見られた障害児の行動特徴と支援のまとめ(グループワーク) 第12回(講義・演習) 個別指導計画の作成方法について(グループワーク) 第13回(演習) 個別指導計画の作成(グループワーク) 第14回(講義) 専門機関との連携について(地域の専門機関を知る) 第15回(講義・演習) 障害児保育の歴史的変遷と現在の課題(ディスカッション) ※提出課題については返却し、個別の添削あるいは授業内で全体に対して内容のフィードバックを行う。 ※但し、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEBM2009						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	34950		
科目	3495 子育て支援			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 順子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	・保育現場で展開される子育て支援は、子どもに対する支援、保護者に対する支援、そして、子どもと親をつなぐ支援、地域の子育てに対する支援と多様になり、その専門家としての保育士の役割に期待が高まっている。特に、保護者に対する支援には、保育ソーシャルワークの視点が必要であり、子どもの最善の利益の尊重を前提に、子どもと家庭の幸福(well-being)の実現に向けて、保育とソーシャルワークの学術的領域における新たな理論と実践を構築していく必要がある。子育て支援を行うための基礎的な知識、技法の取得、ならびに支援者として必要な自己理解を深めることを目指す。演習を多く取り入れ、事例などを活用した具体的な解説を行う。 ・自己理解を深めるため、心理テストなどを体験し、支援者としての自分の強みを知る。 *この科目は該当授業内容に関する行政の子育て支援の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義等を行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 子育て支援の歴史、背景、政策の現状と課題を理解できる 2. 子育て家庭を取り巻く社会状況を説明できる 3. 地域の子育て支援の現状を調査し、課題を自らの言葉で説明できる 4. 保育ソーシャルワークについての説明ができる						
テキスト(教科書)	必要に応じプリント等を配布する。						
参考書および参考文献	1. 『子育て支援』新基本保育シリーズ®(中央法規) ISBN978-4-8058-5799-1 2. 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN:978-4577814239 3. 『はじまりは愛着から』(佐々木正美著, 福音館書店, 2017) ISBN: 9784834083453 4. 『月刊 新聞からできた本シリーズこども』(クマノミ出版) (ISBNなし)						
受講条件	(保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業内で指示する内容・キーワードについて事前に調べて、自分なりの考えを持った上で授業に取り組むこと(第1回~15回/0.5時間程度) 2. 授業内で扱った内容や得られた学びについて資料を読み返して復習をすること(第1回~15回/0.5時間程度)						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、受講態度によっては減点の対象となることがある。 (1)毎回提出の「リアクションペーパー(授業振り返りシート)」の記載内容を評価する。 (2)ロールプレイなどの演習への取り組みを評価する。 (3)近年の子育て家庭での課題についてレポートを2回提出し、習熟度を評価する。 (4)子育て家庭を取り巻く背景に関して調査しグループで発表する。発表の内容を評価する。						
評価項目		割合	評価基準				
(1)課題レポート(最終レポート)		20%	講義内容の理解度を確認する。子育て支援に関する習熟度を評価する				
(2)授業内演習への参加		30%	授業内で実施する演習への取り組みを評価する				
(3)レポート(2回) ①子育て支援に関する用語を調べる ②現代の子育ての課題		30%	課題に基づいてレポートを提出し、理解度・習熟度を評価する。				
(4)口頭発表		20%	子育て家庭の問題についてグループごとに発表し、内容を評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス、「子育て支援」とは何か 第2回(講義) 子育て支援の背景と意義 第3回(講義) 要保護家庭への支援 第4回(講義) 産前産後の支援 第5回(講義) 障害のある子どもの理解と支援 第6回(講義) 障害のある子どもの家族(保護者・きょうだい)への理解と支援 第7回(講義・演習) 自己覚知・心理テスト「エゴグラム」 第8回(講義・演習) 災害弱者の心理と子育て支援 第9回(講義) 研究発表・課題レポートの説明 第10回(講義) 外国籍の子どもとその家庭への支援 第11回(講義) 多様な子どもの理解と支援①(見た目問題、愛着障害など) 第12回(講義) 多様な子どもの理解と支援②(子どもの貧困、ヤングケアラー) 第13回(演習) 研究発表(グループ) 第14回(演習) 研究発表(グループ)、講評 第15回(講義) 子育て支援に関するまとめ(最終レポート提出) ※1…習熟度に応じて計画を変更する可能性がある。 ※2…第5回目の授業終了、第10回目の授業終了までに、レポートを提出する。提出が遅れると減点される。 ※3…第15回の授業終了時までに最終レポートを提出する。提出が遅れると減点される。 ○上記※2、※3の課題、ならびに、毎回の授業終了時に記入する振り返りシートに対するフィードバックについては、今後の学習に役立つように、解説、コメントを行う。そのコメント時、個人が特定されないように配慮する。						
ナンバリング	PEBM2010						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	35110		
科目	3511 児童文化			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	児童文化は子どもの生活の全てに関わるものであるが、この授業では子どもの生活を豊かにする遊びや行事に着目する。保育者を目指す学生が保育所や幼稚園などで取り入れられている様々な遊びや行事、協同的活動の楽しさや意味を学び、子どもに提供するための創造性や感性を磨く。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○	△			
到達目標	1. グループワークを通して社会性を育みながら、協力して表現することを楽しむ。 2. 素材ごとに適した道具を使用することができる。 3. 子どもの視点に立った思考により、子どものための環境づくりができる。						
テキスト(教科書)	なし						
参考書および参考文献	適宜資料を用いる。						
受講条件	なし						
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 授業計画に即し制作の構想を立て、特にグループワークでは計画的に進めること。また、時間内に完成できなかった個人制作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。 複数回に亘って制作する際には、どのように制作を進めていくのか、グループワークであれば計画を共有しておく必要がある。また、終了時には進行具合の確認と、残りの時間を使ってできる事の新たな試案、今後の進め方を考えること。						
成績評価							
協同的な活動への取り組み方を20%、個人制作作品の仕上がりを60%、その他の提出物を20%で総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。							
評価項目		割合	評価基準				
協同的な活動		20%	協同的な活動に積極的な参加ができているか。他者への配慮ができているか。造形活動を楽しめているか。				
個人制作作品		60%	作品が丁寧に作られているか。造形活動の楽しさを感じさせる仕上がりが。				
その他の提出物		20%	提出物の期限が守られたか、また記述内容を確認し、理解度をはかる。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(演習) ガイダンス 発達と児童画					
	第2回	(演習) 子どもの造形実践を計画①(計画)					
	第3回	(演習) オビでつくろう、あそぼう					
	第4回	(演習) 紙トンボをつくろう、ダブルリングヒコキをつくろう					
	第5回	(演習) ブラックライトをつくろう、まっくろくろすけをつくろう					
	第6回	(演習) 子どもの造形実践を計画①(実践)					
	第7回	(演習) 子どもの造形実践を計画②(計画)					
	第8回	(演習) 紙コッコをつくろう、水笛をつくろう					
	第9回	(演習) プラ板であそぼう、アイロントローであそぼう					
	第10回	(演習) すてきなキャンドルをつくろう					
	第11回	(演習) 仮面をつくろう					
	第12回	(演習) 子どもの造形実践を計画②(実践)					
	第13回	(演習) リアルな野菜をつくろう					
	第14回	(演習) リアルな野菜をつくろう					
	第15回	(演習) 郷土玩具を調べよう					
		※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。					
ナンバリング	PEDM2012						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	35320		
科目	3532 情報教育入門			授業種別	週間授業		
担当教員	佐野 真一郎			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	本演習では教育工学の理論的解説はもちろん、実際に専門職に就いた際に行われるであろう業務内容を想定し授業を進める。コンピュータを一つの必要不可欠な道具として使えるようになること、そしてネットワークモラルを常に意識し、保育者として必要な情報発信ができることを目標としている。また、併せて情報探索方法（データベース検索の利用、学修における生成AI利用の注意点等）や情報整理・分析、へ言及し、適切な情報アウトプット（報告書、図だより等）ができることも目標とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○				
到達目標	1. 情報機器の基本的操作ができる 2. ワープロ系アプリケーションの操作に習熟する 3. 保育者として必要な情報リテラシーを説明できる 4. 情報を探索し、分析・整理を行い簡単な情報発信が行える（レポート、図便りの作成等）						
テキスト（教科書）	『よくわかるMicrosoft Office Word 2021ドリル』FOM出版編 FOM出版 ISBN: 9784867750322						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針』（厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81241-9 上記以外必要な場合には、授業時に適宜指示する。						
受講条件	（幼）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 基礎的なTyping練習を行うこと（第1回～15回：1.3時間相当） 2. 各回の授業で行ったことは、必ず復習しておくこと（第1回～15回：1.7時間相当） 3. 情報関係の記事は、常に関心を持ち、必要な場合にはその記事をフォローすること（第2回～15回：0.3時間相当）						
成績評価							
授業の到達目標をどの程度できるかで、評価する。 ただし、授業態度が不良な場合には、減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準				
課題テスト		40%	課題に対して決められた時間内に、正確に行えるかで評価				
課題制作		45%	図だよりを、授業で習熟した技術を駆使し、適切に作成できるかで評価				
小テスト		15%	情報リテラシーに関する理解の程度で評価				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習） ガイダンス（メール設定・転送設定） 第2回（講義・演習） コンピュータの基本操作（本学のネットワーク環境について） 第3回（講義・演習） ネットワーク上のモラルについて（著作権を含む） 第4回（講義・演習） 電子メールの仕組みと利用方法、SNS等の利用モラルについて 第5回（講義・演習） Webの利用（検索エンジンを利用して子ども情報を集める、様々な情報探索について、学修における生成AI利用の注意点、等） 第6回（講義・演習） ワードの基礎（2021の基本的操作方法） 第7回（講義・演習） ワードの基礎（文章の入力とオブジェクトの挿入） 第8回（演習） ワードの応用1（文章の整形と装飾） 第9回（演習） ワードの応用2（文章に使うオブジェクトの作成） 第10回（演習） 図便りの作成1（情報探索） 第11回（演習） 図便りの作成2（情報の取捨選択、必要な情報は何か？情報分析について） 第12回（演習） 図便りの作成3（図の挿入、オートシェイプの使い方） 第13回（演習） 図便りの作成4（文書の整形等） 第14回（演習） 図便りの作成5（1～4の応用、情報のアウトプット等） 第15回（演習） 課題の発表（プレゼンテーション） ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題（問題演習等）のフィードバックは、講義の中で適宜行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEDM1003						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	35321		
科目	3532 情報教育入門			授業種別	週間授業		
担当教員	佐野 真一郎			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	本演習では教育工学の理論的解説はもちろん、実際に専門職に就いた際に行われるであろう業務内容を想定し授業を進める。コンピュータを一つの必要不可欠な道具として使えるようになること、そしてネットワークモラルを常に意識し、保育者として必要な情報発信ができることを目標としている。また、併せて情報探索方法（データベース検索の利用、学修における生成AI利用の注意点等）や情報整理・分析、へ言及し、適切な情報アウトプット（報告書、図だより等）ができることも目標とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○				
到達目標	1. 情報機器の基本的操作ができる 2. ワープロ系アプリケーションの操作に習熟する 3. 保育者として必要な情報リテラシーを説明できる 4. 情報を探索し、分析・整理を行い簡単な情報発信が行える（レポート、図便りの作成等）						
テキスト（教科書）	『よくわかるMicrosoft Office Word 2021ドリル』FOM出版編 FOM出版 ISBN: 9784867750322						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針』（厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81241-9 上記以外必要な場合には、授業時に適宜指示する。						
受講条件	（幼）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 基礎的なTyping練習を行うこと（第1回～15回：1.3時間相当） 2. 各回の授業で行ったことは、必ず復習しておくこと（第1回～15回：1.7時間相当） 3. 情報関係の記事は、常に関心を持ち、必要な場合にはその記事をフォローすること（第2回～15回：0.3時間相当）						
成績評価							
授業の到達目標をどの程度できるかで、評価する。 ただし、授業態度が不良な場合には、減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準				
課題テスト		40%	課題に対して決められた時間内に、正確に行えるかで評価				
課題制作		45%	図だよりを、授業で習熟した技術を駆使し、適切に作成できるかで評価				
小テスト		15%	情報リテラシーに関する理解の程度で評価				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習） ガイダンス（メール設定・転送設定） 第2回（講義・演習） コンピュータの基本操作（本学のネットワーク環境について） 第3回（講義・演習） ネットワーク上のモラルについて（著作権を含む） 第4回（講義・演習） 電子メールの仕組みと利用方法、SNS等の利用モラルについて 第5回（講義・演習） Webの利用（検索エンジンを利用して子ども情報を集める、様々な情報探索について、学修における生成AI利用の注意点、等） 第6回（講義・演習） ワードの基礎（2021の基本的操作方法） 第7回（講義・演習） ワードの基礎（文章の入力とオブジェクトの挿入） 第8回（演習） ワードの応用1（文章の整形と装飾） 第9回（演習） ワードの応用2（文章に使うオブジェクトの作成） 第10回（演習） 図便りの作成1（情報探索） 第11回（演習） 図便りの作成2（情報の取捨選択、必要な情報は何か？情報分析について） 第12回（演習） 図便りの作成3（図の挿入、オートシェイプの使い方） 第13回（演習） 図便りの作成4（文書の整形等） 第14回（演習） 図便りの作成5（1～4の応用、情報のアウトプット等） 第15回（演習） 課題の発表（プレゼンテーション） ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題（問題演習等）のフィードバックは、講義の中で適宜行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEDM1003						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	35440			
科目	3544 教育工学演習Ⅰ			授業種別	週間授業			
担当教員	佐野 真一郎			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	本演習では、1年春学期に「情報教育入門」で学修(習)したことを礎石にしながら、より一層教育現場で必要とされる業務内容をパソコンで行うこと、さらに簡単なPCを利用して簡単な教材を作成すること目標とする。具体的には、ワードの応用ならびに、表計算ソフト(エクセル)の基礎から応用、パワーポイントを利用した「電子紙芝居」作りを行う。またこれらに加えて、情報発信等する際の保育者のネットリテラシーについて言及する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					
到達目標	1. 表計算系アプリケーションの操作に習熟する。 2. ワープロ系ソフトの応用、表計算系ソフトの利用により、より精緻な情報発信を行える基礎力を身に付ける。(公衆送信権を含む) 3. プレゼンテーション系ソフトを用い、簡単な子ども向け教材が作れる。 4. ネットワークを利用し、必要な情報を探索、精査できる。							
テキスト(教科書)	『30時間でマスター Excel2021』実教出版編集部編 実教出版 ISBN:978-4-407-35940-4 『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ・編絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行 出版社 中央法規 ISBN:978-4805882252							
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼児連携型認定こども園 教育・保育要領』 (内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9 『よくわかるMicrosoft Office Word 2021ドリル』FOM出版編 FOM出版 ISBN:9784867750322							
受講条件	(幼)必修							
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容 1. 基礎的なTyping練習を行うこと(第1回～15回:1.3時間相当) 2. 授業時に行った箇所は、必ず復習しておくこと(第1回～15回:1.7時間相当) 3. 新しい情報機器等が現れた場合には、必ずそのニュースをフォローすること(第1回～15回:0.5時間相当) 上記以外が必要な場合には、適宜指示する。							
成績評価	課題テスト(3回)80%、プレゼンテーション20%の割合で評価する。							
評価項目		割合	評価基準					
課題テスト(3回)		80%	課題内容を、どの程度の時間で、正確かつ丁寧にこなせるかで評価					
プレゼンテーション		20%	電子紙芝居のストーリー、技術、発表の三点で評価					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス 第2回(演習) グラフィック機能を使い表現力アップを学ぶ(Word) 第3回(演習) フォームを使つての効率的な入力方法を学ぶ(Word) 第4回(演習) Web対応機能に習熟する(情報発信に關しての保育者の役割を知る) 第5回(演習) エクセルの基礎 第6回(演習) (エクセルの四則演算(オートフィル利用を含む)) 第7回(演習) エクセルの関数(最大、最小等の関数を使いこなす) 第8回(演習) エクセルの関数(Max、Min、Sum等の関数を使いこなす) 第9回(演習) エクセルの関数(Average、Rank、If等の関数を使いこなす) 第10回(講義・演習) パワーポイントの基礎(各機能を知る) 第11回(講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)(認定講座用課題有) 第12回(演習)「電子紙芝居」を創る1(ストーリー作成、ペイントの利用) 第13回(演習)「電子紙芝居」を創る2(素材収集、クリエイティブコモンズを意識する) 第14回(演習)「電子紙芝居」を創る3(メディアミックスを意識した作品発表)(プレゼンテーション) 第15回(講義・演習) まとめ(保育者としてICT利用の留意点【ネットリテラシー】を意識する) ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題(問題演習等)のフィードバックは、講義の中で適宜行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEDM1004							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	35441			
科目	3544 教育工学演習Ⅰ			授業種別	週間授業			
担当教員	佐野 真一郎			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	本演習では、1年春学期に「情報教育入門」で学修(習)したことを礎石にしながら、より一層教育現場で必要とされる業務内容をパソコンで行うこと、さらに簡単なPCを利用して簡単な教材を作成すること目標とする。具体的には、ワードの応用ならびに、表計算ソフト(エクセル)の基礎から応用、パワーポイントを利用した「電子紙芝居」作りを行う。またこれらに加えて、情報発信等する際の保育者のネットリテラシーについて言及する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○					
到達目標	1. 表計算系アプリケーションの操作に習熟する。 2. ワード系ソフトの応用、表計算系ソフトの利用により、より精緻な情報発信を行える基礎力を身に付ける。(公衆送信権を含む) 3. プレゼンテーション系ソフトを用い、簡単な子ども向け教材が作れる。 4. ネットワークを利用し、必要な情報を探索、精査できる。							
テキスト(教科書)	『30時間でマスター Excel2021』実教出版編集部編 実教出版 ISBN:978-4-407-35940-4 『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ・編絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行 出版社 中央法規 ISBN:978-4805882252							
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』 (内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9 『よくわかるMicrosoft Office Word 2021ドリル』FOM出版編 FOM出版 ISBN:9784867750322							
受講条件	(幼) 必修							
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容 1. 基礎的なTyping練習を行うこと(第1回～15回:1.3時間相当) 2. 授業時に行った箇所は、必ず復習しておくこと(第1回～15回:1.7時間相当) 3. 新しい情報機器等が現れた場合には、必ずそのニュースをフォローすること(第1回～15回:0.5時間相当) 上記以外が必要な場合には、適宜指示する。							
成績評価								
課題テスト(3回)80%、プレゼンテーション20%の割合で評価する。								
評価項目		割合	評価基準					
課題テスト(3回)		80%	課題内容を、どの程度の時間で、正確かつ丁寧にこなせるかで評価					
プレゼンテーション		20%	電子紙芝居のストーリー、技術、発表の三点で評価					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス 第2回(演習) グラフィック機能を使い表現力アップを学ぶ(Word) 第3回(演習) フォームを使つての効率的な入力方法を学ぶ(Word) 第4回(演習) Web対応機能に習熟する(情報発信に関する保育者の役割を知る) 第5回(演習) エクセルの基礎 第6回(演習) (エクセルの四則演算(オートフィル利用を含む)) 第7回(演習) エクセルの関数(最大、最小等の関数を使いこなす) 第8回(演習) エクセルの関数(Max、Min、Sum等の関数を使いこなす) 第9回(演習) エクセルの関数(Average、Rank、If等の関数を使いこなす) 第10回(講義・演習) パワーポイントの基礎(各機能を知る) 第11回(講義)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)(認定講座用課題有) 第12回(演習)「電子紙芝居」を創る1(ストーリー作成、ペイントの利用) 第13回(演習)「電子紙芝居」を創る2(素材収集、クリエイティブコモンズを意識する) 第14回(演習)「電子紙芝居」を創る3(メディアミックスを意識した作品発表)(プレゼンテーション) 第15回(講義・演習) まとめ(保育者としてICT利用の留意点【ネットリテラシー】を意識する) ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題(問題演習等)のフィードバックは、講義の中で適宜行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEDM1004							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	35450		
科目	3545 教育工学演習Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	佐野 真一郎			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	本演習では、保育者としての情報発信能力の育成を目指す。具体的には、音楽系ソフトでMidiファイルを作成すること、プレゼン系（子ども向けストーリー作成ソフトの活用、または、ムービー系）のソフトを使い、効果的なプレゼンテーションを作成すること等を行う。また、上述の技術を活かし、子ども向けコンテンツ（絵本系教材）の作成も行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○				
到達目標	1. 情報機器操作の簡単な指導ができる。 2. 複数のアプリケーションを使いこなせる。 3. ネットワークを利用して適切に情報を収集・発信することができる。 4. 簡単な子ども向け電子教材が作成できる基礎力を培う。						
テキスト（教科書）	授業時に、適宜指示する						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針』（厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81241-9						
受講条件	「情報教育入門」、「教育工学演習Ⅰ」の成績が、「良」以上であること						
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容 1. 各回の授業時に行ったことを必ず復習しておくこと（第1回～15回：2時間相当） 2. ワープロ、表計算、プレゼンテーション関係のアプリケーションを適宜復習しておくこと（第1回～15回：0.8時間相当） 3. 情報関係、保育関係の電子媒体の情報に常に関心を持ち、適切な方法でフォローすること（第1回～15回：0.2時間相当） 上記以外に必要な場合には、適宜指示する。						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成できているかで、評価する。 ただし、授業態度が不良な場合には、減点の対象とする。							
評価項目	割合		評価基準				
課題製作・発表（3回）	90%		音声・映像関係のアプリケーションを用い、作品を制作し、それらを評価する				
情報発信	10%		ネットワークメディアに、適切な情報を適切な方法で載せることが可能かどうかで評価				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習）ガイダンス 第2回（演習）音楽系ソフトウェアAblityの基礎（制作） 第3回（演習）Ability等での楽譜の打ち込み 第4回（演習）Midiファイル作成（曲選定、打ち込み） 第5回（演習）Midi作成（打ち込み完了、アレンジを付ける）・Web Editorの基礎（階層構造について） 第6回（演習）写真の加工（サイズ変更や各種フィルタについて学ぶ） 第7回（演習）Movie Makerを使ったスライドショー作成 第8回（演習）PowerPointを使ったスライドショーの作成 第9回（演習）さまざまな情報発信について1（SNSの利用・留意点） 第10回（演習）さまざまな情報発信について2（何を・どのように発信するか） 第11回（演習）幼児教育情報の収集（幼稚園・保育所・施設関係） 第12回（演習）的確な情報発信の方法（何を閲覧者に届けるのか？） 第13回（演習）各種情報発信or 動画の作成（グループ毎にテーマを決める）（グループワーク） 第14回（演習）各種情報発信or動画の作成（コンテンツのレイアウトを考える）（グループワーク） 第15回（演習）成果発表（プレゼンテーション） ※中間アンケート等を踏まえ、適宜授業に対するフィードバックを行う。また、試験や課題（問題演習等）のフィードバックは、講義の中で適宜行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEDM2014						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36220		
科目	3622 音楽Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	井中 あけみ			単位数	1		
その他担当者	森下 紗恵、高柳 賀代、藤原 英						
授業概要	幼児教育者・保育者としての音楽表現技術を身に付けるため、読譜力についての基礎的理論を学修し、演奏に円滑に取り組んでいけるよう、個々のレベルに合わせた実技習得を行っていく。また読譜への理解を深めていくため、ピアノ教則本を使用しながら、ピアノ演奏技術の向上を目指す。そして、子どもの歌(童謡曲)を知り、それぞれの曲に対しての歌唱・演奏技術を身に付けるため、保育に必要な子どもの歌を季節ごとに取り上げて学び、弾き歌いを行う。特に春と夏の童謡曲を中心に学修し、その弾き歌いを人前で実践できるようにする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎		△	○			
到達目標	1. 保育内容の一つとして、歌唱やピアノ演奏が子どもの成長への助力となることを理解する。 2. 子どもの歌の読譜に必要な音楽基礎理論を学修し、それを歌唱・演奏に活用することができる。 3. 保育現場で使用されている童謡曲を数多く知り、歌唱法を理解する。 4. 子どもが親しむ春と夏の童謡曲について、個々の技術的レベルに応じた弾き歌いを行うことができる。 5. ピアノ曲や弾き歌いを、人前で演奏することができる。						
テキスト(教科書)	『こどものうた100』井戸和秀編 (チャイルド本社) ISBN:978-4-8054-8186-8 ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 (バイエル・ブルグミュラー25番練習曲・ソナチネアルバム1・ソナタアルバム1等)						
参考書および参考文献	授業時に適宜指示する。						
受講条件	(卒・幼) 必修						
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14回/0.75h程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。(第1～14回/0.75h程度) 3. ピアノ実技小テスト2回と定期テスト1回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。(各テスト前日/1.5h程度) 4. 基礎理論の復習を行う。(第1～14回/0.25h程度)						
成績評価							
課題曲への練習(予習・復習)の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、個々のレベルに合わせた曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論では、その理解度を筆記小テストで評価する。							
評価項目	割合		評価基準				
課題(ピアノ実技)テスト	20%		個人のレベルに応じた練習の成果を評価する				
理論小テスト	20%		読譜のための課題に対する理解度を評価する				
定期試験(ピアノ実技)	20%		課題曲に対して十分な練習をしているか、曲の完成度に対してを評価する				
ピアノ実技の予習復習の練習への取り組み	40%		日頃の練習(予習や復習)の完成度の評価をする。授業時に合格曲と判断した場合は得点として加算する(平常点)。				
授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏する。また、その授業時に担当教員より受けたアドバイス・注意点を各自の「授業記録表」に記入する。さらにその「授業記録表」を担当教員が確認し、改善点などについてのさらなるアドバイスをを行い記述しておく。これらの予習への取り組み方、復習の振り返りの改善などの「授業記録表」への各自の記入内容については、毎回の平常点としても採点する。また、3回のピアノテスト時は、フィードバックを行う「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次のテストへの目標点についての面談も行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能を修得していく。また、各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する作品番号)を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した春と夏の楽曲を主に学修していく。 ピアノ実技修得の確認テストは3回実施する。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論を修得するためクラス全員で学修するものである。 第1回 (講義・演習・実技) 音楽Ⅰの授業体制と受講の仕方についての説明「ピアノの演奏姿勢、座り方、手のかたち等について」等のピアノの使用方法の実践 第2回 (講義・演習・実技) 理論:譜表について(記載方法や読譜) 第3回 (講義・演習・実技) 理論:音名(音符を読む)、春のうたを歌う:「春の歌を知る、歌唱(歌唱方法について)」 第4回 (講義・演習・実技) 理論:音価(音符と休符)、春のうたを歌う:「歌による子どもとのコミュニケーションについて」(ディスカッション・グループワーク) 第5回 (講義・演習・実技) 理論:リズムの種類について、春のうたを歌う:「春のうたでリズム遊び」 第6回 (実技) ピアノ実技小テスト:次の課題に向けて(鑑賞と反省) ①「振り返りシート記入」 第7回 (講義・演習・実技) 夏の歌を知る(グループワーク) 第8回 (講義・演習・実技) 理論:リズム表現する、夏のうたを歌う:「リズムと言葉について」(ディスカッション・グループワーク) 第9回 (講義・演習・実技) 夏のうたを歌う:「リズムの特徴をいかした身体活動の夏の歌」 第10回 (実技) ピアノ実技小テスト:次の課題に向けて(鑑賞と反省) ②「振り返りシート記入」 第11回 (講義・演習・実技) 理論:メロディーと言葉、夏のうたを歌う:「季節の情景を考える夏の歌」(ディスカッション・グループワーク) 第12回 (講義・演習・実技) 理論:リズムの確認小テスト 第13回 (講義・演習・実技) 理論:拍子2, 3, 4拍子、夏のうたを歌う:「拍子の違いについて」 第14回 (講義・演習・実技) 理論:拍子八分の6拍子、春・夏のうたの特色について:「行事において活用する音楽について」 第15回 (演習・実技) 理論:基礎理論小テスト(鑑賞と反省) ③「振り返りシート記入」 定期試験 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更すること(曲目増加・減少等)もある。						
ナンバリング	PEDM1005						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36221		
科目	3622 音楽Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	井中 あけみ			単位数	1		
その他担当者	森下 紗恵、高柳 賀代、藤原 英						
授業概要	幼児教育者・保育者としての音楽表現技術を身に付けるため、読譜力についての基礎的理論を学修し、演奏に円滑に取り組んでいけるよう、個々のレベルに合わせた実技習得を行っていく。また読譜への理解を深めていくため、ピアノ教則本を使用しながら、ピアノ演奏技術の向上を目指す。そして、子どもの歌(童謡曲)を知り、それぞれの曲に対しての歌唱・演奏技術を身に付けるため、保育に必要な子どもの歌を季節ごとに取り上げて学び、弾き歌いを行う。特に春と夏の童謡曲を中心に学修し、その弾き歌いを人前で実践できるようにする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎		△	○			
到達目標	1. 保育内容の一つとして、歌唱やピアノ演奏が子どもの成長への助力となることを理解する。 2. 子どもの歌の読譜に必要な音楽基礎理論を学修し、それを歌唱・演奏に活用することができる。 3. 保育現場で使用されている童謡曲を数多く知り、歌唱法を理解する。 4. 子どもが親しむ春と夏の童謡曲について、個々の技術的レベルに応じた弾き歌いを行うことができる。 5. ピアノ曲や弾き歌いを、人前で演奏することができる。						
テキスト(教科書)	『こどものうた100』井戸和秀編 (チャイルド本社) ISBN:978-4-8054-8186-8 ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 (バイエル・ブルグミュラー25番練習曲・ソナチネアルバム1・ソナタアルバム1等)						
参考書および参考文献	授業時に適宜指示する。						
受講条件	(卒・幼) 必修						
事前・事後学修 (内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14回/0.75h程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。(第1～14回/0.75h程度) 3. ピアノ実技小テスト2回と定期テスト1回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。(各テスト前日/1.5h程度) 4. 基礎理論の復習を行う。(第1～14回/0.25h程度)						
成績評価							
課題曲への練習(予習・復習)の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、個々のレベルに合わせた曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論では、その理解度を筆記小テストで評価する。							
評価項目	割合		評価基準				
課題(ピアノ実技)テスト	20%		個人のレベルに応じた練習の成果を評価する				
理論小テスト	20%		読譜のための課題に対する理解度を評価する				
定期試験(ピアノ実技)	20%		課題曲に対して十分な練習をしているか、曲の完成度に対してを評価する				
ピアノ実技の予習復習の練習への取り組み	40%		日頃の練習(予習や復習)の完成度の評価をする。授業時に合格曲と判断した場合は得点として加算する(平常点)。				
授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に課題曲を選曲し、次の授業時に演奏する。また、その授業時に担当教員より受けたアドバイス・注意点を各自の「授業記録表」に記入する。さらにその「授業記録表」を担当教員が確認し、改善点などについてのさらなるアドバイスをを行い記述しておく。これらの予習への取り組み方、復習の振り返りの改善などの「授業記録表」への各自の記入内容については、毎回の平常点としても採点する。また、3回のピアノテスト時は、フィードバックを行う「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次のテストへの目標点についての面談も行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能を修得していく。また、各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する作品番号)を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した春と夏の楽曲を主に学修していく。 ピアノ実技修得の確認テストは3回実施する。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論を修得するためクラス全員で学修するものである。 第1回 (講義・演習・実技) 音楽Ⅰの授業体制と受講の仕方についての説明「ピアノの演奏姿勢、座り方、手のかたち等について」等のピアノの使用の実践 第2回 (講義・演習・実技) 理論:譜表について(記載方法や読譜) 第3回 (講義・演習・実技) 理論:音名(音符を読む)、春のうたを歌う:「春の歌を知る、歌唱(歌唱方法について)」 第4回 (講義・演習・実技) 理論:音価(音符と休符)、春のうたを歌う:「歌による子どもとのコミュニケーションについて」(ディスカッション・グループワーク) 第5回 (講義・演習・実技) 理論:リズムの種類について、春のうたを歌う:「春のうたでリズム遊び」 第6回 (実技) ピアノ実技小テスト:次の課題に向けて(鑑賞と反省) ①「振り返りシート記入」 第7回 (講義・演習・実技) 夏の歌を知る(グループワーク) 第8回 (講義・演習・実技) 理論:リズム表現する、夏のうたを歌う:「リズムと言葉について」(ディスカッション・グループワーク) 第9回 (講義・演習・実技) 夏のうたを歌う:「リズムの特徴をいかした身体活動の夏の歌」 第10回 (実技) ピアノ実技小テスト:次の課題に向けて(鑑賞と反省) ②「振り返りシート記入」 第11回 (講義・演習・実技) 理論:メロディーと言葉、夏のうたを歌う:「季節の情景を考える夏の歌」(ディスカッション・グループワーク) 第12回 (講義・演習・実技) 理論:リズムの確認小テスト 第13回 (講義・演習・実技) 理論:拍子2, 3, 4拍子、夏のうたを歌う:「拍子の違いについて」 第14回 (講義・演習・実技) 理論:拍子八分の6拍子、春・夏のうたの特色について:「行事において活用する音楽について」 第15回 (演習・実技) 理論:基礎理論小テスト(鑑賞と反省) ③「振り返りシート記入」 定期試験 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更すること(曲目増加・減少等)もある。						
ナンバリング	PEDM1005						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	36230
科目	3623 音楽Ⅱ			授業種別	週間授業
担当教員	井中 あけみ			単位数	1
その他担当者	森下 紗恵、高柳 賀代、藤原 英				
授業概要	幼児教育者・保育者として、子どもたちの成長のための、保育に関する音楽表現技術を身に付ける。「音楽Ⅰ」において学修したピアノ演奏や童謡曲の伴奏・歌唱についての技術をさらに向上させていくため、個々の経験値に合わせてピアノ演奏や弾き歌いの学修を行っている。弾き歌いについては、季節のうた、生活のうた、行事のうた、特にこの授業では、秋と冬の曲を多く知り、子どもの成長に関連する楽曲の特色を知ることが目指す。そして「弾き歌い」の内容に合った歌唱法や伴奏技術への意識も高めていく。さらに各々の保育環境に適切な人前での演奏方法、子どもが興味を深めることのできる表現方法を実践する。				
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○	
到達目標	1. 童謡曲の弾き歌いに必要な読譜力を身に付ける。 2. 保育活動における子どもたちへの表現の一つとして必要なピアノ演奏技術を身に付ける。 3. 子どもが親しむことができ、成長にも繋げることでできる童謡曲(秋と冬を中心に)を多く知り、保育者としてそれを伝えるための歌唱・演奏をすることができ。 4. 子どもが興味を持てる音楽表現を探索し、それに因んだ声量、活舌、歌詞の内容に適した表現をすることができる。				
テキスト(教科書)	『こどものうた101』井戸和秀編 (チャイルド本社) ISBN:978-4-8054-8186-8 ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 (バイエル・ブルグミュラー・25番練習曲・ソナチネアルバム1・ソナタアルバム1等)				
参考書および参考文献	授業時に適宜指示する。				
受講条件	(卒・幼) 必修				
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14回/0.75h程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。(第1～14回/0.75h程度) 3. ピアノ実技小テスト2回と定期テスト1回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。(各テスト前日/1.5h程度) 4. 基礎理論の復習を行う。(第1～14回/0.25h程度)				
成績評価	課題曲への練習(予習・復習)の成果を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論は、演奏を向上させているかなどの理解度を筆記小テストで評価する。				
評価項目	割合	評価基準			
課題(ピアノ実技)テスト	20%	個人のレベルで十分に練習が成されているか、条件に合った演奏がされているかなどについて評価する			
理論小テスト	20%	演奏を踏まえた音楽理論の理解度を評価する			
定期試験(ピアノ実技)	30%	課題曲に対して十分な練習や理解をし、曲が完成できているかを評価する			
ピアノ実技の予習復習の練習への取り組み	40%	日頃の練習(予習や復習)の完成度の評価をする。授業時に合格点と判断した場合は得点として加算する(平常点)。			
授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に新しい課題曲を道曲し、それを次の授業時に演奏する。また、その授業時に担当教員より受けたアドバイス・注意点を各自の「授業記録表」に記入する。さらにその「授業記録表」を担当教員が確認し、改善点などについてのさらなるアドバイスを各自に記述しておく。これらの予習への取り組み方、復習の振り返りの改善などの「授業記録表」への各自の記入内容については、毎回の平常点として採点する。また、3回のピアノテスト時は、フィードバックを行う「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次のテストへの目標点についての面談も行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能修得を行う。全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する番号)を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した秋と冬の楽曲を主に学修していく。 ピアノ実技修得の確認テストは3回実施する。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論学修と子どもの音楽表現への活動についてグループワークやディスカッションをクラス全員で行うものである。 第1回 (講義・実技) ガイダンス 音楽Ⅱの授業体制と受講の仕方についての説明 第2回 (講義・演習・実技) 理論:「調性(長調・短調)について」、秋・冬のうたを歌う:「秋・冬のうたの時代的な特色を知る」(ディスカッション) 第3回 (講義・演習・実技) 理論:「音階について」、秋のうたを歌う:「生物・行事の歌」(季節の特徴を持った曲について) 第4回 (講義・演習・実技) 理論:「長音階の種類」、秋のうたを歌う:「子どもの秋の遊びと歌との関係性について」 第5回 (実技) ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)①「振り返りシート記入」 第6回 (講義・演習・実技) 理論:「調について(C・F・G:)」、秋のうたを歌う:「メロディーと歌詞の関係性についての保育活動方法を考える」(ディスカッション・グループワーク) 第7回 (講義・演習・実技) 理論:「調について(B・D:A:)」、秋のうたを歌う:「歌詞の表現から考える保育製作活動を考察・実践」 第8回 (講義・演習・実技) 理論:「楽曲の移調について」、冬のうたを歌う:「子どもの発達段階と音域から考える道曲について」 第9回 (実技) ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)②「振り返りシート記入」 第10回 (講義・演習・実技) 理論:「移調の楽譜作成」、冬のうたを歌う:「日本の行事と歌い継がれてきた伝統曲について」 第11回 (講義・演習・実技) 理論:「和音について」、冬のうたを歌う:「季節の歌の歌詞やメロディーと子どもの成長」 第12回 (講義・演習・実技) 理論:「主要三和音」、冬のうたを歌う:「季節の歌に子どもが興味を持つ活動を考察・実践」 第13回 (講義・演習・実技) 理論:「コードネームと使用方法」、冬のうたを歌う:「冬のうたから考える製作物作成」 第14回 (講義・演習・実技) 理論:「コードネームの転回について」、冬のうたを歌う:「音楽を使用した秋・冬の歌の特徴のまとめ」 第15回 (演習・実技) 冬のうたを歌う:「リズム遊びで簡易楽器等を使った遊びについて考察・実践、簡易楽器演奏(ディスカッション・グループワーク)」 定期試験 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更する(曲目増加・減少)こともある。				
ナンバリング	PEDM1006				

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	36231
科目	3623 音楽Ⅱ			授業種別	週間授業
担当教員	井中 あけみ			単位数	1
その他担当者	森下 紗恵、高柳 賀代、藤原 英				
授業概要	幼児教育者・保育者として、子どもたちの成長のための、保育に関する音楽表現技術を身に付ける。「音楽Ⅰ」において学修したピアノ演奏や童謡曲の伴奏・歌唱についての技術をさらに向上させていくため、個々の経験値に合わせてピアノ演奏や弾き歌いの学修を行っている。弾き歌いについては、季節のうた、生活のうた、行事のうた、特にこの授業では、秋と冬の曲を多く知り、子どもの成長に関連する楽曲の特色を知ることが目指す。そして「弾き歌い」の内容に合った歌唱法や伴奏技術への意識も高めてい。さらに各々の保育環境に適切な人前での演奏方法、子どもが興味を深めることのできる表現方法を実践する。				
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○	
到達目標	1. 童謡曲の弾き歌いに必要な読譜力を身に付ける。 2. 保育活動における子どもたちへの表現の一つとして必要なピアノ演奏技術を身に付ける。 3. 子どもが親しむことができ、成長にも繋げることのできる童謡曲(秋と冬を中心に)を多く知り、保育者としてそれを伝えるための歌唱・演奏をすることができる。 4. 子どもが興味を持てる音楽表現を探索し、それに因んだ声量、活舌、歌詞の内容に適した表現をすることができる。				
テキスト(教科書)	『こどものうた101』井戸和秀編 (チャイルド本社) ISBN:978-4-8054-8186-8 ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 (バイエル・ブルグミュラー25番練習曲・ソナチネアルバム1・ソナタアルバム1等)				
参考書および参考文献	授業時に適宜指示する。				
受講条件	(卒・幼) 必修				
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14回/0.75h程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習をする。(第1～14回/0.75h程度) 3. ピアノ実技小テスト2回と定期テスト1回の試験曲を完成して弾けるように練習を行う。(各テスト前日1.5h程度) 4. 基礎理論の復習を行う。(第1～14回/0.25h程度)				
成績評価	課題曲への練習(予習・復習)の成果を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や正確性を評価する。さらに音楽理論は、演奏を向上させているかなどの理解度を筆記小テストで評価する。				
評価項目	割合	評価基準			
課題(ピアノ実技)テスト	20%	個人のレベルで十分に練習が成されているか、条件に合った演奏がされているかなどについて評価する			
理論小テスト	20%	演奏を踏まえた音楽理論の理解度を評価する			
定期試験(ピアノ実技)	30%	課題曲に対して十分な練習や理解をし、曲が完成できているかを評価する			
ピアノ実技の予習復習の練習への取り組み	40%	日頃の練習(予習や復習)の完成度の評価をする。授業時に合格点と判断した場合は得点として加算する(平常点)。			
授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に新しい課題曲を道出し、それを次の授業時に演奏する。また、その授業時に担当教員より受けたアドバイス・注意点を各自の「授業記録表」に記入する。さらにその「授業記録表」を担当教員が確認し、改善点などについてのさらなるアドバイスをを行い記述しておく。これらの予習への取り組み方、復習の振り返りの改善などの「授業記録表」への各自の記入内容については、毎回の平常点として採点する。また、3回のピアノテスト時は、フィードバックを行う「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次のテストへの目標点についての面談も行う。 <ピアノ実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンでピアノ基礎技能修得を行う。全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する番号)を使用する。 弾き歌い曲については、課題曲として指定した秋と冬の楽曲を主に学修していく。 ピアノ実技修得の確認テストは3回実施する。 <音楽基礎理論> 以下は音楽基礎理論学修と子どもの音楽表現への活動についてグループワークやディスカッションをクラス全員で行うものである。 第1回 (講義・実技) ガイダンス 音楽Ⅱの授業体制と受講の仕方についての説明 第2回 (講義・演習・実技) 理論:「調性(長調・短調)について」、秋・冬のうたを歌う:「秋・冬のうたの時代的な特色を知る」(ディスカッション) 第3回 (講義・演習・実技) 理論:「音階について」、秋のうたを歌う:「生物・行事の歌」(季節の特徴を持った曲について) 第4回 (講義・演習・実技) 理論:「長音階の種類」、秋のうたを歌う:「子どもの秋の遊びと歌との関係性について」 第5回 (実技) ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)①「振り返りシート記入」 第6回 (講義・演習・実技) 理論:「調について(C・F・G:)」、秋のうたを歌う:「メモディーと歌詞の関係性についての保育活動方法を考える」(ディスカッション・グループワーク) 第7回 (講義・演習・実技) 理論:「調について(B:D:A:)」、秋のうたを歌う:「歌詞の表現から考える保育製作活動を考察・実践」 第8回 (講義・演習・実技) 理論:「楽曲の移調について」、冬のうたを歌う:「子どもの発達段階と音域から考える道曲について」 第9回 (実技) ピアノ実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)②「振り返りシート記入」 第10回 (講義・演習・実技) 理論:「移調の楽譜作成」、冬のうたを歌う:「日本の行事と歌い継がれてきた伝統曲について」 第11回 (講義・演習・実技) 理論:「和音について」、冬のうたを歌う:「季節の歌の歌詞やメモディーと子どもの成長」 第12回 (講義・演習・実技) 理論:「主要三和音」、冬のうたを歌う:「季節の歌に子どもが興味を持つ活動を考察・実践」 第13回 (講義・演習・実技) 理論:「コードネームと使用方法」、冬のうたを歌う:「冬のうたから考える製作物作成」 第14回 (講義・演習・実技) 理論:「コードネームの転回について」、冬のうたを歌う:「音楽を使用した秋・冬の歌の特徴のまとめ」 第15回 (演習・実技) 冬のうたを歌う:「リズム遊びで簡易楽器等を使った遊びについて考察・実践、簡易楽器演奏(ディスカッション・グループワーク)」 定期試験 ※ただし、学生の習熟状況により、授業計画を変更する(曲目増加・減少)こともある。				
ナンバリング	PEDM1006				

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	36240			
科目	3624 音楽Ⅲ			授業種別	週間授業			
担当教員	井中 あけみ			単位数	1			
その他担当者	藤原 英							
授業概要	この科目は、保育に活用するための歌唱・身体リズム表現・楽器演奏の表現活動をオリジナルで企画・構成し、その表現活動を実際にコンサートにて発表する。リズム・メロディー・和声を根底とし、斉唱・合唱・合奏などを行い、声や楽器の響きの美しさ、協同する音の豊かさを表現できるような活動を目指す。また音による多様の表現活動として、リズムを使用した身体の活動などをオリジナル作成し、子どもたちが豊かな感性を得ることのできる表現活動への視野を広げていく。さらに子どもの主体性を育むための創作楽器表現も行う。これらを協働して取り組むことにより、子どもたちの「劇あそび」やその他の音楽活動実践に役立てるよう、衣装・照明・音響なども含めた総合的な表現活動を目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○				
到達目標	1. 子どもが興味を持てる楽曲を、子どもに伝わりやすい表現で演奏することができる。 2. 言葉・身体を伴った音楽による表現活動をオリジナルで考え実践することができる。 3. 合唱(2・3部合唱)、合奏(楽器・リズム)の美しさ楽しさを集団で共感、協同することから、協調性、表現の相互性を身に付けることができる。 4. 自分の役割(各パート等)を担当することから、そのポジションへの責任感を持って作品を完成させることができる。							
テキスト(教科書)	授業時に適宜指示する。							
参考書および参考文献	授業時に適宜指示する。							
受講条件	なし。							
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業時に指示した内容について、事前に練習をして参加する。(第3～12回/1h程度) 2. 総合練習で指導された箇所に注意し、その都度復習する。(第13～14回/1h程度) ? リハーサル、本番の事前には各担当についての実技を確認し、完成する。(第15回/1h程度)							
成績評価	表現を向上させていくための内容への予習・復習を確認する。 集団活動としての適切な表現への考察・練習量、全体表現を完成するための、各自の担当表現への行動力について評価する。							
評価項目	割合		評価基準					
中間発表	25%		個人のレベルでの表現への到達度を評価する					
創作表現活動内容への協働的考察、実践	50%		集団行動における協調性や発想力発言力を評価する					
発表時の完成度	25%		本番での集中度や発表の技術的努力、集団による総合的行動力の評価をする					
授業の実施方法と授業計画	※各授業の最初に、前回の活動内容や表現方法について、グループを中心として確認を行う。その学生同士でのディスカッションから、取り組み方への説明・改善点などを取り上げ、その次への実技練習課題を選定し、確認を行う。さらに毎回の授業で、個人の課題としている技術の復習を集団での活動で確認し合い、個々の振り返りを行えるよう意見を出し合い、それを教員がチェックする。							
	以下の授業内容は、「コンサート」で発表を行う内容である。また、全ての授業において、発表のための練習(演奏)は必須とする。							
	第1回 (講義) ガイダンス 授業体制と受講の仕方についての説明							
	第2回 (講義・実技) コンサートで発表するための内容(テーマ)について考える(ディスカッション)							
	第3回 (講義・演習) 音楽による表現活動についてのストーリーを考える(概要の決定)グループワーク・ディスカッション)							
	第4回 (講義・演習) 音楽による表現の内容を提案し、選択する (グループワーク・ディスカッション)							
	第5回 (講義・演習) ミュージカル楽曲の選曲・企画・構成、演奏表現内容を考察(グループワーク・ディスカッション)							
	第6回 (講義・演習) 楽曲についてのパート分け「2部合唱・合奏練習」(グループワーク・ディスカッション)							
	第7回 (講義・演習) リズム創作と表現方法についてを考える ①「リズムと身体の動きを考える」(ディスカッション)							
	第8回 (講義・演習) 歌唱の表現発表内容について ②「歌の内容と身体の表現方法について」「2部合唱・合奏練習」(グループワーク・ディスカッション)							
	第9回 (演習・実技) 音楽表現活動の全体プログラム作成 ③「言葉・身体・製作・音楽の総合的表現について」「2部合唱・合奏練習」(グループワーク・ディスカッション)							
	第10回 (講義・演習・実技) 舞台での演奏の形態(ストーリーや流れに沿う音楽の条件)について 「2部合唱・合奏練習」							
	第11回 (講義・演習・実技) 演奏時のフォーメーションについて 「2部合唱・合奏練習」							
	第12回 (講義・演習・実技) 音の間について「歩行・姿勢・弛緩と緊張のリズムなど人前での発表についての確認」「総合練習」(ディスカッション)							
	第13回 (講義・演習・実技) 総合練習(リハーサル)「舞台マナーについて」							
第14回 (演習・実技) 総合練習(リハーサル)「照明・音響の効果について」								
第15回 コンサート・反省(ディスカッション)								
	※ただし、学生の習熟度により、授業計画を変更することもある							
ナンバリング	PEDM2015							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期				授業コード	36320		
科目	3632 基礎造形				授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊				単位数	1		
その他担当者								
授業概要	子どもの造形を支援するものとして、造形活動の楽しみを体験する。また、協同的な活動に取り組むことで必要となる様々な気配りや主張、行動力などを身につける。この授業では、保育者自身が獲得しておくべき内容と子どもたちに伝えるべき内容・指導方法の両面について学ぶことを目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○	○				
到達目標	1. ものの美しさに対する豊かな感性を持つことができ、表現することができる。 2. 協同的な活動から、保育者としての配慮を意識することができ、説明できる。 3. 子どもに伝えるべき技術を身につけ、自身の制作にも活かすことができる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜資料を用いる。 『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針(最新版)』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9							
受講条件	(卒・幼) 必修							
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 授業計画に即し制作の構想を立て、特にグループワークでは計画的に進めること。また、時間内に完成できなかった個人制作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。 複数回に亘って制作する際には、どのように制作を進めていくのか、グループワークであれば計画を共有しておく必要がある。また、終了時には進行具合の確認と、残りの時間を使ってできる事の新たな試案、今後の進め方を考えること。							
成績評価								
協同制作での取り組み方を30%、個人制作作品の仕上がりを70%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。								
評価項目		割合	評価基準					
協同制作		30%	協同的な活動に積極的な参加ができているか。他者への配慮ができているか。造形活動を楽しめているか。計画性があるか。					
個人制作作品		70%	作品が丁寧に作られているか。造形活動の楽しみを感じさせる仕上がりが。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(演習) ガイダンス 「2年後の私へ」						
	第2回	(演習) こいのぼりをつくろう(計画)						
	第3回	(演習) こいのぼりをつくろう(制作・協同制作による学び)						
	第4回	(演習) こいのぼりをつくろう(制作・完成)						
	第5回	(演習) 景色に溶け込みカメレオン!						
	第6回	(演習) 季節の装飾スタンドアート(下絵を練る)						
	第7回	(演習) 季節の装飾スタンドアート(制作・切り絵とラミネート)						
	第8回	(演習) 季節の装飾スタンドアート(制作・色塗りをして完成)						
	第9回	(演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作)						
	第10回	(演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作と発表)						
	第11回	(演習) バクバクバットをつくろう(紙工作)						
	第12回	(演習) バクバクバットをつくろう(紙工作)						
	第13回	(演習) クラフトテクニックテスト クジラを描こう!(計画)						
	第14回	(演習) クジラを描こう!(制作)						
	第15回	(演習) クジラを描こう!(完成)						
		※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。						
ナンバリング	PEDM1007							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期				授業コード	36321		
科目	3632 基礎造形				授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊				単位数	1		
その他担当者								
授業概要	子どもの造形を支援するものとして、造形活動の楽しみを体験する。また、協同的な活動に取り組むことで必要となる様々な気配りや主張、行動力などを身につける。この授業では、保育者自身が獲得しておくべき内容と子どもたちに伝えるべき内容・指導方法の両面について学ぶことを目指す。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○	○				
到達目標	1. ものの美しさに対する豊かな感性を持つことができ、表現することができる。 2. 協同的な活動から、保育者としての配慮を意識することができ、説明できる。 3. 子どもに伝えるべき技術を身につけ、自身の制作にも活かすことができる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜資料を用いる。 『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針(最新版)』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9							
受講条件	(卒・幼) 必修							
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 授業計画に即し制作の構想を立て、特にグループワークでは計画的に進めること。また、時間内に完成できなかった個人制作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。 複数回に亘って制作する際には、どのように制作を進めていくのか、グループワークであれば計画を共有しておく必要がある。また、終了時には進行具合の確認と、残りの時間を使ってできる事の新たな試案、今後の進め方を考えること。							
成績評価								
協同制作での取り組み方を30%、個人制作作品の仕上がりを70%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。								
評価項目		割合	評価基準					
協同制作		30%	協同的な活動に積極的な参加ができているか。他者への配慮ができているか。造形活動を楽しめているか。計画性があるか。					
個人制作作品		70%	作品が丁寧に作られているか。造形活動の楽しみを感じさせる仕上がりが。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(演習) ガイダンス 「2年後の私へ」						
	第2回	(演習) こいのぼりをつくろう(計画)						
	第3回	(演習) こいのぼりをつくろう(制作・協同制作による学び)						
	第4回	(演習) こいのぼりをつくろう(制作・完成)						
	第5回	(演習) 景色に溶け込みカメレオン!						
	第6回	(演習) 季節の装飾スタンドアート(下絵を練る)						
	第7回	(演習) 季節の装飾スタンドアート(制作・切り絵とラミネート)						
	第8回	(演習) 季節の装飾スタンドアート(制作・色塗りをして完成)						
	第9回	(演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作)						
	第10回	(演習) 新聞紙でファッションショー(新聞紙バッグの制作と発表)						
	第11回	(演習) バクバクパペットをつくろう(紙工作)						
	第12回	(演習) バクバクパペットをつくろう(紙工作)						
	第13回	(演習) クラフトテクニックテスト クジラを描こう!(計画)						
	第14回	(演習) クジラを描こう!(制作)						
	第15回	(演習) クジラを描こう!(完成)						
		※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説すること でフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業 を欠席扱いとすることがある。						
ナンバリング	PEDM1007							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	36330		
科目	3633 幼児と健康Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	朝元 尊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもにとって、身体を使って他者と遊ぶことは心身の発達を促し、人間関係や社会性を豊かにするために不可欠である。また、身のこなしよく動くための調整力を育むことは、将来にわたって安全な生活を送る上でも重要である。このことを踏まえ、自らの体育的な基礎技能を養うとともに、子どもの運動発達に対する理解を深める。さらに実践を通して、保育者の視点から、指導上の留意点を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	子どもにとって身体を充分に動かす遊びは心身の健康にとって重要である。特に、子どもの成長を促す保育者としての意欲・責任感・使命感を持ち、体育的な基礎技能や専門的な知識を習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1.体育的基礎技能を習得する。 2.運動あそびの楽しさと重要性、指導上の留意点を理解し実践できる。 3.子どもの運動発達と現代的課題を理解し説明できる。						
テキスト(教科書)	『保育と幼児期の運動あそび』(岩崎洋子編、萌文書林) ISBN978-4-89347-130-7						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
受講条件	(卒・幼) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.毎授業前までに所定箇所まで教科書を読んでおくこと(第2回～15回/0.5時間程度) 2.毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1回～15回/0.5時間程度) 3.授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習して授業に参加すること(第2回～15回/1時間程度)						
成績評価	授業の到達目標をどの程度到達できているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業・課題への取り組み		40%	授業後のレポート課題について、適切な内容になっているかを評価する。				
課題の達成度		20%	課題に対する達成度を確認する				
実技試験		40%	授業内容の理解度及び、技能の習得度を実技試験で確認する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	(講義・実技) ガイダンス (実技) 身体を使ったあそび (実技) 集団遊び①(手つなぎ鬼・色鬼・高鬼) (実技) 集団遊び②(ネスミとネコ・ドロケイ・たつのしっぽ取り) (実技) 集団遊び③(だるまさんがころんだ・おおかみさん今何時) (実技) リズム遊び①(あんたがったどこさ・かごめかごめ・はいちもんめ) (実技) リズム遊び②(バンブー・ジェンカ) (実技) ボールで遊ぶ①(ころがしドッチ・はさみドッチ) (実技) ボールで遊ぶ②(ドッチボール) (実技) ボールで遊ぶ③(王様ドッチボール) (実技) 縄跳び①(短縄・縄跳びカード) (実技) 縄跳び②(大縄・縄跳びカード) (実技) 縄跳び③(歌遊びと縄跳び・縄跳びカード) (実技) クラスマッチ(学年合同) (講義・実技) まとめ(援助の仕方を考える)					
		*ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 *授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 *各界の最初に、前回の内容に関する角煮・解説を行う。					
ナンバリング	PEDM1008						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	36331		
科目	3633 幼児と健康Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	朝元 尊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもにとって、身体を使って他者と遊ぶことは心身の発達を促し、人間関係や社会性を豊かにするために不可欠である。また、身のこなしよく動くための調整力を育むことは、将来にわたって安全な生活を送る上でも重要である。このことを踏まえ、自らの体育的な基礎技能を養うとともに、子どもの運動発達に対する理解を深める。さらに実践を通して、保育者の視点から、指導上の留意点を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	子どもにとって身体を充分に動かす遊びは心身の健康にとって重要である。特に、子どもの成長を促す保育者としての意欲・責任感・使命感を持ち、体育的な基礎技能や専門的な知識を習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1.体育的基礎技能を習得する。 2.運動あそびの楽しさと重要性、指導上の留意点を理解し実践できる。 3.子どもの運動発達と現代的課題を理解し説明できる。						
テキスト（教科書）	『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子編、萌文書林）ISBN978-4-89347-130-7						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』（厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81424-6						
受講条件	（卒・幼）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1.毎授業前までに所定箇所まで教科書0.5時間程度） 2.毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること（第1回～15回/0.5時間程度） 3.授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習して授業に参加すること（第2回～15回/1時間程度）						
成績評価	授業の到達目標をどの程度到達できているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業・課題への取り組み		40%	授業後のレポート課題について、適切な内容になっているかを評価する。				
課題の達成度		20%	課題に対する達成度を確認する				
実技試験		40%	授業内容の理解度及び、技能の習得度を実技試験で確認する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 （講義・実技）ガイダンス 第2回 （実技）身体を使ったあそび 第3回 （実技）集団遊び①（手つなぎ鬼・色鬼・高鬼） 第4回 （実技）集団遊び②（ネスミとネコ・ドロケイ・たつのしっぽ取り） 第5回 （実技）集団遊び③（だるまさんがころんだ・おおかみさん今何時） 第6回 （実技）リズム遊び①（あんたがったどこさ・かごめかごめ・はいちもんめ） 第7回 （実技）リズム遊び②（バンブー・ジャンカ） 第8回 （実技）ボールで遊ぶ①（ころがしドッチ・はさみドッチ） 第9回 （実技）ボールで遊ぶ②（ドッチボール） 第10回 （実技）ボールで遊ぶ③（王様ドッチボール） 第11回 （実技）縄跳び①（短縄・縄跳びカード） 第12回 （実技）縄跳び②（大縄・縄跳びカード） 第13回 （実技）縄跳び③（歌遊びと縄跳び・縄跳びカード） 第14回 （実技）クラスマッチ（学年合同） 第15回 （講義・実技）まとめ（援助の仕方を考える） *ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 *授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 *各回の最初に、前回の内容に関する確認・解説を行う。						
ナンバリング	PEDM1008						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36340		
科目	3634 幼児と健康Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	朝元 尊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	保育者として、子どもの年齢に応じた関わりや遊びを実践することは大切である。保育者にとって必要な基礎技能の習得に努めながら、運動あそびの指導計画、模擬指導を行う。更に、実践に対する反省と評価を行ない、実践力の向上を目指す。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	1. 子どもにとっての運動あそびの意義を理解し説明できる。 2. 運動あそびの立案・実践・反省と評価ができる。 3. 子どもの安全を考慮した指導・援助を理解し実践できる。						
テキスト(教科書)	『保育と幼児期の運動あそび』(岩崎洋子編、萌文書林) ISBN978-4-89347-274-8 (購入済)						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6						
受講条件	(卒・幼) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前までに所定箇所まで教科書を読んでおくこと(第2～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1～15回/0.5時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習をして授業に参加すること(第2～15回/1時間程度)						
成績評価							
実技試験・模擬授業の立案・実践は必須とする。授業の到達目標にどの程度到達しているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。							
評価項目	割合		評価基準				
授業・課題への取り組み	40%		授業後のレポート課題について、適切な内容になっているかを評価する。				
実技課題の達成度、指導計画立案と活動の展開の仕方、レポート課題	40%		指導計画・実践・反省と評価など、課題に対する達成度を確認する。				
実技試験	20%		課題の反復練習に対する達成度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義・実技) ガイダンス					
	第2回	(実技) 身近なものを使った遊び(ペットボトル)					
	第3回	(実技) 身近なものを使った遊び(段ボール)					
	第4回	(実技) 偶然性の強いゲーム					
	第5回	(実技) 平均化できるゲーム					
	第6回	(演習) 幼児体育の指導案について					
	第7回	(演習) 体育環境の構成・安全を考える					
	第8回	(実技) 役割分担できるゲーム					
	第9回	(実技) ハンディキャップのあるゲーム					
	第10回	(実技) 鬼遊びの指導実践					
	第11回	(実技) ボール遊びの指導実践					
	第12回	(実技) 伝承遊びの指導実践					
	第13回	(実技) 身近なものを使った遊びの指導実践					
	第14回	(実技) 体育的行事の企画・運営					
	第15回	(講義・実技) まとめ(レポートの作成、提出)					
*ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 *授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 *各回の最初に、前回の内容に関する確認・解説を行う。							
ナンバリング	PEDM2015						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36341		
科目	3634 幼児と健康Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	朝元 尊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	保育者として、子どもの年齢に応じた関わりや遊びを実践することは大切である。保育者にとって必要な基礎技能の習得に努めながら、運動あそびの指導計画、模擬指導を行う。更に、実践に対する反省と評価を行ない、実践力の向上を目指す。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○			
到達目標	1. 子どもにとっての運動あそびの意義を理解し説明できる。 2. 運動あそびの立案・実践・反省と評価ができる。 3. 子どもの安全を考慮した指導・援助を理解し実践できる。						
テキスト(教科書)	『保育と幼児期の運動あそび』(岩崎洋子編、萌文書林) ISBN978-4-89347-274-8 (購入済)						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6						
受講条件	(卒・幼) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前までに所定箇所まで教科書を読んでおくこと(第2～15回/0.5時間程度) 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(第1～15回/0.5時間程度) 3. 授業内で指示する実技・演習課題について、事前に調べたり自主練習をして授業に参加すること(第2～15回/1時間程度)						
成績評価							
実技試験・模擬授業の立案・実践は必須とする。授業の到達目標にどの程度到達しているかを評価する。また、劣悪な授業態度によっては減点の対象となることもある。							
評価項目	割合		評価基準				
授業・課題への取り組み	40%		授業後のレポート課題について、適切な内容になっているかを評価する。				
実技課題の達成度、指導計画立案と活動の展開の仕方、レポート課題	40%		指導計画・実践・反省と評価など、課題に対する達成度を確認する。				
実技試験	20%		課題の反復練習に対する達成度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義・実技) ガイダンス					
	第2回	(実技) 身近なものを使った遊び(ペットボトル)					
	第3回	(実技) 身近なものを使った遊び(段ボール)					
	第4回	(実技) 偶然性の強いゲーム					
	第5回	(実技) 平均化できるゲーム					
	第6回	(演習) 幼児体育の指導案について					
	第7回	(演習) 体育環境の構成・安全を考える					
	第8回	(実技) 役割分担できるゲーム					
	第9回	(実技) ハンディキャップのあるゲーム					
	第10回	(実技) 鬼遊びの指導実践					
	第11回	(実技) ボール遊びの指導実践					
	第12回	(実技) 伝承遊びの指導実践					
	第13回	(実技) 身近なものを使った遊びの指導実践					
	第14回	(実技) 体育的行事の企画・運営					
	第15回	(講義・実技) まとめ(レポートの作成、提出)					
*ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 *授業内容の学びについては、毎回レポートを提出する。 *各回の最初に、前回の内容に関する確認・解説を行う。							
ナンバリング	PEDM2015						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36350		
科目	3635 幼児と表現Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	井中 あけみ			単位数	1		
その他担当者	森下 紗恵、高柳 賀代、藤原 英						
授業概要	この科目は、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領の中の領域「表現」を根拠とし、子どもの発達段階に応じた音楽の活用方法、音楽環境を通じた子どもの表現など、様々な音楽表現活動を身に付ける。また、子どもの主体性を育むことに役立つ音楽活動について、自発的表現や創作表現などの保育活動への意識を深めていく。それらは「わらべうた遊び」「リズム遊び」「音楽と身体による動き」「擬音語、擬態語の音表現」「身近な素材を用いた創作楽器」「簡易楽器合奏」など、子どもが興味を持って表現できる活動を探索していくことに努める。また自らが身近な環境にある音の存在に気づき、音楽を活用した保育への関心を高める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 子どもの年齢発達段階に応じた、音楽表現活動を探索することができる。 2. 擬音語、擬態語などの遊びうた、身体遊びうたなど、環境に応じた子どもの表現遊びを実践することができる。 3. 自然や生活の中にある音を感じ取り、身近な素材で創作楽器を製作することができる。 4. 簡易楽器の種類や演奏法を知り、子どもが興味を持つような音表現をすることができる。 5. 音楽を通じた子どもの様々な主体的表現への取り組みを考えることができる。						
テキスト(教科書)	『こどものうた200』(小林美実編 チャイルド本社) ISBN978-4805400029 ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 (バイエル・ブルグミュラー25番練習曲・ソナチネアルバム1・ソナタアルバム1等)						
参考書および参考文献	授業中に適宜資料を配布する。 『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針(最新版)』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14回/1h程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習する。(第1～14回/1h程度) 3. ピアノ実技小テスト2回と定期テスト1回の試験曲を完成させるための練習をする。(各テスト前1.5h程度)						
成績評価							
授業時の課題曲への練習(予習・復習)による技術(完成への段階)の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や表現力を評価する。また、グループ授業での音楽表現やその活動内容については、活動の提案内容やその表現方法を評価する。							
評価項目	割合	評価基準					
課題(ピアノ/実技)テスト	20%	個人の技術的レベルに応じ、楽曲に応じた伴奏法や歌唱法で、子どもたちに伝わる表現ができているかを評価する					
音楽表現活動方法のテスト	20%	子どもの発達に応じた活動を考え、子どもが興味を持てる音楽の表現方法を評価する					
定期試験(ピアノ/実技)	20%	保育環境を考え子どもが表現しやすい演奏をイメージできているか、またそれを発展させていく努力をしているかを評価する。					
ピアノ実技の予習復習の練習の取り組み方	40%	日頃の練習(予習や復習)の完成度の評価をする。授業時に合格点と判断した場合は得点として加算する(平常点)。					
授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に新しい課題曲を演奏し、それを次の授業時に演奏する。また、その授業時に担当教員より受けたアドバイス・注意点を各自の「授業記録表」に記入する。さらにその「授業記録表」を担当教員が確認し、改善点などについてのさらなるアドバイスをを行い記述しておく。これらの予習への取り組み方、復習への振り返りの改善などの「授業記録表」への各自の記入内容については、平常点として採点する。また、3回のピアノテスト時は、フィードバックを行う「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次のテストへの目標点についての面談も行う。 <ピアノ/実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンで保育表現技能修得に努め、全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する番号)を使用する。 「弾き歌い曲」については、課題曲として季節ごとに指定した楽曲を学修していく。(個人のレベルによって楽曲が弾き歌いできるよう、難易度で選曲する場合もある。) ピアノ/実技の修習の確認テストは3回実施する。テストごとに演奏結果を振り返りシートに記入し、フィードバックをすることで次の演奏にそれを応用できるようにする。 <保育の音楽表現法> 以下はクラス全員で学修する。 第1回：(講義・実技)ガイダンス、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所 保育指針の領域「表現」について、音楽を使用することの内容を理解する 第2回：(講義・実技)日本の音楽教育の歴史を知る 第3回：(講義・実技)乳児の音楽との関わりについて(生まれてからの環境音について) 第4回：(講義・演習・実技)乳児の音遊びの種類を知る(グループワーク) 第5回：(講義・演習・実技)童謡曲を用いた幼児の遊びうたについて「わらべうた」「リズム遊び」等(発達段階を踏まえた活動)(グループワーク) 第6回：(実技：ピアノ/実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)①「振り返りシート記入」 第7回：(講義・演習・実技)簡易楽器について「子どもが簡易楽器を使用すること、成長の関係性」 第8回：(講義・演習・実技)身近な素材を用いた簡易楽器の作成・即興的演奏(グループワーク、ディスカッション) 第9回：(講義・演習・実技)童謡曲から取り上げた「自然の音」を簡易楽器で演奏する 第10回：(講義・演習・実技)鍵盤楽器(木琴・鉄琴・グロッケン等)の構造と演奏法を知る、集団での楽器演奏(グループワーク、ディスカッション) 第11回：(実技：ピアノ/実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)②「振り返りシート記入」 第12回：(講義・演習・実技)「ハンドベル」演奏方法と合奏(グループワーク、ディスカッション・プレゼンテーション)、 第13回：(講義・演習・実技)童謡曲から考える楽器の選択方法と合奏(グループワーク、ディスカッション) 第14回：(講義・演習・実技)絵本を用いた音表現について「効果音の取り入れ方を考える」(グループワーク、ディスカッション) 第15回：(講義・演習・実技)行事の曲を演奏する(発表) (鑑賞と反省)③ 定期試験 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある						
ナンバリング	PEDM2018						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36351		
科目	3635 幼児と表現Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	井中 あけみ			単位数	1		
その他担当者	森下 紗恵、高柳 賀代、藤原 英						
授業概要	この科目は、保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領の中の領域「表現」を根拠とし、子どもの発達段階に応じた音楽の活用方法、音楽環境を通じた子どもの表現など、様々な音楽表現活動を身に付ける。また、子どもの主体性を育むことに役立つ音楽活動について、自発的表現や創作表現などの保育活動への意識を深めていく。それらは「わらべうた遊び」「リズム遊び」「音楽と身体による動き」「擬音語、擬態語の音表現」「身近な素材を用いた創作楽器」「簡易楽器合奏」など、子どもが興味を持って表現できる活動を探索していくことに努める。また自らが身近な環境にある音の存在に気づき、音楽を活用した保育への関心を高める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1. 子どもの年齢発達段階に応じた、音楽表現活動を探索することができる。 2. 擬音語、擬態語などの遊びうた、身体遊びうたなど、環境に応じた子どもの表現遊びを実践することができる。 3. 自然や生活の中にある音を感じ取り、身近な素材で創作楽器を製作することができる。 4. 簡易楽器の種類や演奏法を知り、子どもが興味を持つような音表現をすることができる。 5. 音楽を通じた子どもの様々な主体的表現への取り組みを考えることができる。						
テキスト(教科書)	『こどものうた200』(小林美実編 チャイルド本社) ISBN978-4805400029 ピアノ教則本は、各自の実力に即したものを別途用意する。 (バイエル・ブルグミュラー25番練習曲・ソナチネアルバム1・ソナタアルバム1等)						
参考書および参考文献	授業中に適宜資料を配布する。 『幼稚園教育要領(最新版)』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領(最新版)』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針(最新版)』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81241-9						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎回の授業前までにピアノ課題の読譜と予習をする。(第1～14回/1h程度) 2. 授業内で指導された箇所に注意して復習する。(第1～14回/1h程度) 3. ピアノ実技小テスト2回と定期テスト1回の試験曲を完成させるための練習をする。(各テスト前1.5h程度)						
成績評価							
授業時の課題曲への練習(予習・復習)による技術(完成への段階)の向上を評価する。なお、ピアノ実技テストでは、その曲の完成度や表現力を評価する。また、グループ授業での音楽表現やその活動内容については、活動の提案内容やその表現方法を評価する。							
評価項目	割合	評価基準					
課題(ピアノ/実技)テスト	20%	個人の技術的レベルに応じ、楽曲に応じた伴奏法や歌唱法で、子どもたちに伝わる表現ができているかを評価する					
音楽表現活動方法のテスト	20%	子どもの発達に応じた活動を考え、子どもが興味を持てる音楽の表現方法を評価する					
定期試験(ピアノ/実技)	20%	保育環境を考え子どもが表現しやすい演奏をイメージできているか、またそれを発展させていく努力をしているかを評価する。					
ピアノ実技の予習復習の練習の取り組み方	40%	日頃の練習(予習や復習)の完成度の評価をする。授業時に合格点と判断した場合は得点として加算する(平常点)。					
授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時に新しい課題曲を演奏し、それを次の授業時に演奏する。また、その授業時に担当教員より受けたアドバイス・注意点を各自の「授業記録表」に記入する。さらにその「授業記録表」を担当教員が確認し、改善点などについてのさらなるアドバイスを行い記述しておく。これらの予習への取り組み方、復習への振り返りの改善などの「授業記録表」への各自の記入内容については、平常点として採点する。また、3回のピアノテスト時は、フィードバックを行う「ピアノテスト振り返りシート」を課題とし、その後担当教員と次のテストへの目標点についての面談も行う。 <ピアノ/実技> 「ピアノ教則本」については、個人レッスンで保育表現技能修得に努め、全ての授業回数において各学生の習熟度に合わせたピアノ教則本(該当する番号)を使用する。 「弾き歌い曲」については、課題曲として季節ごとに指定した楽曲を学修していく。(個人のレベルによって楽曲が弾き歌いできるよう、難易度で選曲する場合もある。) ピアノ/実技の修習の確認テストは3回実施する。テストごとに演奏結果を振り返りシートに記入し、フィードバックをすることで次の演奏にそれを応用できるようにする。 <保育の音楽表現法> 以下はクラス全員で学修する。 第1回：(講義・実技)ガイダンス、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所 保育指針の領域「表現」について、音楽を使用することの内容を理解する 第2回：(講義・実技)日本の音楽教育の歴史を知る 第3回：(講義・実技)乳児の音楽との関わりについて(生まれてからの環境音について) 第4回：(講義・演習・実技)乳児の音遊びの種類を知る(グループワーク) 第5回：(講義・演習・実技)童謡曲を用いた幼児の遊びうたについて「わらべうた」「リズム遊び」等(発達段階を踏まえた活動)(グループワーク) 第6回：(実技：ピアノ/実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)①「振り返りシート記入」 第7回：(講義・演習・実技)簡易楽器について「子どもが簡易楽器を使用すること、成長の関係性」 第8回：(講義・演習・実技)身近な素材を用いた簡易楽器の作成・即興的演奏(グループワーク、ディスカッション) 第9回：(講義・演習・実技)童謡曲から取り上げた「自然の音」を簡易楽器で演奏する 第10回：(講義・演習・実技)鍵盤楽器(木琴・鉄琴・グロッケン等)の構造と演奏法を知る、集団での楽器演奏(グループワーク、ディスカッション) 第11回：(実技：ピアノ/実技小テスト・次の課題に向けて(鑑賞と反省)②「振り返りシート記入」 第12回：(講義・演習・実技)「ハンドベル」演奏方法と合奏(グループワーク、ディスカッション・プレゼンテーション)、 第13回：(講義・演習・実技)童謡曲から考える楽器の選択方法と合奏(グループワーク、ディスカッション) 第14回：(講義・演習・実技)絵本を用いた音表現について「効果音の取り入れ方を考える」(グループワーク、ディスカッション) 第15回：(講義・演習・実技)行事の曲を演奏する(発表) (鑑賞と反省)③ 定期試験 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある						
ナンバリング	PEDM2018						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36360		
科目	3636 幼児と表現Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもの表現は、主活動の場面のみにならず、広く生活全般に息づくものであるとの視点から、子どもがどのような保育者に出会うかが如何に重要であるかを、事例や映像資料を基に理解を深める。また、人・モノ・音楽・絵本などとの様々な関わり方を通して、自ら感じ、考え、工夫することで、保育者としての受容力、表現力を養う。さらに、保育展開に必要な実践力を習得するために、模擬指導を通して、教材の活用、保育環境の構成について学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1.子どもの表現を理解、受容し、表現で応答できる。 2.他者と身体で関わることの重要性を理解し、説明、実践できる。 3.領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、実践できる。						
テキスト(教科書)	『からだからはじまる保育のアート』西 洋子・本山益子・岡本雅子編著(市村出版) ISBN: 978-4-902109481						
参考書および参考文献	『子どもの身体表現へからだところ、あらわしてあそぼう〜』西 洋子・本山益子編著(市村出版) ISBN: 978-4-902109-12-2 『幼稚園教育要領』(フレーベル館) ISBN: 9784577814222 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館) ISBN: 9784577814246 『保育所保育指針』(フレーベル館) ISBN: 9784577814239						
受講条件	(幼・保)必修 免許・資格取得希望者で「保育内容・表現」の受講経験があること						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第2回〜9回/1時間程度) 2. 実技課題の復習をする。(第1回〜14回/0.5時間程度) 3. レポート作成に取り組む(第7回〜13回/1時間程度) 4. 模擬指導の準備・計画、振り返りをする。(第8回〜15回/1時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、レポート等で総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
実技試験		20%	ポイントを理解し、努力できたか。実際に自分の身体で課題を達成できたか。				
テキストレポート		25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。				
模擬指導と振り返りシート		30%	内容の理解、教材、指導案の準備ができ、保育者の視点で実践できたか。				
課題レポート		25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技)リズムと表現(フォークダンス)(グループワーク) 第2回(講義・実技)リズムと表現(わらべうた遊び)(グループワーク) 第3回(講義・演習)身近なモノを使った表現(新聞)(グループワーク) 第4回(講義・演習)身近なモノを使った表現(布)(グループワーク) 第5回(講義・演習)身近なモノを使った表現(段ボール)(グループワーク) 第6回(講義・演習)身近なモノを使った表現(ペットボトル)(グループワーク) 第7回(講義・演習)子どもの身体表現(実践映像と事例検討) 第8回(講義・演習)イメージと身体表現(絵本)(グループワーク) 第9回(講義・演習)イメージと身体表現(音楽)(グループワーク) 第10回(演習)模擬指導(からだを意識した遊び) 第11回(演習)模擬指導(いろいろな動きの組み合わせ) 第12回(演習)模擬指導(身近なモノを使った遊び) 第13回(演習)模擬指導(音をテーマとした遊び) 第14回(演習)模擬指導(イメージの広がりがある遊び) 第15回(講義・演習)まとめ(振り返りと自己課題の確認) ※Classroomに提出された課題は、Classroomでコメントすることでフィードバックする。模擬指導については、都度コメントをすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEDM2019						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36361		
科目	3636 幼児と表現Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもの表現は、主活動の場面のみならず、広く生活全般に息づくものであるとの視点から、子どもがどのような保育者に出会うかが如何に重要であるかを、事例や映像資料を基に理解を深める。また、人・モノ・音楽・絵本などとの様々な関わり方を通して、自ら感じ、考え、工夫することで、保育者としての受容力、表現力を養う。さらに、保育展開に必要な実践力を習得するために、模擬指導を通して、教材の活用、保育環境の構成について学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1.子どもの表現を理解、受容し、表現で応答できる。 2.他者と身体で関わることの重要性を理解し、説明、実践できる。 3.領域「表現」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し、実践できる。						
テキスト(教科書)	『からだからはじまる保育のアート』西 洋子・本山益子・岡本雅子編著(市村出版) ISBN: 978-4-902109481						
参考書および参考文献	『子どもの身体表現へからだところ、あらわしてあそぼう〜』西 洋子・本山益子編著(市村出版) ISBN: 978-4-902109-12-2 『幼稚園教育要領』(フレーベル館) ISBN: 9784577814222 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館) ISBN: 9784577814246 『保育所保育指針』(フレーベル館) ISBN: 9784577814239						
受講条件	(幼・保)必修 免許・資格取得希望者で「保育内容・表現」の受講経験があること						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業計画に沿って、事前にテキストの該当箇所を読む。(第2回〜9回/1時間程度) 2. 実技課題の復習をする。(第1回〜14回/0.5時間程度) 3. レポート作成に取り組む(第7回〜13回/1時間程度) 4. 模擬指導の準備・計画、振り返りをする。(第8回〜15回/1時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標がどの程度達成されたかを、実技試験、模擬指導、レポート等で総合的に評価する。なお、劣悪な受講態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
実技試験		20%	ポイントを理解し、努力できたか。実際に自分の身体で課題を達成できたか。				
テキストレポート		25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。				
模擬指導と振り返りシート		30%	内容の理解、教材、指導案の準備ができ、保育者の視点で実践できたか。				
課題レポート		25%	期日を守り、適切な内容で、不足なく丁寧に記述できたか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・実技)リズムと表現(フォークダンス)(グループワーク) 第2回(講義・実技)リズムと表現(わらべうた遊び)(グループワーク) 第3回(講義・演習)身近なモノを使った表現(新聞)(グループワーク) 第4回(講義・演習)身近なモノを使った表現(布)(グループワーク) 第5回(講義・演習)身近なモノを使った表現(段ボール)(グループワーク) 第6回(講義・演習)身近なモノを使った表現(ペットボトル)(グループワーク) 第7回(講義・演習)子どもの身体表現(実践映像と事例検討) 第8回(講義・演習)イメージと身体表現(絵本)(グループワーク) 第9回(講義・演習)イメージと身体表現(音楽)(グループワーク) 第10回(演習)模擬指導(からだを意識した遊び) 第11回(演習)模擬指導(いろいろな動きの組み合わせ) 第12回(演習)模擬指導(身近なモノを使った遊び) 第13回(演習)模擬指導(音をテーマとした遊び) 第14回(演習)模擬指導(イメージの広がりがある遊び) 第15回(講義・演習)まとめ(振り返りと自己課題の確認) ※Classroomに提出された課題は、Classroomでコメントすることでフィードバックする。模擬指導については、都度コメントをすることでフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEDM2019						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36370
科目	3637 幼児と言葉			授業種別	週間授業
担当教員	青嶋 由美子			単位数	1
その他担当者					
授業概要	この科目は子どもの発達に応じた言語表現技術の習得を目的とする。保育者として、子どもの言葉の発達を多様な方面から支えるためには、言葉を用いた表現力が欠かせない。様々な児童文化財を効果的に用いながら、子どもの言語能力を刺激し発達させる関わり方を体得し、また、自らの言語を用いた発能力を充実させていくことが、本講の主旨となっている。				
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○	
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知ること、その発達過程に応じた児童文化財を選択出来ること、子どもの環境に応じた言葉掛けが出来ることは、保育者に欠かせない技能である。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 子どもの年齢に応じた言葉の発達過程を学び応用出来る。 2. 子どもの発達に応じた児童文化財（絵本・ストーリーテリングなど）を選択出来、読み聞かせたり語りたりすることが出来る。 3. 子どもが自ら児童文化財に接することが出来るような環境構成を考えられる。 4. 子どもの様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びが展開出来る。				
テキスト（教科書）	『保育・教育ネオシリーズ [20] 保育内容・言葉 第三版』太田光洋 編著 内藤由佳子・大迫秀樹・田口鉄久他 著（同文書院） （1年次に使用したもの）ISBN978-4-8103-1471-7 『認定絵本士養成講座テキスト』（1年次に使用したもの）ISBN978-4-8058-8225-2 『幼稚園教育要領』（フレーベル館）ISBN：978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』（フレーベル館）ISBN：978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』（フレーベル館）ISBN：978-4-577-81424-6 その他に授業時に配布するプリントを使用				
参考書および参考文献	『年中行事読本：日本の四季を愉しむ歳時ごよみ』岡田 芳朗 ・ 松井 吉昭 著（創元社）ISBN：978-442230344、『保育に生かせる1年中行事・園行事 ことばのかね』横山洋子・中島千恵子 著（学研教育出版）ISBN：978-4-05-405915-3等の、年中行事や四季について記された本				
受講条件	『保育内容・言葉』を履修済であること。（幼・保）必修				
事前・事後学修（内容・時間）	担当日時を決めスピーチと部分指導案の実施（児童文化財を含む）を行うため、十分な時間をかけて準備を促して欲しい。 1. スピーチ及び部分指導案実施（資料等の制作を含む）の準備（4時間程度） 2. 児童文化財の実演の準備（4時間程度） 3. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第2回～15回/0.7時間程度） 4. クラスメイトが選択した児童文化財についてまとめておくこと（第2回～15回/0.5時間程度） 5. 必要に応じてClassroom上に確認テストの問題を事前にアップするで、解答を準備しておく（1回0.5時間程度×6回） 6. 第15回のグループワークに向けて、実習での言葉がけの体験を振り返りまとめておく（2時間） 7. 第16回定期試験のために、授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと（6時間程度）				
成績評価					
発表担当者の発表をどのように受け止めて評価出来たかを10%、発表担当の際の出来具合を40%、定期試験で測る理解度を50%として総合評価とする。					
評価項目		割合	評価基準		
発表担当者の発表をどのように受け止めて評価出来たか		10%	評価表の配点により理解度を確認する。		
発表担当の際の出来具合		40%	スピーチと部分指導案の実施（児童文化財の実演を含む）について、題材の選択状況・発表の際の発声・聞き手への配慮、対象年齢の設定・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。評価の段階については、ガイダンスにてルーブリックを提示する。		
定期試験		50%	筆記試験にて理解度を確認する。		
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義）ガイダンス			
	第2回	（講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（0ヶ月～6ヶ月頃）			
	第3回	（講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（6ヶ月頃～12ヶ月頃）			
	第4回	（講義、実技）1歳児の言葉の発達と保育教材 4月にふさわしいスピーチと部分指導案の実施（児童文化財の使用）（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第5回	（講義、実技）2歳児の言葉の発達と保育教材 5月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第6回	（講義、実技）3歳児の言葉の発達と保育教材 6月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第7回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論③ （子供の知的・社会的発達と絵本との関わり）			
	第8回	（講義、実技）4歳児の言葉の発達と保育教材 7・8月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第9回	（講義、実技）5歳児の言葉の発達と保育教材 9月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第10回	（講義、実技）就学前期の言葉の発達と保育教材 10月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第11回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本）			
	第12回	（講義、実技）言葉を伸ばすための遊び①（しりとり遊びが出来るまで） 11月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第13回	（講義、実技）言葉を伸ばすための遊び②（言葉を分類する遊び） 12月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第14回	（講義、実技）言葉を伸ばすための遊び③（言葉遊びの伝え方） 1月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第15回	（講義、実技）保育活動の際の言葉掛け（グループワーク・プレゼンテーション） 2・3月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク）			
	第16回	定期試験			
第4～6・8～10・12～15回については、スピーチと部分指導案の実施（児童文化財の実演を含む）を行う。					
※スピーチと児童文化財の実演については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにルーブリック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。					
ナンバリング	PEDM2020				

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	36371
科目	3637 幼児と言葉			授業種別	週間授業
担当教員	青嶋 由美子			単位数	1
その他担当者					
授業概要	この科目は子どもの発達に応じた言語表現技術の習得を目的とする。保育者として、子どもの言葉の発達を多様な方面から支えるためには、言葉を用いた表現力が欠かせない。様々な児童文化財を効果的に用いながら、子どもの言語能力を刺激し発達させる関わり方を体得し、また、自らの言語を用いた発能力を充実させていくことが、本講の主旨となっている。				
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○	
到達目標	子どもの言葉の発達過程を知ること、その発達過程に応じた児童文化財を選択出来ること、子どもの環境に応じた言葉掛けが出来ることは、保育者に欠かせない技能である。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」等に沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1. 子どもの年齢に応じた言葉の発達過程を学び応用出来る。 2. 子どもの発達に応じた児童文化財（絵本・ストーリーテリングなど）を選択出来、読み聞かせたり語ったりすることが出来る。 3. 子どもが自ら児童文化財に接することが出来るような環境構成を考えられる。 4. 子どもの様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びが展開出来る。				
テキスト（教科書）	『保育・教育ネオシリーズ [20] 保育内容・言葉 第三版』太田光洋 編著 内藤由佳子・大迫秀樹・田口鉄久他 著（同文書院） （1年次に使用したもの）ISBN978-4-8103-1471-7 『認定絵本士養成講座テキスト』（1年次に使用したもの）ISBN978-4-8058-8225-2 『幼稚園教育要領』（フレーベル館）ISBN：978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』（フレーベル館）ISBN：978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』（フレーベル館）ISBN：978-4-577-81424-6 その他に授業時に配布するプリントを使用				
参考書および参考文献	『年中行事読本：日本の四季を愉しむ歳時ごよみ』岡田 芳朗 ・ 松井 吉昭 著（創元社）ISBN：978-442230344、『保育に生かせる1年中行事・園行事 ことばのかね』横山洋子・中島千恵子 著（学研教育出版）ISBN：978-4-05-405915-3等の、年中行事や四季について記された本				
受講条件	『保育内容・言葉』を履修済であること。（幼・保）必修				
事前・事後学修（内容・時間）	担当日時を決めスピーチと部分指導案の実施（児童文化財を含む）を行うため、十分な時間をかけて準備をして欲しい。 1. スピーチ及び部分指導案実施（資料等の制作を含む）の準備（4時間程度） 2. 児童文化財の実演の準備（4時間程度） 3. 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（第2回～15回/0.7時間程度） 4. クラスメートが選択した児童文化財についてまとめておくこと（第2回～15回/0.5時間程度） 5. 必要に応じてClassroom上に確認テストの問題を事前にアップするの、解答を準備しておく（1回0.5時間程度×6回） 6. 第15回のグループワークに向けて、実習での言葉がけの体験を振り返りまとめておく（2時間） 7. 第16回定期試験のために、授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと（6時間程度）				
成績評価					
発表担当者の発表をどのように受け止めて評価出来たかを10%、発表担当の際の出来具合を40%、定期試験で測る理解度を50%として総合評価とする。					
評価項目	割合	評価基準			
発表担当者の発表をどのように受け止めて評価出来たか	10%	評価表の配点により理解度を確認する。			
発表担当の際の出来具合	40%	スピーチと部分指導案の実施（児童文化財の実演を含む）について、題材の選択状況・発表の際の発声・聞き手への配慮、対象年齢の設定・言葉掛けの適切さの観点から理解度を確認する。評価の段階については、ガイダンスにてルーブリックを提示する。			
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認する。			
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）ガイダンス 第2回（講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（0ヶ月～6ヶ月頃） 第3回（講義、実技）0歳児の言葉の発達と保育教材（6ヶ月頃～12ヶ月頃） 第4回（講義、実技）1歳児の言葉の発達と保育教材 4月にふさわしいスピーチと部分指導案の実施（児童文化財の使用）（プレゼンテーション・グループワーク） 第5回（講義、実技）2歳児の言葉の発達と保育教材 5月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第6回（講義、実技）3歳児の言葉の発達と保育教材 6月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第7回（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本各論③ （子供の知的・社会的発達と絵本との関わり） 第8回（講義、実技）4歳児の言葉の発達と保育教材 7・8月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第9回（講義、実技）5歳児の言葉の発達と保育教材 9月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第10回（講義、実技）就学前期の言葉の発達と保育教材 10月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第11回（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本） 第12回（講義、実技）言葉を伸ばすための遊び①（しりとり遊びが出来るまで） 11月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第13回（講義、実技）言葉を伸ばすための遊び②（言葉を分類する遊び） 12月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第14回（講義、実技）言葉を伸ばすための遊び③（言葉遊びの伝え方） 1月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第15回（講義、実技）保育活動の際の言葉掛け（グループワーク・プレゼンテーション） 2・3月にふさわしいスピーチと児童文化財の使用（プレゼンテーション・グループワーク） 第16回 定期試験 第4～6・8～10・12～15回については、スピーチと部分指導案の実施（児童文化財の実演を含む）を行う。 ※スピーチと児童文化財の実演については、実施時にコメントし、助言する。 達成度の目安とするためにルーブリック評価表を用いての説明を行う。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある。				
ナンバリング	PEDM2020				

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	36380		
科目	3638 幼児と環境			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもたちを取り巻く環境には、描画材料として活用できるものがたくさんある。また、そうした環境と自身が関わることは、興味・関心を外に向ける事につながる。この授業では、表現することを通じて自身の学びと育ちを体験し、領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点について学習することを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し説明できる。 2 生活環境の中から工夫し、自分なりの表現を楽しみながら実践できる。 3 保育者として配慮すべき内容を意識し、ともに教え合いながら修得することができる。 4 身近な素材を使って、子どもに伝えるべき技術を身につける。						
テキスト(教科書)	なし。						
参考書および参考文献	適宜資料を用いる 『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった製作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。						
成績評価							
各技法カードの制作におけるポイントの気付きや、まとめ方を70%、技法を活かした作品の仕上がりを20%、技法集としての統一感を10%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。							
評価項目		割合	評価基準				
制作におけるポイントの気付きや、まとめ方		70%	保育者としてその技法をどのように展開することができるか、どのような配慮が必要となるか、授業での制作体験から考えたことをまとめられているか。第1回にてプリントを配布し、説明する。				
技法を活かした作品		20%	それぞれの技法について説明をよく理解し、それを活かした制作を楽しみながら取り組むことができたか。				
技法集としての仕上げ		10%	技法集を作るにあたり、どのようにしたら見やすくまとまるか、工夫ができているか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(演習) ガイダンス ヨハネス・イツデンの色相環					
	第2回	(演習) 吹きながし たらし絵 合わせ絵					
	第3回	(演習) にじみ絵 スポンジ画 霧ふりかけ					
	第4回	(演習) サインペンの水描き 指絵 手形足形とり					
	第5回	(演習) ウクライナの子どもたちへのクリスマスカード					
	第6回	(演習) ステンシル ひっかき絵 はじき絵					
	第7回	(演習) フォトモンタージュ スチロールモノプリント					
	第8回	(演習) ダンボールの型押し 孔版					
	第9回	(演習) 重ね色スタンピング ビーズころがし					
	第10回	(演習) ウォッシング 墨ながし ごすり出し					
	第11回	(演習) 墨つけデザイン 糸ころがし 糸ひき絵					
	第12回	(演習) アワうつし 紙の折り染め					
	第13回	(演習) 砂絵 切り紙 スキージー					
	第14回	(演習) これまでの技法を使った表紙の制作					
	第15回	(演習) 目次の制作 提出					
		※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説すること でフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業 を欠席扱いとすることがある。					
ナンバリング	PEDM1009						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	36381		
科目	3638 幼児と環境			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	子どもたちを取り巻く環境には、描画材料として活用できるものがたくさんある。また、そうした環境と自身が関わることは、興味・関心を外に向ける事につながる。この授業では、表現することを通じて自身の学びと育ちを体験し、領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点について学習することを目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			
到達目標	1 領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点を理解し説明できる。 2 生活環境の中から工夫し、自分なりの表現を楽しみながら実践できる。 3 保育者として配慮すべき内容を意識し、ともに教え合いながら修得することができる。 4 身近な素材を使って、子どもに伝えるべき技術を身につける。						
テキスト(教科書)	なし。						
参考書および参考文献	適宜資料を用いる 『幼稚園教育要領』(文部科学省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81422-2 『保育所保育指針』(厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81423-9 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館) ISBN978-4-577-81424-6						
受講条件	(幼・保) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回2時間程度) 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかった製作は、完成するまでこだわりを持って取り組むこと。						
成績評価	各技法カードの制作におけるポイントの気付きや、まとめ方を70%、技法を活かした作品の仕上がりを20%、技法集としての統一感を10%の割合で、総合的に評価する。制作物は全て提出することが前提である。						
評価項目		割合	評価基準				
制作におけるポイントの気付きや、まとめ方		70%	保育者としてその技法をどのように展開することができるか、どのような配慮が必要となるか、授業での制作体験から考えたことをまとめられているか。第1回にてプリントを配布し、説明する。				
技法を活かした作品		20%	それぞれの技法について説明をよく理解し、それを活かした制作を楽しみながら取り組むことができたか。				
技法集としての仕上げ		10%	技法集を作るにあたり、どのようにしたら見やすくまとまるか、工夫ができているか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(演習) ガイダンス	ヨハネス・イツデンの色相環				
	第2回	(演習) 吹きながし	たらし絵 合わせ絵				
	第3回	(演習) にじみ絵	スポンジ画 霧ふりかけ				
	第4回	(演習) サインペンの水描き	指絵 手形足形とり				
	第5回	(演習) ウクライナの子どもたちへのクリスマスカード					
	第6回	(演習) ステンシル	ひっかき絵 はじき絵				
	第7回	(演習) フォトモンタージュ	スチロールモノプリント				
	第8回	(演習) ダンボールの型押し	孔版				
	第9回	(演習) 重ね色スタンピング	ビー玉ころがし				
	第10回	(演習) ウォッシング	墨ながし こすり出し				
	第11回	(演習) 墨つけデザイン	糸ころがし 糸ひき絵				
	第12回	(演習) アワうつし	紙の折り染め				
	第13回	(演習) 砂絵 切り紙	スキージ				
	第14回	(演習) これまでの技法を使った表紙の制作					
	第15回	(演習) 目次の制作	提出				
		※提出物返却時にコメントし、活動においてポイントとなる箇所については授業内で解説すること でフィードバックする。 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。					
ナンバリング	PEDM1009						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期		授業コード	36510		
科目	3651 言葉と表現		授業種別	週間授業		
担当教員	井原 淑雅		単位数	2		
その他担当者						
授業概要	子どもと生活することを生業とする保育者は、豊かな教養と広い視野を持つ必要がある。そこでまずこの授業では、哲学、宗教、数学、国文学、英文学の分野で言葉をどのように捉えているか考える。次に乳幼児期の言葉の教育を考えるうえで、自国の幼児教育だけでなく諸外国の状況にも目を向けてみる。さらに乳幼児期の言葉の発達、言葉の重要性、今後の課題についても考えてみたいと思う。そのためには、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の内容を踏まえて、人間にとって言葉とは何かを考えてみたいと思う。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4		
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○			
到達目標	保育者として「言葉」を用いて子どもや保護者と関わっていくためには、言葉の四技能は可能な限りレベルを高めておく必要がある。また、学科の学位授与方針「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「保育に関する専門的な知識や技能を習得する」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身に付けている」の土台を形成するものとして、以下を到達目標とする。 1. はっきりとした十分な声量で正しく文章を読める。 2. 日本語の基礎的な言語知識を運用できる。 3. 文章や資料の読解や情報処理ができる。 4. 読み手に伝わる文章を書くことができる 5. 話し手が伝えたい内容を要約し、論点をつかむことができる。					
テキスト(教科書)	『子どもの育ちを支える 子どもと言葉』改訂新版、浅見均編著、大学図書出版、ISBN:978-4-909655-61-5 『わかる・書ける・使える 保育の基本用語』長島和代編、わかば社、ISBN978-4-907270-34-6					
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。					
受講条件	(卒・幼)必修					
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に「保育用語漢字練習シート」の練習問題に取り組み解答しておくこと(第2~14回/0.75時間程度) 2. 毎授業後に前回分の練習問題を復習し、確認テストの準備をすること(第2~14回/0.75時間程度) 3. 毎授業前に朗読の準備として黙読を通して内容把握を行い、実際に音読すること(第2~14回/0.75時間程度) 4. 毎授業後に「保育の基本用語の意味」を再確認すること(第2~15回/0.75時間程度) 5. 第16回定期試験のために、確認テスト・授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと(4時間程度)					
成績評価	授業時間内でのプリント・テキスト提出(30%)、確認テスト(10%)、意見発表・音読(10%)、定期試験(50%)として評価する。なお、授業内課題をすべて提出していないものは、定期試験を受験できない。					
評価項目		割合	評価基準			
授業内容の理解度		30%	講義内容の理解度を確認する。			
確認テスト		10%	講義内容の習熟度を確認する。			
意見発表・音読		10%	聞き手を意識した発声になっているか、内容を理解した上での読み方となっているかを確認する。			
定期試験		50%	筆記試験にて理解度を確認する。			
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス 及び『子どもと言葉』序編 1章言葉とはなにか、実習日誌の漢字4月 第2回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】絵本総論(絵本とは何か) 【認定講座用課題有】 第3回(講義・演習) 【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本②(昔話、童話を基にした絵本)『子どもと言葉』実践編 5章児童文化-神話・おとぎ話・童話- 第4回(講義・演習)第1章乳幼児教育の基本 第2章乳幼児期における言葉の発達、実習日誌の漢字5月 第5回(講義・演習)『子どもと言葉』理論編 3章保育内容「言葉」の歴史の変遷 4章保育内容領域「言葉」とは、実習日誌の漢字6月 第6回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 1章生活体験と言葉 2章遊びと言葉、実習日誌の漢字7月 第7回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 3章感動体験と言葉 4章児童文化と言葉、実習日誌の漢字8月 第8回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術②(書評・紹介文の書き方)——絵本ノートから発展させる——、実習日誌の漢字9月 第9回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 6章文字との出会い 7章こどもの育ちを支える保育者の言、実習日誌の漢字10月 第10回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 8章言葉のかかわりに配慮を要する子ども 9章幼児教育と小学校教育との接続と言葉 10章幼児期の言葉の課題、実習日誌の漢字11月 第11回(講義・演習)文章作成の基礎1、実習日誌の漢字12月 第12回(講義・演習)文章作成の基礎2、実習日誌の漢字1月 第13回(講義・演習)文章読解力1、実習日誌の漢字2月 第14回(講義・演習)文章読解力2、実習日誌の漢字3月 第15回(講義・演習)レポート作成の基礎 第16回 定期試験 ※確認テストについては、返却時に毎回コメントする。 ※課題については、提出後にコメントする。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある					
ナンバリング	PEDM1010					

開講年度・開講学期	2025年度 春学期		授業コード	36511		
科目	3651 言葉と表現		授業種別	週間授業		
担当教員	井原 淑雅		単位数	2		
その他担当者						
授業概要	子どもと生活することを生業とする保育者は、豊かな教養と広い視野を持つ必要がある。そこでまずこの授業では、哲学、宗教、数学、国文学、英文学の分野で言葉をどのように捉えているか考える。次に乳幼児期の言葉の教育を考えるうえで、自国の幼児教育だけでなく諸外国の状況にも目を向けてみる。さらに乳幼児期の言葉の発達、言葉の重要性、今後の課題についても考えてみたいと思う。そのためには、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の内容を踏まえて、人間にとって言葉とは何かを考えてみたいと思う。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4		
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○			
到達目標	保育者として「言葉」を用いて子どもや保護者と関わっていくためには、言葉の四技能は可能な限りレベルを高めておく必要がある。また、学科の学位授与方針「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「保育に関する専門的な知識や技能を習得する」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身につけている」の土台を形成するものとして、以下を到達目標とする。 1. はっきりとした十分な声量で正しく文章を読める。 2. 日本語の基礎的な言語知識を運用できる。 3. 文章や資料の読解や情報処理ができる。 4. 読み手に伝わる文章を書くことができる 5. 話し手が伝えたい内容を要約し、論点をつかむことができる。					
テキスト(教科書)	『子どもの育ちを支える 子どもと言葉』改訂新版、浅見均編著、大学図書出版、ISBN:978-4-909655-61-5 『わかる・書ける・使える 保育の基本用語』長島和代編、わかば社、ISBN978-4-907270-34-6					
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。					
受講条件	(卒・幼)必修					
事前・事後学修(内容・時間)	1. 毎授業前に「保育用語漢字練習シート」の練習問題に取り組み解答しておくこと(第2~14回/0.75時間程度) 2. 毎授業後に前回分の練習問題を復習し、確認テストの準備をすること(第2~14回/0.75時間程度) 3. 毎授業前に朗読の準備として黙読を通して内容把握を行い、実際に音読すること(第2~14回/0.75時間程度) 4. 毎授業後に「保育の基本用語の意味」を再確認すること(第2~15回/0.75時間程度) 5. 第16回定期試験のために、確認テスト・授業での配布プリント・テキストの復習を行うこと(4時間程度)					
成績評価	授業時間内でのプリント・テキスト提出(30%)、確認テスト(10%)、意見発表・音読(10%)、定期試験(50%)として評価する。なお、授業内課題をすべて提出していないものは、定期試験を受験できない。					
評価項目		割合	評価基準			
授業内容の理解度		30%	講義内容の理解度を確認する。			
確認テスト		10%	講義内容の習熟度を確認する。			
意見発表・音読		10%	聞き手を意識した発声になっているか、内容を理解した上での読み方となっているかを確認する。			
定期試験		50%	筆記試験にて理解度を確認する。			
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス 及び『子どもと言葉』序編 1章言葉とはなにか、実習日誌の漢字4月 第2回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本総論(絵本とは何か)(認定講座用課題有) 第3回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】さまざまなジャンルの絵本②(昔話、童話を基にした絵本)『子どもと言葉』実践編 5章児童文化-神話・おとぎ話・童話- 第4回(講義・演習)第1章乳幼児教育の基本 第2章乳幼児期における言葉の発達、実習日誌の漢字5月 第5回(講義・演習)『子どもと言葉』理論編 3章保育内容「言葉」の歴史の変遷 4章保育内容領域「言葉」とは、実習日誌の漢字6月 第6回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 1章生活体験と言葉 2章遊びと言葉、実習日誌の漢字7月 第7回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 3章感動体験と言葉 4章児童文化と言葉、実習日誌の漢字8月 第8回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術②(書評・紹介文の書き方)——絵本ノートから発展させる——、実習日誌の漢字9月 第9回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 6章文字との出会い 7章こどもの育ちを支える保育者の言、実習日誌の漢字10月 第10回(講義・演習)『子どもと言葉』実践編 8章言葉のかかわりに配慮を要する子ども 9章幼児教育と小学校教育との接続と言葉 10章幼児期の言葉の課題、実習日誌の漢字11月 第11回(講義・演習)文章作成の基礎1、実習日誌の漢字12月 第12回(講義・演習)文章作成の基礎2、実習日誌の漢字1月 第13回(講義・演習)文章読解力1、実習日誌の漢字2月 第14回(講義・演習)文章読解力2、実習日誌の漢字3月 第15回(講義・演習)レポート作成の基礎 第16回 定期試験 ※確認テストについては、返却時に毎回コメントする。 ※課題については、提出後にコメントする。 ※ただし、履修している学生の習熟度により授業計画を変更することもある					
ナンバリング	PEDM1010					

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～ 2026年度 春学期			授業コード	37110		
科目	3711 実習指導			授業種別	2025年度 秋学期（週間授業）、 2026年度 春学期（週間授業）		
担当教員	杉山 和恵			単位数	2		
その他担当者	大矢 龍弥						
授業概要	教育実習に向けて、幼稚園の保育の流れや保育活動に必要な知識や技能を習得しようとする意識を高め、目的を持って実習に取り組む意欲的な態度を養う。子どもの発達、遊び、教材、記録、指導案などについて学び、実習に生かすことのできる実践力を身に付ける。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	1. 幼稚園の機能、保育者の職務、幼児期の子どもの特徴について理解し、保育職に関する基本的な予備知識を実践に生かすことができる。 2. 保育者に求められる専門的知識や技能を知り、その習得に主体的に取り組む。 3. 実習に必要な手続き、教材や記録、指導案について学び、実習に向けての具体的な準備を整える。 4. 実習における自分自身の目標と課題を明らかにするとともに、実習後の振り返りを通して自らの改善点を把握し、それを次の実習に生かすことができる。						
テキスト（教科書）	『実習の記録と指導案』田中亨胤監修・山本淳子編著（ひかりのくに）ISBN978-4-564-60910-7						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省（フレーベル館）ISBN：9784577814222 『保育所保育指針』厚生労働省（フレーベル館）ISBN：9784577814239 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館）ISBN：9784577814246						
受講条件	（幼）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 授業で取り組んだ課題やレポートを読み返し学習する。（第1～15回／2.6時間程度） 2. 授業内・外で作成した保育教材や身に付けた保育技術を実習で活用する方法を考え、実践的な練習を重ねる。（第10,14回／1.3時間程度） 3. 実習に必要な書類や手続き等の準備を確実に行う。（第6～8,11～13,15回／2.6時間程度） 4. 実習園から指示された課題も含め実習に向けた準備学習に積極的に取り組む。（第6～8,11～13,15回／2.6時間程度） 5. 実習後の振り返りから具体的な反省点を挙げ、次の実習への課題を明らかにする。（第9回／1.3時間程度）						
成績評価	授業への参加度と課題（70%）、レポート課題（30%）をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		70%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
レポート課題		30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	〈教育実習について～2025年度秋学期開講～〉 第 1回 （講義）ガイダンス 教育実習の意義と目的 第 2回 （講義・演習）保育における計画 第 3回 （講義・演習）長期の指導計画・短期の指導計画 第 4回 （演習）子どもの発達過程－運動機能 第 5回 （演習）子どもの発達過程－生活習慣 第 6回 （講義・演習）保育における記録について 第 7回 （講義・演習）指導案について（ディスカッション） 第 8回 （講義）実習前の準備・心構えについて（実習ガイダンス） 〈教育実習について～2026年度春学期開講～〉 第 9回 （演習）教育実習を振り返って（グループワーク、ディスカッション） 第10回 （講義・演習・実技）教材研究（グループワーク） 第11回 （演習）子どもの発達と遊び 第12回 （演習）実習記録について 第13回 （演習）指導案について 第14回 （演習）教材研究の成果発表（プレゼンテーション） 第15回 （講義）実習前の準備・心構えについて（実習ガイダンス） ※授業内で実施した課題やレポートについては、提出後コメントを付けて学生に返却し、その後の学習に活用できるようにする。さらに、内容によっては、課題の発表を通じて学生同士が学習成果を共有し、学びを深められるようにする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEEM1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～ 2026年度 春学期			授業コード	37111		
科目	3711 実習指導			授業種別	2025年度 秋学期（週間授業）、 2026年度 春学期（週間授業）		
担当教員	杉山 和恵			単位数	2		
その他担当者	大矢 龍弥						
授業概要	教育実習に向けて、幼稚園の保育の流れや保育活動に必要な知識や技能を習得しようとする意識を高め、目的を持って実習に取り組む意欲的な態度を養う。子どもの発達、遊び、教材、記録、指導案などについて学び、実習に生かすことのできる実践力を身に付ける。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	1. 幼稚園の機能、保育者の職務、幼児期の子どもの特徴について理解し、保育職に関する基本的な予備知識を実践に生かすことができる。 2. 保育者に求められる専門的知識や技能を知り、その習得に主体的に取り組む。 3. 実習に必要な手続き、教材や記録、指導案について学び、実習に向けての具体的な準備を整える。 4. 実習における自分自身の目標と課題を明らかにするとともに、実習後の振り返りを通して自らの改善点を把握し、それを次の実習に生かすことができる。						
テキスト（教科書）	『実習の記録と指導案』田中亨胤監修・山本淳子編著（ひかりのくに）ISBN978-4-564-60910-7						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省（フレーベル館）ISBN：9784577814222 『保育所保育指針』厚生労働省（フレーベル館）ISBN：9784577814239 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館）ISBN：9784577814246						
受講条件	（幼）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 授業で取り組んだ課題やレポートを読み返し学習する。（第1～15回／2.6時間程度） 2. 授業内・外で作成した保育教材や身に付けた保育技術を実習で活用する方法を考え、実践的な練習を重ねる。（第10,14回／1.3時間程度） 3. 実習に必要な書類や手続き等の準備を確実に行う。（第6～8,11～13,15回／2.6時間程度） 4. 実習園から指示された課題も含め実習に向けた準備学習に積極的に取り組む。（第6～8,11～13,15回／2.6時間程度） 5. 実習後の振り返りから具体的な反省点を挙げ、次の実習への課題を明らかにする。（第9回／1.3時間程度）						
成績評価	授業への参加度と課題（70%）、レポート課題（30%）をもとに、総合的に評価する。劣悪な受講態度は減点の対象となることがある。						
評価項目		割合	評価基準				
授業中の課題		70%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
レポート課題		30%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	〈教育実習について～2025年度秋学期開講～〉 第 1回 （講義）ガイダンス 教育実習の意義と目的 第 2回 （講義・演習）保育における計画 第 3回 （講義・演習）長期の指導計画・短期の指導計画 第 4回 （演習）子どもの発達過程－運動機能 第 5回 （演習）子どもの発達過程－生活習慣 第 6回 （講義・演習）保育における記録について 第 7回 （講義・演習）指導案について（ディスカッション） 第 8回 （講義）実習前の準備・心構えについて（実習ガイダンス） 〈教育実習について～2026年度春学期開講～〉 第 9回 （演習）教育実習を振り返って（グループワーク、ディスカッション） 第10回 （講義・演習・実技）教材研究（グループワーク） 第11回 （演習）子どもの発達と遊び 第12回 （演習）実習記録について 第13回 （演習）指導案について 第14回 （演習）教材研究の成果発表（プレゼンテーション） 第15回 （講義）実習前の準備・心構えについて（実習ガイダンス） ※授業内で実施した課題やレポートについては、提出後コメントを付けて学生に返却し、その後の学習に活用できるようにする。さらに、内容によっては、課題の発表を通じて学生同士が学習成果を共有し、学びを深められるようにする。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	PEEM1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～ 2026年度 秋学期		授業コード	37211			
科目	3721 教育実習		授業種別	2025年度 秋学期（実習）、 2026年度 春学期（実習）、 2026年度 秋学期（実習）			
担当教員	杉山 和恵		単位数	4			
その他担当者	大矢 龍弥						
授業概要	幼稚園教諭二種免許状を取得する者は、幼稚園における教育実習4単位を履修する必要がある。教育実習は法律で定められた教員免許状取得のための一要件であり、大学において学んだ基礎的科目及び専門的科目の知識・技能を幼稚園という具体的な場において統合・応用・拡大・深化させるものである。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	1. 幼稚園の機能や保育者の職務について、保育現場における観察や参加を通して実践的に学び、保育者としての資質を形成する。 2. 子どもの観察及び子どもとの実際の関わりから子ども理解への意欲を高め、さらに記録の記述を通して子どもの内面について考察を深めることができる。 3. 保育者の職務を体験することを通して、基本的な保育技術や援助方法を体得し、自ら保育を展開することができる。 4. 保育の計画、実践、反省のプロセスを経験し、保育の実践力を高めるための自らの課題を説明できる。						
テキスト（教科書）	『幼稚園教育要領』文部科学省（フレーベル館）ISBN978-4-577-81422-2						
参考書および参考文献	『実習の記録と指導案』田中亨胤監修・山本淳子編著（ひかりのくに）ISBN978-4-564-60910-7						
受講条件	（幼）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 実習指導で取り組んだ課題やレポートを読み返し学習する。 2. 授業内・外で作成した保育教材や身に付けた保育技術を実習で活用する方法を考え、実践的な練習を重ねる。 3. 実習に必要な書類や手続き等の準備を確実に行う。 4. 実習園から指示された準備学習に積極的に取り組む。 5. 実習中は、毎日の課題（実習記録や指導案の作成、教材の準備等）に着実に取り組む。 6. 実習後の振り返りから具体的な反省点を挙げ、次の実習あるいは保育職に向けての自分自身の課題を明らかにする。						
成績評価							
二回の実習園からの実習評価及び実習記録等から評価する。実習における劣悪な実習態度は、減点の対象となることがある。							
評価項目	割合	評価基準					
実習園による実習評価	80%	実習の達成度を4段階で評価する。					
実習記録	20%	実習記録の内容を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	以下の予定で実習を行う。 〈2024年度入学生〉 2025年1月27日～2月7日、2025年9月29日～10月10日 〈2025年度入学生〉 2026年1月30日～2月13日 ※2年次日程は未定 学生の習熟度に合わせて、観察・参加・責任実習と段階を追って経験する。 ※実習記録については、返却時にコメントを付け、フィードバックを行う。						
ナンバリング	PEEM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～2026年度 春学期		授業コード	37230				
科目	3723 保育実習Ⅰ（保育所）		授業種別	2025年度 秋学期（実習）、2026年度 春学期（実習）				
担当教員	鈴木 順子		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	学内での学びをもとに、実践の場における子どもの生活や遊びを通して、保育所の役割、機能に対する理解を深める。子どもや保育の観察、参加をすることで子どもについて深く理解し、保育士の関わりについて学ぶ。全体的な計画に沿った指導計画の作成や計画に基づく実践の在り方について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎				
到達目標	1.保育実習の意義、目的を理解し、学内で習得した知識、技能を実践の場で応用できる。 2.子どもとの直接的な関わりを通して子どもへの理解を深め、保育の計画、実践、評価について実践できる。 3.実習生自身が実習を通して、新たな課題を持ち、改善に取り組める。 4.保育士の業務内容や職業倫理、職員の連携について理解し、実践することができる。							
テキスト（教科書）	なし							
参考書および参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省（フレーベル館）ISBN978-4-577-81423-9							
受講条件	（保）必修							
事前・事後学修（内容・時間）	1.子どもの発達や保育内容について復習しておく 2.事前訪問で指導された保育内容（絵本の読み聞かせ、ピアノの弾き歌い、部分指導案の作成等）を準備する 3.実習期間中は毎日、記録や指導案作成等の課題に取り組む 4.実習後は自身を振り返り、課題克服につとめる							
成績評価								
実習記録、実習園からの評価を基に総合的に評価する。								
評価項目		割合	評価基準					
実習園による実習評価		80%	実習の達成度を4段階で評価する。					
実習記録		20%	実習記録の内容を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	保育所実習1年生 令和6年12月2日～12月14日 〔保育所実習の内容〕 1.保育所の機能と役割 2.子ども理解 3.保育内容・保育環境 4.保育の計画、観察、記録 5.保育所の保育士としての役割と職業倫理 ※実習園からの評価については、内容に配慮しながら個別に学生に指導し、気づきを促す							
ナンバリング	PEEM1003							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～2026年度 秋学期			授業コード	37240		
科目	3724 保育実習Ⅰ（施設）			授業種別	2025年度 秋学期（実習）、2026年度 春学期（実習）、2026年度 秋学期（実習）		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	保育士が社会福祉施設で求められる専門性を現場で体験的に学習する事を目的とした科目である。子ども（利用者）との関わりと現場の業務や援助の経験を通して、子ども（利用者）の理解と、理論と実践の理解を深めることを目指す。そして、就職後に援助を実践できる力を身に付けることを目標とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎			
到達目標	1. 実習施設の業務に主体的に参加することで、実習施設が持つ機能や社会的役割について理解し、説明できる。 2. 実習施設における保育士等の子どもや利用者への援助内容を観察し、参加することで、施設の一日の生活の流れや援助・業務の基本的な内容の理解し、説明できる。 3. 主体的に子ども（利用者）とかわかり、援助に携わることにより、子ども（利用者）の生活に対する理解を深め、適切な援助を考え実行することができる。 4. 実習施設を利用している子ども（利用者）や家族が抱える問題やニーズについて理解し、適切な援助を考え実行することができる。						
テキスト（教科書）	『保育士をめざす人の福祉施設実習[第2版]』（新・保育士養成カリキュラム）愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会 みらい ISBN: 978-4-86015-308-3 広報誌・実習支援誌『朋』 愛知県児童福祉施設長会 上記の他に1年次「社会福祉」「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」等のテキストや配布資料などを使用する場合がある。 資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	『図解で学ぶ保育 社会福祉<第3版>』 萌文書林 ISBN: 978-4-89347-392-9 『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ』 原田旬哉・杉山宗尚編著 萌文書林 ISBN: 978-4-89347-279-3 『みらいX子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ』 喜多 一憲 監修・堀場 純矢 編著 みらい ISBN: 978-4-86015-467-7 上記のほかに実習先の種別に応じた書籍などを適宜配布、案内をする。						
受講条件	（保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	自宅や施設の実習時間外等での学習は次の通りである。 ・実習日誌などの記録の作成、振り返り、目標の設定。 ・実習終了時の学び得たことのまとめの作成。						
成績評価							
現場配属実習先からの評価を得て、実習そのものに合格することは言うまでもないが、下記内容を総合的に評価し認定する。							
①実習中の状況（巡回指導時の状況、教員等への連絡も含む）							
②実習先からの実習評価							
③実習の記録の提出、事前事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況（施設に提出する書類）							
④実習の記録の記述内容							
評価項目	割合	評価基準					
実習中の状況	15%	責任感、社会人としてのマナー・ルールの順守状況、記録等の提出状況等（巡回指導時の状況、教員等への連絡も含む）					
実習先からの実習評価	55%	実習先から見た、実習に対する参加度、服務規程などの遵守度、対象者への援助や関りの内容などの実習内容に対する評価					
実習の記録の提出等	15%	実習の記録の提出、事前事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況（施設に提出する書類）					
実習の記録の記述内容	15%	実習の記録の具体性、記述内容の適格性等					
授業の実施方法と授業計画	実習は、概ね10日間を基本として実施する。 現場配属実習の概ねの学習時間は下記の通りである。 ・実習先の理解は、2日間以上 ・実習先の業務と利用者理解は、2日間以上 ・実習先の利用者への援助の実践と振り返り・改善は、6日間以上 巡回指導の内容や施設からの報告・連絡、学生からの疑問・意見、学生の経験・実習記録に対するフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、学生個別に解説・説明、コメント・指導等を行うとともに、受講者全体や下級生に対しては、今後の実習教育・現場での実践の向上のために実習指導等の授業内容に活用するとともに、実習の手引きの内容や標準プログラムの改善等に活用する。						
ナンバリング	PEEM1004						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～2026年度 春学期			授業コード	37250		
科目	3725 保育実習指導Ⅰ（保育所）			授業種別	2025年度 秋学期（週間授業）、2026年度 春学期（週間授業）		
担当教員	鈴木 順子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	保育士資格取得のための必修科目である。保育実習における目的、内容、方法を理解し、実習生として必要な心構え、知識・技術を身につけ、実習に対する意欲を高める。実践的な力をつけるために保育教材を作成し、模擬保育を行う。また、実習中に見るべき視点を修得し、ねらいをもって実習に取り組めるようにする。学んだ内容を記録にまとめ、自己を振り返る力をつける。 実習後は、実習のまとめや自己評価をもとに、他教科における学びとの統合を図った上で、新たな課題や目標を明確にする。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎			
到達目標	1. 保育実習の基本的な意義や目的を述べることができる。 2. 実習に際しての留意事項を理解し目標や心構えを文章化することができる。 3. 環境構成や保育者の援助・配慮についてそのねらいを述べることができる。 4. 絵本の読み聞かせなど短時間の指導計画を立案し、実践することができる。 5. 実習内容を理解し、事前事後の自らの課題を述べることができ、改善に向けて工夫することができる。						
テキスト（教科書）	『保育所保育指針解説』厚生労働省編（フレーベル館）ISBN:978-4577814482						
参考書および参考文献	山本淳子編『実習の記録と指導案』ひかりのくにISBN:978-4564609107 財団法人 幼少年教育研究所 [編著]『遊びの指導 乳・幼児編』 同文書院ISBN:978-4810300376						
受講条件	（保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎時間授業の復習をし、内容や日程等の確認を怠らないこと（第1～15回／1時間程度） 2. 模擬保育の課題に関する準備（担当回／5時間程度）						
成績評価							
実習に直接かわかる内容のため、特に授業中の劣悪な態度や課題提出状況について減点の対象とすることがある。							
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート	50%		授業内容を理解し、課題に反映させ、適切な内容になっているか評価する				
模擬保育への取り組み	50%		模擬保育において、ルーブリックを基に担当者2名で評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義） 保育実習の方法と目的					
	第2回	（講義・演習） 実習のねらいや心構え（グループワーク）					
	第3回	（実習） 保育所見学実習（1）保育のねらいを知る					
	第4回	（実習） 保育所見学実習（2）保育実践を試みる					
	第5回	（演習） 見学実習の振り返り（ディスカッション）					
	第6回	（講義） 保育教材の作成および模擬保育についての説明					
	第7回	（講義・演習） 模擬保育・記録の書き方（1）実習園での一日の流れおよびねらい（プレゼンテーション）					
	第8回	（講義・演習） 模擬保育・記録の書き方（2）環境構成について（プレゼンテーション）					
	第9回	（講義・演習） 模擬保育・記録の書き方（3）保育者の援助について（プレゼンテーション）					
	第10回	（講義） 模擬保育・記録の書き方（4）乳児について（プレゼンテーション）					
	第11回	（講義） 実習に関する諸手続きの把握（ガイダンス）					
	第12回	（講義・演習） 模擬保育・実習の目標及びその他の記録記入について（プレゼンテーション）					
	第13回	（講義・演習） 模擬保育・指導案の作成について（プレゼンテーション）					
	第14回	（講義・演習） 実習に際しての留意事項及び現職の保育士による保育実践の体験（グループワーク）					
	第15回	（演習） 保育実習Ⅰの振り返り（グループワーク）					
	※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※提出課題については返却し、随時フィードバックを行う。						
ナンバリング	PEEM1005						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～2026年度 春学期				授業コード	37251		
科目	3725 保育実習指導Ⅰ（保育所）				授業種別	2025年度 秋学期（週間授業）、2026年度 春学期（週間授業）		
担当教員	鈴木 順子				単位数	1		
その他担当者								
授業概要	保育士資格取得のための必修科目である。保育実習における目的、内容、方法を理解し、実習生として必要な心構え、知識・技術を身につけ、実習に対する意欲を高める。実践的な力をつけるために保育教材を作成し、模擬保育を行う。また、実習中に見るべき視点を修得し、ねらいをもって実習に取り組めるようにする。学んだ内容を記録にまとめ、自己を振り返る力をつける。 実習後は、実習のまとめや自己評価をもとに、他教科における学びとの統合を図った上で、新たな課題や目標を明確にする。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎				
到達目標	1. 保育実習の基本的な意義や目的を述べることができる。 2. 実習に際しての留意事項を理解し目標や心構えを文章化することができる。 3. 環境構成や保育者の援助・配慮についてそのねらいを述べることができる。 4. 絵本の読み聞かせなど短時間の指導計画を立案し、実践することができる。 5. 実習内容を理解し、事前事後の自らの課題を述べることができ、改善に向けて工夫することができる。							
テキスト（教科書）	『保育所保育指針解説』厚生労働省編（フレーベル館）ISBN:978-4577814482							
参考書および参考文献	山本淳子編『実習の記録と指導案』ひかりのくにISBN:978-4564609107 財団法人 幼少年教育研究所 [編著]『遊びの指導 乳・幼児編』 同文書院ISBN:978-4810300376							
受講条件	（保）必修							
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎時間授業の復習をし、内容や日程等の確認を怠らないこと（第1～15回／1時間程度） 2. 模擬保育の課題に関する準備（担当回／5時間程度）							
成績評価								
実習に直接かわかる内容のため、特に授業中の劣悪な態度や課題提出状況について減点の対象とすることがある。								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート	50%		授業内容を理解し、課題に反映させ、適切な内容になっているか評価する					
模擬保育への取り組み	50%		模擬保育において、ルーブリックを基に担当者2名で評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義） 保育実習の方法と目的						
	第2回	（講義・演習） 実習のねらいや心構え（グループワーク）						
	第3回	（実習） 保育所見学実習（1）保育のねらいを知る						
	第4回	（実習） 保育所見学実習（2）保育実践を試みる						
	第5回	（演習） 見学実習の振り返り（ディスカッション）						
	第6回	（講義） 保育教材の作成および模擬保育についての説明						
	第7回	（講義・演習） 模擬保育・記録の書き方（1）実習園での一日の流れおよびねらい（プレゼンテーション）						
	第8回	（講義・演習） 模擬保育・記録の書き方（2）環境構成について（プレゼンテーション）						
	第9回	（講義・演習） 模擬保育・記録の書き方（3）保育者の援助について（プレゼンテーション）						
	第10回	（講義） 模擬保育・記録の書き方（4）乳児について（プレゼンテーション）						
	第11回	（講義） 実習に関する諸手続きの把握（ガイダンス）						
	第12回	（講義・演習） 模擬保育・実習の目標及びその他の記録記入について（プレゼンテーション）						
	第13回	（講義・演習） 模擬保育・指導案の作成について（プレゼンテーション）						
	第14回	（講義・演習） 実習に際しての留意事項及び現職の保育士による保育実践の体験（グループワーク）						
	第15回	（演習） 保育実習Ⅰの振り返り（グループワーク）						
	※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※提出課題については返却し、随時フィードバックを行う。							
ナンバリング	PEEM1005							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～2026年度 春学期			授業コード	37260		
科目	3726 保育実習指導Ⅰ（施設）			授業種別	2025年度 秋学期（週間授業）、2026年度 春学期（週間授業）		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	保育実習Ⅰ(施設)に向け、実習の意義や目的の理解、実習先の施設種別の理解など、知識・技術の確認等を行う。また、実習における記録の取り方、実習日誌の作成、事前オリエンテーションの受け方などを学び、社会人として実習生としてのマナーや作法、姿勢といった基本的な心得を学ぶ。実習後の振り返りでは、実習の成果や反省を踏まえ、新たな課題を見出し、保育士としての価値観、倫理観の醸成のための足掛かりとする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	下記ができるよう努力し、その内容・状況を報告し、必要に応じて改善し、達成することができる。 ＜実習事前＞ 1. 実習の目的や内容、心得を理解し、説明できる。 2. 実習記録等の書き方を習得できる。 3. 実習課題・目標を設定できる。 4. 実習施設の概要を理解し、説明できる。 ＜実習事後＞ 5. 実習施設の具体的な業務および社会的役割を理解し、説明できる。 6. 実習総括、自己評価を行い、今後の課題を示すことができる。 7. 実習を振り返り自己見知を高め、援助技術の向上につなげることができる。						
テキスト（教科書）	『保育士をめざす人の福祉施設実習[第2版]』（新・保育士養成カリキュラム）』愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会 みらい ISBN:978-4-86015-308-3 広報誌・実習支援誌『朋』 愛知県児童福祉施設長会 上記の他に1年次「社会福祉」「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」等のテキストなどを使用する場合がある。 資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	資料や書籍などを適宜配布、案内をする。						
受講条件	必修（保）						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 施設の種類・保育士の役割についての事前学習（グループ発表要旨作成および授業後レポートの作成含む）（合計9時間程度） 2. 実習先調べとオリエンテーション内容の確認、実習準備、実習目標の設定と課題作成（合計6時間程度） 3. 日誌等の書式の書き方の学習と練習（合計4時間程度） 4. 実習事後学習（事後考察・自己評価票作成・お礼状作成・報告書作成・報告会原稿作成）（合計11時間程度）						
成績評価							
授業内で適宜レポート・感想文などの提出を求める。 演習や課題内容、提出物の状況・内容、指導内容の反映、指示への対応状況などを総合的に評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。							
評価項目	割合	評価基準					
授業内課題・提出物	60%	演習や課題の内容、レポート・感想文等提出物の提出状況・内容等					
授業外課題・提出物	40%	実習目標・オリエンテーション記録・実習報告書・自己評価票等提出物の提出状況・内容等、事前事後の個別指導への対応内容等					
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）保育実習Ⅰ（施設）について（オリエンテーション） 第2回（講義）施設の種類・保育士の役割についての事前学習 第3回（演習）事前学習に基づくグループ発表およびレポート 第4回（講義・演習）児童福祉施設の説明（乳児院、母子生活支援施設） 第5回（講義・演習）児童福祉施設の説明（児童養護施設：外部講師） 第6回（講義・演習）児童福祉施設の説明（福祉型障害児施設） 第7回（講義・演習）児童福祉施設の説明（医療型障害児施設、その他） 第8回（講義・演習）障害者施設の説明（障害者就労支援事業所） 第9回（講義・演習）障害者施設の説明（障害者支援施設、生活介護事業所、その他） 第10回（講義・演習）実習先提示と実習目標の設定（自己課題の設定・必要書類の作成・課題学習） 第11回（講義・演習）日誌等の書式、その他提出書類等の書き方 第12回（講義・演習）直前指導（健康指導・実習の心構え・お礼状・実習評価・提出書類） 第13回（演習）事後指導（自己評価・報告書・報告会に向けて） 第14回（演習）事後指導（事例検討） 第15回（演習）施設実習報告会						
	課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。						
	受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。						
	受講状況に応じて、追加で個別指導を行う場合がある。						
	他の科目（社会福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭福祉 等）とも連携して実施しているので、それらの科目の授業内容、課題にも気を配ること。						
ナンバリング	PEEM1006						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期～2026年度 春学期			授業コード	37261		
科目	3726 保育実習指導Ⅰ（施設）			授業種別	2025年度 秋学期（週間授業）、2026年度 春学期（週間授業）		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	保育実習Ⅰ(施設)に向け、実習の意義や目的の理解、実習先の施設種別の理解など、知識・技術の確認等を行う。また、実習における記録の取り方、実習日誌の作成、事前オリエンテーションの受け方などを学び、社会人として実習生としてのマナーや作法、姿勢といった基本的な心得を学ぶ。実習後の振り返りでは、実習の成果や反省を踏まえ、新たな課題を見出し、保育士としての価値観、倫理観の醸成のための足掛かりとする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	下記ができるよう努力し、その内容・状況を報告し、必要に応じて改善し、達成することができる。 ＜実習事前＞ 1. 実習の目的や内容、心得を理解し、説明できる。 2. 実習記録等の書き方を習得できる。 3. 実習課題・目標を設定できる。 4. 実習施設の概要を理解し、説明できる。 ＜実習事後＞ 5. 実習施設の具体的な業務および社会的役割を理解し、説明できる。 6. 実習総括、自己評価を行い、今後の課題を示すことができる。 7. 実習を振り返り自己見知を高め、援助技術の向上につなげることができる。						
テキスト（教科書）	『保育士をめざす人の福祉施設実習[第2版]』（新・保育士養成カリキュラム）』愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会 みらい ISBN:978-4-86015-308-3 広報誌・実習支援誌「朋」 愛知県児童福祉施設長会 上記の他に1年次「社会福祉」「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」等のテキストなどを使用する場合がある。 資料を適宜配布する。						
参考書および参考文献	資料や書籍などを適宜配布、案内をする。						
受講条件	必修（保）						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 施設の種類の・保育士の役割についての事前学習（グループ発表要旨作成および授業後レポートの作成含む）（合計9時間程度） 2. 実習先調べとオリエンテーション内容の確認、実習準備、実習目標の設定と課題作成（合計6時間程度） 3. 日誌等の書式の書き方の学習と練習（合計4時間程度） 4. 実習事後学習（事後考察・自己評価票作成・お礼状作成・報告書作成・報告会原稿作成）（合計11時間程度）						
成績評価							
授業内で適宜レポート・感想文などの提出を求める。 演習や課題内容、提出物の状況・内容、指導内容の反映、指示への対応状況などを総合的に評価する。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業内課題・提出物		60%	演習や課題の内容、レポート・感想文等提出物の提出状況・内容等				
授業外課題・提出物		40%	実習目標・オリエンテーション記録・実習報告書・自己評価票等提出物の提出状況・内容等、事前事後の個別指導への対応内容等				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）保育実習Ⅰ（施設）について（オリエンテーション） 第2回（講義）施設の種類の・保育士の役割についての事前学習 第3回（演習）事前学習に基づくグループ発表およびレポート 第4回（講義・演習）児童福祉施設の説明（乳児院、母子生活支援施設） 第5回（講義・演習）児童福祉施設の説明（児童養護施設：外部講師） 第6回（講義・演習）児童福祉施設の説明（福祉型障害児施設） 第7回（講義・演習）児童福祉施設の説明（医療型障害児施設、その他） 第8回（講義・演習）障害者施設の説明（障害者就労支援事業所） 第9回（講義・演習）障害者施設の説明（障害者支援施設、生活介護事業所、その他） 第10回（講義・演習）実習先提示と実習目標の設定（自己課題の設定・必要書類の作成・課題学習） 第11回（講義・演習）日誌等の書式、その他提出書類等の書き方 第12回（講義・演習）直前指導（健康指導・実習の心構え・お礼状・実習評価・提出書類） 第13回（演習）事後指導（自己評価・報告書・報告会に向けて） 第14回（演習）事後指導（事例検討） 第15回（演習）施設実習報告会						
	課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。						
	受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。						
	受講状況に応じて、追加で個別指導を行う場合がある。						
	他の科目（社会福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭福祉 等）とも連携して実施しているので、それらの科目の授業内容、課題にも気を配ること。						
ナンバリング	PEEM1006						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期		授業コード	37410			
科目	3741 保育実習Ⅱ		授業種別	春学期（実習）、秋学期（実習）			
担当教員	鈴木 順子		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	1年生の実習で明確化した課題を基に、さらに保育士としての知識や指導技術を高める。子どもの実態把握、保育の計画、実践、記録、評価について実際に取り組み、実践する。実習を通して、子ども観や保育観の確立など保育士としての資質の習得、保育士の業務や職業倫理について具体的に理解する。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○			
到達目標	1. 保育所の役割や機能を体験的に理解し、主体的に実践できる。 2. 明確な視点や課題をもって子どもを観察し、必要な関わりを行うことができる。 3. 保育士の業務内容と職業倫理を理解し、指導計画を作成、実践、振り返りを行い、自己課題の克服に努められる。						
テキスト（教科書）	なし						
参考書および参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省（フレーベル館）ISBN978-4577-81423-9						
受講条件	「保育実習Ⅰ」（保育所）履修者であること。（保）必修						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 子どもの発達について復習する。 2. 現地オリエンテーションで指導を受けた部分実習、指導実習等の準備。 3. 実習期間中は毎日記録や指導案作成等の課題に取り組む。 4. 実習後は自身を振り返り、課題克服につとめる						
成績評価							
実習記録、実習園からの評価を基に総合的に評価する。							
評価項目	割合	評価基準					
実習園からの評価	80%	実習の達成度を4段階で評価する					
実習記録	20%	実習記録の内容を評価する					
授業の実施方法と授業計画	令和6年5月27日～6月8日 〔実習内容〕 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 2. 観察に基づく子ども理解、保育実践の観察 3. 保育内容の理解（環境を通して行う保育・生活や遊びを通して総合的に行う保育） 4. 保護者支援及び地域の子育て家庭への支援への理解 5. 指導計画の作成、実践、記録、評価反省 6. 保育士の業務と倫理 7. 自己課題の明確化 ※実習園からの評価については、内容に配慮しながら個別にフィードバックを行い、学生の気づきを促す						
ナンバリング	PEEM2007						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	37420		
科目	3742 保育実習指導Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 順子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	これまでの実習における学びをふまえ、実習の内容を理解するとともに、自身の実習課題を明確にして実習に臨めるよう準備する。子どもの成長発達を援助する保育について考え、指導計画を作成するための技術について学ぶ。模擬保育とその振り返りを通して保育士としての実践力や協働力を高める。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○			
到達目標	1.保育実習の意義や留意事項について述べることができる 2.実習内容を理解し、表現技術を活かして実践することができる 3.実習を総括し、自己評価をもとに課題を明確にし、改善するよう努めることができる						
テキスト(教科書)	『保育所保育指針解説―平成30年3月―』厚生労働省(フレーベル館) ISBN:978-4577814482 (1年次保育実習指導Ⅰで購入済み) 『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ・編 絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行(中央法規) ISBN:978-4805882252						
参考書および参考文献	『実習の記録と指導案』山本淳子編 ひかりのくにISBN:978-4564609107 『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人 幼少年教育研究所 [編著] 同文書院ISBN:978-4810300376						
受講条件	「保育実習指導Ⅰ」を履修していること。(保)必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.模擬保育実施後の振り返り課題を行う(第3、第5～9回、第14回/1時間程度) 2.今までの実習をふり返り、エピソード記録をまとめる(第2回/2時間程度) 3.模擬保育の計画、準備を行う(担当回/8時間程度) 4.コーナー保育の準備を行う(12あるいは13回/6時間程度)						
成績評価	課題の提出状況や内容による到達度を確認し、模擬保育での実践力について評価します。尚、劣悪な授業態度(模擬保育の子ども役を真面目にやらない、ディスカッションに参加しない等)は減点の対象とする場合があります。						
評価項目	割合		評価基準				
課題提出	40%		課題の提出状況および課題内容について保育所保育指針の方向性に基づいてまとめられているか評価する				
模擬部分指導	30%		課題の内容、提出期限の厳守および、実践についてルーブリックを用いて評価する				
コーナー保育の実践について	30%		子どもの姿を捉え、子どもが主体的に遊べるための工夫ができているかを評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス・保育実習Ⅱの方法と目的・指導案作成(グループワーク) 第2回(講義) エピソード記録の視点とまとめ方 第3回(演習) 模擬保育(1)(ルールのある遊び)(プレゼンテーション) 第4回(講義) 実習に関する諸手続きの把握(ガイダンス) 第5回(演習) 模擬保育(2)(せいさくを楽しむ)(プレゼンテーション) 第6回(演習) 模擬保育(3)(自然への関心を育てる)(プレゼンテーション) 第7回(演習) 模擬保育(4)(素材を生かす)(プレゼンテーション) 第8回(演習) 模擬保育(5)(言葉の遊び)(プレゼンテーション) 第9回(演習) 模擬保育(6)(わらべうた遊び)(絵本からイメージを広げる遊び)(プレゼンテーション) 地域の保育園児への遊びの模擬指導 第10回(演習) 実習の振り返りと子どもの姿に基づくコーナー保育の計画 第11回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】心に寄り添う絵本(心のケアと絵本の可能性) 第12回(演習) 子どもの姿に基づくコーナー保育の実践(1)前半グループ発表(プレゼンテーション) 第13回(演習) 子どもの姿に基づくコーナー保育の実践(2)後半グループ発表(プレゼンテーション) 第14回(演習) 保育所実習の振り返りとまとめ(グループワーク) 第15回(演習) 保育所実習報告会の発表資料作成(グループワーク) ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。 ※提出課題は返却し、内容についてフィードバックを行う						
ナンバリング	PEEM2008						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	37421		
科目	3742 保育実習指導Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 順子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	これまでの実習における学びをふまえ、実習の内容を理解するとともに、自身の実習課題を明確にして実習に臨めるよう準備する。子どもの成長発達を援助する保育について考え、指導計画を作成するための技術について学ぶ。模擬保育とその振り返りを通して保育士としての実践力や協働力を高める。 ※この科目は当該授業内容に関する保育士の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○			
到達目標	1.保育実習の意義や留意事項について述べることができる 2.実習内容を理解し、表現技術を活かして実践することができる 3.実習を総括し、自己評価をもとに課題を明確にし、改善するよう努めることができる						
テキスト(教科書)	『保育所保育指針解説―平成30年3月―』厚生労働省(フレーベル館) ISBN:978-4577814482 (1年次保育実習指導Ⅰで購入済み) 『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ・編 絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行(中央法規) ISBN:978-4805882252						
参考書および参考文献	『実習の記録と指導案』山本淳子編 ひかりのくにISBN:978-4564609107 『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人 幼少年教育研究所 [編著] 同文書院ISBN:978-4810300376						
受講条件	「保育実習指導Ⅰ」を履修していること。(保)必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.模擬保育実施後の振り返り課題を行う(第3、第5～9回、第14回/1時間程度) 2.今までの実習をふり返り、エピソード記録をまとめる(第2回/2時間程度) 3.模擬保育の計画、準備を行う(担当回/8時間程度) 4.コーナー保育の準備を行う(12あるいは13回/6時間程度)						
成績評価	課題の提出状況や内容による到達度を確認し、模擬保育での実践力について評価します。尚、劣悪な授業態度(模擬保育の子ども役を真面目にやらない、ディスカッションに参加しない等)は減点の対象とする場合があります。						
評価項目	割合	評価基準					
課題提出	40%	課題の提出状況および課題内容について保育所保育指針の方向性に基づいてまとめられているか評価する					
模擬部分指導	30%	課題の内容、提出期限の厳守および、実践についてルーブリックを用いて評価する					
コーナー保育の実践について	30%	子どもの姿を捉え、子どもが主体的に遊べるための工夫ができていているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス・保育実習Ⅱの方法と目的・指導案作成(グループワーク) 第2回(講義) エピソード記録の視点とまとめ方 第3回(演習) 模擬保育(1)(ルールのある遊び)(プレゼンテーション) 第4回(講義) 実習に関する諸手続きの把握(ガイダンス) 第5回(演習) 模擬保育(2)(せいさくを楽しむ)(プレゼンテーション) 第6回(演習) 模擬保育(3)(自然への関心を育てる)(プレゼンテーション) 第7回(演習) 模擬保育(4)(素材を生かす)(プレゼンテーション) 第8回(演習) 模擬保育(5)(言葉の遊び)(プレゼンテーション) 第9回(演習) 模擬保育(6)(わらべうた遊び)(絵本からイメージを広げる遊び)(プレゼンテーション) 地域の保育園児への遊びの模擬指導 第10回(演習) 実習の振り返りと子どもの姿に基づくコーナー保育の計画 第11回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】心に寄り添う絵本(心のケアと絵本の可能性) 第12回(演習) 子どもの姿に基づくコーナー保育の実践(1)前半グループ発表(プレゼンテーション) 第13回(演習) 子どもの姿に基づくコーナー保育の実践(2)後半グループ発表(プレゼンテーション) 第14回(演習) 保育所実習の振り返りとまとめ(グループワーク) 第15回(演習) 保育所実習報告会の発表資料作成(グループワーク) ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。 ※提出課題は返却し、内容についてフィードバックを行う						
ナンバリング	PEEM2008						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	37600			
科目	3760 保育・教職実践演習（幼稚園）			授業種別	週間授業			
担当教員	朝元 尊			単位数	2			
その他担当者	岡本 雅子、加藤 克俊、杉山 和恵、大矢 龍弥							
授業概要	これまでに行った実習体験をもとに、実習内容の振り返りを行う。その中で自らの保育者としての資質の習得、また、保育者としての資質の向上を目指す。さらに保育現場や保育者の役割、子どもに対する責任について理解を深める。 *この科目は、主に該当授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・演習を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	保育を科目横断的な視点で持って子どもの成長を見つめることができ、保育者としての使命感・責任感を持ち、さらに専門的な知識や技能を意欲的に習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 保育に関する現代的課題について現状分析考察・検討し、説明できる。 2. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得し、自己課題を解決できる。 3. 2年間の学びを振り返り、保育者として必要な知識・技術を統合できる。							
テキスト（教科書）	適宜プリントを用意する。 必要に応じて参考文献を紹介する。							
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）ISBN:978-4577814222 『保育所保育指針』（厚生労働省 フレーベル館）ISBN:978-4577814239 『認定こども園教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館）ISBN:9784577813676							
受講条件	（幼・保）必修							
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎授業前までに前授業の復習・確認を行う（第2～15回／1時間程度） 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成する（第1～15回／1時間程度） 3. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加する（第2～15回／1時間程度） 4. ポートフォリオファイルの作成（第1～15回／1時間程度）							
成績評価								
授業の到達目標をどの程度到達できているかを、レポートや課題、発表などで総合的に評価する。劣悪な授業態度は減点の対象となることもある。								
評価項目			割合	評価基準				
授業・課題への取り組み			30%	授業への参加度や、課題への取り組み方や内容が適切かを評価する。				
発表内容、学生自身の自己理解、レポート提出			30%	課題に対する達成度・理解度及び、適切な記述になっているかを確認する。				
ポートフォリオファイルの作成・提出			40%	保育を科目横断的な視点で捉え、知識・技能を習得したかを確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習）ガイダンス・幼稚園実習に向けての自己課題の確認・指導案の作成 第2回（演習）子ども姿をとおして幼児理解を深める 第3回（演習）実習の振り返りおよび自己評価と今後の課題 第4回（演習）自己課題の把握と克服のために（自己分析とディスカッション） 第5回（講義・演習）領域「環境」の事例検討 第6回（講義・演習）領域「表現」「健康」の事例検討（運動会での身体表現） 第7回（講義・演習）領域「表現」の事例検討（劇あそびの制作過程） 第8回（講義・演習）行事の計画 第9回（講義・演習）行事の運営・実践 第10回（演習）保育における教材研究について①（お手玉の実例） 第11回（演習）保育における教材研究について②（幼稚園・保育園における実例） 第12回（講義）保護者との連携（保護者対応・事例から学ぶ） 第13回（演習）幼稚園・保育園・認定こども園における小学校との連携 第14回（演習）幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園こども要録について 第15回（演習）保育者の社会的責任と使命 ー危機管理を通してー ※各回の最初に前回の内容に関する確認・解説を行うことでフィードバックする。また、講義内で授業内容の学びについてレポートし提出する。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。							
ナンバリング	PEEM2009							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	37601			
科目	3760 保育・教職実践演習（幼稚園）			授業種別	週間授業			
担当教員	朝元 尊			単位数	2			
その他担当者	岡本 雅子、加藤 克俊、杉山 和恵、大矢 龍弥							
授業概要	これまでに行った実習体験をもとに、実習内容の振り返りを行う。その中で自らの保育者としての資質の習得、また、保育者としての資質の向上を目指す。さらに保育現場や保育者の役割、子どもに対する責任について理解を深める。 *この科目は、主に該当授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・演習を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○				
到達目標	保育を科目横断的な視点で持って子どもの成長を見つめることができ、保育者としての使命感・責任感を持ち、さらに専門的な知識や技能を意欲的に習得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 保育に関する現代的課題について現状分析考察・検討し、説明できる。 2. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得し、自己課題を解決できる。 3. 2年間の学びを振り返り、保育者として必要な知識・技術を統合できる。							
テキスト（教科書）	適宜プリントを用意する。 必要に応じて参考文献を紹介する。							
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）ISBN:978-4577814222 『保育所保育指針』（厚生労働省 フレーベル館）ISBN:978-4577814239 『認定こども園教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館）ISBN:9784577813676							
受講条件	（幼・保）必修							
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎授業前までに前授業の復習・確認を行う（第2～15回／1時間程度） 2. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成する（第1～15回／1時間程度） 3. 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加する（第2～15回／1時間程度） 4. ポートフォリオファイルの作成（第1～15回／1時間程度）							
成績評価								
授業の到達目標をどの程度到達できているかを、レポートや課題、発表などで総合的に評価する。劣悪な授業態度は減点の対象となることもある。								
評価項目			割合	評価基準				
授業・課題への取り組み			30%	授業への参加度や、課題への取り組み方や内容が適切かを評価する。				
発表内容、学生自身の自己理解、レポート提出			30%	課題に対する達成度・理解度及び、適切な記述になっているかを確認する。				
ポートフォリオファイルの作成・提出			40%	保育を科目横断的な視点で捉え、知識・技能を習得したかを確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習）ガイダンス・幼稚園実習に向けての自己課題の確認・指導案の作成 第2回（演習）子ども姿をとっておして幼児理解を深める 第3回（演習）実習の振り返りおよび自己評価と今後の課題 第4回（演習）自己課題の把握と克服のために（自己分析とディスカッション） 第5回（講義・演習）領域「環境」の事例検討 第6回（講義・演習）領域「表現」「健康」の事例検討（運動会での身体表現） 第7回（講義・演習）領域「表現」の事例検討（劇あそびの制作過程） 第8回（講義・演習）行事の計画 第9回（講義・演習）行事の運営・実践 第10回（演習）保育における教材研究について①（お手玉の実例） 第11回（演習）保育における教材研究について②（幼稚園・保育園における実例） 第12回（講義）保護者との連携（保護者対応・事例から学ぶ） 第13回（演習）幼稚園・保育園・認定こども園における小学校との連携 第14回（演習）幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・認定こども園こども要録について 第15回（演習）保育者の社会的責任と使命 一危機管理を通してー ※各回の最初に前回の内容に関する確認・解説を行うことでフィードバックする。また、講義内で授業内容の学びについてレポートし提出する。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業内容を変更することもある。							
ナンバリング	PEEM2009							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期			授業コード	37650	
科目	3765 総合表現			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）	
担当教員	朝元 尊			単位数	2	
その他担当者	井中 あけみ					
授業概要	本講は、子どもの豊かな感性を育て、表現力を高める「創作表現」を学生たちで企画・構成し、観客に対しての表現活動を体験するものである。領域「表現」を根底に、身体活動・造形活動・音楽活動について子どもたちの表現方法を作成し、それらを融合した協同での表現発表を目指していく。集団での活動であることから、各自が身体・言語・造形・音楽の表現活動について役割分担し、それぞれの得意分野を生かした総合的表現活動を展開する。また、多人数による活動を通い、協働による創作表現を経験し、ディスカッション・アクティブラーニングを適宜活用しながら、チームの一員としての気付きや適切な行動力を身に付ける。 ※この科目は、当該授業内容に関する、幼稚園及び保育園の園長経験を有する教員がその実務経験を活かし講義・実技を行う科目である。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4		
ディプロマポリシーとの関連性	①	②	③	④		
到達目標	様々な表現活動、イメージしながらその表現方法を探究し、保育者としてより実践的な力を修得することを目的に、授業の到達目標を以下の通りとした。 1. 企画、構成、計画など互いに共有しながら考え、自らを表現する力を身につける。 2. 身体・言葉・音楽・造形を未分化な子どもの表現方法として考察し実践することができる。 3. 集団での子どもの表現方法をイメージしながら、協働的な活動表現を展開する。 4. 舞台環境(照明・音響)の効果を知り、さらに表現することへの向上心を高めていくことができる。 5. 集団行動におけるルールやマナーを学び、環境に応じた協調性を身につける。					
テキスト(教科書)	適宜、参考資料を配布する。					
参考書および参考文献	適宜、参考となる資料等を配布する。					
受講条件	履修希望者が多い場合は、GPA等を参考に選抜ことがある。					
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前までに、前授業の復習・確認を行うこと（第2～30回/1時間程度） 授業内で指示する内容について、各自で調べたり、製作して授業に参加すること（第2～30回/1時間）					
成績評価	集団で1つの目標を達成する表現活動であることから、各自の役割に責任を持ち、集団におけるコミュニケーションを円滑に取り協働できるかを評価する。また、適宜指示される課題について、積極的に取り組んでいるかを評価する。授業態度によっては減点の対象となることもある。					
評価項目		割合	評価基準			
課題への取り組み方(技術面)		50%	課題に対して意欲的に取り組んでいるかを評価する			
集団行動への態度		25%	個々の能力に応じた適切な役割を担い、それに応じた行動が取れているかを評価する			
総合的な表現力		25%	全体を把握し、作品を総合的に捉えることができているかを評価する。			
授業の実施方法と授業計画	毎回の授業時には、ウォーミングアップや発声練習など、身体の基礎訓練等を行う。 また、前回までの進捗状況や計画の進め方を確認することでフィードバックする。 第1回 ガイダンス（井中、朝元） ・「発表」についての説明 ・毎時間の発声練習、身体の基本トレーニングの説明 第2回 講義・実技 表現方法の素材について考える（井中、朝元） プログラム内容の主な表現項目について 第3回 講義・演習（井中、朝元） ・表現内容についてミーティング(ディスカッション・グループワーク) 第4回 講義・実技 配役、役り・リーダー決定(脚本・衣装・道具・ダンス振付・音楽)（ディスカッション、グループワーク） 道具：創作表現教材についての道具や背景画の提案（プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク）（朝元） 表現内容：身体表現、音楽表現について表現方法の選択（井中） 第5回 演習・実技 創作表現について(ディスカッション)（井中、朝元） 道具：大道具・小道具・背景画等提案（朝元） 内容：身体表現の創作活動内容について（井中）(ディスカッション、グループワーク) 第6回 演習・実技 学生による創作表現計画の決定（プレゼンテーション）(井中、朝元) 内容：身体表現の主な流れを考える（井中）（ディスカッション、グループワーク） 第7回 実技 子どもたちの創作表現製作物について(道具、背景)（ディスカッション、グループワーク）（井中、朝元） 第8回 講義・演習・実技 音楽表現の創作活動内容について（井中） 道具：背景下書き、必要な道具の確認、作成（朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第9回 講義・演習・実技 音楽表現の主な流れを考える（井中） 道具：背景下書き、道具のデザイン、作成（朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第10回 演習・実技 音楽表現の演出方法実践(井中)(ディスカッション、グループワーク) 道具：背景下書き完成、道具のデザイン（朝元）(ディスカッション、グループワーク) 第11回 演習・実技 身体・音楽表現と子どもたちの創作表現教材の融合性（井中、朝元） 第12回 講義・演習 製作した衣装発表・作成(井中、朝元) 道具：背景画彩、道具作り（朝元） 第13回 演習・実技 ボディーパーカッション(音楽と音楽)（井中）(ディスカッション、グループワーク) 道具：背景画彩、道具作り（朝元） 第14回 演習・実技 ボディーパーカッション(動きと音楽)（井中）(ディスカッション、グループワーク) 道具：背景画彩、道具作り（朝元） 第15回 演習・実技 ボディーパーカッション(リズムと音楽と動き)（井中） 道具：背景画彩、道具作り（朝元）（ディスカッション） 第16回 演習・実技 創作表現活動練習(流れを決めていく)（井中）(ディスカッション、グループワーク) 道具：背景画彩、道具作り（朝元）(ディスカッション、グループワーク) 第17回 演習・実技 創作表現活動練習(セリフと音楽、セリフと身体活動)（井中）(ディスカッション、グループワーク) 道具：背景完成、道具作り（朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第18回 演習・実技 創作表現活動練習(製作物を使用した表現活動法について)（井中）（ディスカッション、グループワーク） 道具：道具作り（朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第19回 演習・実技 全体練習(全体的流れについて)（井中）(ディスカッション、グループワーク) 道具：道具完成（朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第20回 演習・実技 総合的な練習(立ち位置、表情、セリフ音楽)（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第21回 演習・実技 総合的な練習(セリフの抑揚について)（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第22回 演習・実技 総合的な練習(音階やリズムの出入り確認)（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第23回 講義・演習・実技 総合的な練習(効果音についての創作)（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第24回 演習・実技 総合的な練習(音楽の効果を活かす）（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第25回 演習・実技 総合的な練習(動き方のフォーメーションについて)（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第26回 演習・実技 総合的な練習(道具の搬入方法、動線確認)（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第27回 演習・実技 総合的な練習(照明、音響をふまえた総合的表現)（井中、朝元）（ディスカッション、グループワーク） 第28回 演習・実技 総合的な練習、リハーサル(井中、朝元) 第29回 本番「コンサート」(井中、朝元) 第30回 片付け、レポート（井中、朝元） ※但し、受講学生の熟読度、または社会環境の変化などにより授業計画を変更することもある。 青い空間コンサートの会場について、学内あるいは学外での施設で実施することもある。 ※課題については、授業内あるいはClassroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。					
ナンバリング	PEDM2019					

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～2026年度 春学期				授業コード	37660		
科目	3766 子どもと絵本				授業種別	2025年度 春学期（週間授業）、2025年度 秋学期（週間授業）、2026年度 春学期（週間授業）		
担当教員	井原 淑雅				単位数	2		
その他担当者								
授業概要	この科目は、認定絵本士の資格を取得するために設置されている。全ての科目が、将来認定絵本士として、子どもの読書活動を地域で支えるための素地を作るものである。授業には能動的に参加し、ゲストスピーカーの方々との交流も積極的に進めてもらいたい。ゲストスピーカーには、絵本作家・絵本の編集者・児童文化財のスペシャリストをはじめ、地域で子どもの読書活動を長年支えてきた方々をお招きしている。全ての方のお話からより多くを自ら学び取ろうとする姿勢が望まれる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○				
到達目標	この科目は、認定絵本士養成を目的とした科目であり、絵本についての深い知識と確かな実践力を身に付けることを目標としている。様々な絵本作品に触れることは勿論、絵本の周辺に在る児童文化財についても習熟していく。この科目を中心に、認定絵本士養成カリキュラムの全ての課題を実践し、子ども達の豊かな読書活動を企画・指導していける保育者を目指すものである。 1. さまざまな絵本作品に触れ、保育の中での絵本の取り扱い方を身に付ける。 2. 絵本やその他の児童文化財をめぐる環境を理解し、絵本を含む児童文化財の意義が分かる。 3. 童話や文学作品へと子ども達を導く架け橋として、絵本を用いることが出来る。 4. 認定絵本士の役割と意義を理解し、実践出来る。							
テキスト（教科書）	『認定絵本士養成講座テキスト』 絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ・編 絵本専門士委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構・発行（中央法規） ISBN:978-4805882252							
参考書および参考文献	この本といった限定的な指定はないが、出来るだけ多くの絵本や児童文学を読むように心掛けて欲しい							
受講条件	認定絵本士養成講座科目							
事前・事後学修（内容・時間）	1. 毎授業前にテーマについて下調べをしておく。（第2回～14回・1時間×13回） 2. 毎授業後にゲストスピーカーから得た知見をまとめて振り返りを行う（第2～14回/1時間×13回） 3. 課題が提出された際には丁寧な仕上げを心がけて課題を行う（1時間×4回） 4. ゲストスピーカーから紹介された絵本を各回に少なくとも2冊読み、記録をとる（1時間×13回）							
成績評価	授業内外で行っている課題の達成度30%、意見発表10%、ゲストスピーカーによる講義・実習への理解と応答・振り返りを60%として評価する。							
評価項目		割合	評価基準					
課題の達成度		30%	ゲストスピーカーの講義・実習への理解を深めているかどうかを確認する。					
授業への理解と応答		60%	ゲストスピーカーの講義・実習で知見を深めているか、自分が疑問に思ったこと・知識を深めたいと感じたことについて積極的に質問出来たか、ゲストスピーカーの問いかけに対し応えられたか、振り返りを行えたかを中心に判断していく。					
意見発表		10%	第1回・第15回の授業で、自らの意見を述べる事が出来たか、講師からの求めに対して思いを語ることが出来たかで判定する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】オリエンテーション						
	第2回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本と出会う①（はじめての絵本との出会い）						
	第3回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本と出会う③（図書館等での出会い）						
	第4回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本と出会う④（書店での出会い）						
	第5回	（講義、実技）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術③（絵本コンシェルジュ術）						
	第6回	（講義、実技）【認定絵本士養成講座該当科目】おはなし会の手法①（おはなし会を開こう）（認定講座用課題有）						
	第7回	（講義、実技）【認定絵本士養成講座該当科目】おはなし会の手法②（おはなし会のテクニック）（認定講座用課題有）						
	第8回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る）						
	第9回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは）						
	第10回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませる為の手法を学ぶ）						
	第11回	（講義、演習）【認定絵本士養成講座該当科目】大人の心を豊かにする絵本（人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を）（認定講座用課題有）						
	第12回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】子供の心をとらえるもの（子供の心をとらえて離さないもの）						
	第13回	（講義、実技）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる）（認定講座用課題有）						
	第14回	（講義）【認定絵本士養成講座該当科目】絵本が生まれる現場②（絵本の編集）						
	第15回	（講義、演習）【認定絵本士養成講座該当科目】ディスカッション（認定絵本士としての今後の活動）（グループワークとディスカッション）						
	※全ての回が、認定絵本士養成講座科目であるため、出欠の基準は通常の講義よりも厳しい。 ※ゲストスピーカーの都合により実施回が前後することがある。 ※課題については、提出後にコメントし、助言する。 ※受講生の人数によっては、第1・15回目はクラスを分割して実施することがある。							
ナンバリング	PEDM1011							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	38081		
科目	3808 保育者のライフデザイン			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1.学習に必要な基礎力を形成する。 2.社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3.保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。						
テキスト(教科書)	『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身につけたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野通子編(一藝社) ISBN:978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	『認定絵本士養成講座テキスト』絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編(中央法規出版) ISBN:978-4-8058-8225-2						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回/0.5時間程度) 2.『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回/0.5時間程度) 3.プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回/0.5時間程度) 4.新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回/0.5時間程度) 5.セミナーノートを作成する。(第2～15回/0.5時間程度) 6.ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業への参加度、課題への取り組み方		40%	内容を理解して、積極的に取り組むことができたか。課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。実践課題を通して、保育者としての知識や技能が、どの程度習得できたか。				
プレゼンテーション		20%	指定された期日に、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。				
セミナーノート		40%	指定された課題を、適切な内容、記述で、わかりやすく丁寧にノートにまとめ、期日内に提出できたか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)ガイダンス(幼児教育・保育科の方針・短大生活の目標)						
	第2回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①(絵本を探す技術)						
	第3回(講義・演習・実技)マナー①(挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装)						
	第4回(講義・演習)建学の精神(学長の講話)(学部学科横断1年次教育プログラム)						
	第5回(講義・演習)新聞を読む(新聞記事レポートの作成方法)、栽培活動(朝顔の栽培)						
	第6回(講義・演習・実技)マナー②(雑巾、箸の使い方)(グループワーク)						
	第7回(講義・演習・実技)マナー③(食事の作法・箸使い・弁当箱を包む)「お弁当の日」						
	第8回(演習)子どもの環境を学ぶ(豊橋市視聴覚教育センター予定)						
	第9回(演習)子どもの遊びを学ぶ(sozoわいワクひろばに向けた活動)						
	第10回(演習)子どもの遊びを学ぶ(sozoわいワクひろばクラス企画)						
	第11回(演習)学力チェックテスト(数)						
	第12回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)準備編						
	第13回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)実践編						
	第14回(講義・演習)身近な危険について考える(危険予知トレーニング)(グループワーク)						
	第15回(講義・演習)まとめと自己評価、セミナーノートの提出						
	※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※基礎学力の確認・自主学習は、スタサブを利用する。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。						
ナンバリング	PEFM1018						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	38085		
科目	3808 保育者のライフデザイン			授業種別	週間授業		
担当教員	朝元 尊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1.学習に必要な基礎力を形成する。 2.社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3.保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。						
テキスト(教科書)	『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身につけたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野通子編(一藝社) ISBN:978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	『認定絵本士養成講座テキスト』絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編(中央法規出版) ISBN:978-4-8058-8225-2						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回/0.5時間程度) 2.『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回/0.5時間程度) 3.プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回/0.5時間程度) 4.新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回/0.5時間程度) 5.セミナーノートを作成する。(第2～15回/0.5時間程度) 6.ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業への参加度、課題への取り組み方		40%	内容を理解して、積極的に取り組むことができたか。課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。実践課題を通して、保育者としての知識や技能が、どの程度習得できたか。				
プレゼンテーション		20%	指定された期日に、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。				
セミナーノート		40%	指定された課題を、適切な内容、記述で、わかりやすく丁寧にノートにまとめ、期日内に提出できたか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)ガイダンス(幼児教育・保育科の方針・短大生活の目標)						
	第2回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①(絵本を探す技術)						
	第3回(講義・演習・実技)マナー①(挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装)						
	第4回(講義・演習)建学の精神(学長の講話)(学部学科横断1年次教育プログラム)						
	第5回(講義・演習)新聞を読む(新聞記事レポートの作成方法)、栽培活動(朝顔の栽培)						
	第6回(講義・演習・実技)マナー②(雑巾、箸の使い方)(グループワーク)						
	第7回(講義・演習・実技)マナー③(食事の作法・箸使い・弁当箱を包む)「お弁当の日」						
	第8回(演習)子どもの環境を学ぶ(豊橋市視聴覚教育センター予定)						
	第9回(演習)子どもの遊びを学ぶ(sozoわいワクひろばに向けた活動)						
	第10回(演習)子どもの遊びを学ぶ(sozoわいワクひろばクラス企画)						
	第11回(演習)学力チェックテスト(数)						
	第12回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)準備編						
	第13回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)実践編						
	第14回(講義・演習)身近な危険について考える(危険予知トレーニング)(グループワーク)						
	第15回(講義・演習)まとめと自己評価、セミナーノートの提出						
	※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※基礎学力の確認・自主学習は、スタサブを利用する。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。						
ナンバリング	PEFM1018						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	38086		
科目	3808 保育者のライフデザイン			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者	大矢 龍弥						
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1.学習に必要な基礎力を形成する。 2.社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3.保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。						
テキスト(教科書)	『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身につけたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野通子編(一藝社) ISBN:978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	『認定絵本士養成講座テキスト』絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編(中央法規出版) ISBN:978-4-8058-8225-2						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回/0.5時間程度) 2.『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回/0.5時間程度) 3. プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回/0.5時間程度) 4. 新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回/0.5時間程度) 5. セミナーノートを作成する。(第2～15回/0.5時間程度) 6. ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業への参加度、課題への取り組み方		40%	内容を理解して、積極的に取り組むことができたか。課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。実践課題を通して、保育者としての知識や技能が、どの程度習得できたか。				
プレゼンテーション		20%	指定された期日に、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。				
セミナーノート		40%	指定された課題を、適切な内容、記述で、わかりやすく丁寧にノートにまとめ、期日内に提出できたか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス(幼児教育・保育科の方針・短大生活の目標)						
	第2回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①(絵本を探す技術)						
	第3回(講義・演習・実技) マナー①(挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装)						
	第4回(講義・演習) 建学の精神(学長の講話)(学部学科横断1年次教育プログラム)						
	第5回(講義・演習) 新聞を読む(新聞記事レポートの作成方法)、栽培活動(朝顔の栽培)						
	第6回(講義・演習・実技) マナー②(雑巾、箸の使い方)(グループワーク)						
	第7回(講義・演習・実技) マナー③(食事の作法・箸使い・弁当箱を包む)「お弁当の日」						
	第8回(演習) 子どもの環境を学ぶ(豊橋市視聴覚教育センター予定)						
	第9回(演習) 子どもの遊びを学ぶ?(sozoわいワクひろばに向けた活動)						
	第10回(演習) 子どもの遊びを学ぶ?(sozoわいワクひろばクラス企画)						
	第11回(演習) 学力チェックテスト(数)						
	第12回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)準備編						
	第13回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)実践編						
	第14回(講義・演習) 身近な危険について考える(危険予知トレーニング)(グループワーク)						
	第15回(講義・演習) まとめと自己評価、セミナーノートの提出						
	※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※基礎学力の確認・自主学習は、スタサブを利用する。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。						
ナンバリング	PEFM1018						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	38088		
科目	3808 保育者のライフデザイン			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	1		
その他担当者	鈴木 順子						
授業概要	この授業では、一人の人間として、社会人として、保育者として習得すべき知識や技能を、実践的課題を通して学習する。また、その学習に必要な基礎力の形成と、保育者を目指す者としてふさわしい態度の確立を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○			
到達目標	1.学習に必要な基礎力を形成する。 2.社会人として求められるマナー、常識を身につけ行動できる。 3.保育者として必要とされる態度や知識・技能を習得する。						
テキスト(教科書)	『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身につけたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野通子編(一藝社) ISBN:978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	『認定絵本士養成講座テキスト』絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編(中央法規出版) ISBN:978-4-8058-8225-2						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.『保育者の常識』を自分で読み進める。(第1～14回/0.5時間程度) 2.『生活技術』について、反復練習を行う。(第1～14回/0.5時間程度) 3. プレゼンテーションの準備を行う。(第9～13回/0.5時間程度) 4. 新聞記事のレポートを作成する。(第5～9回/0.5時間程度) 5. セミナーノートを作成する。(第2～15回/0.5時間程度) 6. ブックトークの準備をする(資料作成2時間程度、発表準備2時間程度)						
成績評価							
授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やプレゼンテーション、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準				
授業への参加度、課題への取り組み方		40%	内容を理解して、積極的に取り組むことができたか。課題に対する努力が見られ、他者との協働ができたか。実践課題を通して、保育者としての知識や技能が、どの程度習得できたか。				
プレゼンテーション		20%	指定された期日に、適切な言葉・資料で、わかりやすく発表できたか。				
セミナーノート		40%	指定された課題を、適切な内容、記述で、わかりやすく丁寧にノートにまとめ、期日内に提出できたか。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス(幼児教育・保育科の方針・短大生活の目標)						
	第2回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本の世界を広げる技術①(絵本を探す技術)						
	第3回(講義・演習・実技) マナー①(挨拶・言葉遣い・身だしなみ、実習時の服装)						
	第4回(講義・演習) 建学の精神(学長の講話)(学部学科横断1年次教育プログラム)						
	第5回(講義・演習) 新聞を読む(新聞記事レポートの作成方法)、栽培活動(朝顔の栽培)						
	第6回(講義・演習・実技) マナー②(雑巾、箸の使い方)(グループワーク)						
	第7回(講義・演習・実技) マナー③(食事の作法・箸使い・弁当箱を包む)「お弁当の日」						
	第8回(演習) 子どもの環境を学ぶ(豊橋市視聴覚教育センター予定)						
	第9回(演習) 子どもの遊びを学ぶ?(sozoわいワクひろばに向けた活動)						
	第10回(演習) 子どもの遊びを学ぶ?(sozoわいワクひろばクラス企画)						
	第11回(演習) 学力チェックテスト(数)						
	第12回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)準備編						
	第13回(講義・演習)【認定絵本士養成講座該当科目】絵本を紹介する技術①(ブックトークの技術)実践編						
	第14回(講義・演習) 身近な危険について考える(危険予知トレーニング)(グループワーク)						
	第15回(講義・演習) まとめと自己評価、セミナーノートの提出						
	※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。 ※基礎学力の確認・自主学習は、スタサブを利用する。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。						
ナンバリング	PEFM1018						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	38091		
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 克俊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身に付けている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他とともに大切に、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1.自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2.人としてどのように他者とかかわるべきかを身に付ける。 3.社会人としての素養を身に付ける。 4.地域貢献の意義を知り、活動する。						
テキスト(教科書)	春学期に購入したものを継続して使用する 『改訂第2版 これだけは知っておきたい 保育の基本用語』長島和代編(わかば社) ISBN:978-4-907270-34-6 『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身に付けたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野道子編(一藝社) ISBN: 978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	適宜、資料を配布する。						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.新聞記事(5大紙)を読んだのレポート課題(第2回～11回/1時間程度) 2.課題テスト(漢字・一般教養)の準備学習(第2回～12回/0.5時間程度) 3.課題テストの復習(第1回～14回/0.5時間程度) 4.「キャリアデザインノート」の作成(第1回～15回/0.5時間程度)						
成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方を50%、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度を50%として、総合的に評価する。						
評価項目	割合	評価基準					
実習や課題への参加度、取り組み方	50%	授業で実施する様々な協働作業への参加度、sozoわいフクひろばやSOZO展に関する作品制作や課題の提出状況等で確認する。					
「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度	50%	新聞記事については、記事の選択が適切であるか、内容の読み取り方が正確か、感想や学んだことに客観性が含まれているかで評価する。また、社会人基礎力については、予習・復習を行っているか、それが力として定着しているかを確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)ガイダンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力(地理分野?) 第2回(講義・演習・実技)手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力(生物分野) 第3回(講義・演習)sozoわいフクひろば(企画)、社会人基礎力(生活分野①) 第4回(講義・演習)sozoわいフクひろば(立案)(グループワーク)、社会人基礎力(生活分野?) 第5回(講義・実技)sozoわいフクひろば(準備?) (グループワーク)、社会人基礎力(数学分野) 第6回(講義・実技)sozoわいフクひろば(準備②)(グループワーク) 第7回(実技)sozoわいフクひろば(地域貢献活動) 第8回(講義・演習・実技)手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力(地理分野?) 第9回(演習・実技)手のしごと③sozo展「花火」の制作(グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習・実技)冠婚葬祭のマナー(キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義・演習)人権について学ぶ、実習報告会(1・2年交流・グループワーク) 第12回(演習)本学の伝統行事を学ぶ(青い空フェスティバルの見学)(1・2年交流) 第13回(講義・演習・実技)手のしごと③「様々な道具を使う」(グループワーク) 第14回(講義・演習)地域を学ぶ(豊橋市都市計画課との連携)(グループワーク) 第15回(講義・演習)まとめ及び初めての就職対策講座						
	※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※自主学習については、「ステディサブリ」を適宜活用すること。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEFM1019						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	38095		
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ			授業種別	週間授業		
担当教員	朝元 尊			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身に付けている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他ともに大切に、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1.自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2.人としてどのように他者とかわるべきかを身に付ける。 3.社会人としての素養を身に付ける。 4.地域貢献の意義を知り、活動する。						
テキスト(教科書)	春学期に購入したものを継続して使用する 『改訂第2版 これだけは知っておきたい 保育の基本用語』長島和代編(わかば社) ISBN:978-4-907270-34-6 『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身に付けたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野道子編(一藝社) ISBN: 978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	適宜、資料を配布する。						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.新聞記事(5大紙)を読んだのレポート課題(第2回～11回/1時間程度) 2.課題テスト(漢字・一般教養)の準備学習(第2回～12回/0.5時間程度) 3.課題テストの復習(第1回～14回/0.5時間程度) 4.「キャリアデザインノート」の作成(第1回～15回/0.5時間程度)						
成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方を50%、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度を50%として、総合的に評価する。						
評価項目	割合	評価基準					
実習や課題への参加度、取り組み方	50%	授業で実施する様々な協働作業への参加度、sozoわいフクひろばやSOZO展に関する作品制作や課題の提出状況等で確認する。					
「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度	50%	新聞記事については、記事の選択が適切であるか、内容の読み取り方が正確か、感想や学んだことに客観性が含まれているかで評価する。また、社会人基礎力については、予習・復習を行っているか、それが力として定着しているかを確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)ガイダンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力(地理分野?) 第2回(講義・演習・実技)手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力(生物分野) 第3回(講義・演習)sozoわいフクひろば(企画)、社会人基礎力(生活分野①) 第4回(講義・演習)sozoわいフクひろば(立案)(グループワーク)、社会人基礎力(生活分野?) 第5回(講義・実技)sozoわいフクひろば(準備?) (グループワーク)、社会人基礎力(数学分野) 第6回(講義・実技)sozoわいフクひろば(準備②)(グループワーク) 第7回(実技)sozoわいフクひろば(地域貢献活動) 第8回(講義・演習・実技)手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力(地理分野?) 第9回(演習・実技)手のしごと③sozo展「花火」の制作(グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習・実技)冠婚葬祭のマナー(キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義・演習)人権について学ぶ、実習報告会(1・2年交流・グループワーク) 第12回(演習)本学の伝統行事を学ぶ(青い空フェスティバルの見学)(1・2年交流) 第13回(講義・演習・実技)手のしごと③「様々な道具を使う」(グループワーク) 第14回(講義・演習)地域を学ぶ(豊橋市都市計画課との連携)(グループワーク) 第15回(講義・演習)まとめ及び初めての就職対策講座						
	※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※自主学習については、「ステディサブリ」を適宜活用すること。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEFM1019						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	38096		
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ			授業種別	週間授業		
担当教員	岡本 雅子			単位数	1		
その他担当者	大矢 龍弥						
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身に付けている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他とともに大切に、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1.自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2.人としてどのように他者とかわるべきかを身に付ける。 3.社会人としての素養を身に付ける。 4.地域貢献の意義を知り、活動する。						
テキスト(教科書)	春学期に購入したものを継続して使用する 『改訂第2版 これだけは知っておきたい 保育の基本用語』長島和代編(わかば社) ISBN:978-4-907270-34-6 『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身に付けたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野道子編(一藝社) ISBN: 978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	適宜、資料を配布する。						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.新聞記事(5大紙)を読んだのレポート課題(第2回～11回/1時間程度) 2.課題テスト(漢字・一般教養)の準備学習(第2回～12回/0.5時間程度) 3.課題テストの復習(第1回～14回/0.5時間程度) 4.「キャリアデザインノート」の作成(第1回～15回/0.5時間程度)						
成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方を50%、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度を50%として、総合的に評価する。						
評価項目	割合	評価基準					
実習や課題への参加度、取り組み方	50%	授業で実施する様々な協働作業への参加度、sozoわいフクひろばやSOZO展に関する作品制作や課題の提出状況等で確認する。					
「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度	50%	新聞記事については、記事の選択が適切であるか、内容の読み取り方が正確か、感想や学んだことに客観性が含まれているかで評価する。また、社会人基礎力については、予習・復習を行っているか、それが力として定着しているかを確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイドンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力(地理分野?) 第2回(講義・演習・実技) 手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力(生物分野) 第3回(講義・演習) sozoわいフクひろば(企画)、社会人基礎力(生活分野①) 第4回(講義・演習) sozoわいフクひろば(立案)(グループワーク)、社会人基礎力(生活分野?) 第5回(講義・実技) sozoわいフクひろば(準備?) (グループワーク)、社会人基礎力(数学分野) 第6回(講義・実技) sozoわいフクひろば(準備②)(グループワーク) 第7回(実技) sozoわいフクひろば(地域貢献活動) 第8回(講義・演習・実技) 手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力(地理分野?) 第9回(演習・実技) 手のしごと③sozo展「花火」の制作(グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習・実技) 冠婚葬祭のマナー(キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義・演習) 人権について学ぶ、実習報告会(1・2年交流・グループワーク) 第12回(演習) 本学の伝統行事を学ぶ(青い空フェスティバルの見学)(1・2年交流) 第13回(講義・演習・実技) 手のしごと③「様々な道具を使う」(グループワーク) 第14回(講義・演習) 地域を学ぶ(豊橋市都市計画課との連携)(グループワーク) 第15回(講義・演習) まとめ及び初めての就職対策講座 ※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※自主学習については、「ステディサブリ」を適宜活用すること。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEFM1019						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	38098		
科目	3809 保育者のキャリアデザインⅠ			授業種別	週間授業		
担当教員	杉山 和恵			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	幼児教育・保育を学ぶ者として、子ども達を取り巻く様々な環境に適応する実践的能力を身に付け、必要な知識・経験を得ることを目的とする。 授業は、保育者である社会人としての教養・知識を獲得するための時間と、保育者としての実践的能力を獲得するための時間の二部構成で展開される。 また、新聞を「人として、社会人として、保育者として」の成長を支える道具として捉え、活用出来る力も育成していく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	次代の子ども達の育成に携わる者として必要な経験や知識、教養を身に付けることを目標としている。さらに、学科の学位授与方針である「保育に関する専門的な知識や技能を習得している」「保育者としての意欲・責任感・使命感を身に付けている」「他者とコミュニケーションをとることができ、協働できる」「自他とともに大切に、他者を思いやり受容できる」という4項目全てに沿ったものとして、以下を到達目標として設定する。 1.自ら積極的に子どもとかかわり、企画・運営能力を身に付ける。 2.人としてどのように他者とかわるべきかを身に付ける。 3.社会人としての素養を身に付ける。 4.地域貢献の意義を知り、活動する。						
テキスト(教科書)	春学期に購入したものを継続して使用する 『改訂第2版 これだけは知っておきたい 保育の基本用語』長島和代編(わかば社) ISBN:978-4-907270-34-6 『子どもとマスターする49の生活技術』子どもの生活科学研究会編、谷田貝公昭・村越晃監修(合同出版) ISBN :978-4-7726-0190-0 『新訂版これだけは身に付けたい 新・保育者の常識67』谷田貝公昭・上野道子編(一藝社) ISBN: 978-4-86359-272-8						
参考書および参考文献	適宜、資料を配布する。						
受講条件	(卒) 必修						
事前・事後学修(内容・時間)	1.新聞記事(5大紙)を読んだのレポート課題(第2回～11回/1時間程度) 2.課題テスト(漢字・一般教養)の準備学習(第2回～12回/0.5時間程度) 3.課題テストの復習(第1回～14回/0.5時間程度) 4.「キャリアデザインノート」の作成(第1回～15回/0.5時間程度)						
成績評価	授業での実習や課題への参加度、取り組み方を50%、「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度を50%として、総合的に評価する。						
評価項目	割合	評価基準					
実習や課題への参加度、取り組み方	50%	授業で実施する様々な協働作業への参加度、sozoわいフクひろばやSOZO展に関する作品制作や課題の提出状況等で確認する。					
「キャリアデザイン・ノート」を含む課題の達成度	50%	新聞記事については、記事の選択が適切であるか、内容の読み取り方が正確か、感想や学んだことに客観性が含まれているかで評価する。また、社会人基礎力については、予習・復習を行っているか、それが力として定着しているかを確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)ガイダンス、「キャリアデザイン・ノート」「新聞レポート」について、社会人基礎力(地理分野?) 第2回(講義・演習・実技)手のしごと①「コンパス曼荼羅」、社会人基礎力(生物分野) 第3回(講義・演習)sozoわいフクひろば(企画)、社会人基礎力(生活分野①) 第4回(講義・演習)sozoわいフクひろば(立案)(グループワーク)、社会人基礎力(生活分野?) 第5回(講義・実技)sozoわいフクひろば(準備?) (グループワーク)、社会人基礎力(数学分野) 第6回(講義・実技)sozoわいフクひろば(準備②)(グループワーク) 第7回(実技)sozoわいフクひろば(地域貢献活動) 第8回(講義・演習・実技)手のしごと②「紋切あそび」、社会人基礎力(地理分野?) 第9回(演習・実技)手のしごと③sozo展「花火」の制作(グループワーク・地域貢献活動) 第10回(講義・演習・実技)冠婚葬祭のマナー(キャリアプランニング科との連携) 第11回(講義・演習)人権について学ぶ、実習報告会(1・2年交流・グループワーク) 第12回(演習)本学の伝統行事を学ぶ(青い空フェスティバルの見学)(1・2年交流) 第13回(講義・演習・実技)手のしごと③「様々な道具を使う」(グループワーク) 第14回(講義・演習)地域を学ぶ(豊橋市都市計画課との連携)(グループワーク) 第15回(講義・演習)まとめ及び初めての就職対策講座 ※新聞についてのレポートは、チェック時にコメントする。 ※課題テストについては、実施後にコメントする。 ※「キャリアデザインノート」については、チェック時にコメントし、アドバイスする。 ※自主学習については、「ステディサブリ」を適宜活用すること。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	PEFM1019						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期			授業コード	38125			
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	井中 あけみ			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	この科目は、現代社会に適した「養護・教育」に関する、保育者としての資質能力の形成を目指すものである。子どもたちの発達段階に広い視野を持って対応できる保育士・幼稚園教諭・保育教諭を育成していくために、個々の表現力や集団での協調性を必要とする表現活動を実施する。本講では、子どもの成長を促す「子どもの音楽表現」について探求し、保育表現活動方法の一つとなるよう字修していく。また、子どもたちや親子との表現活動を実践し体験するため、地域連携活動を活用し、学生同士のアクティブラーニングを主とした考察・実践・活動を行っていく。就職に関する「表現」の指導においては、春学期初より対策方法を計画・考査し、一人ひとりの目標に合った表現発表への就職支援を行っていく。 卒業研究では、音楽による「主体的表現活動」のテーマを設定し、大学内の子育て支援施設などで、子どもたちとの様々な関わり方に対する研究を行う。さらにそれをレポートとしてまとめる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○				
到達目標	1. 保育に使用する教材について考察し、作品を製作する。 2. 自ら製作した保育の教材について、子どもへの表現方法を考察し、表現を実施する。 3. 音や音楽を通して環境から、子どもの音への気づきや音楽をきっかけとした活動を探索し、保育者としての表現活動を行う。また他者の表現方法の情報も獲得していく。 4. アクティブラーニングやグループワークなどを実践することで互いの表現を高め合い、保育者・幼児教育者として、他者と協働することへの経験を高める。 5. 音楽表現を通じた主体的活動への視野を広げ、集団活動での他者との連携や共有を深め、環境において個々への役割を生かした活動を提案・実施することができる。							
テキスト（教科書）	田上貞一郎・著『保育者になるための国語表現』（朝文書林：1年次に購入済） ISBN13:978-4893473042							
参考書および参考文献	授業時に適宜指示する							
受講条件	（※）必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること							
事前・事後学修（内容・時間）	1. エプロンシアターに必要な材料、部分的な製作を事前に準備し、授業で完成を行う。また適切な表現発表ができるように授業後に練習を行う。（第1回～6回/1.5h程度） 2. 就職模擬試験に向けての復習を行う。（第3回、8回/0.5h程度） 3. 子どもたちへの表現活動、子育て支援施設での表現活動内容についての各自担当の確認を授業外で行う。（第9～15回、17回～19回、22回、23回、25回/0.5h程度） 4. 発表時の経験値についての内容を確認し、保育者としての表現の練習を行っておく。（第20回、26回、27回/0.5h程度）							
成績評価								
発表に向けての表現の実技指導への活動、子どもへの実技表現及び創作表現活動に多様性を持って取り組んでいるかを評価する。さらに表現方法に対する集団での行動力、協調性を活かした子どもとの関わり方の評価を行う。								
評価項目		割合	評価基準					
課題（エプロンシアター等保育教材）の製作、発表		40%	製作物の仕上げ方、発表時に子どもたちを意識した表現、特に音が介在するような工夫をしているか。また話しかけ方、表情など、子どもたちに向を伝えていくかを考察しているかについても評価する。					
表現のテーマや内容についての提案、意見の発言		20%	音を活用した保育の環境に適切な表現のテーマ、内容について、主体的な提案をすることができるかについて評価する。					
地域活動発表への取り組み方		40%	グループによる表現活動の中で自分の役割担当に対応できているか、積極的に意見を出し活動への意欲があるか、担当部分に責任を持って適切な練習量と表現技術への努力ができているか、協同的な態度で発表が行われたかについて評価する。さらに人の発表から自分の意識を深めようとする意欲があるかについても評価する。					
授業の実施方法と授業計画		毎回の授業で課題として出されている表現実技を確認し練習を行う（3回の授業につき2回程度）。さらにそこで発表された創作表現内容・活動について、全員でのディスカッションを行う。これらの内容について、レポートを提出することを課題とする。その後担当教員が講評を行い、これら毎回の表現を確認し合うことから、総合的表現活動への完成を目指す。						
	第1回	（講義・演習・実技）	ガイダンス（ゼミの活動内容の説明等）、エプロンシアター製作					
	第2回	（演習・実技）	エプロンシアターの製作の確認と各自の表現方法のプレゼンテーション					
	第3回	（演習・講義）	就職試験対策（常設模擬試験）①					
	第4回	（演習・実技）	エプロンシアターの発表①（反省・意見交換）					
	第5回	（演習・実技）	エプロンシアターの発表②（反省・意見交換）					
	第6回	（演習・実技）	エプロンシアターの発表③（反省・意見交換）					
	第7回	豊橋の景観に関するワークショップ（豊橋市との連携）						
	第8回	（演習・講義）	就職試験対策（保育士専門模擬試験）②					
	第9回	（演習・実技）	乳児の音楽表現創作活動への取り組みについて「親子で楽しむ音楽的表現を考える（ディスカッション）」「手遊び、製作物を使った音遊び、身体遊び」					
	第10回	（演習・実技）	乳児の音遊び活動について「子育て支援施設での表現発表を踏まえて」「子どもへの表現活動内容」					
	第11回	（演習・実技）	乳児の音遊び活動について「子育て支援施設での表現発表リハーサル」					
	第12回	（実技・演習）	地域貢献活動①「手遊び、身体動きを使用した音楽表現活動発表」					
	第13回	（実技・演習）	幼児の音遊び身体表現発表について「音楽による身体表現活動を考える（プレゼンテーション）」「簡易楽器・身体活動・歌唱等」					
	第14回	（演習）	幼児の音遊び身体表現発表について「簡易楽器を使用した身体活動の創作活動について（ディスカッション、グループワーク）」「童謡歌唱に合わせた創作身体活動、製作物と音の関係性を用いた活動」の練習					
	第15回	（演習）	地域貢献活動②「簡易楽器を使用した身体活動の創作活動、製作物を用いた音楽活動」					
	第16回	（実技・演習）	防災教育（バッククッキング）					
	第17回	（実技）	乳幼児の親子との活動に向けての練習「創作楽器による季節の音楽活動」について					
	第18回	（実技・演習）	乳幼児の親子との活動に向けての練習（音遊びについての活動への楽曲編曲、演奏練習）					
	第19回	（実技・演習）	乳幼児の親子遊びの音楽表現について企画・構成・練習（グループ練習）					
	第20回	（演習）	子どもの音楽表現遊びについてレポート提出					
	第21回	（実技）	外部標準化テスト					
	第22回	（実技・演習）	乳幼児の親子遊びの音楽表現活動に向けての練習（創作楽器製作）					
	第23回	（実技・演習）	乳幼児の親子との活動に向けての練習（リハーサル（音表現・創作楽器製作活動）					
	第24回	（演習）	1・2年生交流活動					
	第25回	（実技・演習）	地域貢献活動③「乳幼児の親子遊びの季節の楽器創作表現遊び」					
	第26回	（演習）	地域貢献活動②、③の乳幼児や親子との音楽表現遊び活動についての振り返り（グループ発表）					
	第27回	（実技・演習）	子どもの音楽表現遊びについてレポート提出					
	第28回	（実技・演習）	楽曲（集団で選曲したものについて）集団での主体的楽器表現活動					
	第29回	（講義）	消費者教育（マネプラン講座）					
第30回	（演習・講義）	就職前対応講座						
※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。								
ナンバリング	PEFM2020							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期		授業コード	38127			
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ		授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	葛谷 潔昭		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つために必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士、幼稚園教諭、保育教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 本講では「子どもの命」を守る保育者の育成を目指す。具体的には、子どもへの交通安全指導や、防犯・防災・社会福祉（障害児、者の福祉と保育、子どもと家庭の福祉など）活動の体験企画を行いながら、保育に関わる実践力を身に付ける。それらは体験、経験を通して社会で十分に通用可能な実践力となっていくはずであり、これらの経験を可能な限り情報発信にも努めて行く。ここで獲得出来た力は、社会に出た際に待っている研究発表の場を支えるものとなることだろう。さらに、就職試験対策の指導を適宜実施し、一人一人の希望に応じた就職支援を行っていく。また、セミナーの枠組みの中で、各セミナーと合同で、街の景観教育、防災教育、金融教育・消費者教育等についても取り組む。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	1. 保育教材作成の手順を理解し、実践する。 2. 子どもに関わる教材・教具を作成し、行事の運営を行う。 3. 保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を育成する。 4. 社会や社会資源を理解し、子どもや家族へのサポート力を高める。 5. 実践・研究の発表のプロセスを理解し、発表を行い、学びをまとめる。						
テキスト（教科書）	必要な場合にプリントを配布する。						
参考書および参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81240-2 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』（内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81367-6 『保育所保育指針』（厚生労働省 フレーベル館）ISBN978-4-577-81241-9 その他、防災・減災・防犯・交通安全・社会福祉・療育関係の書籍、資料、新聞記事など						
受講条件	（卒）必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること						
事前・事後学修（内容・時間）	1. エプロンシアター等の製作、発表練習。（10時間程度） 2. 各種模擬試験、施設見学に向けての事前学習（自習含む）。（10時間程度） 3. 学園祭、公演活動の製作、発表練習。（20時間程度） 4. 最終成果物の作成。（20時間程度） ※これ以外に、自主学習支援としてネットワーク上に自主学習教材をおくことがあるので、適宜活用すること。						
成績評価	授業の到達目標の達成度で評価する。 なお、授業態度等不良の場合には、減点対象とする場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
エプロンシアター等の制作、発表		20%	演じるという視点に立ち、丁寧に製作されているか。演じ方は、伝わり易くスムーズか				
行事への取り組み		60%	創造祭、SOZO展、地域活動、施設見学などへの取り組み態度（制作、意見、取りまとめ、協働等）を評価する				
最終課題の作成		20%	テーマについて知識を増やし、研究を深めることができたか。適切な内容、記述で作成できたか。一年の活動を卒業に向けてまとめる。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) ガイダンス						
	第2回(演習) エプロン・シアターの製作①						
	第3回(演習)就職試験対策（常識模範試験）						
	第4回(演習)エプロン・シアターの製作②						
	第5回(演習)エプロン・シアターの製作③						
	第6回(演習)エプロン・シアターの発表①（プレゼンテーション）						
	第7回(演習)豊橋の景観に関するワークショップ（豊橋市との連携）						
	第8回(演習)就職試験対策（保育士専門模擬試験）						
	第9回(演習)エプロン・シアターの発表②（プレゼンテーション）						
	第10回(講義・演習)保育行事を企画する①（グループワーク）						
	第11回(講義・演習)保育企画を準備する①（グループワーク）						
	第12回(講義・演習)保育企画を準備する②（グループワーク）						
	第13回(演習)地域貢献活動①（ワークショップ）						
	第14回(講義・演習)保育企画を準備する③（グループワーク）						
	第15回(講義・演習)保育企画を準備する④（グループワーク）						
第16回(演習)防災教育（バッククッキング）（実技）							
第17回(講義・演習)保育企画を準備する⑤（グループワーク）							
第18回(演習)地域貢献活動②（グループワーク）							
第19回(講義・演習)保育企画を振り返る（グループワーク）							
第20回(講義)卒業成果物の作成・書き方・解説（題材の決定）							
第21回(演習)外部標準化テスト							
第22回(演習)卒業成果物の執筆・制作・個別指導①（テーマ設定・文献検索方法等）、SOZO展準備							
第23回(演習)卒業成果物の執筆・制作・個別指導②（テーマ設定・文献検索方法等）、SOZO展準備							
第24回(演習)1・2年生交流活動							
第25回(演習)卒業成果物の執筆・制作・個別指導③（内容の確認、修正等）							
第26回(演習)季節の行事（フィールドワーク・グループワーク）							
第27回(演習)卒業成果物の執筆・制作・個別指導④（最終確認）							
第28回(演習)地域貢献活動③（ワークショップ）							
第29回(講義)消費者教育（マネープラン講座）							
第30回(講義)就職直前指導講座、卒業成果物提出							
※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。また、各回授業後に不明点をメール等での交換で問題点の情報共有を行い、必要に応じて個々や全体にフィードバックする。							
※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	PEFM2020						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期			授業コード	38128		
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	加藤 克俊			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つために必要な資質を形成する。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭、保育教諭となるための実践の場と捉え、学ぶ。また、地域との関わりや実践の中で、各々が課題を設定し、レポートとしてまとめる。自分の考察を論理立て、思考の手順を理解し、テーマについて深めていく。さらに、就職試験対策の指導が適宜実施され、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行なう。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	1. 子どもの理解を大切にし、子どもの姿に即した活動を考えることができる。 2. さまざまな環境から保育に必要な技術を活かし、実践することができる。 3. 活動を通して何を学んだのか、自身の中で振り返ることができる。						
テキスト（教科書）	適宜、資料を配布する。						
参考書および参考文献							
受講条件	（卒）必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること						
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（毎回2時間程度） この授業では児童画展開催が大きな軸となって進む。 「児童画展開催に向けて」：ワークショップの実施に向けて、見通しを立てて準備する。 「地域貢献活動」：実践の前に自身が何に着眼して参加するのか確認すること。 就職試験対策や、外部標準化テストには自身の苦手とする部分を確認と予習をして臨むこと。 その他、さまざまな活動に参加することになるが、振り返りを必ず行い、自身が活動を通して何を学び、何を課題として見つけたのかははっきりとさせること。そして、関連することに興味を持って調べること。						
成績評価							
ゼミでの研究活動60%、課題提出40%で評価を行う。							
評価項目		割合	評価基準				
ゼミでの研究活動		60%	児童画展の開催に向け、協同的な取り組みができたか。また、より良い実践となるように準備と実践ができたかを評価する。				
課題提出		40%	活動ごとの振り返りをし、記述内容から学びを自身の中で定着化できたか、次への課題を明確にできたか確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義）ガイダンス 児童画展開催に向けて 企画概要（新城市）					
	第2回	（演習）児童画展開催に向けて テーマ決め（新城市）					
	第3回	（講義）就職試験対策①（常識模擬試験）					
	第4回	（演習）地域貢献活動①ワークショップの準備（まちなか図書館）					
	第5回	（演習）地域貢献活動①ワークショップの準備（まちなか図書館）					
	第6回	（実習）地域貢献活動①ワークショップの実施（まちなか図書館）					
	第7回	（演習）豊橋の景観に関するワークショップ（豊橋市との連携）					
	第8回	（講義）就職試験対策②（保育専門模擬試験）					
	第9回	（実習）地域貢献活動②ワークショップの実施（ここここ）					
	第10回	（演習）地域貢献活動③ワークショップの準備（ことことキャラバン）					
	第11回	（実習）地域貢献活動③ワークショップの実施（ことことキャラバン）					
	第12回	（実習）学外研修					
	第13回	（演習）地域貢献活動④児童画展開催に向けてワークショップの準備（新城市）					
	第14回	（演習）地域貢献活動④児童画展開催に向けてワークショップの準備（新城市）					
	第15回	（実習）地域貢献活動④児童画展開催に向けてワークショップの実施（新城市）					
	第16回	（実習）防災教育（バッククッキング）					
	第17回	（演習）創造祭への参加 企画準備					
	第18回	（演習）創造祭への参加 準備					
	第19回	（演習）地域貢献活動⑤ワークショップの準備（豊橋市美術館）					
	第20回	（演習）地域貢献活動⑤ワークショップの準備（豊橋市美術館）					
	第21回	（講義）外部標準化テスト					
	第22回	（実習）地域貢献活動⑤ワークショップの実施（豊橋市美術館）					
	第23回	（演習）地域貢献活動⑥ワークショップの準備（まちなか図書館）					
	第24回	（演習）1・2年生交流活動					
	第25回	（演習）地域貢献活動⑥ワークショップの準備（まちなか図書館）					
	第26回	（実習）地域貢献活動⑥ワークショップの実施（まちなか図書館）					
	第27回	（演習）季節の行事（焼き芋など）					
	第28回	（演習）環境を活かした活動（嗅覚、味覚）					
	第29回	（講義）消費者教育（マネープラン講座）					
	第30回	（講義）就職直前指導講座					
	※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。						
ナンバリング	PEFM2020						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期			授業コード	38129		
科目	3812 保育者のキャリアデザインⅡ			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	鈴木 順子			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	この科目では「人として、社会人として、保育者として」社会に巣立つために必要な資質形成を目指す。多様化する社会の中で、地域のニーズに応えられる保育士・幼稚園教諭、保育教諭となるための少人数での実践の場と捉えて欲しい。 近年、様々な配慮が必要となる子どもが増え、保育者には個々に対する対応力や子ども同士の育ち合いを支える力が求められている。多様性を認め合えるような保育を実践できる力を身につける必要がある。そのような力を身につけるために、本セミナーでは、与えられた課題をただこなすだけでなく、自ら問題意識を持ち、その問題への対処方法を考え、実践できるよう取り組むことが求められる。 就職試験対策の指導を適宜実施し、一人ひとりの希望に応じた就職支援を行っていく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○			
到達目標	1. 保育者・幼児教育者としての社会人基礎力を身に付け、積極的に行動することができる。 2. 保育者として演じる力を身に付け、実践できる。 3. 子どもたちに対して多様性の理解を促す教材を考案し、作成、実践することができる。 4. 子育て支援の場での地域貢献活動について立案、実践することができる。						
テキスト（教科書）	『保育者になるための国語表現』田上貞一郎・著（萌文書林：1年次に購入済）ISBN13:978-4893473042						
参考書および参考文献	授業時に適宜指示する						
受講条件	（卒）必修、保育者のライフデザイン、保育者のキャリアデザインⅠを履修していること						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 課題への取り組み（10～14回／2時間程度） 2. 学園祭の計画や準備（第18～19回／2時間程度） 3. 地域貢献活動の準備（第6～10、11～14、22～28回／2.5時間程度）						
成績評価							
授業の取り組み方50%、地域貢献活動の実践50%。							
評価項目		割合	評価基準				
課題への取り組み		50%	積極的に意見を述べ、課題に意欲的に取り組んでいるかによって評価する。				
地域貢献活動の実践		50%	適切な調査に基づき、計画立案ができているか、それらを反映させて実践し、課題が明確になっているかによって評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習）ガイダンス 第2回（演習）実践力を高める（1）（自作の保育教材の発表前半） 第3回（演習）就職試験対策（1）（常識模擬試験） 第4回（演習）実践力を高める（2）（自作の保育教材の発表後半） 第5回（演習）地域貢献活動1（1）（グループ決めと計画立案） 第6回（演習）地域貢献活動1（2）（教材作成） 第7回（演習）豊橋市の景観に関するワークショップ（豊橋市との連携） 第8回（演習）就職試験対策（2）（保育士専門模擬試験） 第9回（演習）地域貢献活動1（3）（模擬実践） 第10回（演習）地域貢献活動1（4）（実践：つどいの広場） 第11回（演習）地域貢献活動2（1）（計画立案） 第12回（演習）地域貢献活動2（2）（教材の作成） 第13回（演習）地域貢献活動2（3）（模擬実践） 第14回（実技）地域貢献活動2（4）（実践：まちなか図書館） 第15回（演習）聾学校の見学 第16回（演習）防災教育（バッククッキング） 第17回（演習）地域貢献活動3（1）（対象とする障害を決める） 第18回（演習）地域貢献活動3（2）（障害の特性について調べる） 第19回（演習）創造祭の準備（1）立案 第20回（演習）創造祭の準備（2）準備 第21回（演習）外部標準化テスト 第22回（演習）地域貢献活動3（3）（障害特性の理解を促進するために適する教材を考える） 第23回（演習）地域貢献活動3（4）（障害特性の理解を促進するための教材作成） 第24回（演習）1、2年生交流活動 第25回（演習）地域貢献活動3（5）（教材の見直しと修正） 第26回（演習）地域貢献活動3（6）（模擬実践と追加修正） 第27回（実技）地域貢献活動3（7）（模擬実践） 第28回（実技）地域貢献活動3（8）（実践：保育所） 第29回（講義）消費者教育（マネープラン講座） 第30回（講義）就職直前指導講座 ※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。 ※提出課題は、返却時にコメント等でフィードバックする。						
ナンバリング	PEFM2013						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	39080		
科目	3908 キャリアベーシック・言語Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	井原 淑雅			単位数	0		
その他担当者							
授業概要	国語力というものは、全ての科目の礎となるものである。また、人として暮らしていくためにも不可欠な力である。これが不足していると、短期大学の講義・演習の履修に際して支障が出る場合もある。さらに社会人として巣立つ際にも、不便さや不都合が生じることもある。この科目では、課題を通して基本的な国語力を習得し、中等教育前期にあたる程度の国語力の確保を目標とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4			
ディプロマポリシーとの関連性	○		○				
到達目標	1.各々の言語表現レベルを確認した上で、社会人としてふさわしい国語力を身につける。 2.基本的文法を理解し、自己表現、情報伝達できる文書力を身につける。 3.表現したいことをまとめ、分かりやすく伝えるための表現方法を理解し、実践できる。						
テキスト(教科書)	『出口汪の新日本語トレーニング』基礎国語力編(上)、出口汪、小学館、ISBN:4098377020、 『出口汪の新日本語トレーニング』基礎国語力編(下)、出口汪、小学館、ISBN:4098377039、 『これだけは知っておきたい 分かる・書ける・使える 保育の基本用語』長島和代編、わかば社、9784907270346						
参考書および参考文献	特になし。						
受講条件	ブレイスメント・テスト結果による該当者は全員受講すること。						
事前・事後学修(内容・時間)	プリントの予習・復習(2時間程度) 予習・復習を行い、確実な知識を身につけるための学習時間を充分に取るようにすること。 進捗状況によっては個別に宿題を課す。						
成績評価							
平常点を50%、提出物・課題の達成度を50%として評価を行う。 筆記試験は行わず、課題提出・小テストによって課題の達成度を判断する。							
評価項目		割合		評価基準			
小テスト 提出物		50%		講義内容の理解度を確認する。			
課題レポート		50%		課題に対する理解度と記述内容に関して、ルーブリックに基づいて評価する。			
授業の実施方法と授業計画		※前回の講義が知識を習得する内容の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。					
		第1回(講義・演習)		実習日誌の漢字を書いてみよう		4月、5月、6月	
		第2回(講義・演習)		実習日誌の漢字を書いてみよう		7月、8月、9月	
		第3回(講義・演習)		実習日誌の漢字を書いてみよう		10月、11月、12月	
		第4回(講義・演習)		実習日誌の漢字を書いてみよう		1月、2月、3月	
		第5回(講義・演習)		保育の基本用語の確意味の確認			
		第6回(講義・演習)		基礎国語力編(上)		ステップ1(主語と述語)	
		第7回(講義・演習)		基礎国語力編(上)		ステップ2(言葉のつながり)	
		第8回(講義・演習)		基礎国語力編(上)		ステップ3(文の構造)	
		第9回(講義・演習)		基礎国語力編(上)		ステップ4(文の要点)	
		第10回(講義・演習)		基礎国語力編(上)		ステップ5(助詞と助動詞)	
		第11回(講義・演習)		基礎国語力編(下)		ステップ6(文章の要点)	
		第12回(講義・演習)		基礎国語力編(下)		ステップ7(長い文の要点)	
		第13回(講義・演習)		基礎国語力編(下)		ステップ8(正確な文を書く)	
		第14回(講義・演習)		基礎国語力編(下)		ステップ9(接続詞と指示語)	
		第15回(講義・演習)		基礎国語力編(下)		ステップ10(総合演習)	
		ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。					
ナンバリング	PEFM0016						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期				授業コード	39090		
科目	3909 キャリアベーシック・言語Ⅱ				授業種別	週間授業		
担当教員	井原 淑雅				単位数	0		
その他担当者								
授業概要	この科目では、中等教育前期にあたる程度の国語力の確保を目標とし、語彙の運用能力を高める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4				
ディプロマポリシーとの関連性	○		○					
到達目標	1.社会人としてふさわしい一定の国語力を身につける。 2.自己表現、情報伝達のために、他者が理解できる文章を書くことができる。 3.多角的な視野をもち、語彙力を向上させ、適切な文章表現ができる。							
テキスト(教科書)	『キャリアアップ国語表現法』二十四訂版、丸山顯徳編、嵯峨野書院、ISBN978-4-7823-0622-2							
参考書および参考文献	特になし。							
受講条件	ブレイスメント・テスト結果による該当者は全員受講すること。							
事前・事後学修(内容・時間)	プリントの予習(1時間)・復習(1時間程度) 予習・復習を行い、確実な知識を身につけるための学習時間を充分に取るようにすること。 進捗状況によっては個別に宿題を課す。							
成績評価								
平常点を50%、提出物・課題の達成度を50%として評価を行う。 筆記試験は行わず、課題提出・小テストによって課題の達成度を判断する。								
評価項目			割合	評価基準				
小テスト 提出物			50%	講義内容の理解度を確認する				
課題レポート			50%	課題に対する理解度と記述内容に関して、ルーブリックに基づいて評価する。				
授業の実施方法と授業計画		※前回の講義が知識を習得する場合、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。						
		第1回 ガイダンス 漢字習得の近道						
		第2回(講義・演習) 同音異義語 同訓異義語						
		第3回(講義・演習) 音訓と熟語						
		第4回(講義・演習) 熟語の構造						
		第5回(講義・演習) 四字熟語						
		第6回(講義・演習) 仮名遣いと送り仮名						
		第7回(講義・演習) 文のしくみ 文章構成						
		第8回(講義・演習) 文の要約						
		第9回(講義・演習) レポートの作成						
		第10回(講義・演習) レトリック、慣用表現の誤用、原稿用紙の使い方						
		第11回(講義・演習) 待遇表現1						
		第12回(講義・演習) 待遇表現2						
		第13回(講義・演習) ビジネス文書1						
		第14回(講義・演習) ビジネス文書2						
第15回(講義・演習) まとめ								
		学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。						
		*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。						
ナンバリング	PEFM0017							